GL

取扱説明書

Mercedes-Benz

マーク

この説明書には以下のマークがあります。

⚠ **警告**

警告ステッカーには、お客様や他の乗員などの健康または生命を危険にさらすおそれのある事項について記載されています。

環境に関する注意

環境に関する注意は、環境を意識した行動や廃棄についての情報を提供しています。

! 車両の損傷につながる危険を喚起する、機材の損傷に関する注意です。

i これらのマークは、お客様の助けになるような、便利な操作方法や詳細情報を示しています。

▶	このマークは、お客様に従っていただきたい説明を示しています。
▶	連続しているマークは、いくつかの手順がある操作を示しています。
(▷ページ)	このマークは、項目についての詳細情報がある場所を示しています。
▷▷	このマークは次のページに続く警告または操作を示しています。
ディスプレイ	この表記は、マルチファンクションディスプレイ/COMAND ディスプレイのメッセージを示しています。
	このマークは、デジタル版取扱説明書に情報があることを示しています。

車両のソフトウェア部品は © 2005 The FreeType Project http://www.freetype.org の著作権により保護されています。

メルセデス・ベンツ車をお買い上げいただきありがとうございます

運転される前に、この取扱説明書をお読みいただき、特に安全面と警告事項についてのご理解を深めてください。お客様自身と周りの人々を危険から守り、お車を最大限に楽しんでいただくことができます。

便利な機能の追加情報は COMAND Online の中の車両のデジタル版取扱説明書に記載されています。

お客様の車両の装備や名称はオプションや仕様により異なる場合があります。

この取扱説明書のイラストは主に左ハンドル車両のものを使用しています。右ハンドル車両では、車両の部品の配置や位置、そして操作方法が異なる場合がありますので、ご注意ください。

取扱説明書には 100 km/h を上回る車両速度での性能データおよび車両状況も記載されています。ただし、公道を走行するときは常に、その場所で適用される法定速度または制限速度を遵守してください。

メルセデス・ベンツは車両を最先端にする改良を絶えず行なっています。

メルセデス・ベンツでは、デザインや装備の分野の変更を行なう権利を有しています。そのため、本取扱説明書の記述やイラストが異なることがあります。

以下のものは、車両の一部です。常に車両に搭載してください。

- デジタル版取扱説明書
- 取扱説明書
- 整備手帳
- 補足版

また次のオーナーに車両をお譲りになる場合は、必ずすべての書類をお渡しください。

Daimler AG の技術文献チームはお客様が安全で快適な運転をされることを望んでいます。

メルセデス・ベンツ日本株式会社

1665846001

さくいん 4
デジタル版取扱説明書 24
はじめに 29
各部の名称 35
安全性 47
開閉 93
シート、ステアリングとミラー .. 113
ライトおよびフロントワイパー .. 119
エアコンディショナー 133
走行装備 139
ﾏﾙﾁﾌｧﾝｸｼｮﾝﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲと表示 203
COMAND システム 231
収納と機能 253
メンテナンスおよび手入れ 263
万一のとき 275
ホイールとタイヤ 297
サービスデータ 319

あ

アクセスデータのリスト **246**
　新しいプロバイダー 246
アクティブカーブシステム
　機能/注意 175
　ディスプレイメッセージ 207
アクティブドライビングアシスタンスパッケージ **191**
アクティブパーキングアシスト
　機能/注意事項 181
　重要な安全上の注意 181
　ディスプレイメッセージ 207
アクティブブラインドスポットアシスト
　機能/注意 191
　設定/解除(マルチファンクションディスプレイ) 205
　ディスプレイメッセージ 207
アクティブライトシステム **122**
アクティブレーンキーピングアシスト
　機能/注意 194
　ディスプレイメッセージ 207
アシスト画面(マルチファンクションディスプレイ) **205**
アシストメニュー(マルチファンクションディスプレイ) **205**
アダプティブハイビームアシスト
　機能/注意 124
　ディスプレイメッセージ 207
アダプティブブレーキ **87**
アダプティブブレーキアシスト
　機能/注意 81
アダプティブブレーキライト **83**
アテンションアシスト
　機能/注意 184
　設定/解除 205
　ディスプレイメッセージ 207
アドレス帳
　デジタル版取扱説明書をご覧ください 232
アプローチ/デパーチャアングル .. **160**
荒地の走行
　参照 オフロード走行
安全
　子供を乗せるとき 60
安全システム
　チャイルドセーフティシート ... 61
アンチロック・ブレーキング・システム
　参照 ABS(アンチロック・ブレーキング・システム)
アンビエントライト
　カラーの設定(マルチファンクションディスプレイ) 205
　照度の設定(マルチファンクションディスプレイ) 205

い

イージーエントリー機能
　機能/注意事項 117
　作動/解除 205
イグニッションロック
　参照 キーの位置
イモビライザー **89**
インジケーター
　参照 方向指示灯
インターネット **250**
　アクセスデータの選択/設定 .. 242
　アクセスの必須条件 240
　カルーセルビュー(マルチウインドウ)を呼び出す 250
　URL を入力する 250
インターネットラジオ
　放送局検索 249
　呼び出す 249
インテリジェントライトシステム
　オン/オフ 205
　概要 122
　ディスプレイメッセージ 207
　ロービームヘッドライトの左側/右側通行の設定 205

う

ウィンタータイヤ
　ウィンタータイヤ 301
　速度制限(マルチファンクションディスプレイ) 205
ウインドウ
　清掃 273
　デフロスター 137
　参照 サイドウインドウ

ウインドウウォッシャー
注意 327
補給 269
ウインドウウォッシャー液
参照 ウインドウウォッシャー
ウインドウバッグ
機能 57
ディスプレイメッセージ 214
ウォッシャー液
ディスプレイメッセージ 207
ウッドトリム(清掃の説明) 273
運転席
概要 36
運転席ドア
参照 ドア
運転のヒント
一般 157
オートマチックトランスミッション 148
下り坂の傾斜 157
障害物の上の走行 160
新品のブレーキパッド/ライニング 158
砂地の走行 160
スノーチェーン 301
タイヤの轍 160
ディストロニック・プラス 170
冬季の走行 158
凍結した路面 158
凍結防止剤等が撒かれた路面でのブレーキ性能の制限 157
慣らし運転について注意事項 .. 140
濡れた路面の走行 158
燃料 157
ハイドロプレーニング現象 158
ブレーキ 157

え

エアコンディショナー
ウインドウの曇りを取る 137
エアコンディショナーのモード設定(送風) 137
オン/オフ 137
温度の設定 137
クライメートコントロール(後席独立調整) 135
コンビニエンスオープニング/クロージング(内気循環モード) 137
システムの概要 134
全体的な注意事項 134
送風口の調整 137
送風配分の選択 137
送風量の調整 137
ゾーン機能の設定/解除 137
追加後席エアコンディショナー(3 ゾーン)付きオートエアコンディショナー(3 ゾーン) 136
内気循環モードの作動/解除 .. 137
表示灯 137
フロントウインドウの霜を取る 137
余熱ヒーターのオン/オフ 137
リア操作パネル 135
リア操作パネル (追加後席エアコンディショナー付きオートエアコンディショナー(3 ゾーン) 136
リアデフォッガーの作動/解除 137
リアデフォッガーの不具合 137
AC モード 137
AC モードの不具合 137
AUTO モード 137
エアコンディショナーシステム
参照 エアコンディショナー
エアバッグ
ウインドウバッグ 57
概要 54
格納場所 55
サイドバッグ 56
作動 57
重要な安全上の注意点 54
助手席エアバッグオフ表示灯 ... 49
ディスプレイメッセージ 207
ニーバッグ 56
フロントエアバッグ(運転席、助手席) 55
エアフィルター(ディスプレイメッセージ) 207
エマージェンシーキー
運転席ドアの解錠 99
機能/注意 96
車両の施錠 99

挿入 97
取外し 96
エンジン
エンジン番号 321
オーバーヒート 269
キーレスゴースイッチ操作によるエンジン始動 144
警告灯(エンジン診断) 219
けん引始動(車両) 293
作動不良 146
始動時のトラブル 146
ジャンプスタート 287
停止 156
ディスプレイメッセージ 215
ECO スタートストップ機能 .. 146
エンジンオイル
エンジンオイル量の点検 265
オイルグレードについての注意 325
温度(マルチファンクションディスプレイ) 205
充填容量 326
定期交換 267
ディスプレイメッセージ 207
添加剤 326
粘度 326
補給 266
油量および消費についての注意 265
レベルゲージを使用してオイル量を点検する 266
エンジン自動始動(ECO スタートストップ機能) 146
エンジン自動停止(ECO スタートストップ機能) 146
エンジンジャンプスタート
参照 ジャンプスタート(エンジン)
エンジンの始動
キー操作 144
エンジンの電子制御部品
故障(誤作動) 146

お

オイル
参照 エンジンオイル
応急用スペアタイヤ
サービスデータ 318
収納場所 316
重要な安全上の注意 315
全体的な注意事項 315
取り外し 316
オーディオシステム
参照 別冊取扱説明書
オーディオメニュー(マルチファンクションディスプレイ) 205
オートマチック車
マニュアルギアシフト(ON&OFFROAD パッケージ装備車) 148
オートマチックトランスミッション
アクセルペダルのポジション .. 148
運転のヒント 148
エマージェンシーモード 148
エンジンの始動 144
オートマチック走行モード 148
概要 146
ギアシフト操作 148
キックダウン 148
シフトポジション 148
シフトポジション表示 147
ステアリングパドルシフト 148
走行モード選択スイッチ 148
走行モード表示 147
ディスプレイメッセージ 207
ドライブポジションの選択 147
トラブル(不具合) 148
ニュートラルの選択 147
パーキングポジション P の選択 147
パーキングポジションの自動選択 147
発進 145
マニュアルギアシフト 148
マニュアル走行モード(AMG 車両) 148
リバースギアの選択 147
DIRECT SELECT レバー 147
オートマチックトランスミッションのエマージェンシーモード 148
オートマチックヘッドライトモード 120
オートライト
ディスプレイメッセージ 207
参照 ライト

オーバーヘッドコントロールユニット 44
オドメーター 205
オフロードシステム
オフロード 4ETS 84
オフロード ABS 78
オフロード ESP® 86
オフロードプログラム(オン&オフロードパッケージ装備車) 200
オフロードプログラム(オン&オフロードパッケージ非装備車) 199
4MATIC 198
DSR 198
LOW RANGE オフロードギア 200
オフロード走行
アプローチ/デパーチャーアングル 329
一般的な注意 159
重要な安全上の注意 158
走行後のチェックリスト 159
走行前のチェックリスト 159
登坂走行 160
登坂能力 330
渡れる深さ 329
オフロードプログラム(オン&オフロードパッケージ装備車)
オフロードプログラム 1 200
オフロードプログラム 2 200
機能/注意 200
COMAND ディスプレイの表示 201
オフロードプログラム(オン&オフロードパッケージ非装備車)
機能/注意 199
オフロードライト 123
オン&オフロードメニュー(マルチファンクションディスプレイ) 205
音楽ファイル
デジタル版取扱説明書をご覧ください 232
音声認識機能
参照 別冊取扱説明書
温度
エンジンオイル(マルチファンクションディスプレイ) 205
設定(エアコン) 137
冷却水 204
冷却水(マルチファンクションディスプレイ) 205
オンラインおよびインターネットの機能
携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの手動設定 246
携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの選択 244
接続の確立 248
接続の確立および終了 248
オンロードプログラム
機能/注意 197
スノープログラム 198
AUTO プログラム 197
SPORT プログラム 197

か

外気温度計 204
解錠
車内から(セントラルロッキングスイッチ) 99
非常時の解錠 99
懐中電灯 276
カップホルダー
温度制御式 261
重要な安全上の注意 261
センターコンソール 261
リア 261
3 列目シート 261
可変スピードリミッター
可変機能 163
可変機能の解除 164
可変機能の作動 164
機能/注意 162
現在の速度を記憶する 163
重要な安全上の注意 162
選択 163
参照 スピードリミッター LIM 表示灯 163
環境保護
全体的な注意事項 29
冠水路の走行
オンロード 158

寒冷時の走行
スノーチェーン 301
滑りやすい路面 158
全体的な注意事項 301
寒冷時の取り扱い
概要 301

き

ギアまたはセレクターレバー（清掃の説明）........ 273
キー
位置(エンジンスイッチ) 141
エマージェンシーキー 96
エンジンの始動 144
概要 94
重要な安全上の注意 94
設定変更 96
セントラルロックによる施錠/解錠 95
ディスプレイメッセージ 207
電池交換 97
電池点検 97
不具合(異常) 98
紛失 98
キーの位置
キー 141
キーレスゴースイッチ 142
キーレスゴー
エンジン始動 144
解錠 95
キーレスゴースイッチ 142
キーレスゴースイッチの取り外し 143
施錠 95
ディスプレイメッセージ 207
キックダウン
運転のヒント 148
マニュアル走行モード 149
救急セット 277
給油
給油のしかた 151
重要な安全上の注意 149
燃料計 38, 204
参照 燃料
緊急
事故後の自動措置 60
緊急時点灯機能 125

く

クリアスイッチ 240
クルーズコントロール
解除 162
機能/注意 161
クルーズコントロールレバー .. 161
現在の速度を記憶および維持する 162
作動条件 162
重要な安全上の注意 161
選択 162
走行装備 161
速度の設定 162
ディスプレイメッセージ 207
LIM 表示灯 161
クロージングサポーター 99
グローブボックス 255
クロスウィンドアシスト 86

け

警告灯/表示灯
一般的な注意 219
エンジン診断 219
各部の名称 39
シートベルト 219
車間距離警告 230
乗員保護装置 228
ディストロニック・プラス 230
燃料残量 219
ブレーキ 220
冷却水 229
ABS 222
ESP® 225
ESP®オフ 226
LIM(可変スピードリミッター) 163
LIM(クルーズコントロール) .. 161
LIM(ディストロニック・プラス) 167
警告灯と表示灯
助手席エアバッグオフ 49
計測(レースタイマー) 205
携帯電話
周波数 320
送信出力(最大) 320
取り付け 320

メニュー(マルチファンクションディスプレイ) 205
携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータ 244, 246
項目の作成 246
選択する 244
携帯電話のネットワークプロバイダーのリスト 242, 244
空欄 242
選択したプロバイダー 244
呼び出す 242
警報
オフにする(ATA) 90
機能のオン/オフを切り替える(ATA) 90
ATA(盗難防止警報システム) ... 90
軽油 323
けん引
けん引フックの取り付け 291
けん引フックの取り外し 292
重要な安全上の注意 290
フロントおよびリアが接地した状態で 292
けん引始動
エンジンエマージェンシースタート 293
重要な安全上の注意 290
けん引防止
オフにする 90
解除 91
機能 90
待機状態 90
言語の設定
デジタル版取扱説明書をご覧ください 232

こ

高圧式スプレーガンの使用 273
コートフック 259
コーナリングライト
機能/注意 123
ディスプレイメッセージ 207
故障
参照 けん引
参照 パンクしたタイヤ
故障メッセージ
参照 ディスプレイメッセージ
故障メッセージを表示させる
参照 ディスプレイメッセージ
子供
乗員保護装置 61
乗せるとき 60
小物入れ
アームレスト(下) 255
カップホルダー 261
グローブボックス 255
重要な安全上の注意 255
センターコンソール 255
センターコンソール(リア) 255
ディスプレイメッセージ 207
メガネホルダー 255
ラゲッジネット 255
コリジョンプリベンションアシスト
操作/注意事項 80
コンビニエンスオープニング/クロージング(内気循環モード) 137
コンビネーションスイッチ 122

さ

サービス
参照 メンテナンスインジケーター
サービスセンター
参照 メルセデス・ベンツ指定サービス工場
サービスデータ
応急用スペアタイヤ 318
タイヤ/ホイール 310
容量 321
サービスプロダクト
燃料 322
ブレーキ液 326
AdBlue®専用添加剤 324
サイドウインドウ
開閉(すべて) 105
開閉(フロント) 105
概要 104
重要な安全上の注意 104, 105
不具合(異常) 106
リセット 105
サイドトリムパネルの開閉 128
サイドバッグ 56
サイドランプ
オン/オフの切り替え 121

サイドランプ(電球の交換) 128
サスペンション
モードセットアップ画面(マルチファンクションディスプレイ) 205
サスペンションの制御
AMG RIDE CONTROL スポーツサスペンション 178
サマータイヤ 301
山間地域の走行
アプローチ/デパーチャアングル 160
下り坂走行 161
最大登板能力 160
坂の頂上 161
サンバイザー 261

し

シート
運転席のシートポジション 114
シートヒーターのトラブル 117
シートヒーターを使用する 116
シートベンチレーターの使用 116
重要な安全上の注意 115
調整(電動式) 116
電動ランバーサポートの調整(シート上) 116
電動ランバーサポートを調整する 116
表面の手入れ 273
ヘッドレストの調整 116
マルチコントロールシートバック 116
メモリー機能(設定の記憶) 118
リアベンチシートを倒す/起こす 256
2 列目シートを手動で前方に倒す 116
2 列目シートを電動で前方に倒す 116
シートベルト
運転席および助手席シートベルト 53
解除 53
概要 50
警告灯 219
警告灯(機能) 53
シートベルト調整の作動/停止(マルチファンクションディスプレイ) 205
重要な安全上の注意点 50
高さ調整 52
正しい着用方法 51
着用 52
ディスプレイメッセージ 207
手入れ 273
シートベルトテンショナー
作動 57
事故
事故後の自動措置 60
時刻の設定
デジタル版取扱説明書をご覧ください 232
事故のとき 60
システム設定(COMAND システム)
デジタル版取扱説明書をご覧ください 232
自宅住所
デジタル版取扱説明書をご覧ください 232
室内センサー
解除 92
機能 91
待機状態 91
指定サービス工場
参照 メルセデス・ベンツ指定サービス工場
始動(エンジン) 143
シフトインジケーター(マルチファンクションディスプレイ) 205
シフトポジション表示 147
シフトポジション表示(DIRECT SELECT レバー) 147
車外ライト
参照 ライト
車間距離警告機能
機能/注意 80
警告灯 230
作動/解除 205
車間距離警告信号(警告灯) 230
車高
AMG RIDE CONTROL スポーツサスペンション 178
車高(ディスプレイメッセージ) 207

遮光フィルム 262
車載工具 277
車台ナンバープレート
参照 ビークルプレート
車台番号
参照 VIN
ジャッキ
収納場所 277
使用方法 307
車内ライト
消灯遅延機能(マルチファンクションディスプレイ) 205
車両
運搬 292
解錠(キー) 95
各種の設定 205
けん引 290
ジャッキアップ 307
ジャッキダウン 310
車両が動き出さないよう固定する 306
車両データ 328
施錠(キー) 95
装備 30
正しい使用 32
駐車 156
ディスプレイメッセージ 218
データ取得 32
電子制御部品 320
発進 145
非常時の解錠 99
非常時の施錠 99
車両データ 328
車両データ(オフロード走行)
アプローチ/デパーチャーアングル 329
登坂能力 330
渡れる深さ 329
車両を運搬する 292
ジャンプスタート(エンジン) 287
住所の入力
デジタル版取扱説明書をご覧ください 232
周波数
携帯電話 320
無線機 320
乗員安全性
子供を乗せるとき 60
事故後の自動措置 60
重要な安全上の注意点 48
PRE-SAFE®(予見的乗員保護システム) 59
乗員の安全性
ペットを乗せるとき 77
乗員保護装置
概要 48
警告灯 228
警告灯(機能) 49
ディスプレイメッセージ 213
消灯遅延機能
車外ライト(マルチファンクションディスプレイ) 205
車内ライト 205
照度コントローラ(メーターパネル照明) 38
助手席エアバッグオフ
トラブル(故障) 69
表示灯 49
診断機の接続部 31

す

スタートストップ機能
参照 ECO スタートストップ機能
ステアコントロール 89
ステアリング
安全のために 117
スイッチ(マルチファンクションディスプレイ) 204
スイッチの概要 40
ステアリングヒーター 117
調整(手動) 117
調整(電動) 117
パドルシフト 148
メモリー機能(シート位置の記憶) 118
ステアリング (清掃の説明) 273
ステアリング(ディスプレイメッセージ) 218
ステアリングヒーター
作動/解除 117
ストップウォッチ(レースタイマー) 205
スノーチェーン
スノー走行モード 198
注意 301

スピードメーター
セグメント表示 204
デジタル 205
表示単位の設定 205
メーターパネル内 38, 204
参照 メーターパネル
スピードリミッター
スノータイヤ 165
ディスプレイメッセージ 207
スライディングルーフ
開閉 107
重要な安全上の注意 106
不具合(誤作動) 111
リセット 108
レインクロージング機能 108
参照 パノラミックスライディングルーフ

せ

清掃
ドアミラー方向指示灯 273
施錠
参照 セントラルロッキングシステム
施錠(ドア)
車内から(セントラルロッキングスイッチ) 99
非常時の施錠 99
施錠確認シグナル音(マルチファンクションディスプレイ) 205
設定
初期化(マルチファンクションディスプレイ) 205
マルチファンクションディスプレイ 205
メニュー概要 235
設定変更(キー) 96
セットアップ画面(マルチファンクションディスプレイ) 205
センサー(日常の手入れ) 273
洗車(手入れ) 272
センターコンソール
下部 42
上部 41
セントラルロッキングシステム
車速感応ドアロック(マルチファンクションディスプレイ) 205
施錠/解錠(キー使用) 95
セントラルロック
参照 セントラルロッキングシステム

そ

走行安全システム
EBD(エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション) 87
走行安全装備
アダプティブブレーキ 87
アダプティブブレーキアシスト 81
アダプティブブレーキライト 83
概要 77
コリジョンプリベンションアシスト 80
車間距離警告機能 80
重要な安全上の注意点 77
ステアコントロール 89
4ETS(エレクトロニック・トラクション・サポート) 83
ABS(アンチロック・ブレーキング・システム) 78
BAS(ブレーキアシスト) 78
BAS プラス(ブレーキアシストプラス) 79
ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム) 83
PRE-SAFE® ブレーキ 87
走行時の注意
オフロード走行 159
冠水路の走行(オフロード) 158
冠水路の走行(オンロード) 158
登坂走行 160
濡れた路面 157
走行装備
アクティブカーブシステム 175
アクティブドライビングアシスタンスパッケージ 191
アクティブパーキングアシスト 181

アクティブブラインドスポットアシスト 191
アクティブレーンキーピングアシスト 194
アテンションアシスト 184
オンロードプログラム 197
可変スピードリミッター 162
クルーズコントロール 161
ディストロニック・プラス 165
ディスプレイメッセージ 216
パークトロニック 179
ブラインドスポットアシスト .. 188
ホールド機能 173
レーンキーピングアシスト 190
レベルコントロール(AIR マティックサスペンションパッケージ装備車) 176
レベルコントロール(オン&オフロードパッケージ装備車) ... 172
360° カメラシステム 182
ADS 175
AIR マティックサスペンションパッケージ 175
AMG RIDE CONTROL スポーツサスペンション 177
走行補助、横風 86
走行モード
オートマチック 148
オフロードプログラム(オン&オフロードパッケージ装備車) 200
オフロードプログラム(オン&オフロードパッケージ非装備車) 199
セットアップ画面(マルチファンクションディスプレイ) 205
表示(ダレクトセレクトレバー) 147
マニュアル 148
マニュアル(AMG 車両) 148
マニュアル(ON&OFFROAD パッケージ装備車) 148
走行モード選択スイッチ 148
操作安全性
重要な安全上の注意 30
操作システム
参照 マルチファンクションディスプレイ
送風 137
送風配分の設定 137
送風量の設定 137
速度制限の設定
参照 可変スピードリミッター
速度の制御
参照 クルーズコントロール

た

タイヤ
ウィンタータイヤ 301
応急用スペアタイヤ 315
回転方向 305
交換 305
重要な安全上の注意 298
新品の車輪の取り付け 309
タイヤサイズ(データ) 310
タイヤの交換 304
タイヤの取り付け 305
タイヤの取り外し 308
タイヤのトレッド 300
耐用年数 300
ディスプレイメッセージ 217
点検 299
ホイールとタイヤの組み合わせ 312
保管 305
参照 パンクしたタイヤ
MOExtended タイヤ 300
タイヤ空気圧
指定 301
達している(タイヤフィット) .. 282
達しない(タイヤフィット) 281
ディスプレイメッセージ 217
タイヤ空気圧警告システム
再起動 304
重要な安全上の注意 303
全体的な注意事項 303
タイヤの取り付け
ジャッキアップ 307
ジャッキダウン 310
車両が動き出さないよう固定する 306
車両の準備 305
車輪の装着 309
車輪の取り外し 308
タイヤフィット 280

タコメーター 204
ダッシュボード
参照 メーターパネル
タンク
参照 燃料タンク

ち

チャイルドセーフティシート
後ろ向き乗員保護装置 68
自動検知 65
純正 73
助手席に装着 66
適切な位置 70
テザーアンカー 63
トラブル(故障) 69
前向き乗員保護補助装置 68
ISOFIX 62
チャイルドプルーフロック
重要な安全上の注意 75
リアサイドウインドウ 76
リアドア 76
駐車
重要な安全上の注意 155
助手席側ドアミラーの位置 118
参照 パークトロニック
参照 駐車
著作権 33
ツール
参照 車載工具

て

停止表示板 276
ディストロニック
ディスプレイメッセージ 207
ディストロニック・プラス
運転のヒント 170
解除 170
機能/注意 165
クルーズコントロールレバー 167
警告灯 230
作動 167
作動条件 167
指定最低距離の設定 170
重要な安全上の注意 165
選択する 167
ディスプレイメッセージ 207
マルチファンクションディスプレイの表示 170
ディスプレイ(日常の手入れ) 273
ディスプレイメッセージ
安全装備 208
エンジン 215
キー 207
キーレスゴー 207
車両 218
全体的な注意事項 207
走行装備 216
タイヤ 217
非表示(マルチファンクションディスプレイ) 207
メンテナンスインジケーター 271
呼び出し(マルチファンクションディスプレイ) 207
ライト 207
デイタイムドライビングライト
機能/注意 120
ディスプレイメッセージ 207
点灯/消灯(マルチファンクションディスプレイ) 205
ディファレンシャルロック(ディスプレイメッセージ) 207
手入れ
ウインドウ 273
ウッドトリム 273
カーペット 273
ギア/セレクターレバー 273
高圧式スプレーガン 273
シート表皮 273
シートベルト 273
自動洗車機 272
車外ライト 273
車内 273
センサー 273
洗車 273
注意 271
ディスプレイ 273
塗装面 273
トリム部品 273
ナイトビューアシストプラス 273
プラスチックトリム 273
ホイール 273
マットペイント 273
マフラー 273
ルーフライニング 273

ワイパーブレード 273
360゜カメラシステム 273
データ
参照 サービスデータ
テールゲート
開度の設定 103
開閉(車外から) 101
開閉(車外から自動) 101
開閉(車内から自動) 103
重要な安全上の注意 100
ディスプレイメッセージ 218
電動クロージング 99
非常時の解錠 104
開いたときの寸法 328
テールランプ
ディスプレイメッセージ 207
テザーアンカー 63
デジタルスピードメーター 205
デジタル版取扱説明書
インストール 24
概要 24
画像検索 25
キーワード検索 26
コンテンツ 27
取扱説明書 25
テレビ
操作(マルチファンクション
ディスプレイ) 205
参照 別冊の取扱説明書
添加剤(エンジンオイル) 326
天気表示(COMAND Online)
デジタル版取扱説明書をご覧く
ださい 232
電球
参照 電球の交換
電球の交換
カバー(フロントホイールアー
チ)の取り外し/取り付け 126
サイドランプ 128
重要な安全上の注意 125
電球の種類の概要 126
パーキングランプ(フロント) .. 128
ハイビームヘッドライト 127
ブレーキランプ 129
ロービームヘッドライト 127
電源ソケット
センターコンソール 261
全体的な注意 261
ラゲッジルーム 261
リア 261
電子制御部品
注意 320
電池(キー)
交換 97
重要な安全上の注意 97
点検 97
電動ブラインド
パノラミックスライディング
ルーフ 109
リアサイドウインドウ 261
電話
着信を受ける 205
通話の拒否/終了 205
ディスプレイメッセージ 207
デジタル版取扱説明書をご覧く
ださい 232
電話帳からの番号 205
メニュー(マルチファンクショ
ンディスプレイ) 205
リダイアル 205
電話帳
デジタル版取扱説明書をご覧く
ださい 232

と

ドア
オートマチックロッキング(マ
ルチファンクションディスプレ
イ) 205
概要 98
クロージングサポーター 99
車速感応ドアロック(スイッ
チ) 99
重要な安全上の注意 98
セントラルロックによる施錠/
解錠(キー使用) 95
操作パネル 45
ディスプレイメッセージ 207
非常時の解錠 99
非常時の施錠 99
開く(車内から) 99
ドアミラー
格納/展開(自動) 118
格納/展開(電動) 118

施錠時の格納(マルチファンクションディスプレイ) 205
外側に曲げられたとき 118
調整 118
防眩(自動) 118
メモリー機能(設定の記憶) 118
リセット 118
リバースポジションの記憶 118
ドアロック
車速感応 99
盗難防止警報システム
けん引防止機能 90
車内センサー 91
盗難防止システム
イモビライザー 89
ATA(盗難防止警報システム) ... 90
読書灯 125
塗装面(日常の手入れ) 273
トランク
参照 テールゲート
トランクセパレーター
ディスプレイメッセージ 207
トランクリッド
ディスプレイメッセージ 207
トランスミッション
参照 オートマチックトランスミッション
取扱説明書
車両装備 30
トリップコンピューター (マルチファンクションディスプレイ) 205
トリップメーター
初期化(マルチファンクションディスプレイ) 205
呼び出し 205
トリム部品(清掃の説明) 273
トレーラーのけん引
ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム) 86

な

内気循環モードの作動および解除 137
ナイトビューアシストプラス
作動/停止 186
清掃 273
不具合(故障) 188
ナビゲーション
デジタル版取扱説明書をご覧ください 232
メニュー(マルチファンクションディスプレイ) 205
参照 別冊の取扱説明書
慣らし運転 140

に

ニーバッグ 56
荷物固定用リング 258
荷物の積み方 254

ね

燃費(マルチファンクションディスプレイ) 205
燃料
運転のヒント 157
給油 149
グレード(ガソリン) 322
重要な安全上の注意 322
消費に関する情報 324
走行可能距離の表示 205
タンク容量/予備燃料 322
低外気温度 324
添加剤 323
燃料計 38, 204
燃料消費の表示 205
品質(ディーゼル) 323
平均燃費 205
問題があるとき 152
AMG 車 323
燃料および油脂
ウォッシャー液 327
エンジンオイル 325
重要な安全上の注意 321
冷却水(エンジン) 326
燃料キャップ
参照 燃料給油口フラップ
燃料給油口フラップ
開く 151
燃料残量
警告灯 219
走行可能距離の呼び出し(マルチファンクションディスプレイ) 205
ディスプレイメッセージ 207

燃料タンク
　不具合 152
　容量 322
燃料フィルター(ディスプレイメッセージ) 207
燃料容量
　燃料計 38, 204

は

パーキング
　パーキングブレーキ 156
パーキングアシスト
　参照 パークトロニック
パーキングブレーキ
　警告灯 219
　ディスプレイメッセージ 207
　電気式パーキングブレーキ 156
パーキングヘルプ
　アクティブパーキングアシスト 181
　参照 ドアミラー
　参照 パークトロニック
パーキングランプ
　ディスプレイメッセージ 207
　電球の交換 128
　点灯/消灯 122
パークトロニック
　インジケーター 181
　解除/作動 181
　機能/注意 179
　重要な安全上の注意 179
　センサーの感知範囲 180
　走行装備 179
　不具合(故障) 181
ハイウェイモード 123
灰皿 261
ハイドロプレーニング現象 158
ハイビームヘッドライト
　アダプティブハイビームアシスト 124
　アダプティブハイビームアシストのオン/オフを切り替える 125
　ディスプレイメッセージ 207
　電球の交換 127
　点灯/消灯 122
バッグフック 258
バックランプ
　ディスプレイメッセージ 207
バックランプ(ディスプレイメッセージ) 207
発進(オートマチックトランスミッション) 145
バッテリー(車両)
　概要 283
　ジャンプスタート 287
　充電 286
　重要な安全上の注意事項 283
　ディスプレイメッセージ 207
　電圧 329
　容量 329
パドルシフト 148
バニティミラー(サンバイザー内) 261
パノラミックスライディングルーフ
　開閉 109
　重要な安全上の注意 106
　電動ブラインドの開閉 110
　不具合(故障) 111
　リセット 110
　レインクローズ機能 109
パワーウインドウ
　参照 サイドウインドウ
パンク
　参照 応急用スペアタイヤ
パンクしたタイヤ
　車両の準備 278
　タイヤフィット 280
　MOExtended タイヤ 279

ひ

ビークルプレート 320
ヒーター
　参照 エアコンディショナー
非常時の解錠
　運転席ドア 99
　車両 99
　テールゲート 104
非常時の車両の施錠 99
非常点滅灯 120
日付/時刻形式の設定
　デジタル版取扱説明書をご覧ください 232

ビデオ
デジタル版取扱説明書をご覧ください 232
DVD の操作 205
ビデオ (DVD) 205
ヒューズ
エンジンルーム内のヒューズボックス 294
交換の前に 293
重要な安全上の注意 293
ダッシュボードのヒューズボックス 294
配置表 293
リアシート下のヒューズボックス 295
表示灯
参照 警告灯/表示灯
ヒルスタートアシスト 145

ふ

フォグランプ(強化機能) 123
フューエルリザーブ
参照 燃料
冬用
スノー走行モード 198
ブラインドスポットアシスト
機能/注意 188
作動/解除 205
ディスプレイメッセージ 207
参照 アクティブブラインドスポットアシスト
プラスチックトリム(清掃の説明) 273
ブレーキ
アダプティブブレーキアシスト 81
運転のヒント 157
強化ブレーキシステム 158
警告灯 220
重要な安全上の注意 157
ディスプレイメッセージ 208
パーキングブレーキ 156
ブレーキ液(注意) 326
ABS 78
BAS 78
BAS プラス(ブレーキアシストプラス) 79
ブレーキアシスト
参照 BAS(ブレーキアシスト)
ブレーキ液
注意 326
ディスプレイメッセージ 213
ブレーキ液量 270
ブレーキランプ
アダプティブ 83
ディスプレイメッセージ 207
電球の交換 129
フロアマット 261
フロントウインドウ
赤外線反射 261
フロントワイパー
不具合 131
分割可倒式シート 255

へ

ヘッドバッグ
ディスプレイメッセージ 207
ヘッドライト
ウォッシャー(注記) 327
ウォッシャーシステム(機能) .. 120
ウォッシャーの補給 269
くもり 120
参照 オートマチックヘッドライトモード
ヘッドライト常時点灯モード
参照 デイタイムドライビングライト
ヘッドレスト
調整 116
調整(リア) 116
取り外し/取り付け(リア) 116
ペットを乗せるとき 77
ベルト
参照 シートベルト

ほ

ホイール
概要 298
交換/ローテーション 305
締め付けトルク 310
重要な安全上の注意 298
清掃 273
清掃 (警告の注意) 305
タイヤの交換 304
点検 299

ホイールサイズ/タイヤサイズ 310
保管 305
ホイールとタイヤの組み合わせ
参照 タイヤ
ホイールボルトの締め付けトルク 310
方向指示灯
ディスプレイメッセージ 207
点灯/消灯 122
ホールド機能
解除 175
機能/注意 173
ディスプレイメッセージ 207
ホーン 36
補充
AMG 車についての注意 323
ボンネット
重要な安全上の注意 264
ディスプレイメッセージ 218
閉じる 265
開く 264

ま

街の入力
デジタル版取扱説明書をご覧ください 232
マットペイント(日常の手入れ) ... 273
マフラー(手入れ) 273
マルチコントロールシートバック 116
マルチファンクションステアリング
概要 40
マルチファンクションディスプレイの操作 204
マルチファンクションディスプレイ
アシストメニュー 205
安全に関する重要事項 204
オーディオメニュー 205
オン&オフロードメニュー 205
機能/注意 204
基本画面 205
コンフォートサブメニュー 205
サブメーター 205
車両サブメニュー 205
設定初期化サブメニュー 205
設定メニュー 205
操作 204
ディストロニック・プラス 170
テレビの操作 205
点検メッセージの表示 271
トリップメニュー 205
ナビゲーションメニュー 205
ビデオ DVD の操作 205
メーターパネルサブメニュー .. 205
メッセージの記憶 207
メッセージメモリーメニュー .. 207
メニューの概要 205
メンテナンスメニュー 205
ライトサブメニュー 205
レースタイマー 205
AMG メニュー 205
TEL メニュー 205

み

ミラー
参照 ドアミラーまたはルームミラー
参照 バニティミラー（サンバイザー内）
参照 ルームミラー

む

無線機
周波数 320
送信出力(最大) 320
取り付け 320
無線制御式機器(装備) 261

め

メーターパネル
各部の名称 38, 204
警告灯/表示灯 39
メーターパネル照明 204
メガネホルダー 255
メッセージの記憶(マルチファンクションディスプレイ) 207
メモリーカード(オーディオ) 205
メモリー機能 118
メルセデス・ベンツ指定サービス工場 32
メルセデス・ベンツ純正部品 29

メンテナンス
参照 メンテナンスインジケーター
メンテナンスインジケーター
注意 271
特別な点検が必要なとき 271
メンテナンスインジケーターのリセット 271
メンテナンスメッセージ 271
メンテナンスメッセージの非表示 271
メンテナンスメッセージの表示 271
メンテナンスメニュー(マルチファンクションディスプレイ) 205

よ

余熱ヒーター(エアコンディショナー) 137
予備(燃料タンク)
参照 燃料

ら

ライセンスランプ
ディスプレイメッセージ 207
ライセンスランプ(ディスプレイメッセージ) 207
ライター 261
ライト
アクティブライトシステム 122
アダプティブハイビームアシスト 124
アンビエントライトのカラーの設定(マルチファンクションディスプレイ) 205
アンビエントライトの照度の設定(マルチファンクションディスプレイ) 205
インテリジェントライトシステムのオン/オフ 205
オフロードライト 123
コーナリングライト 123
車外ライト消灯遅延機能の作動/解除(マルチファンクションディスプレイ) 205
車内ライト消灯遅延機能の作動/解除 205
車幅灯 121
デイタイムドライビングライトの点灯/消灯(マルチファンクションディスプレイ) 205
パーキングランプ 122
ハイウェイモード 123
ハイビームヘッドライト 122
非常点滅灯 120
フォグランプ(強化機能) 123
ヘッドライトのオートモード 120
ヘッドライトのパッシング 122
方向指示灯 122
ランプスイッチ 120
リアフォグランプ 121
ロービームヘッドライト 121
ロケイターライティングのオン/オフの切り替え(マルチファンクションディスプレイ) 205
参照 電球の交換
ライトセンサ 207
ラゲッジネット 255
ラゲッジルーム 254
ラゲッジルームカバー
機能/注意 259
ラゲッジルームの拡大
重要な安全上の注意 256
ラゲッジルームのフロア
収納スペース 259
開く/閉じる 259
ラジオ
放送局の選択 205
参照 別冊の取扱説明書
ラジオモード
デジタル版取扱説明書をご覧ください 232
ラップタイム(レースタイマー) 205
ランプ
参照 警告灯/表示灯

り

リアシート
調整 116
ディスプレイメッセージ 207
リアデフォッガー
機能のオン/オフ 137
トラブル(故障) 137
リアフォグランプ
ディスプレイメッセージ 207

点灯/消灯 121
リアベンチシートを倒す/起こす .. 256
リアワイパー
オン/オフの切り替え 130
ワイパーブレードの交換 131
リターンスイッチ 240
リバース機能
サイドウインドウ 104
スライディングルーフ 107
テールゲート 100
電動ブラインド 110
パノラミックスライディング
ルーフ 107

る

ルート(ナビゲーション)
参照 ルート案内（ナビゲーション）
ルート案内
デジタル版取扱説明書をご覧く
ださい 232
ルート案内(ナビゲーション) 205
ルーフ
ディスプレイメッセージ 207
ルーフの積載量(最大) 328
ルーフライニングとカーペット
(清掃の説明) 273
ルーフラック 260
ルームミラー
防眩(自動) 118
防眩(手動) 118
ルームライト
アンビエントライトのカラーの
設定(マルチファンクション
ディスプレイ) 205
アンビエントライトの照度の設
定(マルチファンクションディ
スプレイ) 205
概要 125
緊急時点灯機能 125
自動点灯 125
手動点灯 125
読書灯 125

れ

冷却水(エンジン)
温度(マルチファンクション
ディスプレイ) 205
温度計 204
警告灯 229
重要な安全上の注意 326
定期交換 269
ディスプレイメッセージ 215
補給 268
量の点検 267
冷房
参照 エアコンディショナー
レインクローズ機能
スライディングルーフ 108
パノラミックスライディング
ルーフ 109
レースタイマー(マルチファンク
ションディスプレイ) 205
レーダーセンサーシステム
オン/オフ 205
ディスプレイメッセージ 207
レーンキーピングアシスト
機能/注意 190
設定 / 解除 205
設定/解除(マルチファンクショ
ンディスプレイ) 205
ディスプレイメッセージ 207
参照 アクティブレーンキーピ
ングアシスト
レベルコントロール(AIR マ
ティックサスペンションパッケー
ジ装備車)
機能/注意 176
基本設定 177
重要な安全上の注意 176
レベルコントロール(オン&オフ
ロードパッケージ装備車)
機能/注意 172
基本設定 173
重要な安全上の注意 172
レベルコントロール(ディスプレイ
メッセージ) 207

ろ

ロービームヘッドライト
ディスプレイメッセージ 207
電球の交換 127
点灯/消灯 121
左側/右側通行の設定 205

ローレンジ
オフロードギア 200
ディスプレイメッセージ 207
ロケイターライティング(マルチファンクションディスプレイ) 205

わ

ワークショップ
参照 メルセデス・ベンツ指定サービス工場
ワイパー
リアワイパー 130
ワイパーの操作 129
ワイパーブレードの交換 130
ワイパーブレード
交換 130
交換(フロントウインドウ) 130
交換(リアウインドウ) 131
重要な安全上の注意 130
清掃 273
輪止め 306

英字

4ETS(エレクトロニック・トラクション・サポート) 83
4MATIC (フルタイム 4 輪駆動) 198
12V ソケット
参照 電源ソケット
360° カメラシステム
機能/注意 182
清掃 273
ABS(アンチロック・ブレーキング・システム)
機能/注意 78
警告灯 222
重要な安全上の注意 78
ディスプレイメッセージ 208
AC モードのオン/オフ 137
AdBlue®
充填容量 325
重要な安全上の注意 324
ディスプレイメッセージ 207
補充 152
ADS(アダプティブダンピングシステム)
機能/注意 175
AIR マティックサスペンション(ディスプレイメッセージ) 207
AIR マティックサスペンションパッケージ
機能/注意 175
レベルコントロール 176
ADS(アダプティブダンピングシステム) 175
AMG RIDE CONTROL スポーツサスペンション 177
AMG メニュー(マルチファンクションディスプレイ) 205
ATA(盗難防止警報システム)
機能 90
警報の解除 90
作動/解除 90
BAS(ブレーキアシスト) 78
BAS プラス(ブレーキアシストプラス) 79
BlueTEC(AdBlue®) 324
BlueTec®排気ガス処理装置
AdBlue®の補充 152
Bluetooth®
デジタル版取扱説明書をご覧ください 232
CD
デジタル版取扱説明書をご覧ください 232
CD プレーヤー/CD チェンジャー(マルチファンクションディスプレイ) 205
COMAND Online
操作の例 239
ディスプレイ 234
COMAND Online およびインターネット
参照 オンラインおよびインターネットの機能
COMAND コントローラー 239
COMAND コントローラーのスイッチ 239
COMAND コントロールパネル .. 237
.... 237
COMAND システム
オン&オフロードメニュー 201
メニュー概要 235

DIRECT SELECT レバー
オートマチックトランスミッション 147
DSR(ダウンヒル・スピード・レギュレーション)
ディスプレイメッセージ 207
DSR(ダウンヒル・スピード・レギュレーション)
機能/注意 198
DVD オーディオ
操作(マルチファンクションディスプレイ) 205
デジタル版取扱説明書をご覧ください 232
DVD ビデオ
操作(マルチファンクションディスプレイ) 205
デジタル版取扱説明書をご覧ください 232
EBD(エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション)
機能/注意 87
ディスプレイメッセージ 212
ECO スタートストップ機能
一般的な注意 146
エンジン自動始動 146
エンジン自動停止 146
概要 146
作動/解除 146
重要な安全上の注意 146
ECO ディスプレイ
機能 / 注意事項 157
ESP
参照 ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)
ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)
機能/注意 83
警告灯 225
作動/解除 85
重要な安全上の注意 84
全体的な注意事項 83
ディスプレイメッセージ 208
特性 85
トレーラー 86
4ETS 83
AMG メニュー(マルチファンクションディスプレイ) 205
Google™ ローカル検索
デジタル版取扱説明書をご覧ください 232
iPod
デジタル版取扱説明書をご覧ください 232
ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート 62
LIM 表示灯
可変スピードリミッター 163
クルーズコントロール 161
ディストロニック・プラス 167
LOW RANGE オフロードギア 200
M+S タイヤ 301
MOExtended タイヤ 279
MP3
操作 205
デジタル版取扱説明書をご覧ください 232
参照 別冊の取扱説明書
PRE-SAFE®(予見的乗員保護システム)
機能の仕方 59
ディスプレイメッセージ 207
PRE-SAFE® ブレーキ
機能/注意 87
警告灯 230
設定/解除 205
ディスプレイメッセージ 207
SD メモリーカード
デジタル版取扱説明書をご覧ください 232
SRS（乗員保護補助装置）
参照 乗員保護装置
USB 機器の接続
デジタル版取扱説明書をご覧ください 232
VIN 320

はじめに

印刷版取扱説明書の他に、ブックケースには以下の取扱説明書が含まれています。

- デジタル版取扱説明書の CD
- 整備手帳
- 各装備の補足版

印刷版取扱説明書は、選択された車両の機能に関する情報を提供しています。

また、COMAND システムを使用してデジタル版取扱説明書にアクセスしてもご利用になれます。印刷版取扱説明書に記載されていないご質問がある場合は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。車両および COMAND システムの機能は、デジタル版取扱説明書に記載されています。

デジタル版取扱説明書と同じ内容の印刷版取扱説明書をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で購入することができます。

ℹ デジタル版取扱説明書のご利用に当たり、お客様には一切費用はかかりません。インターネットに接続することなく作動します。

以下の項目に詳しい情報が記載されています：

- COMAND システムへのデジタル版取扱説明書のインストール方法 (▷ 24 ページ)
- デジタル版取扱説明書のアクセスおよび操作方法
- デジタル版取扱説明書のそれぞれの項目にアクセスするための様々なオプション

基本メニューからデジタル版取扱説明書にアクセスするためには、以下の 3 つの方法があります。

- イメージ検索
- キーワード検索
- 目次

基本メニューの "設定" で、デジタル版取扱説明書の設定言語を変更することができます。

インストール

デジタル版取扱説明書がすでにインストールされているかどうかを確認してください。そのためには、以下のようにして COMAND システム経由でデジタル版取扱説明書を呼び出します。

▶ COMAND コントローラーを使用して、COMAND ディスプレイのメニューバーからアイコン 🌐 を選択し、押して ⊛ 確定します。

▶ "取扱説明書" の選択カードを選択し、押して ⊛ 確定します。
2 つの可能性があります。
1. デジタル版取扱説明書がインストールされています。デジタル版取扱説明書の基本メニューが開きます。
2. デジタル版取扱説明書がインストールされていません。以下のメッセージが表示されます：取扱説明書はインストールされていません。対応するディスクを入れてください。

デジタル版取扱説明書がまだインストールされていない場合は、ご自身でインストールするオプションがあります。必要なインストール用 CD はブックケースに入っています。

インストール処理の時間は異なることがあります。

インストール処理には約 5 分 かかります。この時間の長さは、車両が停止していて、COMAND システムの他の機能を使用していない間にデジタル版取扱説明書をインストールする場合にのみ当てはまります。インストール処理の時間は、そのときにナビや電話機能のような

COMANDシステムの他の機能を使用していると増加することがあります。

インストール中に何か問題が生じた場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

▶ **デジタル版取扱説明書をインストールする：** 車両を安全に停止し、道路と交通状況に注意してください。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします(▷ 141 ページ)。

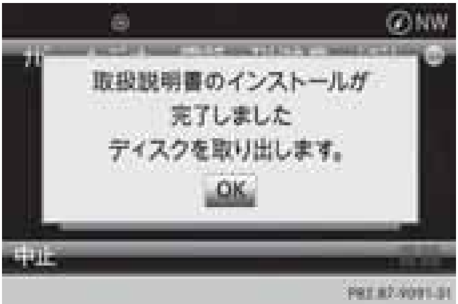
▶ COMANDシステムをオンにします。

▶ インストール用CDをCD / DVDドライブに挿入します。

▶ 希望するインストール言語を選択します。

▶ COMANDディスプレイのインストール手順に従います。

ℹ チェックに失敗すると、例えば この取扱説明書ディスクは本システムには対応していません。ディスクを取り出します。 というメッセージが表示されます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。



▶ **インストールが完了したとき：** COMANDコントローラーを押して ⊛、インストールCDの排出を確定します。

ℹ **インストールのキャンセル：** インストール処理中にデジタル版取扱説明書のインストールをキャンセルできます。後でインストールを続行することができます。

インストールを継続する： インストール用CDをCD/DVDドライブに再度挿入します。上記に記載されているインストールの説明に従ってください。

操作

デジタル版取扱説明書の呼び出し

▶ COMANDシステムのダイヤルノブ ⓄⓃ を押します。
COMANDシステムが作動します。警告メッセージの後に、以前選択したメニューが表示されます。

▶ COMANDコントローラーを使用して、メニューバーの 🌐 マークを選択し、押して ⊛ 確定します。

▶ "取扱説明書" のページを選択し、押して ⊛ 確定します。
デジタル版取扱説明書の基本メニューが開きます。

イメージ検索

イメージ検索により、車両を "システム上" で調べることができます。車外イメージあるいは車内イメージのいずれかから開始し、取扱説明書に記載されているさまざまな項目にアクセスすることができます。車内の項目にアクセスするためには、"車内" の画像を選択します。

車両にいくつかのボディスタイルがある場合は、イメージ検索を最初に開始したときに異なるボディスタイルの中から選択することができます。"設定" の基本メニューで、選択したボディスタイルを変更することができます。

① トピックバー

② 選択した項目の見出し

③ 作動している車両構成部品

▶ COMAND コントローラーをまわすか ⟲◎⟳、またはスライドして ←◎→、それぞれの車両の構成部品を選択します。
それぞれの車両の構成部品が色で強調されます。1 つの画像につき、1 個の車両構成部品のみが強調されます。

▶ そのときに選択されている項目を確定するためには、COMAND コントローラーを押します ⊙ 。

項目を選択した後に、以下のいずれかが行なわれます。

- デジタル版取扱説明書の該当する項目に直接進みます。
- COMAND コントローラーを使用して選択することができる、さらに詳細なさくいんがあるリストが開きます。
- イメージ検索の階層に下がります。ここで検索を絞り込むことができます。COMAND コントローラーをまわすか ⟲◎⟳、またはスライドして ←◎→、赤色で強調されたそれぞれの車両の構成部品を選択します ③。

▶ **前回の画面/前回の項目にアクセスする：** COMAND コントローラー横のリターンスイッチ [↩] を押します。
前回の画面または前回の項目が開きます。

ℹ 車両のエクステリアの画面でリターンスイッチ [↩] を押した場合は、イメージ検索が終了します。デジタル版取扱説明書の基本メニューが開きます。

キーワード検索

キーワード検索では、文字入力を使用してキーワード検索を行なうことができます。文字入力の詳しい記載は、"COMAND システム" の項目の"文字入力" にあります 。

① 使用できるキーワードの選択リスト

② 文字バー

③ 戻る

▶ **キーワードを入力する：** COMAND コントローラーをまわすか ⟲◎⟳、またはスライドして ←◎→、文字を選択します。COMAND コントローラーをスライドして ↑◎↓、文字バーを変更します。

ℹ 上部文字バーにいる場合は、COMAND コントローラーを上にスライドして ↑◎、選択リストにアクセスできます。

- 文字を確定するためには、COMAND コントローラーを押します ◎。
  選択リスト ① がフィルターにかけられます。
- COMAND システムが自動的に選択リスト ① にジャンプするまで、同様に文字を選択します。
  代わりに OK を押すことにより、選択リスト ① を呼び出すことができます。
- **前回の選択リストにアクセスする：** COMAND コントローラーを左にスライドします ←◎。
  戻るを選択して、前回の選択リストを開きます。

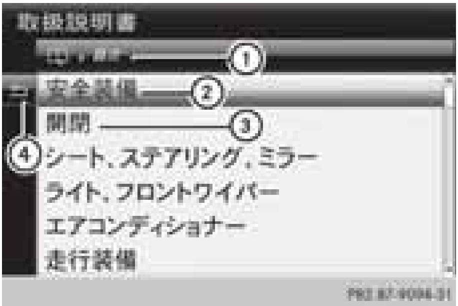
または

- COMAND コントローラー横のリターンスイッチ ↩ を押します。
  前回の選択リストが開きます。

ℹ 文字バーでリターンスイッチ ↩ を押した場合は、キーワード検索が終了します。デジタル版取扱説明書の基本メニューが開きます。

目次

目次には、印刷版取扱説明書と同じ順序でトピックが記載されています。項目、さらに小項目を選択することができます。



① トピックバー
② 目次の中で現在選択されている項目
③ 目次の中で現在選択されていない項目
④ リターンマーク ↩

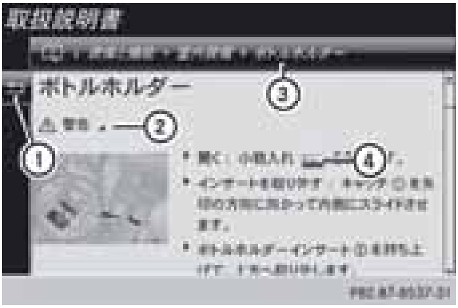
- COMAND コントローラーをまわすか ⟲◎⟳、またはスライドして ↑◎↓、希望する項目を選択します。
- 項目を確定するためには、COMAND コントローラーを押します ◎。
  該当する小項目を含む、さらなる選択リストが開きます。
- 同様に、該当する小項目を選択します。
- **前回の選択リストにアクセスする：** COMAND コントローラーを左にスライドします ←◎。
  リターンマーク ↩ を押して、前回の選択リストを開きます。

または

- COMAND コントローラー横のリターンスイッチ ↩ を押します。
  前回の選択リストが開きます。

ℹ 目次リストの最上位階層にいる場合に、リターンスイッチ ↩ を押します。目次リストが終了した後に、デジタル版取扱説明書の基本メニューが開きます。

コンテンツページ



① リターンマーク ↩
② 非表示の警告
③ トピックバー
④ 続きの章へのリンク

▶ **目次ページ内を閲覧する：** COMAND コントローラーをまわすか 〔◎〕、またはスライドして ↑◎↓、テキストを上下にスクロールします。

▶ **目次のページから移動する：** COMAND コントローラーを左にスライドします ←◎。
リターンマーク [↩] を押して、前回のページを開きます。

または

▶ COMAND コントローラー横のリターンスイッチ [↩] を押します。

または

▶ COMAND コントローラーをまわすか 〔◎、またはスライドして ↑◎、目次ページの一番上までスクロールします。

▶ COMAND コントローラーを上へスライドし ↑◎、トピックバー ③ を選択します。

▶ COMAND コントローラーをまわすか 〔◎〕、またはスライドして ←◎→、希望の項目または小項目を選択します。項目を確定するためには、COMAND コントローラーを押します ◎ 。
すべての小項目を含んだ、選択されているトピックバーが開きます。

▶ **リンク を選択する④：** テキストをスクロールしているときに、リンクが自動的に強調されます。リンクを選択しているときに、COMAND コントローラーを押します ◎ 。
希望する目次のページが開きます。

▶ **警告の注意事項、環境に関する注意点および故障情報を開く：** テキストをスクロールしたときに、カーソルが自動的に警告、環境に関する注意点および故障情報のドロップダウンにジャンプします。注意事項を選択しているときに、COMAND コントローラーを押します ◎ 。
警告の注意事項、環境に関する注意点および故障情報は、同じページで開きます。

▶ **デジタル版取扱説明書を終了する：** COMAND コントローラー横のリターンスイッチ [↩] を押して保持します。
ウインドウが開き、ブラウザを終了するかどうかをたずねられます。

▶ "はい" で確定します。
COMAND システムの機能の概要が開きます。

▶ **COMAND システムの機能スイッチを使用して、デジタル版取扱説明書から COMAND システムに切り替える：** COMAND システムのスイッチ [RADIO]、[TEL]、[DISC]、[NAVI] または [SYS◎] を押します。
希望するメニューが開きます。

▶ **デジタル版取扱説明書に戻る：** COMAND コントローラーを使用してメニューバーの 🌐 マークを選択し 、押して ◎ 確定します。
前回呼び出されていたデジタル版取扱説明書のページが開きます。

ℹ 安全上の理由から、"デジタル版取扱説明書" 機能は、走行中は停止します。

環境保護

全体的な注意事項

環境に関する注意

Daimler は、包括的な環境保護の一つとして対策を明確にしています。

それは、地球上で少しずつ使われ、自然と人間双方の要求に注意を促す、我々の存在の源となる自然資源のためです。

環境的に配慮のある方法で車両を操作することも、環境を保護する一助になります。

燃費やエンジン回転、トランスミッション、ブレーキ、タイヤの摩耗具合は、以下の要因に左右されます。

- お客様の車両の使用状況
- お客様の個人的な運転スタイル

お客様は、いずれの要因にも影響を及ぼしています。以下のことにご留意ください。

使用状況

- 短距離の走行は燃料消費を増やす原因となります。
- タイヤの空気圧が常に適正であることを確認してください。
- 不要な重量物は積載しないでください。
- 必要でないときは、ルーフラックを取り外してください。
- 定期的な車両の整備は、環境保護に貢献します。整備の間隔を守ってください。
- 点検整備は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

個人的な運転スタイル

- エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。
- 車両を停止したままのエンジン暖機は行なわないでください。
- 注意して運転し、前方の車両との適切な距離を保持してください。
- 頻繁な、または急な加速やブレーキ操作は避けてください。
- 適切なタイミングでギアを変え、それぞれのギアの使用は、エンジン最高回転数の ⅔ までにとどめてください。
- 渋滞しているときは、エンジンを停止してください。
- 車両の燃費に注意してください。

メルセデス・ベンツ純正部品

環境

Daimler AG では、新品同様の品質を持つ、リサイクルしたアッセンブリーやパーツも供給しています。新品と同様の保証が適用されます。

! 以下の部位の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナー、また乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。

- ドア
- ドアピラー
- サイドシル
- シート
- ダッシュボード
- メーターパネル
- センターコンソール

これらの部位にオーディオなどのアクセサリーを取り付けないでください。 修理や板金作業を行なわないでください。 乗員保護装置の作動効果が損なわれるおそれがあります。

アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

メルセデス・ベンツにより承認されていない安全性に関わる部品、タイヤおよびホイール、ならびにアクセサリーなどを使用した場合は、車両の走行安全性を損なうおそれがあります。ブレーキシステムなどの安全に関連したシステムが故障するおそれがあります。メルセデス・ベ

ンツ純正部品または同等の品質の部品のみを使用してください。タイヤやホイール、アクセサリーなどは必ず、車両用に明確に承認された製品のみを使用してください。

メルセデス・ベンツでは、純正部品や変換部品、アクセサリーに対して、それらの信頼性や安全性、適合性が明確に車両に適しているかをテストしています。継続的な市場調査に関わらず、メルセデス・ベンツはすべての部品を入手できるわけではありません。そのため、公的に承認されている、またはテストセンターによって独自に承認されている場合でも、メルセデス・ベンツ車でのそのような部品の使用については、メルセデス・ベンツは責任を負いかねます。

メルセデス・ベンツ純正部品を注文するときは、常に車台番号（VIN）（▷ 320 ページ）を確認する必要があります。

取扱説明書

車両の装備

車両のすべての標準およびオプション装備については、別冊の補足版をご覧ください。

装備や操作について不明点があるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

取扱説明書と整備手帳は重要な書類ですので、車内に保管してください。

操作安全性

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

規定の点検整備または必要な修理を行っていないと、故障やシステム故障を引き起こすおそれがあります。 事故の危険性があります。

規定の点検整備、必要な修理は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行ってください。

⚠ **警告**

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ **警告**

排気システムの熱くなった部品に触れた場合は、葉、草または小枝のような可燃性の物質が発火するおそれがあります。火災の危険性があります。

オフロードまたは舗装されていない道路を走行するときは、車両の下側を定期的に点検してください。特に、挟まった植物や他の可燃物を取り除いてください。損傷している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

⚠ **警告**

電子部品、ソフトウェア配線への改造は、それらの機能およびその他のネットワークでつながっている構成部品の機能を損なうことがあります。 特に、安全にかかわるシステムに影響が生じるおそれがあります。 結果として、車両の機能が適切に作動しないあるいは走行安全性が危険にさらされることがあります。 けがや事故の危険が高まります。

また、決して配線、電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。電気装備および電子機器に関するすべての作業および改造はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で必ず行ってください。

車両の電子制御部品に変更を行なった場合は、一般使用許可は無効になります。

❗ 以下のときは、車両が損傷することがあります：

- 高い縁石や舗装されていない道路で車両が立ち往生した
- 縁石や道路のくぼみなどの障害物の上を速すぎる速度で走行した
- 重量のある障害物がボディ下部やシャーシの部品にぶつかった

このような状況では、目に見える損傷はなくても、ボディ、ボディ下部、シャーシ部品、ホイール、タイヤが損傷しているおそれがあります。このようにして損傷した部品は予期せず故障するおそれがあり、事故の場合には、設計されている負荷に耐えることができなくなるおそれがあります。

ボディ下部のパネルが損傷しているときは、葉、草または小枝のような可燃性の素材がボディ下部とボディ下部パネルの間に堆積することがあります。これらの素材が排気システムの高温の部品に触れた場合は、発火するおそれがあります。

そのような場合には、すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検および修理を受けてください。走行している場合に、走行安全性が損なわれていると感じた場合は、道路や交通状況に注意しながらすみやかに移動し、停車してください。このような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

診断器接続部

診断器接続部は、メルセデス・ベンツ 指定サービス工場で診断機器のみを接続するように想定されています。

⚠ **警告**

機器を診断機の接続部に接続すると、車両システムの操作に影響を与える場合があります。 車両の走行安全性が損なわれることがあります。 事故の危険性があります。

いかなる機器も車両の診断機の接続部に接続しないでください。

⚠ **警告**

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルを妨害することがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。フロアマットは指示にしたがって必ず確実に固定し、ペダル操作の妨げにならないようにペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。

❗ エンジンが停止しているときに診断機の接続部の装備品を使用すると、スターターバッテリーが放電することがあります。

診断機器を診断器接続部に接続すると、例えば排出物モニター情報のリセットにつながります。これにより、次回の主要な点検の際の排出ガス試験の要件に適合しなくなる場合もあります。

日常点検および定期点検

お客様自身の責任において日常点検と定期検査を行なうことが法律で定められています。 それぞれの検査手順についての詳細情報は、整備手帳をご覧ください。

オートマチックトランスミッションの操作

全体的な注意事項

適切にご使用いただくために、オートマチックトランスミッションを使用する前に、特徴や操作に関連する事項についての理解を深めてください。

"走行および駐車"の指示もご覧ください。(▷ 146 ページ).

オートマチックトランスミッションの特徴

クリープ現象

エンジンがかかっていてトランスミッションがトランスミッションポジションDまたはRのときは、駆動輪に動力が伝達されています。 その結果、アクセルペダルを踏んでいなくても、車両が動き出します。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場には、車両に適切に必要な作業を行なうための、専門的な知識、道具および資格があります。これは特に安全に関する作業に当てはまります。

整備手帳にある注意事項に従ってください。

以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

- 安全に関する作業
- 整備やメンテナンス作業
- 修理作業
- 改造、装着、交換
- 電子部品の作業

メルセデス・ベンツ指定サービス工場をご利用いただくことをお勧めします。

正しく使用するために

警告ステッカーをはがすと、お客様や他の方々が危険を認識できないことがあります。 警告ステッカーははがさないでください。

車両を運転しているときは以下の情報に従ってください。

- 本説明書の安全に対する注意点
- 本説明書のサービスデータ
- 道路交通法
- 自動車に関係する法律と安全基準

車両に記憶されているデータ

車両の多くの電子部品は、データメモリーを持っています。

これらのデータメモリーは、以下に関する技術情報を一時的または恒常的に保存します：

- 車両の作動状態
- 発生した事象
- 故障

一般的に、この技術情報は構成部品、モジュール、システムまたは環境の状態について記録します。

例えば、以下を含みます：

- フルードレベルなどのシステム構成部品の作動条件
- 車輪回転数/速度、動きの減速度、横方向の加速度、アクセルペダルの位置などの車両の状況メッセージおよび個別の構成部品
- ライト、ブレーキなどの重要なシステム構成部品の故障および異常
- エアバッグの作動、スタビリティコントロールシステムの介入などの特殊な走行状態での車両の反応および作動条件
- 外気温度などの外気条件

このデータはあくまで技術的な特性のみであり、以下で使用されます：

- 故障や不具合の検知および改良の支援
- 事故後などの車両機能の解析
- 車両機能の最適化

データを使用して、車両の動きをたどることはできません。

お客様の車両が整備を受けたときは、この技術情報が発生事象データメモリーおよび故障データメモリーから読み出されます。

例えば以下の整備が含まれます：

- 修理整備
- 整備処理
- 保証作業
- 品質保証

この情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場の認定された従業員（メーカーを含む）が特別な診断機を使用して読み出します。必要に応じて、より詳細な情報を取得します。

故障が解決されたあと、情報は故障メモリーから消去されるか、絶えず上書きされます。

車両を操作する場合、その他の情報と併せて（必要に応じて、該当機関に相談し）、この技術データから個人を特定することができる場合があります。

以下の例が含まれます：

- 事故レポート
- 車両への損傷
- 目撃者証言

お客様と合意したその他の追加機能によっても、特定の車両データを車両から取得することができます。追加機能は、非常時の車両位置などを含んでいます。

著作権の情報

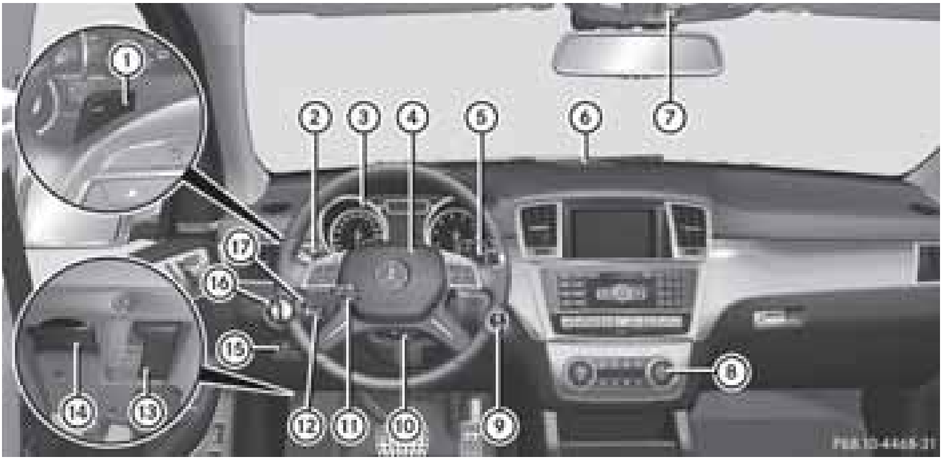
全体的な注意事項

車両およびその電子部品に使用されているフリーおよびオープンソースのソフトウェアのライセンスに関する情報は、下記のウェブサイトで入手できます。

http://www.mercedes-benz.com/opensource

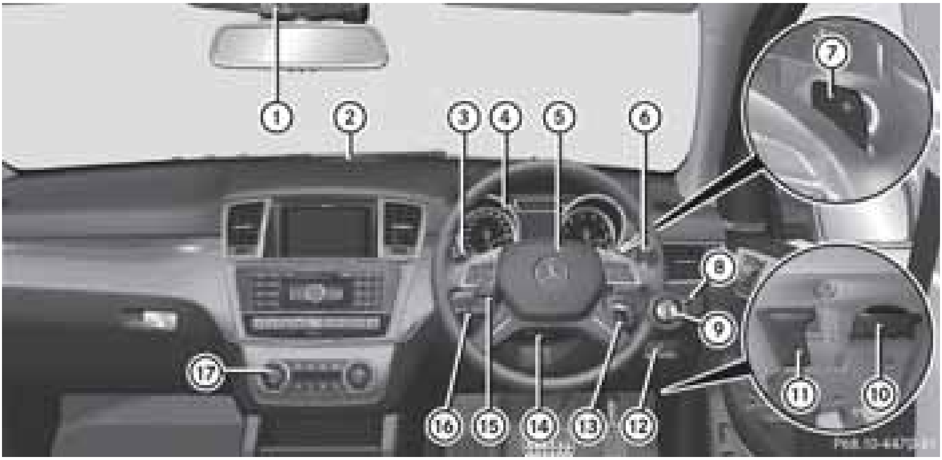
運転席 36
メーターパネル 38
マルチファンクションステアリング 40
センターコンソール 41
オーバーヘッドコントロールパネル 44
ドアコントロールパネル 45

運転席



	機能	ページ
①	ステアリングのギアシフトパドル	
②	コンビネーションスイッチ	122
③	メーターパネル	38
④	ホーン	
⑤	ダイレクトセレクトレバー	147
⑥	パークトロニックの警告表示	179
⑦	オーバーヘッドコントロールパネル	44
⑧	エアコンディショナーシステム	134
⑨	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ	141 142

	機能	ページ
⑩	手動調整式ステアリングの調整	
⑪	電動調整式ステアリングの調整 ステアリングヒーター	
⑫	クルーズコントロールレバー	161
⑬	ボンネットを開く	264
⑭	診断器接続部	31
⑮	電気式パーキングブレーキ	
⑯	ライトスイッチ	120
⑰	ナイトビューアシストプラス	186



	機能	ページ
①	オーバーヘッドコントロールパネル	44
②	パークトロニックの警告表示	179
③	コンビネーションスイッチ	122
④	メーターパネル	38
⑤	ホーン	
⑥	ダイレクトセレクトレバー	147
⑦	ステアリングのギアシフトパドル	
⑧	ナイトビューアシストプラス	186
⑨	ライトスイッチ	120

	機能	ページ
⑩	診断器接続部	31
⑪	ボンネットを開く	264
⑫	電気式パーキングブレーキ	
⑬	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ	141 142
⑭	手動調整式ステアリングの調整	
⑮	電動調整式ステアリングの調整 ステアリングヒーター	
⑯	クルーズコントロールレバー	161
⑰	エアコンディショナーシステム	134

メーターパネル

ディスプレイおよび操作

	機能	ページ
①	セグメント付きスピードメーター	
②	燃料計	
③	タコメーター	

	機能	ページ
④	冷却水温度	
⑤	マルチファンクションディスプレイ	
⑥	メーターパネル照明	

警告および表示灯

	機能	ページ
①	ロービームヘッドライト	
②	車幅灯	
③	ESP®	225
④	ハイビームヘッドライト	
⑤	電気式パーキングブレーキ（赤色）	
⑥	電気式パーキングブレーキ（黄色）	
⑦	ブレーキ（黄色）	220
⑧	車間距離警告	230
⑨	方向指示灯	

	機能	ページ
⑩	乗員保護装置	48
⑪	シートベルト	219
⑫	ディーゼルエンジン：予熱	
⑬	冷却水	229
⑭	リアフォグランプ	
⑮	エンジン診断	
⑯	予備燃料	
⑰	ESP® オフ	225
⑱	ABS	222
⑲	ブレーキ（赤色）	220

マルチファンクションステアリング

	機能	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	
②	COMAND ディスプレイ	
③	[音声認識ボタン] 音声認識の作動：別冊の取扱説明書をご覧ください	
④	[終話ボタン] 通話の拒否、または終了 電話帳 / 発信履歴の終了 [通話ボタン] 発信、または受話 発信履歴への切り替え [＋] [－] 音量の調整 [ミュートボタン] ミュート	

	機能	ページ
⑤	[◀] [▶] メニューの選択 [▲] [▼] サブメニューの選択またはリストのスクロール [OK] 選択を確定して、メッセージを非表示にする	
⑥	[戻るボタン] 戻る 音声認識の停止：別冊の取扱説明書をご覧ください	

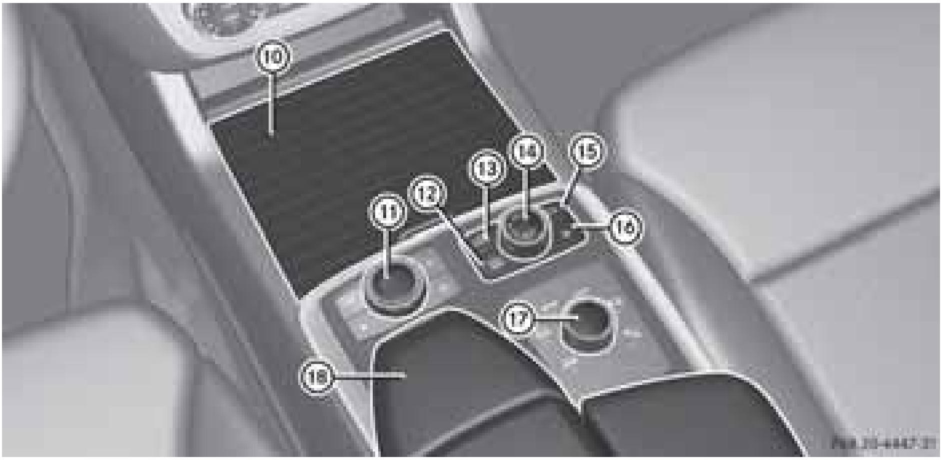
センターコンソール

センターコンソール、上部

	機能	ページ
①	Audio 20/COMAND システム	
②	シートヒーター	116
③	シートベンチレーター	116
④	OFF P パークトロニック	179

	機能	ページ
⑤	ECO ECO スタートストップ機能	
⑥	非常点滅灯	
⑦	PASS AIR BAG OFF 助手席エアバッグオフ表示灯	49
⑧	OFF ESP® 表示灯	84

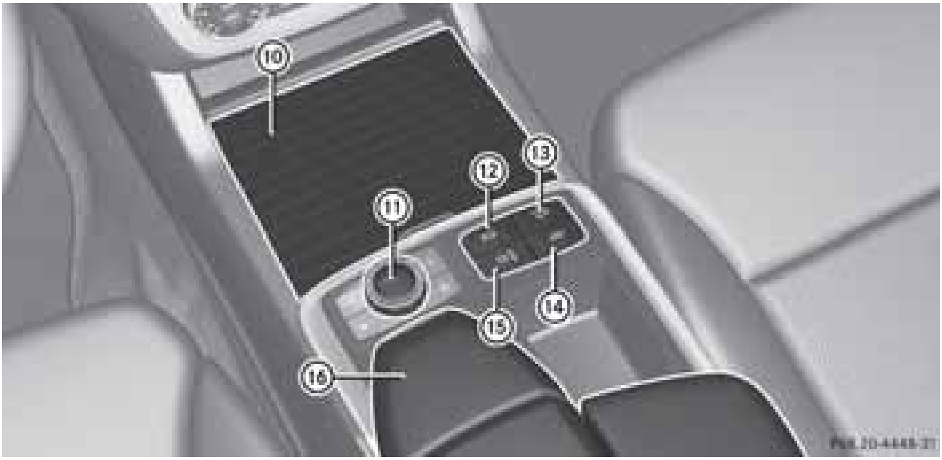
センターコンソール、下部



ⓘ オン&オフロードパッケージ装備車

	機能	ページ
⑩	小物入れ カップホルダー ライター 電源ソケット	
⑪	COMAND コントローラー	
⑫	オン & オフロードパッケージメニュースイッチ	201
⑬	LOW RANGE LOW RANGE オフロードギア	200

	機能	ページ
⑭	レベルコントロール	172
⑮	DSR DSR （ダウンヒル・スピード・レギュレーション）	198
⑯	M マニュアル走行モード	
⑰	オンロードプログラム用セレクターダイヤル オフロードプログラム用セレクターダイヤル	197 200
⑱	メディアインターフェース付き小物入れ	



ℹ オン & オフロードパッケージ非装備車および AMG 車

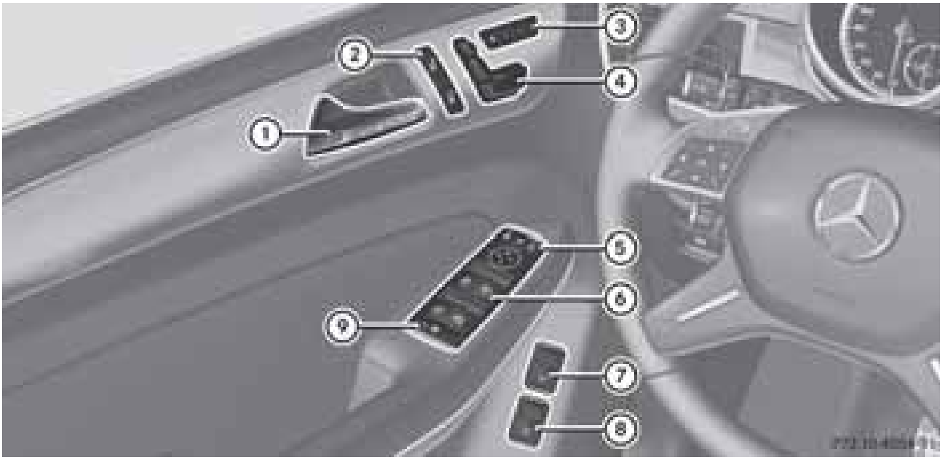
	機能	ページ
⑩	小物入れ カップホルダー 灰皿 ライター 電源ソケット	
⑪	COMAND コントローラー	
⑫	オフロードプログラム選択 走行モード選択（AMG 車）	199
⑬	DSR（ダウンヒル・スピード・レギュレーション）	198
⑭	レベルコントロール	176
⑮	アダプティブダンピングシステム AMG RIDE CONTROL 調整（AMG 車）	 178
⑯	メディアインターフェース付き小物入れ	

オーバーヘッドコントロールパネル

	機能	ページ
①	左側読書灯点灯/消灯の切り替え	
②	フロントルームライト点灯/消灯の切り替え	
③	リアルームライト点灯/消灯の切り替え	
④	フロントルームライト消灯/ルームライト自動点灯のオフ	
⑤	右側読書灯点灯/消灯の切り替え	

	機能	ページ
⑥	スライディングルーフの開閉	107
	電動ブラインド付きパノラミックスライディングルーフの開閉	109
⑦	サングラスケース	
⑧	けん引防止機能の解除	90
⑨	ルームミラー	
⑩	室内センサーの解除	91

ドアコントロールパネル



	機能	ページ
①	ドアを開く	
②	[開錠] [施錠] 車両の施錠/解錠	
③	[M] [1] [2] [3] シート、ドアミラーおよびステアリングの設定の保存(メモリー機能)	
④	シートを調整する	115
⑤	ドアミラーの電動調整および格納/展開	

	機能	ページ
⑥	サイドウインドウの開閉	
⑦	テールゲートの開閉	103
⑧	ヒンジ式電動サイドウインドウの開閉	
⑨	後席のサイドウインドウのオーバーライド機能の設定/解除	

役に立つ情報 48
乗員の安全性 48
子供を乗せるとき 60
ペットを乗せるとき 77
走行安全システム 77
盗難防止警報システム 89

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 32 ページ)

乗員の安全性

乗員保護装置をご使用になる前に

乗員保護装置は、事故の際に乗員が車内部品にぶつかる危険性を低減します。乗員保護装置は、事故の際に乗員が受ける衝撃を低減することもできます。

乗員保護装置には以下が含まれます：

- シートベルトシステム
- エアバッグ
- チャイルドセーフティシート
- チャイルドセーフティシート固定装置

乗員保護装置の構成部品は、相互に補完し、連動して作動します。すべての乗員が以下の条件を満たしている場合に限り、乗員保護装置の保護機能が働きます。

- シートベルトが正しく着用してある (▷ 51 ページ)
- シートやヘッドレストが正しく調整してある (▷ 115 ページ)

運転者として、ステアリングが適切に調整されていることを確認してください。正しい運転席シートの位置に関する情報に注意してください (▷ 114 ページ)。

さらに、作動する場合にエアバッグが正しく膨らむようにしなければなりません (▷ 54 ページ)。

エアバッグは、正しく着用されたシートベルトの機能を補助し、事故の際の安全装置として乗員の保護効果を高めます。例えば、事故の際にシートベルトによる保護機能をエアバッグの作動によって高めることができない場合は、エアバッグは作動しません。また、事故の際、その状況下において保護機能が発揮できるエアバッグのみが展開します。ただし、シートベルトとエアバッグは外側から車両に入り込んだ物に対する保護は通常行ないません。

乗員保護装置の作動方法に関する情報は、"シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動"にあります (▷ 57 ページ)。

車両に乗車している子供、ならびにチャイルドセーフティシートに関するさらなる情報は、"子供を乗せるとき"をご覧ください (▷ 60 ページ)。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

改造が行なわれた後は、乗員保護装置が正しく機能しなくなることがあります。例えば、事故のときに作動しなかったり、または予期せず作動することにより、乗員保護装置が意図した保護機能を発揮しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

乗員保護装置の部品を改造しないでください。また、配線、電子部品やソフトウェアを決して改造しないでください。

障害のある方に合わせてエアバッグシステムを改造する必要がある場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

乗員保護装置警告灯

乗員保護装置の機能は、イグニッションがオンになった後、そしてエンジンがかかっている間は定期的に点検されます。そのため、不具合は適時検出することができます。

メーターパネルの乗員保護装置警告灯 は、イグニッションをオンにしたときに点灯します。エンジンが始動した後、数秒以内に消灯します。乗員保護装置の構成部品は、作動準備が整っています。

乗員保護装置警告灯 が以下の場合は、不具合が発生しています。

- イグニッションをオンにした後に点灯しない
- エンジンがかかって数秒後に消灯しない
- エンジンがかかっている間に再度点灯する

⚠ 警告

乗員保護装置が故障している場合は、車両の減速度が大きい事故の際に、乗員保護装置の構成部品が不意に作動したり、またはまったく作動しないことがあります。これは、たとえばシートベルトテンショナーあるいはエアバッグに影響を与えることがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で乗員保護装置の点検を受けて修理してください。

助手席エアバッグオフ表示灯

助手席エアバッグオフ表示灯①は、助手席のチャイルドセーフティシートセンサーの一部です。

点灯したままの助手席エアバッグオフ表示灯は、助手席エアバッグが無効になっていることを示します。

助手席シートの乗員によって、助手席エアバッグは有効または無効のいずれかにする必要があります。以下の項目を参照してください。走行前および走行中のいずれのときも、確認しなければなりません。

- **チャイルドセーフティシートの子供：** 助手席エアバッグ が有効または無効かどうかは、取り付けられているチャイルドセーフティシートおよび子供の年齢および体格によって異なります。したがって、必ず"子供を乗せるとき" (▷ 60 ページ)の情報に従ってください。そこには、助手席シートの後ろ向き、および前向きチャイルドセーフティシートに関する説明もあります。
- **他のすべての乗員：** 助手席エアバッグオフ表示灯が消灯していなければなりません。"シートベルト" (▷ 50 ページ) および"エアバッグ" (▷ 54 ページ)に関する注意事項に従っていることを確認してください。そこには、適切なシート位置に関する情報もあります。

助手席チャイルドセーフティシートセンサー(▷ 65 ページ)に関する情報に従ってください。

シートベルト

はじめに

正しく装着されたシートベルトは、衝突あるいは車両が横転したときに乗員の動きを抑える最も効果的な手段です。これにより、乗員が車内の部品にぶつかったり、車両から投げ出されることを防ぎます。シートベルトを着用することで、乗員と作動するエアバッグの距離を最適に保つこともできます。

シートベルトシステムは以下で構成されています。

- シートベルト
- フロントシートベルトならびに 2 列目および 3 列目シートの外側シートベルト用シートベルトテンショナー
- フロントシートベルトならびに 2 列目シートの外側シートベルトおよび 3 列目シートのシートベルト用シートベルトフォースリミッター

シートベルトが急に、あるいは激しくシートベルトの引き出し口から引き出されると、リトラクターがロックされます。シートベルトはそれ以上引き出すことはできません。

ベルトテンショナーは、衝突が起こると、乗員の身体にぴったり合うようにシートベルトを締めます。しかし、シートバックレストの方向に乗員を引き戻すことはしません。

しかし、ベルトテンショナーは、正しくないシート位置を正しくしたり、着用の仕方が正しくないシートベルトの取回しを正しくすることはありません。

シートベルトにベルトフォースリミッターも装備されていて作動した場合は、シートベルトによって乗員にかかる力は低減されます。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、減速力の一部となるフロントエアバッグと連動しています。これにより、事故の際に乗員が受ける衝撃が緩和されます。

! 助手席に乗車していない場合は、助手席シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突の際にシートベルトテンショナーが作動することがあります。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

正しく装着されないと、シートベルトは意図された保護機能を果たすことができません。間違ったシートベルトの装着は、たとえば事故のとき、ブレーキを掛けた時や急な方向転換のときに、けがの危険を増やします。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

すべての乗員が適切に着席して、シートベルトを正しく着用していることを確認してください。

⚠ **警告**

バックレストをほぼ垂直の位置に動かしていない場合は、シートベルトは意図された保護レベルを発揮しません。ブレーキ時または事故の場合に、シートベルトの下側にもぐり込み、腹部または頸部などがけがを負うおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

走行を開始する前に、シートを正しい位置に調整してください。バックレストがほぼ垂直の位置にあり、シートベルトのショルダー部分が肩の中央にかかっていることを常に確認してください。

⚠ **警告**

身長が約 150 cm 未満の乗員は、追加の適切な乗員保護装置を使用しないとシー

トベルトを正しく装着できません。正しく装着されないと、シートベルトは意図された保護機能を果たすことができません。間違ったシートベルトの装着は、たとえば事故のとき、ブレーキを掛けた時や急な方向転換のときに、けがの危険を増やします。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

そのため身長約 150 cm 未満の乗員は、必ず適切な乗員保護装置を使用してください。

年齢が 12 歳 以下で、身長が 150 cm 以下の子供が乗車する場合：

- 子供は常に、メルセデス・ベンツの車両に適したチャイルドセーフティシートに固定してください。チャイルドセーフティシートは子供の年齢、体重および体格に適応していなくてはいけません。
- チャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に加えて、本取扱説明書の"子供を乗せるとき"の説明および安全上の注意事項 (▷ 60 ページ) に常に従ってください。

⚠ **警告**

以下の場合は、シートベルトは意図された保護機能を発揮しないことがあります：

- 損傷している、改造されている、極端に汚れている、漂白されている、または着色されている
- シートベルトのバックルが損傷している、または極端に汚れている
- シートベルトテンショナー、ベルトアンカーまたはリトラクターが改造されている

事故が起こった際は目には見えない場合でも、たとえばガラスの破片によってシートベルトに損傷していることがあります。改造または損傷したシートベルトは事故のときなどに裂けたり、または作動しないおそれがあります。改造されたシートベルトテンショナーは不意に作動したり、または必要なときに作動しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

シートベルト、シートベルトテンショナー、ベルトアンカーまたはリトラクターを改造しないでください。シートベルトが損傷していない、擦り切れていない、そして汚れていないことを確認してください。事故後はただちに、シートベルトをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

お客様の車両用にメルセデス・ベンツにより特別に承認されたシートベルトのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します。

シートベルトの正しい使用方法

シートベルトの安全上の注意事項に従ってください (▷ 50 ページ)。

走行を開始する前に、すべての乗員はシートベルトを正しく着用する必要があります。車両が動いている間も、すべての乗員は、シートベルトを正しく着用するようにしてください。

シートベルトを着用するときは、必ず以下を確認してください。

- シートベルトのプレートは、必ずそのシートのベルトバックルに差し込まれていること。
- シートベルトは乗員の身体に密着していること。

  冬用コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
- シートベルトにねじれがない。

  そのときにのみ、発生した力をベルト周囲に分散させることができます。
- ベルトの肩の部分は、必ず肩の中心を横切るようにしてください。

  ベルトの肩部分が首に接触していたり、腕の下を通っていてはいけません。可

能であれば、シートベルトを適切な高さに調整します。

- 腰ベルトは腰の上を横切り、できるだけぴったりと低い位置を通るようにしてください。

  腰ベルトは常に腰骨にかかるように、そして腹部にかからないようにしなければなりません。これは特に妊娠中の女性にあてはまります。必要な場合は腰ベルトを腰骨に押し下げ、ベルトの肩部分を使用して強く引きます。
- シートベルトは鋭利なもの、尖ったもの、あるいは壊れやすいものの上を取回さないでください。

  ペン、キーあるいは眼鏡など、もしそのようなものが衣服に付いていたり、衣類の中にある場合は、それらを適切な場所に保管してください。
- 1 つのシートベルトは必ず 1 人で使用します。

  乗員の膝の上に幼児や子供を座らせて、絶対に走行しないでください。事故の際に、車両乗員とシートベルトの間でつぶされるおそれがあります。
- 乗員が着用しているシートベルトで荷物などを固定することはできません。

シートベルトは、乗員を固定して抑えるためのものです。物、手荷物または貨物を固定するためには常に、"積載のガイドライン" に従ってください (▷ 254 ページ)。

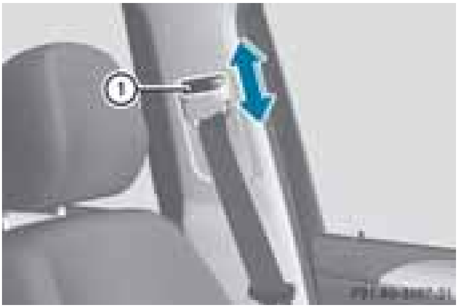
シートベルトの着用および調整

シートベルトに関する安全上の注意事項 (▷ 50 ページ)、およびシートベルトの正しい使用に関する情報 (▷ 51 ページ) に注意してください。

▶ シート (▷ 114 ページ) を調整します。シートバックレストはほぼ垂直の位置になければなりません。

▶ ベルトガイド ③ からシートベルトをゆっくりと引き出し、ベルトプレート ② をシートベルトバックル ①に固定します。
運転席および助手席のシートベルトは、自動的に締まることがあります。"シートベルト調整" をご覧ください (▷ 53 ページ)。

▶ 必要な場合は、肩ベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。



シートベルトの肩部分は、常に肩の中央を通ってかかっていなければなりません。必要な場合は、ベルトガイドを調整してください。

▶ **上げる：** ベルトガイドを上方にスライドします。
ベルトガイドはさまざまな位置でロックされます。

▶ **下げる：** ベルトガイドのリリース ① を持ち、ベルトガイドを下方にスライドします。

▶ 希望の位置でベルトガイドのリリース ① を放し、ベルトガイドがロックされていることを確認します。

シートベルトのロック解除

! シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。 ベルトが完全に収納されていないと、シートベルトやプレートがドアに挟まれたりシート機構に引っかかることがあります。 その結果、ドアやドアトリムパネル、シートベルトを損傷するおそれがあります。 損傷したシートベルトは保護機能を果たすことができなくなるため、必ず新品と交換してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

▶ ロック解除スイッチ ①を押して、シートベルトのプレート ②をしっかり持ち、ベルト引き出し口 ③の方に戻します。

シートベルトの調整

シートベルト調整は、PRE-SAFE®コンビニエンス機能の一部です。この機能は、運転席および助手席のシートベルトを乗員の上半身に適合させます。

以下のときに、シートベルトを少し引き込みます。

• ベルトプレートがバックルに固定されている、および
• イグニッションがオンである

車両乗員とシートベルトの間にたるみを検知した場合は、シートベルト調整は特定の締め付け力を加えます。調整している間は、シートベルトを強くつかまないでください。

シートベルト調整は、マルチファンクションディスプレイで設定/解除できます (▷ 205 ページ)。

運転者および助手席乗員のシートベルト警告

[警告灯] メーターパネルのシートベルト警告灯は、すべての乗員にシートベルトの着用を促します。点灯し続けるか、または点滅します。さらに、警告音が鳴ることがあります。

運転者と助手席乗員がシートベルトを着用したときは、シートベルト警告灯 [警告灯] が消灯し、警告音が停止します。

ℹ シートベルト警告灯 [警告灯] についての詳細は、"メーターパネルの警告および表示灯、シートベルト" (▷ 219 ページ)を参照ください

エアバッグ

はじめに

エアバッグの取り付け位置は、AIRBAG のマークで示されています。

エアバッグは正しく着用しているシートベルトの補助を行なうものです。シートベルトの代わりになるものではありません。エアバッグは、適用される事故の状況で補助的な保護を行ないます。

事故の際に、すべてのエアバッグが作動するわけではありません。各エアバッグシステムは、それぞれ独立して作動します (▷ 57 ページ)。

ただし、現在利用することができるどのシステムも、けがや致死を完全になくすことはできません。

エアバッグが展開されるべきスピードによりエアバッグを原因とするけがの危険性を完全に排除することもできません。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

正しいシート位置から外れている場合、エアバッグは本来の保護機能を発揮できず、作動によりさらに負傷の原因となるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

危険な状態を防ぐために、すべての乗員は以下の項目について確認してください。

- シートベルトを正しく着用していること（妊娠中の女性を含む）
- 正しい位置に座り、エアバッグからできるだけ離れていること
- 以下の注意事項を遵守すること

エアバッグと乗員との間に何も物が置かれていないことを必ず確認してください。

- 走行を開始する前に、シートを正しい位置に調整してください。必ずシートが垂直に近い位置であることを確認してください。ヘッドレストの中心が頭部を支えるように目の高さの位置になるよう調整してください。
- 運転席 / 助手席シートはできるだけ後方の位置にしてください。運転席シートの位置は、車両を安全に運転できるものでなければなりません。
- ステアリングは外側のみを握ってください。それにより、エアバッグを十分に作動させることができます。
- 運転中は、常にバックレストにもたれてください。ドアまたはサイドウインドウに寄りかからないこと。そのように寄りかかると、エアバッグの作動範囲内に入る可能性があります。
- 両足は、常にシート前方のフロアに置いてください。ダッシュボードの上に足をのせないでください。その場合、エアバッグの作動範囲内に入る可能性があります。
- そのため身長約 150 cm 未満の乗員は、体格に応じた専用の乗員保護装置を使用してください。この身長に満たない場合、シートベルトを正しく着用することができません。

お子様を車両に乗せて走行する場合、以下の注意事項も遵守してください。

- 年齢 12 歳 未満で 150 cm 未満の子供は、適切なチャイルドセーフティシートに固定し、安全を確保してください。
- チャイルドセーフティシートはリアシートに装着してください。
- 助手席エアバッグが無効になっており、後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用する場合に限り、子供を助手席シートに固定してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままの場合、助手席エアバッグは無効です。(▷ 49 ページ)
- チャイルドセーフティシートメーカーの取扱説明書のほかに、"子供を乗せるとき"(▷ 60 ページ) および"助手席

シートのチャイルドセーフティシート"(▷ 66 ページ) に記載されている取り扱いおよび安全上の注意事項を必ず遵守してください。

車内に置いている物がエアバッグの正常な機能を妨げる場合があります。 運転を開始する前に、エアバッグが作動する際の速度により生じる危険を防ぐために、以下のことを確認してください。

- 乗員とエアバッグとの間に、人、動物、物がないこと。
- シート、ドア、B ピラーの間に物を置かないこと。
- グリップハンドルやコートフックにコートハンガーなどのかたい物をかけないでください。
- カップホルダーなどのアクセサリーをドア、サイドウインドウ、リアサイドトリムや側面など、エアバッグの作動範囲内に装着しないでください。
- 衣服のポケットに重い物やとがった物を入れないでください。このような物は適切な場所に収納してください。

⚠ **警告**

エアバッグのカバーを改造したり、ステッカーのような物をそれらに貼付している場合は、エアバッグが正しく機能しなくなるおそれがあります。けがの危険性が高まります。

エアバッグのカバーを改造したり、それらに物を貼付しないでください。

⚠ **警告**

エアバッグを制御するセンサーがドアの内部にあります。ドアまたはドアパネル、ならびに損傷したドアに改造または作業が正しく行われていないと、センサーの機能が損なわれることがあります。 したがって、エアバッグは正しく機能しなくなることがあります。その結果、エアバッグは設計されているように車両乗員を保護することができません。けがをするおそれが高まります。

ドアまたはドアの部品を改造しないでください。ドアまたはドアパネルの作業は常にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

エアバッグと装着位置

エアバッグ	取り付け位置
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
助手席エアバッグ	グローブボックス上部のダッシュボード
運転席ニーバッグ	ステアリングコラム下部のダッシュボードカバー
サイドバッグ	運転席 / 助手席シートのバックレストの外側クッションおよび 2 列目の外側シート
ウインドウバッグ	A ピラー側方から D ピラーのルーフフレーム

フロントエアバッグ

! 助手席シートには重い物を置かないでください。助手席シートに同乗者がいるとシステムが誤って判断する原因になります。衝突の際に助手席側の乗員保護装置が作動して交換する必要が出るおそれがあります。

運転席エアバッグ ① はステアリング正面で膨らみ、助手席エアバッグ ② はグローブボックスの正面と上部で膨らみます。

作動するときは、フロントエアバッグは前席乗員の頭部や胸部を保護する効果を高めます。

助手席エアバッグオフ表示灯の常時点灯は、助手席フロントエアバッグが無効になっていることを示しています (▷ 49 ページ)。

運転席ニーバッグ

運転席ニーバッグ ① はステアリングコラムの下で作動します。運転席ニーバッグは、フロントエアバッグと一緒に作動します。

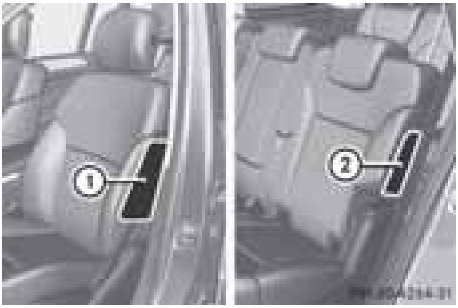
運転席ニーバッグは、運転者の大腿部、膝および下腿の保護効果を高めます。

サイドバッグ

⚠ **警告**

シートカバーによって、シート内蔵のエアバッグの作動を遮る、または妨げることがあります。その結果、エアバッグは設計されているように車両乗員を保護することができません。加えて、チャイルドセーフティーシート自動検知システムの機能が制限されることがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

フロントシートには、シートカバーを使用しないでください。



フロントサイドバッグ ① および 2 列目リアサイドバッグ② はバックレストの外側クッション脇で作動します。

作動した際に、サイドバッグは胸部を保護します。さらに、フロントシートでは骨盤を保護する機能が提供されます。ただし、以下については保護機能は働きません。

- 頭部
- 頸部
- 腕部

側面衝突の場合、サイドバッグは衝突が発生した側で作動します。

ウインドウバッグ

ウインドウバッグ ① はルーフフレーム側面に内蔵され、フロントドア（A ピラー）からリアサイドウインドウ（D ピラー）にわたる範囲で作動します。

作動した際に、ウインドウバッグは頭部を保護します。ただし、胸部および腕部には保護機能は働きません。

側面衝突の場合、ウインドウバッグは衝突が発生した側で作動します。

ウインドウバッグの作動がシートベルトの乗員保護機能を高めるとシステムが判断すると、ウインドウバッグは別の事故の状況下で作動する場合があります。(▷ 57 ページ)

シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

エアバッグの作動後は、エアバッグの部品が熱くなっています。けがの危険性があります。

エアバッグの部品に触れないでください。できるだけすみやかに、作動したエアバッグをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

⚠ **警告**

作動した火薬式シートベルトテンショナーは作動しなくなり、意図した保護機能を発揮できなくなります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

したがって、作動した火薬式シートベルトテンショナーは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

事故後は車両をメルセデス・ベンツ指定サービス工場までけん引することを、メルセデス・ベンツは推奨します。特にシートベルトテンショナーが作動したり、エアバッグが展開した場合は、このことを考慮してください。

PRE-SAFE®で使用されている電気モーターは、危険な状況でシートベルトの締め付けを行ないます。この作動は何回でも行なわれます。

シートベルトテンショナーが作動したり、エアバッグが展開したりするときは、作動音が聞こえ、少量の粉末が放出されることもあります。SRS 警告灯 が点灯します。

衝撃音は、ごくまれに聴力に影響を与えることがあります。一般に、放出される粉末は健康に害はありませんが、ぜんそくや肺疾患のある方は、この粉末により一時的に呼吸障害を起こすおそれがあります。もし安全であるなら、呼吸障害を防止するため、すぐに車両から離れるか、窓を開けてください。

操作

衝突の初期段階の間、乗員保護装置のコントロールユニットは、車両の減速度または加速度に関する以下のような重要な物理的データの評価を行ないます。

- 時間
- 方向
- 強さ

このデータの評価に基づいて、乗員保護装置のコントロールユニットは正面衝突

または追突の際にシートベルトテンショナーを作動させます。

シートベルトテンショナーは、以下の場合のみ作動します。

- イグニッションがオンである
- 乗員保護装置の構成部品が作動可能である。"SRS 警告灯"をご覧ください。(▷ 49 ページ)
- シートベルトのプレートがフロントシートのそれぞれのベルトバックルに固定されている

後席のシートベルトテンショナーは、シートベルトの固定状態とは独立して作動します。

乗員保護装置のコントロールユニットが特定の正面衝突など、非常に重大な事故を検知すると、乗員保護装置の追加構成部品が相互に関係なく作動します。

- フロントエアバッグと運転席ニーバッグ
- ウインドウバッグ：作動することでシートベルトの乗員保護機能を高めるとシステムが判断したとき。

助手席シートの乗員によって、助手席エアバッグは有効または無効のいずれかになります。助手席エアバッグオフ表示灯が消灯している場合にのみ、事故の際に助手席エアバッグが作動します。助手席エアバッグオフ表示灯 (▷ 49 ページ)に関する情報に従ってください。

お客様の車両には 2 段階式のフロントエアバッグが装備されています。最初の作動段階では、けがの危険性を低減させるために火薬ガスでフロントエアバッグが充填されます。数ミリ秒以内に第 2 段階の作動基準に達すると、フロントエアバッグは最大限に膨らみます。

シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動規定値は、車両のさまざまなポイントでの車両の減速度または加速度の評価に基づいて判断されます。この処理は事前に実行されます。作動/展開決定処理は、衝突の初期段階に適切なタイミングで行なわれる必要があります。

車両の減速度や加速度、衝撃の方向は、基本的に以下の要素によって決まります。

- 衝突時の衝撃エネルギーの分散度
- 衝突の角度
- 車両の変形特性
- 車両と衝突した物体の特性

衝突の発生後に検知される要素は、エアバッグの作動条件とは必ずしも一致しません。また、エアバッグを作動させる基準とはなりません。

エアバッグが作動せずに車両が著しく変形することがあります。変形しやすい衝撃吸収部品のみが衝突の影響を受け、エアバッグを作動させるのに十分な減速度に達していない場合です。反対に車両が軽度にのみ変形したにも関わらず、エアバッグが作動することがあります。縦方向のボディメンバーなどの高剛性の部品が衝撃を受けたため、結果として大きな減速度が発生した場合などです。

乗員保護装置のコントロールユニットが側面衝突を検知するか、あるいは車両が横転した場合は、乗員保護装置の適切な構成部品が、事故の形態に応じて相互に独立して作動します。この状況で、作動により乗員保護機能が高まるとシステムが判断した場合は、シートベルトテンショナーも作動します。

- シートベルトテンショナーおよびシートベルトの使用状況に関係なく衝撃が発生した側のサイドバッグ

チャイルドセーフティシートセンサー装備車両：助手席（フロント）サイドバッグは以下の条件で作動します。
  - 助手席シートで乗員が検知された、または
  - シートベルトのプレートが助手席シートのシートベルトバックルに固定されている
- シートベルトの使用状況および助手席に乗員がいるかどうかに関係なく衝撃が発生した側のウインドウバッグ。
- 特定の状況で車両が横転して、作動がシートベルトの乗員保護機能を高めるとシステムが判断したときの運転席側および助手席側のウインドウバッグ

ℹ 事故の際に、すべてのエアバッグが作動するわけではありません。各エアバッグシステムは、それぞれ独立して作動します。

エアバッグシステムの作動は、検知された事故の大きさ、特に車両の減速度または加速度、および以下のような事故の形態により決定されます。

- 正面衝突
- 側面衝突
- 横転

PRE-SAFE®（予期乗員保護措置）

はじめに

特定の危険な状況で、PRE-SAFE®は乗員を保護するために予防的な措置を行ないます。

重要な安全上の注意事項

! 足元やシートの背後に荷物などが置かれていないことを確認してください。PRE-SAFE®を作動したとき、シートや物を損傷するおそれがあります。

車両に PRE-SAFE®が装備されていても、事故の際のけがの可能性をなくすことはできません。常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせ、先行車両との間に十分に安全な距離を保ってください。注意して運転してください。

機能

PRE-SAFE®は以下のときに作動します。

- BAS が作動しているときなど、緊急ブレーキ状態のとき
- 物理的な限界を超えて車両が著しいアンダーステアやオーバーステアになるなど、危機的な走行状況になったとき
- アクティブドライビングアシスタンスパッケージ装備車両： BAS プラスが強力に介入したとき、またはレーダーセンサーシステムが特定の状況で差し迫った衝突の危険を検知したとき

PRE-SAFE®は検知した危険な状態に応じて、以下のように作動します。

- フロントシートベルトの張力をあらかじめ高めます。
- 車両が横滑りすると、スライディングルーフおよびサイドウインドウが少しの隙間のみを残して閉じます。パノラミックスライディングルーフが完全に閉じます。
- メモリー機能付き車両：助手席シートが好ましくない位置にある場合は調整されます。
- マルチコントロールシートバック装備車両：バックレストのサイドサポートの空気圧が増加します。

事故につながることなく危険な状況が過ぎた場合は、PRE-SAFE®がシートベルトの張力を緩めます。マルチコントロールシートバック装備車両では、サイドサポートの空気圧が再び低下します。PRE-

SAFE®により行なわれたすべての設定が元に戻ります。

シートベルトの張力が緩まない場合

- ▶ 車両が停止しているときに、シートバックレストまたはシートを後方に少し動かします。
  あらかじめ高められていたシートベルトの張力が緩み、ロック機構が解除されます。

シートベルト調整は、PRE-SAFE®コンビニエンス機能の一部です。コンビニエンス機能に関する情報は "ベルト調整" にあります (▷ 53 ページ)。

事故後の自動措置

衝突の種類および大きさによって、事故の後はただちに以下の措置が行なわれます。

- 非常点滅灯が作動します
- 緊急時点灯機能が作動します
- 車両ドアが解錠されます
- フロントサイドウインドウが下がります
- メモリー機能装備車：電動調整式ステアリングが上方に移動します。
- エンジンが停止します

事故の後で

事故の後で

- ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。
- ▶ 非常点滅灯を作動させます。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを手動で効かせてください。
- ▶ 車両から出るときは乗員が危険にさらされていないことを確認してください。
- ▶ 危険な場所の近くに誰もいないことを確認してください。フェンスなど区切った安全な場所に乗員を退避させます。
- ▶ 適切な場所に停止表示板を置いてください。

自動車道路や高速道路では、停止表示板を使用して後続車両に警告を発することが法律で義務付けられています。

車両が動かなくなったとき

- ▶ オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトします。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを手動で解除してください。
- ▶ 安全な場所まで車両を押してください。
  必要な場合は、他の人に救援を求めてください。

オートマチックトランスミッションをシフトポジション **N** にできない場合、運転者と乗員は危険な範囲からただちに離れてください。

ℹ イグニッションがオンで車輪が回転したときは、車両は自動的に施錠されます。そのため、車両を押すときやダイナモメーターでテストを行なう場合は、閉め出される危険性があります。

ℹ 踏切内で車両が動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急な状況では、非常信号用具も使用してください。

子供を乗せるとき

重要な安全上の注意事項

事故の統計では、後席に固定された子供は助手席に固定された子供よりも安全であることが示されています。この理由のため、チャイルドセーフティシートはリアシートに取り付けることを、メルセデ

ス・ベンツは強く推奨します。子供の安全性が高くなります。

年齢が 12 歳 以下で、身長が 150 cm 以下の子供が乗車する場合：

- 子供は常に、メルセデス・ベンツ車両に適したチャイルドセーフティシートに固定してください。チャイルドセーフティシートは子供の年齢、体重および体格に適応していなくてはいけません。
- チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に加えて、本項目の説明および安全上の注意事項に従っていることを確認してください。

⚠ **警告**

保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキを解除したとき
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

⚠ **警告**

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートが直射日光または熱にさらされている場合は、部品が高温になることがあります。子供がこれらの部品、特にチャイルドセーフティシートの金属部品で火傷を起こすおそれがあります。けがの危険性があります。

運転者および子供が車両から離れる場合は、チャイルドセーフティシートを直射日光にさらさないように気をつけてください。毛布などで覆ってください。チャイルドセーフティシートが直射日光にさらされた場合は、子供を固定する前に冷ましてください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

すべての乗員がシートベルトを正しく着用し、正しく着座していることを常に確認してください。特に子供には注意してください。

シートベルトに関する安全上の注意事項 (▷ 50 ページ) およびシートベルトの正しい使用に関する注意事項 (▷ 51 ページ) に従ってください。

チャイルドセーフティシート

後ろ向きチャイルドセーフティシートを中央リアシートに取り付ける場合、リアアームレストをできるだけ後側に折りたたんでください。

チャイルドセーフティシートの正しい使用の説明に従ってください (▷ 70 ページ)。

安全上の理由のため、メルセデス・ベンツにより推奨されたチャイルドセーフティシートのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します (▷ 73 ページ)。

⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートが適切なシート位置に正しく取り付けられていない場合は、意図した保護機能を発揮することができません。事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに子供を保護することができません。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

チャイルドセーフティシートメーカーの装着指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用を常に遵守してください。チャイルドセーフティシートの底面全体が常にシートクッションに接触している事を確認してください。チャイルドセーフティシートの下または背面にクッションなどの物を置かないでください。チャイルドセーフティシートには、必ずこのシート専用の純正シートカバーを使用してください。損傷したカバーを取り替えるときは、必ず純正品を使用してください。

⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートが正しく取り付けられていない、または固定されていない場合は、事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに外れるおそれがあります。チャイルドセーフティシートが投げ出されて、乗員にぶつかるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

着座していないチャイルドセーフティシートも常に正しく取り付けてください。常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。

物、手荷物および荷物の確実な収納に関するさらなる情報は"積載のガイドライン"にあります(▷ 254 ページ)。

⚠ **警告**

事故で負荷を受けたチャイルドセーフティシートやその固定装置は、意図した保護機能を発揮できないことがあります。事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに、子供が保護されません。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

事故で損傷したり、または負荷を受けたチャイルドセーフティシートはただちに交換してください。チャイルドセーフティシートを再度取り付ける前に、チャイルドセーフティシートの固定装置をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

どうしても子供を助手席シートに乗車させる必要がある場合は、"助手席シートのチャイルドセーフティシート"にある情報に従っていることを確認してください(▷ 66 ページ)。助手席エアバッグの無効に関する情報もあります。

車内およびチャイルドセーフティシートにある警告ラベルに注意してください。

ℹ メルセデス・ベンツにより推奨されたチャイルドセーフティシートを清掃するためには、メルセデス・ベンツ純正のカーケア用品を使用することを推奨します。このことに関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

⚠ **警告**

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートは、体重が 22 kg 以上でチャイルドセーフティシートに内蔵されたセーフティベルトを使用して固定されている子供には十分な保護効果をもたらしません。例えば、事故のときに子供が正しく固定されないなどのおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

子供の体重が 22 kg 以上の場合は、必ず子供が車両のシートベルトでも固定される ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを使用してください。使用可能であれば、チャイルドセーフティシートをテザーアンカーベルトでも固定してください。

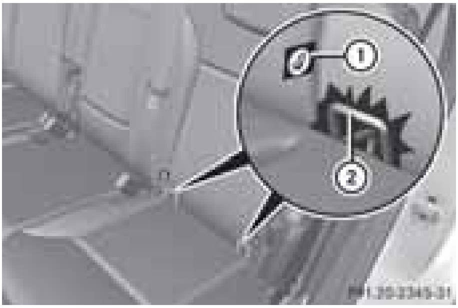
チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの装着および操作指示、およびチャイルドセーフティシートの正しい使用に関する指示に従っていることを確認してください (▷ 70 ページ)。

各走行前に、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートが両方の ISOFIX 固定

リングに正しく固定されていることを確認します。

ISOFIX チャイルドセーフティシートが意図した通りに保護機能を発揮するためには、2 列目の各外側シートのバックレストが起きた位置でなければなりません。

! チャイルドセーフティシートを装着するときは、中央リアシートのシートベルトを挟み込まないように注意してください。 シートベルトが損傷するおそれがあります。



2 列目シートの外側シートの ISOFIX 固定リング

装着表示 ① は ISOFIX 固定リング ② の取り付け位置を示しています。

3 列目シートの ISOFIX 固定リング

2 個の ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート用の ISOFIX 固定リング ② は、以下の左および右に取り付けられています。

- 2 列目外側シートのリアシートバックレスト上
- 3 列目シートのシートのバックレストの上

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを 2 列目に装着する前に

▶ 2 列目リアシートのバックレストを起こした位置に動かします (▷ 116 ページ)。

▶ ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを、左右の ISOFIX 固定リング ② に取り付けます。

ISOFIX は、専用設計されたチャイルドセーフティシートのリアシートへの規格化された固定システムです。

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置に対応していないチャイルドセーフティシートは、車両のシートベルトで固定してください。チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの装着および操作指示、およびチャイルドセーフティシートの正しい使用に関する指示に従っていることを確認してください (▷ 70 ページ)。

テザーアンカー

はじめに

テザーアンカーは、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートとリアシートを接続するための補助的な固定装置です。これにより、けがの危険性をさらに低減する効果を高めます。チャイルドセーフティシートにテザーアンカーベルトが装備されている場合は、常に使用してください。

重要な安全上の注意事項

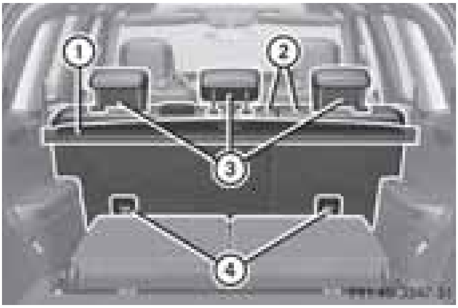
⚠ 警告

リアシートまたはリアシートバックレストが固定されていない場合は、事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに前に倒れるおそれがあります。結果として、チャイルドセーフティシートが意図した保護機能を発揮できません。固定されていないリアシートまたはリアシートバックレストは、事故のときなどにさらなるけがの原因となるおそれもあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

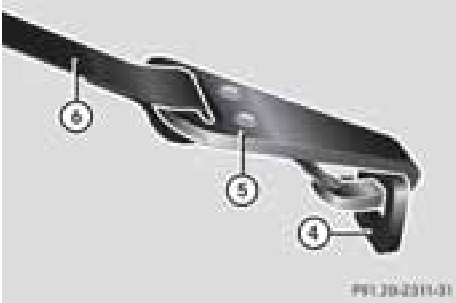
テザーアンカーベルトを取り付けた後は、常にリアシートおよびリアシートバックレストを固定してください。ロック確認インジケーターに注意してください。垂直位置になるようにリアシートのバックレストを調整します。

リアシートのバックレストが固定されていなく、ロックされていない場合は、メーターパネル内のマルチファンクションディスプレイにこのことが表示されます。

テザーアンカー



2 列目シートのテザーアンカーは、左右外側リアシートのバックレスト背面にあります。3 列目シートでは、ラゲッジルームフロアにある固定用リングを使用します。



▶ ヘッドレスト ③ を上方に動かします。

▶ テザーアンカーを装備した ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを装着します。その場合は、常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。

▶ ヘッドレスト ③ の下の 2 本の支柱の間にテザーアンカーベルト ⑥ を通します。

▶ ラゲッジルームカバー ① とリアシートバックレスト ② の間でテザーアンカーベルト ⑥ を下方へ通します。

▶ テザーアンカーベルト ⑥ のテザーアンカーフック ⑤ をテザーアンカー ④ に掛けます。

以下を確認します。

- 示すように、テザーアンカーフック ⑤ がテザーアンカー ④ に掛かっている
- テザーアンカーベルト ⑥ がねじれていない
- ラゲッジルームカバー ① が装着されている場合は、テザーアンカーベルト ⑥ がリアシートバックレスト ② とラゲッジルームカバー ① の間を通っている
- セーフティネットが装着されている場合は、テザーアンカーベルト ⑥ がリアシートバックレスト ② とセーフティネットの間を通っている

▶ テザーアンカーベルト ⑥ を張ります。そうするときは常に、チャイルドセーフティシートメーカーの装着方法に従ってください。

▶ 必要な場合は、ヘッドレスト ③ を再度少し下に動かして戻します（▷ 116 ページ）。テザーアンカーベルト ⑥ の正しい取り回しを妨げていないことを確認してください。

助手席チャイルドセーフティシートセンサー

助手席シートのチャイルドセーフティシート用センサーシステムは、チャイルドセーフティシートセンサー用トランスポンダーを装備したメルセデス・ベンツ専用のチャイルドセーフティシートが取り付けられているかどうかを検知します。この場合は、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままになります。助手席エアバッグは無効になります。

ℹ チャイルドセーフティシートセンサーにより助手席エアバッグが無効になっている場合でも、助手席側では以下が有効になったままです：

- サイドバッグ
- ウインドウバッグ
- シートベルトテンショナー

⚠ **警告**

子供を助手席のチャイルドセーフティシートに固定していて、助手席エアバッグオフ表示灯が消灯している場合は、事故のときに助手席フロントエアバッグが作動します。エアバッグにより、子供が衝撃を受けるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席フロントエアバッグが無効になっていることを確認してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していなければなりません。

⚠ **警告**

助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している場合は、助手席フロントエアバッグは無効になっています。事故のときに作動せず、意図した保護機能を発揮できません。そして、特にダッシュボードのすぐ近くに乗員が着座している場合は、助手席にいる乗員が車両のインテリアに接触するなどのおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

この場合は、助手席シートを使用しないでください。適切な後ろ向きまたは前向きチャイルドセーフティシートのみを助手席シートに取り付けてください。本取扱説明書ならびにチャイルドセーフティシートメーカーの装着説明にある、チャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報に常に従ってください。

⚠ **警告**

子供を助手席の前向きチャイルドセーフティシートに固定していて、助手席位置をダッシュボードのすぐ近くした場合は、事故のときに、子供は以下のようになることがあります。

- 例えば助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している場合に、車両のインテリアに接触する
- 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している場合にエアバッグにぶつかる

これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席シートはできるだけ後方に移動してください。シートベルトの肩部分のストラップが、ベルトガイドからチャイルドセーフティシートの肩部分のシートベルトガイドに向かって、正しく取り回されていることを常に確認してください。シートベルトの肩部分のストラップは、車両のベルトガイドから前方および下方に取り回されていなければなりません。必要な場合は、応じて車両のシートベルトガイドおよび助手席を調整します。本取扱説明書ならびにチャイルドセーフティシートメーカーの装着説明にある、

▷▷

チャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報に常に従ってください。

ℹ 車両に助手席用チャイルドセーフティシートセンサーが装備されていることを確認します (▷ 66 ページ)。それ以外の場合は、チャイルドセーフティシートは常に、適切なリアシートに取り付けてください (▷ 70 ページ)。

助手席エアバッグオフ表示灯 ① は、助手席エアバッグが無効になっているかどうかを示しています。

▶ キーをエンジンスイッチの **1** または **2** の位置にまわすか、キーレスゴー装備車両ではキーレスゴースイッチを 1 回または 2 回押します。
システムは自己診断を実行します。

助手席エアバッグオフ表示灯は約 6 秒間点灯しなければなりません。

システムの自己診断後に助手席エアバッグオフ表示灯が以下の場合

- **点灯している**、助手席エアバッグは無効です。その場合、事故のときに作動しません。
- **点灯していない**：チャイルドセーフティシートセンサー用トランスポンダーを装備しているチャイルドセーフティシートをセンサーシステムが検知していません。事故のときは、すべての作動基準が満たされている場合に、助手席エアバッグが作動します。

⚠ **警告**

例えば以下のような助手席シートの上にある電子機器が、チャイルドセーフティシート自動検知システムの機能に影響を与えるおそれがあります。

- ノートパソコン
- 携帯電話
- スキーパスまたはアクセスパスのような電波を送受信するカード

助手席フロントエアバッグが不意に作動したり、事故の間に意図されたように機能しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

上記に記載された機器または類似の機器を助手席シートに置かないでください。走行前および走行中のいずれのときも、助手席エアバッグの状況に注意してください。

助手席でのチャイルドセーフティシート

全体的な注意事項

事故の統計では、リアシートに固定された子供は助手席に固定された子供よりも安全であることが示されています。この理由のため、チャイルドセーフティシートはリアシートに取り付けることを、メルセデス・ベンツは強く推奨します。

助手席チャイルドセーフティシートセンサー装備車両：やむを得ず助手席シートにチャイルドセーフティシートを取り付けなければならない場合は常に、"助手席チャイルドセーフティシートセンサー"にある情報に従ってください (▷ 65 ページ)。

このようにして、以下のために発生するおそれのある危険性を防ぐことができます。

- チャイルドセーフティシートセンサーシステムにより検知されないチャイルドセーフティシート
- 助手席エアバッグの意図しない無効化
- ダッシュボードのすぐ近くなど、チャイルドセーフティシートの不適切な位置

助手席側サンバイザーの警告ステッカーに従ってください。イラストを参照してください。

⚠ **警告**

子供を助手席のチャイルドセーフティシートに固定していて、助手席エアバッグオフ表示灯が消灯している場合は、事故のときに助手席フロントエアバッグが作動します。エアバッグにより、子供が衝撃を受けるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席フロントエアバッグが無効になっていることを確認してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していなければなりません。

有効になっているフロントエアバッグで保護されているシートでは、後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用しないでください。子供に致命的な、または重大なけがを引き起こすことがあります。

助手席チャイルドセーフティシートセンサー非装備車両

車両の助手席にチャイルドセーフティシートセンサーがない場合は、専用のステッカーによって示されます。ステッカーは、助手席側ダッシュボードの側面に貼付されています。助手席ドアを開いたときに、このステッカーが見えます。

キーをエンジンスイッチの **2** の位置にまわした場合は、助手席エアバッグオフ表示灯が短時間点灯します。ただし機能はなく、助手席シートにチャイルドセーフティシートセンサーがあることは示していません。

この場合は常に、後ろ向きチャイルドセーフティシートは適切なリアシートに取り付けてください (▷ 70 ページ)。

"後ろ向きチャイルドセーフティシート" および "前向きチャイルドセーフティシート" にある情報、ならびにチャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報に注意してください (▷ 70 ページ)。

後ろ向きチャイルドセーフティシート

後ろ向きチャイルドセーフティシートの警告マーク

やむを得ず助手席に後ろ向きチャイルドセーフティシートを取り付けなければならない場合は、助手席エアバッグが無効になっていることを確認してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままの場合にのみ (▷ 49 ページ)、助手席エアバッグは無効になっています。

チャイルドセーフティシートメーカーの装着および取扱指示に加えて、チャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報に常に従ってください (▷ 70 ページ)。

前向きチャイルドセーフティシート

やむを得ず前向きチャイルドセーフティシートを助手席シートに取り付けなければならない場合は、助手席シートをできるだけ後方の位置に動かしてください。チャイルドセーフティシートの底面全体を助手席シートクッションに接触させる必要があります。チャイルドセーフティシートのバックレストは、助手席バックレストにできるだけ均一に接触させる必要があります。チャイルドセーフティシートがルーフに触れたり、ヘッドレストにより負荷がかかっていてはいけません。それに応じて、シートバックレストの角度およびヘッドレストの位置を調整してください。肩部分のシートベルトが、車両のベルト引き出し口からチャイルドセーフティシートのショルダーベルトガイドに向けて正しく取り回されていることを必ず確認してください。肩部分のシートベルトは、車両のベルト引き出し口から前方および下方に取り回されていなければなりません。必要に応じて、車両のベルト引き出し口と助手席シートを適切に調整します。

チャイルドセーフティシートメーカーの装着および取扱指示に加えて、チャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報に常に従ってください (▷ 70 ページ)。

チャイルドセーフティシートセンサーのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している。	チャイルドセーフティシートセンサー用トランスポンダーが付いた専用のメルセデス・ベンツチャイルドセーフティシートが助手席シートに取り付けられている。そのため、希望通りに助手席エアバッグが無効になっている。
	⚠ **警告** 助手席シートにチャイルドセーフティシートが装着されていない。例えば、助手席シートにある電子機器により、チャイルドセーフティシート自動検知システムに不具合がある。 けがのおそれがあります。 ▶ 助手席シートから以下のような電子機器を取り除いてください。 • ノートパソコン • 携帯電話 • IC カードまたは磁気カードのようなトランスポンダー付カード 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままの場合は、助手席シートは使用できません。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
イグニッションをオンにしたときに、SRS 警告灯 [SRS] が点灯し、さらに/または助手席エアバッグオフ表示灯が短時間点灯しない。	⚠ **警告** チャイルドセーフティシートセンサーが故障している。 助手席シートにチャイルドセーフティシートを取り付けないでください。 チャイルドセーフティシートは適切なリアシートに装着することを推奨します。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ SRS 警告灯に関する注意事項も参照してください (▷ 213 ページ)。

チャイルドセーフティシートの適切な装着位置

はじめに

車両には、欧州経済共同体基準 ECE R44 により承認されたチャイルドセーフティシートのみを装着してください。

助手席シートのチャイルドセーフティシート - 助手席シートのチャイルドセーフティシートにやむを得ず子供を固定する必要がある場合：

- "助手席シートでのチャイルドセーフティシート" にある指示に常に注意してください (▷ 66 ページ)。

  そこには、肩部分のシートベルトを車両のベルトガイドからチャイルドセーフティシートのショルダーベルトガイドに向けて正しく取り回す方法に関する説明があります (▷ 68 ページ)。
- 助手席シートはできるだけ後方に移動してください。
- バックレストをほぼ垂直の位置に動かします。

  チャイルドセーフティシートの底面全体を助手席シートクッションに接触させる必要があります。前向きチャイルドセーフティシートのバックレストは、できるだけ助手席シートのバックレストに接触させる必要があります。チャイルドセーフティシートがルーフに触れたり、ヘッドレストにより負荷がかかっていてはいけません。状況に応じて、シートバックレストの角度およびヘッドレストの位置を調整してください。チャイルドセーフティシートメーカーの装着指示にも注意してください。
- シートクッションの角度を最も高く、および最も垂直の位置に動かします。

  体重カテゴリー II または III のいくつかのチャイルドセーフティシートではこのことにより使用範囲が制限されることがあります。ルーフへの接触の可能性により、チャイルドセーフティシートを最大サイズに設定することができません。

2 列目シートのリアシートへのチャイルドセーフティシートの取り付け

- 2 列目リアシートのバックレストをほぼ垂直の位置に動かします。

"ユニバーサル" カテゴリーのチャイルドセーフティシートは、オレンジ色の認証ラベルと "universal"の文字で判別できます。

例：チャイルドセーフティシートの認証ラベル

"ユニバーサル" カテゴリーのチャイルドセーフティシートは、"ベルト付きチャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性" または "ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性" の表に従い、U または IUF と表示されたシートで使用できます。

セミユニバーサルチャイルドセーフティシートは、認可ラベルの "semi universal" の文字で示されています。これらは、車両およびシートがチャイルドセーフティシートメーカーの車両モデルリストに載っている場合に使用できます。さらなる情報は、チャイルドセーフティシートメーカーにお問い合わせになるか、メーカーのウェブサイトをご覧ください。

ベルト付きチャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性

表の凡例

X　この体重カテゴリーの子供に適合していないシート

U　この体重カテゴリーでの使用が承認された "ユニバーサル" カテゴリーのチャイルドセーフティシートに適合

L　推奨チャイルドセーフティシートに適合。以下の"純正チャイルドセーフティシート"の表をご覧ください (▷ 73 ページ)。

（▲）助手席でのチャイルドセーフティシート検知機能装備車両："ユニバーサル" カテゴリーのチャイルドセーフティシートセンサー用のトランスポンダー付きチャイルドセーフティシートが取り付けられていなければなりません。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していなければなりません(▷ 49 ページ)。

助手席シート

体重カテゴリー	助手席エアバッグが無効になっていない	助手席エアバッグが無効になっている
カテゴリー 0：10 kg 以下	X	U （▲）
カテゴリー 0+：13 kg 以下	X	U （▲）
カテゴリー I： 9 ～ 18 kg	L	U
カテゴリー II： 15～ 25 kg	L	L
カテゴリー III： 22～ 36 kg	L	L

リアシート

体重カテゴリー	左右および 3 列目シート	センター部
カテゴリー 0：10 kg 以下	U	X
カテゴリー 0+：13 kg 以下	U	X
カテゴリー I： 9 ～ 18 kg	U	L
カテゴリー II： 15～ 25 kg	U	L
カテゴリー III： 22～ 36 kg	U	L

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性

この情報は 2 列目および 3 列目シートに当てはまります。3 列目シートにチャイルドセーフティシートを装着する場合、2

列目シートのバックレストをできるだけ前へ動かしてください。

表の凡例

X　この体重カテゴリーおよび/またはサイズカテゴリーで、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適合していない ISOFIX の位置。

IUF　この体重カテゴリーでの使用に適合する "ユニバーサル" カテゴリーに属する前向き ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置に適合しています。

IL　推奨している ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適合しています。以下の表 "推奨チャイルドセーフティシート" (▷ 73 ページ) を参照してください。

メーカーは、適合している ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートも推奨しています。そのためには、お客様の車両とシートがチャイルドセーフティシートメーカーのモデルリストに掲載されていなければなりません。さらなる情報は、チャイルドセーフティシートメーカーにお問い合わせになるか、メーカーのウェブサイトをご覧ください。

幼児用ベッドの体重カテゴリー

サイズ等級	装備	リアシート、左および右
F	ISO/L1	X
G	ISO/L2	X

体重カテゴリー 0： 10 kg 以下、約 6 ヶ月以下

サイズ等級	装備	リアシート、左および右
E	ISO/R1	IL

体重カテゴリー 0+： 13 kg 以下、約 15 ヶ月以下

サイズ等級	装備	リアシート、左および右
E	ISO/R1	IL
D	ISO/R2	IL
C	ISO/R3	IL

体重カテゴリー I： 9 ～ 18 kg、約 9 ヶ月 ～ 4 歳

サイズ等級	装備	リアシート、左および右
D	ISO/R2	IL
C	ISO/R3	IL
B	ISO/F2	IUF
B1	ISO/F2X	IUF
A	ISO/F3	IUF

サイズカテゴリー C（ISO/R3） のチャイルドセーフティシートを使用している場合は、フロントシートを最も高い位置に、フロントシートのバックレストを起こした位置に動かします。このとき、チャイルドセーフティシートの面全体が助手席シートのバックレストに接触していて、チャイルドセーフティシートがルーフに接触していないことを確認してください。バックレストを調整して少し倒さなければならないこともあります。チャイルドセーフティシートメーカーの装着指示にも注意してください。

推奨チャイルドセーフティシート

全体的な注意事項

"助手席でのチャイルドセーフティシート" (▷ 66 ページ) および"チャイルドセーフティシートの適切な位置" (▷ 70 ページ) に関する情報に常に従ってください。

適切なチャイルドセーフティシートに関するさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

車両のシートベルトを使用して装着する推奨チャイルドセーフティシート

体重カテゴリー 0：10kg 以下、約 6 ヶ月以下

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	ベビーセーフプラス	ベビーセーフプラス II
認証番号 (E1 ...)	03 3011 46 04 3011 46	04 3011 46
注文番号 (A 000 ...)	970 10 0 0	970 20 0 0
チャイルドセーフティシートセンサー	対応	対応

体重カテゴリー 0+：13kg 以下、約 15 ヶ月以下

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	ベビーセーフプラス	ベビーセーフプラス II
認証番号 (E1 ...)	03 3011 46 04 3011 46	04 3011 46
注文番号 (A 000 ...)	970 10 0 0	970 20 0 0
チャイルドセーフティシートセンサー	対応	対応

体重カテゴリー I：9～18kg、約 9 ヶ月～4 歳

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	デュオプラス	デュオプラス
認証番号 (E1 ...)	03 3011 33 04 3011 33	03 3011 33 04 3011 33
注文番号 (A 000 ...)	970 11 0 0	970 16 0 0
チャイルドセーフティシートセンサー	対応	非対応

メーカー	Britax Römer
タイプ	デュオプラス
認証番号 (E1 ...)	04 301133

注文番号 (A 000 ...)	970 21 00
チャイルドセーフティシートセンサー	対応

体重カテゴリー II/III： 15 ～ 36 kg、約 4 ～ 12 歳

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	キッド	キッド
認証番号 (E1 ...)	03 3011 48 04 3011 48	03 3011 48 04 3011 48
注文番号 (A 000 ...)	970 12 0 0	970 17 0 0
チャイルドセーフティシートセンサー	対応	非対応

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	キッドフィックス	キッドフィックス
認証番号 (E1 ...)	04 3011 98	04 3011 98
注文番号 (A 000 ...)	970 18 0 0	970 19 0 0
チャイルドセーフティシートセンサー	対応	非対応

メーカー	Britax Römer
タイプ	キッドフィックス
認証番号 (E1 ...)	04 301198
注文番号 (A 000 ...)	970 22 00
チャイルドセーフティシートセンサー	対応

ユニバーサルカテゴリーから推奨 ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート

幼児用ベッドの体重カテゴリー

サイズ等級	F、G
メーカー	–
タイプ	–
認証番号 (E1 ...)	–
注文番号	–
チャイルドセーフティシートセンサー	–

カテゴリー 0：10kg 以下

サイズ等級	E
メーカー	–
タイプ	–
認証番号 (E1 ...)	–
注文番号	–
チャイルドセーフティシートセンサー	–

カテゴリー 0+： 13 kg 以下

サイズ等級	E	D、 C
メーカー	Britax Römer	–
タイプ	ベビーセーフプラス	–
認証番号 (E1 ...)	03 301146 04 301146	–
注文番号	B6 686 8224	–
チャイルドセーフティシートセンサー	非対応	–

カテゴリー I：9～18 kg

サイズ等級	D、C、B、A
メーカー	–
タイプ	–
認証番号 (E1 ...)	–
注文番号	–
チャイルドセーフティシートセンサー	–

サイズ等級	B1	B1
メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	デュオプラス	デュオプラス
認証番号 (E1 ...)	03 301133 04 301133	03 301133 04 301133
注文番号 (A 000 ...)	970 11 00	970 16 00
チャイルドセーフティシートセンサー	対応	非対応

サイズ等級	B1
メーカー	Britax Römer
タイプ	デュオプラス
認証番号 (E1 ...)	04 301133
注文番号 (A 000 ...)	970 21 00
チャイルドセーフティシートセンサー	対応

チャイルドプルーフロック

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

子供を車両に乗せて走行している場合は、以下のおそれがあります。

- ドアを開き、それにより他の人または道路使用者を危険にさらす
- 車両から降りて、対向交通にぶつかる
- 例えば、車両装備を操作して挟まれる

事故やけがの危険性があります。

子供を車両に乗せて走行する場合は、使用可能なチャイルドプルーフロックを常に作動させてください。車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠

してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

以下のチャイルドプルーフロック

- リアドア (▷ 76 ページ)
- リアサイドウインドウ (▷ 76 ページ)

⚠ **警告**

保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキを解除したとき
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P からシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

⚠ **警告**

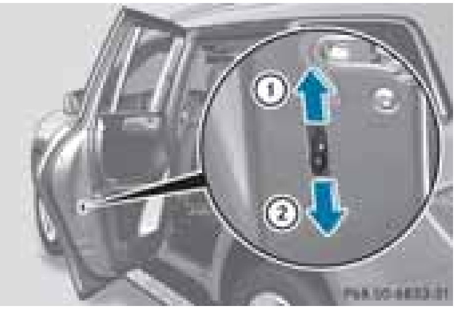
人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートが直射日光または熱にされされている場合は、部品が高温になることがあります。子供がこれらの部品、特にチャイルドセーフティシートの金属部品で火傷を起こすおそれがあります。けがの危険性があります。

運転者および子供が車両から離れる場合は、チャイルドセーフティシートを直射日光にさらさないように気をつけてください。毛布などで覆ってください。チャイルドセーフティシートが直射日光にさらされた場合は、子供を固定する前に冷ましてください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

リアドアのチャイルドプルーフロック



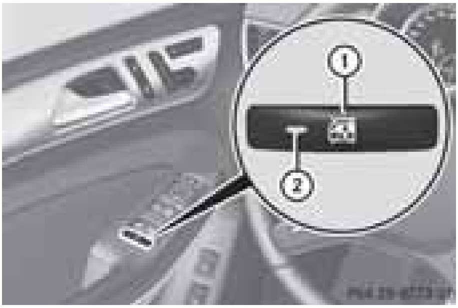
リアドアのチャイルドプルーフロックで、各ドアを個別にロックできます。チャイルドプルーフロックでロックされているドアは、車内から開くことができません。車両が解錠されているときは、車外からドアを開くことができます。

▶ **設定する：** チャイルドプルーフロックレバーを矢印の方向 ① に押し上げます。

▶ チャイルドプルーフロックが正常に作動していることを確認します。

▶ **解除する：** チャイルドプルーフロックレバーを矢印の方向 ② に押し下げます。

リアサイドウインドウのチャイルドプルーフロック



▶ **設定/解除する：** スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が点灯する場合は、リアサイドウインドウの操作はできません。運転席ドアのスイッチを使用してのみ、操作が可能です。表示灯 ② が消灯しているときは、後席のスイッチを使用しての操作が可能です。

ペットを乗せるとき

⚠ **警告**

ペットを車内に放置または固定していない場合、ボタンやスイッチを押してしまう場合があります。

その結果：

- 車両装備を作動させて、挟まれる
- システムをオンまたはオフにして、他の道路交通者を危険にさらす

さらに、事故の際やステアリングを切ったとき、急ブレーキをかけたときに、ペットが投げ飛ばされ、乗員が負傷するおそれもあります。事故やけがの危険性があります。

けっしてペットを車内に放置しないでください。走行中は、適切なキャリーなどを使用して、ペットを必ず正しく固定してください。

走行安全システム

走行安全システムの概要

この項目には、以下の走行安全システムについての情報があります。

- ABS （Anti-lock Braking System：アンチロック・ブレーキング・システム）（▷ 78 ページ）
- BAS （Brake Assist System：ブレーキアシストシステム）（▷ 78 ページ）
- BAS プラス（Brake Assist System PLUS：ブレーキアシストプラス）（▷ 79 ページ）
- CPA (衝突警告システム) (車間距離警告機能およびアダプティブブレーキアシスト) (▷ 80 ページ)
- アダプティブブレーキランプ (▷ 83 ページ)
- ESP® （Electronic Stability Program：エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）（▷ 84 ページ）
- EBD （Electronic Brake force Distribution：エレクトロニック・ブレーキパワーディストリビューション）(▷ 87 ページ)
- アダプティブブレーキ (▷ 87 ページ)
- PRE-SAFE®ブレーキ （▷ 87 ページ)
- ステアコントロール (▷ 89 ページ)

重要な安全上の注意事項

適切な運転スタイルをとっていない場合や注意が散漫な場合は、走行安全システムは事故の危険性を低減させることはできず、また物理的法則を無効にすることもできません。走行安全システムは、運転の補助のために設計された単なる支援にすぎません。先行車両との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作の責任は運転者にあります。常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせ、先行車両との間に十分に安全な距離を保ってください。注意して運転してください。

ℹ 記載されている走行安全システムは、タイヤと路面との間に十分な接触があるときにのみ、可能な限り効果的に作動します。"タイヤとホイール" (▷ 298 ページ) にあるタイヤ、および推奨されるタイヤトレッドの最小深さなどに関する情報に特に注意してください。

冬の走行状況では、常にウィンタータイヤ（M+S タイヤ）を、必要であればスノーチェーンを使用してください。このようにすることでのみ、本章に記載されている走行安全システムが可能な限り効果的に作動します。

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）

全体的な注意事項

ABS は、ブレーキを効かせたときに車輪がロックしないようにブレーキ圧を制御します。これにより、ブレーキを効かせているときに、ステアリング操作を続けることができます。

メーターパネルの ABS 警告灯 (ABS) は、イグニッションをオンにすると点灯します。エンジンがかかっているときは消灯します。

重要な安全上の注意事項

ℹ "重要な安全上の注意事項" の項目に従ってください (▷ 77 ページ)。

> ⚠ **警告**
>
> ABS に異常があるときは、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。ステアリングでの操縦性およびブレーキ性能が著しく損なわれることがあります。さらに、他の走行安全装備が解除されます。横滑りや事故の危険が高まります。
>
> 注意して運転してください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で ABS の点検をしてください。

ABS が故障している場合は、走行安全装備を含めた他のシステムも作動しません。ABS 警告灯 (▷ 220 ページ) とメーターパネル (▷ 208 ページ)に表示されるディスプレイメッセージに関する情報を遵守してください。

路面の状況に関わらず、ABS は約 8 km/h 以上の速度で作動します。滑りやすい路面では、軽くブレーキを効かせただけでも ABS は作動します。

ブレーキ

- ▶ **ABS が作動した場合：** ブレーキ操作の状況が終わるまで、ブレーキペダルをいっぱいの力で踏み続けてください。
- ▶ **急ブレーキを効かせる：** ブレーキペダルをいっぱいの力で踏んでください。

ブレーキ時に ABS が作動した場合は、ブレーキペダルに振動を感じます。

ブレーキペダルの振動は、危険な道路状況を知らせることができ、走行中に特別な注意を喚起させるものとして機能します。

オフロード ABS

オフロードプログラムを作動させると、オフロード地形に特に適した ABS システムが自動的に作動します。

- オン & オフロードパッケージ非装備車 (▷ 199 ページ)
- オン&オフロードパッケージ装備車 (▷ 200 ページ)

30 km/h 以下の速度では、ブレーキ中は前輪が周期的にロックします。作動中に行なわれる掘る効果により、オフロード走行時は制動距離を減少させます。これにより操舵能力が制限されます。

BAS（ブレーキアシスト）

全体的な注意事項

BAS は、緊急ブレーキの状況で作動します。ブレーキペダルを急に踏んだ場合は、BAS が自動的に制動力を高めて制動距離を短縮します。

重要な安全上の注意事項

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 77 ページ)

⚠ **警告**

BAS が故障している場合は、緊急ブレーキの状況での制動距離が長くなります。事故の危険性があります。

緊急ブレーキの状況では、ブレーキペダルを思いっきり踏んでください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

ブレーキ

▶ 緊急ブレーキの状況が終わるまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
ABS が車輪のロックを防ぎます。

ブレーキペダルから足を放すと、ブレーキは通常の作動状態に戻ります。BAS は解除されます。

BAS プラス（ブレーキアシスト・プラス）

全体的な注意事項

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 77 ページ)

BAS プラスは、ディストロニック・プラス装備車両でのみ使用できます。

走行中に BAS プラスが運転者を支援するためには、レーダーセンサーシステムが作動可能でなければなりません。

レーダーセンサーシステムを利用して、BAS プラスは車両の進路に長時間ある障害物を検知することができます。

レーダーセンサーシステムが故障している場合は、BAS プラスは使用できません。その場合もブレーキシステムは使用でき、ブレーキの倍力装置および BAS は十分に機能します。

BAS プラスは、先行車両との衝突の危険性を最小限にし、またはそのような衝突の影響を低減するために運転者を支援します。BAS プラスが衝突の危険を検知した場合は、ブレーキ操作時に支援されます。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

BAS プラスは、障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるとは限りません。

そのような場合は、BAS プラスは以下のようになります：

- 不必要に介入する
- 介入しない

事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

⚠ **警告**

BAS プラスは、以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- カーブを走行するとき

そのため、BAS プラスはすべての危険な状況では作動しない場合があります。 事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

降雪または激しい雨のときは、検知は困難になるおそれがあります。

レーダーセンサーシステムによる検知は、以下のときも困難になります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 他のレーダー発生源による干渉がある

- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こっている
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
- 先行車両が他の車線を走行している

車両のフロント部分が損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を行なってください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

機能

衝突を避けるために、BAS プラスは以下の場合に必要な制動力を計算します。

- 障害物に接近している
- BAS プラスが衝突の危険を検知している

30 km/h 以下の速度で走行しているとき：ブレーキペダルを踏んだ場合は、BAS プラスが作動します。BAS プラスからのブレーキ操作の支援は、できる限り最後の瞬間に行なわれます。

30 km/h 以上の速度で走行しているとき：ブレーキペダルを急に踏んだ場合は、BAS プラスは交通状況に適した度合いにブレーキ圧を自動的に高めます。

BAS プラスは、7 km/h ～ 250 km/h の間の速度範囲内で、先行車両との危険な状態のときにブレーキ操作の支援を行ないます。

約 70 km/h 以下の速度では、BAS プラスは静止している障害物を検知することもできます。静止している障害物とは、駐停車している車両などです。

ℹ BAS プラスが特に強力な制動力を要求している場合は、予期乗員保護措置 (PRE-SAFE®) が同時に作動します。

▶ 緊急ブレーキの状況が終わるまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

BAS プラスは以下の状況では解除され、ブレーキは通常通り再度作動します。

- ブレーキペダルを放した
- 衝突の危険性がなくなった
- 車両前方に検知される障害物がなくなった

DSR（ダウンヒル・スピード・レギュレーション）(▷ 198 ページ)を作動させている場合、BAS プラスも解除されます。

CPA（衝突警告システム）

全体的な注意事項

CPA(衝突警告システム）は、以下の項目に記載されている車間距離警告機能およびアダプティブブレーキアシストから構成されています。

距離警告機能

重要な安全上の注意事項

ℹ "重要な安全上の注意事項"の項目に従ってください(▷ 77 ページ)。

> ⚠ **警告**
>
> 車間距離警告機能は、以下のものには反応しません。
>
> - 歩行者や動物
> - 対向車
> - 交差する交通
> - カーブを走行するとき
>
> そのため、車間距離警告機能はすべての危険な状況で警告を行うとは限りません。事故の危険性があります。
>
> 常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

> ⚠ **警告**
>
> 車間距離警告機能は、常に障害物および複雑な交通状況を明確に識別できるわけではありません。

そのような場合は、車間距離警告機能は以下のようになることがあります。

- 不必要な警告を発する
- 警告を発しない

事故の危険性があります。

常に交通状況に十分注意を払い、車間距離警告機能のみに頼らないでください。

機能

▶ **設定/解除する：** マルチファンクションディスプレイで車間距離警告機能を作動または解除します(▷ 205 ページ)。

車間距離警告機能が設定されていない場合は、アシスト一覧表示に [OFF] マークが表示されます。

車間距離警告機能は、先行車両との追突事故の危険性を最小限にしたり、そのような衝突の影響を低減させることで運転者を支援します。車間距離警告機能が衝突の危険を検知した場合は、視覚的および聴覚的に警告が発せられます。車間距離警告機能は、運転者の操作なしに衝突を避けることはできません。

車間距離警告機能は、以下の速度で警告を発します。

- 30 km/h またはそれ以上で、数秒間にわたり前方を走行している車両との間に保たれている距離が不十分な場合メーターパネルの距離警告灯 [△] が点灯します。
- 7 km/h またはそれ以上で、先行車両に急激に接近した場合 断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの距離警告灯 [△] が点灯します。

▶ 先行車両との車間距離を広げるためにただちにブレーキを効かせてください。

または

▶ 安全確認のうえ、危険回避の操作を行なってください。

システムの特性により、危険ではなくとも、特に複雑な走行状況がシステムが警告を表示する原因になることがあります。

レーダーセンサーシステムの支援で、車間距離警告機能は車両の進路に長時間ある障害物を検知することができます。

70 km/h 以下では、車間距離警告機能は停車または駐車した車両などの静止物にも反応できます。

障害物に接近し、車間距離警告機能が衝突の危険を検知した場合は、視覚的および聴覚的両方で運転者に警告を行ないます。

特に以下のときは、障害物の検知が困難になります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 雪または激しい雨が降っている
- 他のレーダー発生源による干渉がある
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こっている
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
- 先行車両が他の車線を走行している
- 新車または CPA (衝突警告システム) のメンテナンス後

  慣らし運転の項目にある注意事項に注意してください (▷ 140 ページ)。

車両のフロント部分が損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を受けてください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

アダプティブブレーキアシスト

ℹ "重要な安全上の注意事項" の項目に注意してください (▷ 77 ページ)。

> ⚠ **警告**
>
> アダプティブブレーキアシストは、障害物や複雑な交通状況を常に明確に識別できるとは限りません。
>
> そのような場合は、アダプティブブレーキアシストは以下のようになることがあります。
>
> - 不必要に介入する
> - 介入しない
>
> 事故の危険性があります。
>
> 常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキを効かせる準備をしてください。危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

> ⚠ **警告**
>
> アダプティブブレーキアシストは、以下のものには反応しません。
>
> - 歩行者や動物
> - 対向車
> - 交差する交通
> - 静止している障害物
> - カーブを走行するとき
>
> その結果、アダプティブブレーキアシストはすべての危険な状況では作動しない場合があります。 事故の危険性があります。
>
> 常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

システムの特性により、危険ではないけれど、特に複雑な走行状況もブレーキアシストが介入する原因になることがあります。

アダプティブブレーキアシストは、7 km/h 以上の速度での危険な状況の間にブレーキを効かせる支援を行ない、レーダーセンサーシステムを使用して交通状況を判断します。

アダプティブブレーキアシストの支援で、距離警告信号は車両の進路に長時間ある障害物を検知することができます。

障害物に接近して、アダプティブブレーキアシストが衝突の危険性を検知した場合は、アダプティブブレーキアシストは、衝突を回避するために必要な制動力を計算します。ブレーキを強く効かせた場合は、アダプティブブレーキアシストは交通状況に適したレベルまで制動力を自動的に増加させます。

▶ 緊急ブレーキの状況が終わるまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

以下の場合、ブレーキは再度通常通り作動します。

- ブレーキペダルを放した
- 衝突の危険がなくなった
- 車両前方に検知される障害物がなくなった

その後、アダプティブブレーキアシストは解除されます。

PRE-SAFE®装備車両： アダプティブブレーキアシストが特に高いブレーキ圧を必要としている場合は、予期乗員保護措置 (PRE-SAFE®) が同時に作動します。

約 250 km/h の車両速度までは、検知期間の間に 1 度は検知された動いている障害物にも、アダプティブブレーキアシストは反応することができます。アダプティブブレーキアシストは静止している障害物には反応しません。

レーダーセンサーシステムの故障によりアダプティブブレーキアシストが作動しない場合は、ブレーキシステムは完全なブレーキ倍力効果および BAS とともに作動可能なままになります。

特に以下の状況では、障害物の検知が困難になります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 雪または激しい雨が降っている
- 他のレーダー発生源による干渉がある

- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こっている
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
- 先行車両が他の車線を走行している
- 新車または CPA (衝突警告システム) のメンテナンス後

  慣らし運転の項目にある注意事項に注意してください (▷ 140 ページ)。

車両のフロント部分が損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を受けてください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

アダプティブブレーキランプ

アダプティブブレーキライトは緊急ブレーキの状況で以下のように後続の車両に警告します。

- ブレーキライトを点滅させることにより
- 非常点滅灯を作動させることにより

50 km/h 以上の速度から車両に急ブレーキを効かせた場合、または BAS または BAS プラス (ブレーキアシストプラス) によりブレーキ操作が支援された場合は、ブレーキライトが素早く点滅します。このようにして、より注意を引きやすい方法で後方の車両に警告を行ないます。

70 km/h 以上の速度から停止するまで急ブレーキを効かせた場合は、非常点滅灯が自動で作動します。再度ブレーキを効かせた場合は、ブレーキランプは点灯し続けます。10 km/h 以上で走行した場合は、非常点滅灯は自動的に解除されます。非常点滅灯スイッチ (▷ 120 ページ) を使用して非常点滅灯を解除することもできます。

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）

全体的な注意事項

ℹ "重要な安全上の注意事項" の項目に従ってください。 (▷ 77 ページ)

ESP® は走行安定性、およびタイヤと路面の間の動力伝達であるトラクションをモニターします。

車両の走行ラインが運転者の望む進行方向から外れていると ESP® が判断した場合は、1 本または複数の車輪にブレーキを効かせ、車両を安定させます。また、エンジン出力を調整して、物理的限界内で望む方向に車両の向きを保つように作動します。ESP® は、濡れた路面や滑りやすい路面での発進操作を支援します。ESP® は、ブレーキ時の車両を安定させることもできます。

4ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）

ℹ "重要な安全上の注意事項"の項目に従ってください (▷ 77 ページ)。

4ETS トラクションコントロールは、ESP®の一部です。

トラクションコントロールは、駆動輪が空転したときに、駆動輪に個別にブレーキを効かせます。これにより、片側が滑りやすい路面などでの発進や加速を可能にします。さらに、1 本または複数の駆動力のかかる車輪にさらなる駆動トルクが伝達されます。

ESP®を解除した場合でも、トラクションコントロールは設定されたままになります。

適切な走行状況で、オフロードプログラムを作動させせます。

▶ オン&オフロードパッケージ非装備車 (▷ 199 ページ)

▶ オン&オフロードパッケージ装備車 (▷ 200 ページ)

オフロード 4ETS（エレクトロニックトラクションシステム）

オフロードの地形に特別に適した 4ETS システムは、オフロードプログラムが作動すると自動的に作動します。

- オン & オフロードパッケージ非装備車 (▷ 199 ページ)
- オン & オフロードパッケージ装備車 (▷ 200 ページ)

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

ESP®が故障している場合は、ESP®は車両を安定させせることはできません。さらに、他の走行安全装備はオフになります。これにより、横滑りや事故の危険性が高くなります。

注意して運転してください。 メルセデス・ベンツ指定サービス工場で ESP®の点検を受けてください。

! ブレーキダイナモメーターでは最大 10 秒間のみ車両を操作してください。イグニッションをオフにしてください。

ESP® によるブレーキの適用により、ブレーキシステムを損傷することがあります。

! 機能テストや性能テストを行なうには、必ず 2 軸式ダイナモメーターを使用してください。 このようなダイナモメーターで車両を作動させる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。 お守りいただかないと、駆動装置やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

エンジンがかかっているときにメーターパネルの警告灯 が点灯している場合は、ESP® が解除されています。

警告灯 および警告灯 が点灯し続ける場合は、故障により ESP® は作動しません。

警告灯 (▷ 225 ページ) とメーターパネル (▷ 208 ページ)に表示されるディスプレイメッセージに関する情報を遵守してください。

以下の場合は、マルチファンクションディスプレイに故障および警告のメッセージが表示されることがあります。

- エンジンをかけた状態で立体駐車場などのターンテーブルで車両を回転させた、または
- 立体駐車場に進入するときなど、長くて狭いらせん状の走行路を走行した

以下のような警告灯/表示灯も点灯することがあります。

- ESP® 表示灯
- ESP® オフ表示灯
- ABS 警告灯

▶ 道路や交通状況に注意しながら、車両を停止します。

▶ エンジンを停止します。

▶ イグニッションをオフにします。

▶ エンジンを再始動してください。
しばらくすると、メッセージが消え、警告灯/表示灯が消灯します。消灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を調査してください。

ℹ 推奨されたタイヤサイズの車輪のみを使用してください。そのときにのみ、ESP® は正しく機能します。

ESP®の特性

全体的な注意事項

走行を開始する前に ESP 警告灯 が消灯した場合は、ESP® が自動的に設定されています。

ESP® が作動した場合は、メーターパネルの ESP® 警告灯 が点滅します。

ESP® が作動した場合：

▶ どのような状況でも ESP® を解除しないでください。

▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。

▶ 実際の道路や天候の状況に適するように運転スタイルを合わせてください。

ECO スタートストップ機能

ECO スタートストップ機能は、車両が停止すると、自動的にエンジンを停止します。再度発進するときは、エンジンは自動的に始動します。ESP® は、以前の設定状況のままになります。**例：**エンジンを停止する前に ESP® が解除されていた場合は、エンジンを再度始動したときに ESP® は解除されたままになります。

ESP®の解除/設定

重要な安全上の注意事項

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください (▷ 77 ページ)。

以下の ESP® の状態を選択することができます：

• ESP® を作動させる

• ESP® が解除されている。

⚠ **警告**

ESP®を解除すると、ESP® は車両を安定させなくなります。横滑りや事故の危険が高まります。

以下に記載された状況でのみ ESP® を解除してください。

以下の状況では、ESP® を解除したほうが良いことがあります。

• スノーチェーンを使用しているとき

• 深い雪で

• 砂地または砂利道で

ℹ 上記に記載されている状況でなくなったら、ただちに ESP® を作動させてください。さもないと、車両が横滑りしたり車輪が空転し始めたときに、ESP® が車両を安定させることができません。

ESP® の解除/設定

▶ **オフにする：** スイッチ ① を押します。メーターパネルの ESP® オフ表示灯 が点灯します。

▶ **オンにする：** スイッチ ① を押します。メーターパネルの ESP® オフ表示灯 が消灯します。

ESP® が解除されているときの特性

ESP® が解除されている場合、1 本または複数の車輪が空転し始めると、メーターパネルの ESP® 警告灯 が点滅します。このような状況では、ESP® は車両を安定させません。

ESP® を解除すると、以下のようになります。

- ESP® は作動せず、走行安全性を高めることはできなくなります。
- エンジントルクの制御は行なわれなくなり、駆動輪が空転することがあります。
  やわらかい路面では、掘る動作につながる車輪の空転により、駆動力が向上します。
- トラクションコントロールは引き続き作動します。
- ブレーキを効かせたときは、ESP® は引き続き支援を行ないます。

オフロード ESP®（オフロードエンジニアリングパッケージ装備車）

オフロードの地形に特別に適した ESP® システムは、オフロードプログラムが作動すると自動的に作動します。

- オン&オフロードパッケージ非装備車 (▷ 199 ページ)
- オン&オフロードパッケージ装備車 (▷ 200 ページ)

オーバーステアリングまたはアンダーステアリングがある場合は、オフロード ESP® は遅れて作動し、これにより駆動力が高まります。

ESP® トレーラースタビライゼーション

全体的な注意事項

ESP® トレーラースタビライゼーションは AMG 車両では使用できません。

トレーラー連結車両が急に傾き始めた場合は、この状況で ESP® が運転者を支援します。ESP® は、トレーラー連結車両が安定するまでブレーキを効かせ、エンジン出力を制限することにより、車両を減速させます。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

道路および天候の状況が悪い場合は、トレーラースタビライゼーションは車両/トレーラーの連結が急に逸脱することを防ぐことはできません。重心の高いトレーラーは、ESP®がこれを検知する前に横転することがあります。事故の危険性があります。

常に路面や天候の状況に合わせて慎重に運転してください。

トレーラー連結車両が急に傾き始めた場合は、ブレーキをしっかりと踏むことのみにより、トレーラー連結車両を安定させることができます。

トレーラースタビライゼーションは約 60 km/h 以上の速度で作動します。

ESP® が解除されているか、または故障のために使用できない場合は、ESP® トレーラースタビライゼーションは作動しません。

クロスウインドアシスト

一般的な注意事項

直進走行時は、強い横風の突風により車両の走行安定性を損なうおそれがあります。ESP® に内蔵されているクロスウインドアシスト機能は、これらの影響を顕著に減少させます。

横風の方向と強さに応じて、ESP®が自動的に作動します。

安定させるためのブレーキにより ESP® が介入し、車両を車線内にとどめる支援を行ないます。

クロスウインドアシストは、直線路や緩やかなカーブを走行しているときに約 80 km/h 以上の走行速度で作動します。

重要な安全上の注意事項

ESP® が解除されていたり、故障により無効になっている場合は、クロスウインドアシストは作動しません。

EBD（エレクトロニック・ブレーキパワーディストリビューション）

一般的な注意事項

EBD は、後輪のブレーキ圧をモニターしてコントロールを行ない、ブレーキ時の走行安全性を高めます。

重要な安全上の注意事項

ℹ 走行安全システムの"重要な安全上の注意事項"の項目に従ってください (▷ 77 ページ)。

⚠ **警告**

EBD が故障した場合には、急ブレーキ時などには後輪がロックすることがあります。 これにより、横滑りして事故が起きる危険性が高くなります。

操縦性の変化に応じて慎重に運転してください。 メルセデス・ベンツ指定サービス工場でブレーキシステムの点検を受けてください。

表示灯と警告灯(▷ 222 ページ) およびディスプレイメッセージ (▷ 212 ページ) に関する情報に従ってください。

アダプティブブレーキ

アダプティブブレーキは、ブレーキ時の安全性を高めるとともに、さらに快適なブレーキ操作をもたらします。ブレーキ機能に加えて、アダプティブブレーキはホールド機能 (▷ 173 ページ) およびヒルスタートアシスト機能 (▷ 145 ページ) も備えています。

PRE-SAFE®ブレーキ

全体的な注意事項

ℹ "重要な安全上の注意"に従ってください。 (▷ 77 ページ)

PRE-SAFE® ブレーキは、ディストロニック・プラス装備車両でのみ使用できます。

走行時に PRE-SAFE® ブレーキで補助するためには、レーダーセンサーシステムが作動可能でなければなりません。

レーダーセンサーシステムを利用して、PRE-SAFE® ブレーキは車両の前方に長時間ある障害物を検知することができます。

PRE-SAFE® ブレーキは、先行車と衝突する危険性を最小限に抑え、衝突による被害を低減するよう運転者を支援するシステムです。PRE-SAFE® ブレーキが衝突の危険を検知した場合は、自動的にブレーキを効かせるとともに、視覚的および聴覚的な警告を行ないます。PRE-SAFE® ブレーキは、運転者の操作なしで衝突を防ぐことはできません。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

衝突の危険を感知すると、PRE-SAFE® ブレーキはまず部分的にブレーキをかけて車両を制動します。 ご自身でブレーキをかけないと衝突するおそれがあります。自動緊急ブレーキにより衝突を防ぐことはできません。 事故の危険性があります。

必ずご自身でブレーキをかけ、危険回避の運転操作を行なってください。

⚠ **警告**

PRE-SAFE® ブレーキは、障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるとは限りません。

▷▷

その場合、PRE-SAFE® ブレーキは以下のように作動することがあります。

- 不必要な警告を行ない、車両にブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる

事故の危険性があります。

PRE-SAFE® ブレーキが警告を行なったときは、必ず交通状況に十分注意を払いながら、ブレーキをかける準備をしてください。 危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

先行車両との車間距離を十分に維持して衝突を防ぐためには、適切にブレーキ操作を行なう必要があります。

⚠ **警告**

PRE-SAFE® ブレーキは、以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- カーブを走行するとき

この結果、すべての危険な状況では、PRE-SAFE® ブレーキは警告や作動を行なわない場合があります。 事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

降雪または激しい雨のときは、検知は困難になるおそれがあります。

レーダーセンサーシステムによる検知は、以下のときも困難になります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 他のレーダー発生源による干渉がある
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こっている
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
- 先行車両が他の車線を走行している

車両のフロント部分が損傷したときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を行なってください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

機能

▶ **作動/解除する：** マルチファンクションディスプレイで PRE-SAFE® ブレーキを作動または解除します (▷ 205 ページ) 。

PRE-SAFE® ブレーキが設定されていない場合は、マルチファンクションディスプレイに [OFF] マークが表示されます。

この機能は、以下の場合に警告を発します：

- 約 30 km/h またはそれ以上の速度で、数秒間に渡り、前方を走行している車両との間に保たれている距離が不十分である。

  メーターパネルの車間距離警告灯 [⚠] が点灯します。
- 約 7 km/h またはそれ以上の速度で、先行車両に急速に接近している。

  断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの車間距離警告灯 [⚠] が点灯します。

▶ ただちにブレーキを効かせ、状況を回避してください。

または

▶ 安全確認のうえ、危険回避の操作を行なってください。

PRE-SAFE® ブレーキは以下の条件下で車両に自動的にブレーキを効かせることができます。

- 運転者および助手席乗員がシートベルトを着用している

および

- 車両速度が約 7 km/h～200 km/h の間である

約 70 km/h 以下の速度では、PRE-SAFE® ブレーキは静止している障害物を検知することもできます。静止している障害物とは、駐停車している車両などです。

ℹ 衝突の危険性が高まった場合は、予期乗員保護措置（PRE-SAFE®）が作動します。

先行車両との衝突の危険性がそのままで、ブレーキを効かせる、回避操作をとる、または著しく加速することを運転者が行なわなかった場合は、フルブレーキを適用する度合いまで、車両が自動緊急ブレーキを効かせることがあります。自動緊急ブレーキは、切迫した事故の直前までは作動しません。

PRE-SAFE® ブレーキの介入は、以下によりいつでも解除することができます：

- アクセルペダルをさらに踏む
- キックダウンを作動させる
- ブレーキペダルを放す

以下では、PRE-SAFE® ブレーキのブレーキ操作は自動的に解除されます：

- 障害物を回避する操作を行なった
- 衝突の危険性がなくなった
- 車両前方に検知されている障害物がなくなった

DSR を作動させると(▷ 198 ページ)、PRE-SAFE® ブレーキも解除されます。

ステアコントロール

全体的な注意事項

ステアコントロールは、車両を安定させるために必要な向きの操舵力をステアリングに伝達することにより、運転者を支援します。

このステアリング補助機能は、特に以下で行なわれます。

- ブレーキ時に、両方の右側車輪または両方の左側車輪が濡れた、または滑りやすい路面にあるとき
- 車が横滑りをし始めたとき

重要な安全上の注意事項

ℹ "重要な安全上の注意事項"の項目に従ってください。（▷ 77 ページ）

以下の場合は、ステアコントロールからのステアリング補助は行なわれません。

- ESP® が故障しているとき
- ステアリングが故障しているとき

ただし、パワーステアリングは作動し続けます。

盗難防止警報システム

イモビライザー

▶ **キー操作で待機状態にする：** エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ **キーレスゴー操作で待機状態にする：** イグニッションをオフにして、運転席ドアを開きます。

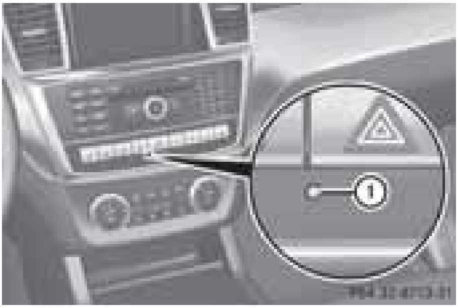
▶ **解除する：** エンジンをかけます。

イモビライザーは、正規のキー以外ではエンジンを始動させない盗難防止装置です。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。有効なキーが車内に残されていると、誰でもエンジンを始動することができます。

ℹ イモビライザーは、エンジンを始動すると解除されます。

ATA（盗難防止警報システム）



▶ **待機状態にする：**キー、またはキーレスゴーで車両を施錠します。
表示灯 ① が点滅します。警報システムが約 15 秒後に待機状態になります。

▶ **キーで解除する：**キーを使用して車両を解錠します。

または

▶ キーをエンジンスイッチに差し込みます。

▶ **キーレスゴーで解除する：**キーレスゴーを使用して車両を解錠します。

または

▶ ダッシュボードのキーレスゴースイッチを押します。キーは車内にある必要があります。

システムが待機状態で以下を開いた場合は、視覚的および聴覚的な警報音が発せられます。

• ドア
• エマージェンシーキーを使用して車両
• テールゲート
• ボンネット

▶ **キーで警報を停止する：** キーの または スイッチを押します。
警報が停止します。

または

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。
警報が停止します。

▶ **キーレスゴーを使用して警報を停止する：**車外のドアハンドルを握ります。キーは車外にある必要があります。
警報が停止します。

または

▶ ダッシュボードのキーレスゴースイッチを押します。キーは車内にある必要があります。
警報が停止します。

たとえば、警報を作動させた開いたドアを閉じても、警報は停止しません。

けん引防止機能

機能

けん引防止機能が待機状態のときに車両の傾きが変化した場合は、聴覚的および視覚的な警報が発せられます。たとえば、ジャッキアップなどにより車両の片側が持ち上げられたときに警報が作動します。

待機状態にする

▶ 以下のことを確認してください。
• ドアが閉じている
• テールゲートが閉じていること
この後のみ、けん引防止機能が待機状態になります。

▶ キーまたはキーレスゴーで車両を施錠します。
約 60 秒 後にけん引防止機能は待機状態になります。

解除する

▶ **キーでオフにする：**キーを使用して車両を解錠します。

または

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。
けん引防止機能は自動的に解除されます。

- **キーレスゴーで解除する**：キーレスゴーを使用して車両を解錠します。

または

- ダッシュボードのキーレスゴースイッチを押します。キーは車内にある必要があります。
  けん引防止機能は自動的に解除されます。

解除する

- エンジンスイッチからキーを抜きます。
- スイッチ ① を押します。
  表示灯 ② が短時間点灯します。
- キーまたはキーレスゴーで車両を施錠します。
  けん引防止機能が解除されます。

けん引防止機能は、以下のときまで解除されたままになります。

- 車両を再度解錠し、
- ドアを再度開いて閉じ、
- 車両が再度施錠されます

誤った警告を防止するため、以下のような状況で車両を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- けん引される
- カーフェリーまたは車両運搬車などに積載する
- 立体駐車場などの可動面に駐車する

室内センサー

機能

室内センサーが待機状態のときに車内で動きが検知された場合は、視覚的および聴覚的な警報が発せられます。誰かが車内に手を伸ばした場合などに起こります。

待機状態にする

- 以下のことを確認してください。
  - サイドウインドウが閉じている
  - ベンチレーションウインドウが閉じていること
  - スライディングルーフ/パノラミックスライディングルーフが閉じている
  - ルームミラーやルーフトリムのグリップハンドルにマスコットなどの掛かっている物がない

  このことは、警報の誤作動を防ぎます。
- 以下のことを確認してください。
  - スライディングルーフ/パノラミックスライディングルーフが閉じている
  - ドアが閉じている
  - テールゲートが閉じていること

  この場合にのみ、室内センサーは待機状態になります。
- キーまたはキーレスゴーで車両を施錠します。
  約 30 秒後に、室内センサーが待機状態になります。

解除する

- **キーでオフにする**：キーを使用して車両を解錠します。

または

- エンジンスイッチにキーを差し込みます。
  室内センサーが自動的に解除されます。

▶ **キーレスゴーで解除する**：キーレスゴーを使用して車両を解錠します。

または

▶ ダッシュボードのキーレスゴースイッチを押します。キーは車内にある必要があります。
室内センサーが自動的に解除されます。

解除する

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が短時間点滅します。

▶ キーまたはキーレスゴーで車両を施錠します。
室内センサーが解除されます。

室内センサーは以下のときまで解除されたままになります：

- 車両を再度解錠し、
- ドアを再度開いて閉じ、
- 車両が再度施錠されます

誤った警報を防止するため、以下のような状況で車両を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残ったままである
- サイドウインドウが開いたままである
- ベンチレーションウインドウが開いたままであるとき
- スライディングルーフ/パノラミックスライディングルーフが開いたままである

役に立つ情報 94
キー 94
ドア 98
ラゲッジルーム 100
サイドウインドウ 104
スライディングルーフ 106

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 32 ページ)

キー

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行い、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P からシフトする
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ **警告**

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

⚠ **警告**

キーに、重い物や大きなアクセサリー等を付けていると、エンジンスイッチのキーが不意にまわるおそれがあります。そのため、エンジンが停止するおそれがあります。 事故の危険性があります。

キーには重い物や大きなアクセサリー等を付けないでください。 操作の邪魔になるアクセサリー等は、エンジンスイッチにキーを差し込む前に取り外してください。

! 強い磁場を発生する物の近くにキーを保管しないでください。磁場の影響で、リモコン機能が正常に機能しなくなるおそれがあります。

強い磁場は、強力な電気設備の近くで発生します。

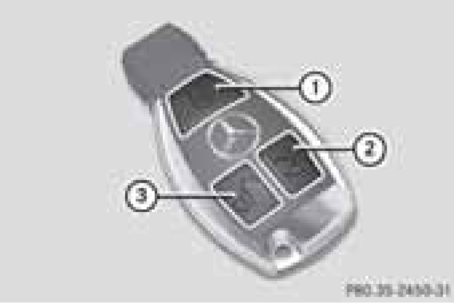
以下にはキーを近付けないでください。

- 携帯電話や他のキーなどの電子機器
- 硬貨や金属片などの金属物
- 金属ケースなどの金属物の内部

  キーの機能に影響を与えるおそれがあります。

温度制御カップホルダーにキーレスゴーキーを保管しないでください。さもなければ、キーレスゴーキーが検知されません。

キーの機能



① 🔒 車両を施錠する
② テールゲートの開閉
③ 🔓 車両を解錠する

▶ **すべてを解錠する：** スイッチ ③ を押します。

解錠して約 40 秒 以内に車両を開かない場合：

- 車両が再び施錠されます
- 盗難防止警報システムが再び待機状態になります

▶ **すべてを施錠する：** スイッチ ① を押します。

キーにより、以下が集中施錠/解錠されます：

- ドア
- テールゲート
- 燃料給油口フラップ

解錠したときは、方向指示灯が 1 回点滅します。施錠したときは、3 回点滅します。

車両が施錠されたことを確認できる、確認音を設定することもできます。キーアンサーバック機能の設定と解除は、マルチファンクションディスプレイで行ないます (▷ 205 ページ)。

マルチファンクションディスプレイでロケイターライティング機能を設定しておくと、周囲が暗いときに車外ランプを点灯させることができます (▷ 205 ページ)。

キーレスゴー

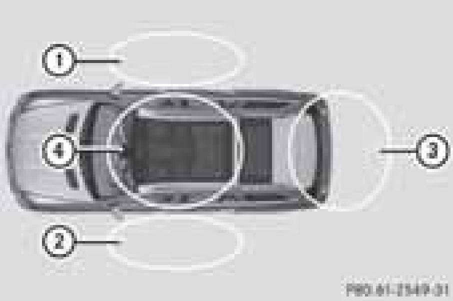
重要な安全上の注意事項

⚠ **危険**

ペースメーカーまたは除細動器などの医療用電子機器を使用されている方：

キーレスゴーを使用するときは、キーと車両の間で電波の交信が行なわれます。電磁波が医療機器の機能に影響を与えるおそれがあります。致命的なけがをするおそれがあります。

車両を操作する前に、医師や医療用電子機器メーカーにキーレスゴーの電波の影響を確認してください。



キーレスゴーアンテナの検知範囲
① 右側外部アンテナの検知範囲
② 左側外部アンテナの検知範囲
③ リアアンテナの検知範囲
④ 車内アンテナの検知範囲

キーが車内にある場合は、車両乗員の誰もがエンジンを始動できることを留意してください。

集中施錠および解錠

キーレスゴーを使用して、始動、車両の施錠または解錠ができます。このために必要なのはキーを携帯することのみです。キーレスゴー機能と従来のキーの機能を

組み合わせることができます。たとえば、キーレスゴー操作で車両を解錠し、キーの 🔒 スイッチで施錠することができます。

キーレスゴーで施錠または解錠するときは、キーと対応するドアハンドルの間の距離が 1 m 以上になってはいけません。

キーレスゴーは、車両とキーの間で定期的に通信を行ない、車内に有効なキーがあるか確認します。キーの照合は以下のときに行なわれます。

- 車外のドアハンドルに触れたとき
- エンジンの始動時
- 車両の走行中

▶ **車両を解錠する：** ドアハンドルの内側面に触れます。

▶ **車両を施錠する：** センサー面 ① に触れます。

▶ **コンビニエンスクロージング機能：** センサー面の凹部 ② に一定時間触れます。

テールゲートのハンドルを引くと、車両のラゲッジルームのみが解錠されます。

ロックシステムの設定変更

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

エマージェンシーキー

一般的な注意事項

キーで車両を施錠または解錠できなくなったときは、エマージェンシーキーを使用してください。

エマージェンシーキーを使用して運転席ドアを解錠して開いた場合は、盗難防止警報システムが作動します (▷ 90 ページ)。

警報を停止するためには、いくつかの方法があります。

▶ **キーで警報を停止する：** キーの 🔓 または 🔒 スイッチを押します。

または

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

または

▶ **キーレスゴーで警報を停止する：** キーレスゴースイッチを押します。キーは車内にある必要があります。

または

▶ キーレスゴーで車を施錠/解錠します。キーは車外にある必要があります。

エマージェンシーキーで車両を解錠しても、燃料給油口フラップは自動的に解錠されません。

▶ **燃料給油口フラップを解錠する：** エンジンスイッチにキーを差し込みます。

エマージェンシーキーの取り外し

▶ ロック解除キャッチ ① を矢印の方向に押し、同時にエマージェンシーキー ② をキーから取り外します。

さらなる情報は、以下をご覧ください。

- 運転席ドアの解錠 (▷ 99 ページ)
- ラゲッジルームの解錠 (▷ 104 ページ)
- 車両の施錠 (▷ 99 ページ)

エマージェンシーキーの挿入

▶ 固定されて、ロック解除キャッチ ① が基本位置に戻るまで、エマージェンシーキー ② をキーに完全に押し込みます。

キーの電池

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。 電池を飲み込んでしまうと、深刻な健康上の問題を引き起こすことがあります。 致命的なけがをするおそれがあります。

電池は子供の手の届かないところに置いてください。 電池を飲み込んでしまった場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

環境保護に関する注意

電池には環境汚染物質が含まれています。 電池を家庭用ゴミとして廃棄することは法律で禁じられています。 使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。

電池は環境に配慮した方法で廃棄してください。 使用済みの電池は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお持ちいただくか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

電池の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことを、メルセデス・ベンツは推奨します。

電池の点検

▶ 🔒 または 🔓 ボタンを押します。
バッテリーチェックランプ ① が短時間点灯した場合は、電池は正常です。
バッテリーチェックランプ ① が点滅しない場合は、電池が消耗しています。

▶ 電池を交換してください (▷ 97 ページ) 。

ℹ 🔒 または 🔓 スイッチを押して、車両の信号受信範囲内でキーの電池を点検した場合は、以下になります：

- 施錠されます、または
- 車両が解錠されます

ℹ 電池はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手することができます。

電池の交換

CR 2025 3V の電池が必要です。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 96 ページ) 。

▶ 電池収納部カバー ① が開くまで、キーの開口部にエマージェンシーキー ② を押し込みます。このときは、電池収納部カバー ① を押さえて閉じないようにしてください。

▶ 電池収納部カバー ① を取り外します。

▶ 電池 ③ が落ちるまで、手のひらでキーを繰り返したたきます。

▶ プラス面が上を向くようにして、新しい電池を差し込みます。このときは、毛羽立ちのない布を使用してください。

▶ 電池の表面に糸くず、脂分、他の汚れがないことを確認してください。

▶ 電池収納部カバー ① の前側にある凸部を本体に差し込み、押して閉じます。

▶ エマージェンシーキー ② をキーに差し込みます 。

▶ 車両で、キーのすべてのスイッチの機能を確認します。

キーのトラブル

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

ドア

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行い、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P からシフトする
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ **警告**

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

荷物や貨物は、なるべくラゲッジルームに収納してください。積載時のガイドライン (▷ 254 ページ) をお守りください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 車内からドアを解錠して開く
- 車内からの車両の集中施錠および解錠
- 車速感応ドアロック
- クロージングサポーター

運転席ドアの解錠（エマージェンシーキー）

キーで車両を解錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

エマージェンシーキーを使用して運転席ドアを解錠して開いた場合は、盗難防止警報システムが作動します (▷ 90 ページ)。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 96 ページ) 。

▶ 運転席ドアのキーシリンダーに、エマージェンシーキーをいっぱいまで差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを 1 の位置まで反時計回りにまわします。
運転席ドアが解錠されます。

ℹ 右ハンドル車両では、エマージェンシーキーを時計回りにまわします。

▶ エマージェンシーキーをまわして戻し、抜きます。

▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます。

車両の施錠（エマージェンシーキー）

キーで車両を施錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用します。

▶ 運転席ドアを開きます。

▶ 助手席ドア、リアドアおよびテールゲートを閉じます。

▶ ロックスイッチ (▷ 99 ページ)を押します。

▶ 助手席ドアとリアドアのロックノブがまだ見えているかどうかを確認します。下がっていないときは、ロックノブを手で押し込みます。

▶ 運転席ドアを閉じます。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 96 ページ) 。

▶ 運転席ドアのキーシリンダーに、エマージェンシーキーをいっぱいまで差し込みます。

▶ 位置 1 まで、エマージェンシーキーを時計回りにまわします。

ℹ 右ハンドル車両では、エマージェンシーキーを時計回りにまわします。

▶ エマージェンシーキーをまわして戻し、抜きます。

▶ ドアとテールゲートが施錠されていることを確認します。

▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます。

ℹ 上記のように車両を施錠した場合は、燃料給油口フラップは施錠されません。盗難防止警報システムは待機状態になりません。

ラゲッジルーム

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

⚠ **警告**

燃焼型エンジンは、一酸化炭素などの有毒な排気ガスを排出します。 エンジン作動中、とくに走行中にテールゲートが開いていると、排気ガスが車内に入るおそれがあります。 中毒を起こすおそれがあります。

テールゲートを開く前に、エンジンをオフにしてください。 テールゲートを開いたまま走行しないでください。

⚠ **警告**

荷物や重い荷物が固定されていない、または十分に固定されていないと、すべったり、放り出されて乗員にぶつかるおそれがあります。 特にブレーキ操作時や急な進路変更時にけがをする可能性があります。

荷物は放り出されないように、必ず収納してください。 走行前に、荷物や積載物などがすべったりひっくり返ったりしないように固定されていることを確認してください。

! テールゲートは、上方や後方に大きく開きます。 そのため、テールゲートを開くときは、上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。

ℹ テールゲートを開いたときの寸法 (▷ 328 ページ)

荷物や貨物は、なるべくラゲッジルームに収納してください。積載時のガイドライン (▷ 254 ページ) をお守りください。

ラゲッジルーム内にキーを残さないようにしてください。さもないと、閉め出されるおそれがあります。

以下のことができます。

- 外側からテールゲートを手動で閉じる
- 車外からテールゲートを自動で開閉する
- 車内からテールゲートを自動で開閉する
- テールゲートの開く角度を制限する
- エマージェンシーリリースで内側からテールゲートを解錠する

テールゲートのリバース機能

テールゲート自動開閉機能装備車両では、テールゲートにリバース機能付障害物自動検知が装備されています。自動開閉時に障害物がテールゲートをブロックした、または妨げた場合は、この動作は停止します。閉じている動作の間にテールゲートが停止した場合は、再び自動的に開きます。リバース機能付障害物自動検知は単なる支援にすぎません。テールゲートを開閉するときの、お客様の注意の代わりになるものではありません。

⚠ **警告**

以下のとき、リバース機能は反応しません：

- 小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
- 閉じる動作の最後の 8 mm を過ぎている

リバース機能は、これらの状況で挟み込まれることを回避することはできません。けがの危険性があります。

閉動作の間は、身体を閉じる部分に近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- キーの [⊃] スイッチを押す、または
- 運転席ドアのリモート操作スイッチを押す、または
- テールゲートのクローズ / ロックスイッチを押します。
- テールゲートのハンドルを引いてください。

車外からの手動開閉

開く

▶ キーの [🔓] ボタンを押します。

▶ ハンドル ① を引いて、放します。
テールゲートは自動的に開きます。

閉じる

▶ 凹部 ① を使用してテールゲートを引き下げます。

▶ ロック部にテールゲートを下げます。

▶ 必要であればキーの [🔒] ボタンか、キーレスゴーで車両を施錠します。

ℹ ラゲッジルーム内にキーレスゴーキーが検知されると、テールゲートは施錠されません。

車外からの自動開閉

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

テールゲートが自動で閉じているときに、身体の一部が挟み込まれるおそれがあります。 さらに、お子様などが閉動作中に、閉じる場所に立っていたり、入り込んだりする可能性があります。 けがの危険性があります。

閉動作中は、閉じる場所に誰もいないことを確認してください。

閉動作を停止させるため、以下のオプションのうちのひとつを使用してください：

- キーの [⊃] ボタンを押します。
- 運転席ドアのリモート操作スイッチを押します。

開閉

- テールゲートのクローズ / ロックスイッチ を押します。
- テールゲートのハンドルを引いてください。.

! テールゲートは、上方や後方に大きく開きます。 そのため、テールゲートを開くときは、上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。

ℹ テールゲートを開いたときの寸法 (▷ 328 ページ)

ℹ テールゲートのオートリバース機能に関する注意事項 (▷ 100 ページ)

テールゲートを自動的に開く

キーまたはテールゲートのハンドルで、テールゲートを自動的に開くことができます。

▶ テールゲートが開くまで、キーの [テールゲートボタン] スイッチを押して保持します。

または

▶ テールゲートが解錠されているときに、テールゲートのハンドルを引き、直ぐに放します。

テールゲートを自動的に閉じる

⚠ **警告**

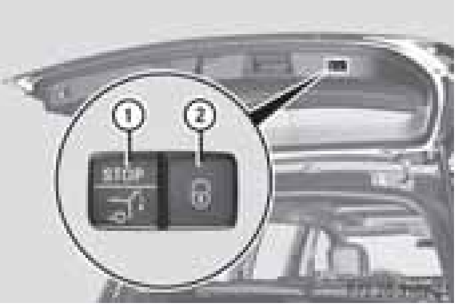
テールゲートが自動で閉じているときに、身体の一部が挟み込まれるおそれがあります。 さらに、お子様などが閉動作中に、閉じる場所に立っていたり、入り込んだりする可能性があります。 けがの危険性があります。

閉動作中は、閉じる場所に誰もいないことを確認してください。

閉動作を停止させるため、以下のオプションのうちのひとつを使用してください：

- キーの [テールゲートボタン] ボタンを押します。
- 運転席ドアのリモート操作スイッチを押します。

- テールゲートのクローズ / ロックスイッチ を押します。
- テールゲートのハンドルを引いてください。.



クローズおよびロックスイッチ (例: キーレスゴー装備車)

▶ **閉じる：** テールゲートのクローザースイッチ ① を押します。

または

▶ テールゲートが閉じるまで、キーの [テールゲートボタン] スイッチを押して保持します。

キーレスゴー装備車：テールゲートを同時に閉じて施錠することができます。

▶ テールゲートのロックスイッチ ② を押します。
キーレスゴーキーが車外で検知されると、テールゲートが閉じて施錠されます。すべてのドアが閉じており、キーがテールゲートの周辺にあることが必要です。

ℹ テールゲートを開閉するには、エンジンスイッチにキーが差し込まれていてはなりません。

テールゲートが閉じている間に障害物に接触すると、閉動作が中断され、テールゲートは再度開きます。

ℹ ラゲッジルーム内にキーレスゴーキーが検知されると、テールゲートは施錠されません。

車内からの自動開閉

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

テールゲートが自動で閉じているときに、身体の一部が挟み込まれるおそれがあります。 さらに、お子様などが閉動作中に、閉じる場所に立っていたり、入り込んだりする可能性があります。 けがの危険性があります。

閉動作中は、閉じる場所に誰もいないことを確認してください。

閉動作を停止させるため、以下のオプションのうちのひとつを使用してください：

- キーの [ボタン] ボタンを押します。
- 運転席ドアのリモート操作スイッチを押します。
- テールゲートのクローズ / ロックスイッチ を押します。
- テールゲートのハンドルを引いてください。.

! テールゲートは、上方や後方に大きく開きます。 そのため、テールゲートを開くときは、上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。

ⓘ テールゲートを開いたときの寸法 (▷ 328 ページ)

ⓘ テールゲートのオートリバース機能に関する注意事項 (▷ 100 ページ)

開閉

車両が停止していて解錠されているときに、運転席からテールゲートを開閉することができます。

▶ **開く：**テールゲートが開くまで、テールゲートのトランクスイッチ① を引きます。

▶ **閉じる：**エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします。

▶ テールゲートが閉じるまで、テールゲートのリモート操作スイッチ① を押します。

テールゲートの開口角度の設定

重要な安全上の注意事項

! 開度を設定するときは、テールゲートを全開するのに十分なスペースがあることを確認してください。 テールゲートが損傷する原因になります。 開度の設定は屋外で行なうことをお勧めします。

設定する

テールゲートの開口角度を制限することができます。開口範囲の上半分で、停止する前の約 10 cm まで可能です。

テールゲート上に十分なスペースがない場合などに役立ちます。

▶ **テールゲートを開く：** テールゲートのハンドルを引きます。

▶ **開く操作を希望の位置で中止する：** テールゲート内のクローザースイッチ (▷ 101 ページ) を押すか、テールゲート外側のハンドルを再度引きます。

▶ **位置を記憶させる：** 短い確認音が聞こえるまで、テールゲート内のクローザースイッチを押して保持します。
開口角度制限が設定されます。開いたときは、テールゲートは記憶させた位置で停止します。

解除する

▶ 2 回短い音が聞こえるまで、テールゲート内のクローザースイッチ (▷ 101 ページ) を押して保持します。

テールゲートの非常時の解錠

重要な安全上の注意事項

! テールゲートは、上方や後方に大きく開きます。 そのため、テールゲートを開くときは、上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。

ℹ テールゲートを開いたときの寸法 (▷ 328 ページ)

車外からテールゲートを開くことができなくなった場合は、テールゲート内側のエマージェンシーリリースを使用してください。

開く

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 96 ページ) 。

▶ エマージェンシーキー ② をトリム ① の開口部に差し込みます。

▶ エマージェンシーキー ② を 90° 時計回りにまわします。

▶ エマージェンシーキー ② を矢印の方向に押して、テールゲートを開きます。

▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます。

ℹ 車両を施錠したときは (▷ 99 ページ)、ラゲッジルームも施錠されます。

サイドウインドウ

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

サイドウインドウを開けているときに、サイドウインドウが動くにつれて、体の一部がサイドウインドウとドアフレームの間に引き込まれて挟まるおそれがあります。 けがをするおそれがあります。

開けている最中は、誰もサイドウインドウに触れないようにしてください。 誰かが挟まれてしまった場合は、スイッチを放すか、あるいはスイッチを引いてもう一度サイドウインドウを閉じます。

⚠ 警告

閉じる部分に身体を近づけていると、サイドウインドウを閉じる際に挟まれるおそれがあります。けがをする危険があります。

閉じる手順の間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。 誰かが挟まれたら、スイッチを放すか、あるいはスイッチを押してサイドウインドウをもう一度開きます。

⚠ 警告

とくに保護者のいない状態で子供を車内に残すと、サイドウインドウを操作して挟まれるおそれがあります。 けがをするおそれがあります。

リアサイドウインドウのチャイルドプルーフロックを作動させます。 車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。 保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

サイドウインドウのリバース機能

サイドウインドウには自動リバース機能が装備されています。閉じている動作中

に障害物がサイドウインドウに挟まれた、または動作を妨げた場合は、サイドウインドウは再度自動的に開きます。ただし、オートリバース機能は単なる補助に過ぎず、サイドウインドウを閉じるときの注意に代わるものではありません。

> ⚠ **警告**
>
> 以下のとき、リバース機能は反応しません：
>
> - 小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
> - 閉じるまで残り 4 mm 以下となったとき
> - リセット中
> - リバース機能作動のすぐあとに再度手動でサイドウインドウを閉じるとき
>
> リバース機能は、これらの状況で挟み込まれることを回避することはできません。けがの危険性があります。
>
> 閉動作の間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。挟み込まれたら、スイッチを押して、サイドウインドウを再度開きます。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- サイドウインドウの開閉
- ヒンジ式サイドウインドウの開閉
- コンビニエンスオープニング機能
- コンビニエンスクロージング機能
- サイドウインドウのリセット

サイドウインドウのトラブル

⚠ 警告

サイドウインドウをブロックされたまたはリセットされた後すぐに再度閉じる場合、サイドウインドウはより大きなまたは最大の力で閉じます。 リバース機能は作動しません。この手順のとき、身体の一部を閉じる部分に挟み込まれるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

閉じている間は、身体の一部を閉じる部分に近づけないようにしてください。閉動作を止めるには、スイッチを放すか、サイドウインドウを再度開くためにスイッチをもう一度押します。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ガイドレールなどに落ち葉などの障害物が挟まっているため、サイドウインドウが全閉しない。	▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ サイドウインドウを閉じます。
サイドウインドウが全閉しない、また原因がわからない。	サイドウインドウを閉じているとき、ウインドウが障害物を検知して停止し、その位置から少し下降した場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ その状態からただちに再度スイッチを引き続けて、サイドウインドウを閉じます。 サイドウインドウは、より強い力で閉じます。 サイドウインドウを閉じているときに、ウインドウが再度障害物を検知して停止し、その位置から少し下降した場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ その状態からただちに再度スイッチを引き続けて、サイドウインドウを閉じます。 サイドウインドウは挟み込み防止機能が作動しない状態で閉じます。

スライディングルーフ

重要な安全上の注意事項

車両には、スライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフが装備されています。この項目では、"スライディングルーフ"という言葉は、スライディングルーフの両方の種類に言及しています。

⚠ 警告

スライディングルーフを開閉するときに、ルーフの移動範囲に身体を近づけると、はさまれるおそれがあります。 けがをするおそれがあります。

開閉操作中は身体を近づけすぎないようにしてください。

はさまれた場合：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動操作中に、どの方向でもスイッチを短時間押します。

開閉手順が中断されます。

⚠ **警告**

とくに保護者のいない状態で子供を車内に残すと、スライディンググルーフを操作して挟まれるおそれがあります。けがをするおそれがあります。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

! パノラミックスライディンググルーフに雪や氷が付着した状態で操作しないでください。 スライディンググルーフが故障する原因になります。

スライディンググルーフの開口部から物を出さないようにしてください。 スライディンググルーフのシール部が損傷するおそれがあります。

ℹ スライディンググルーフが開いているときは、通常の風切り音に加えて空気の振動が発生する可能性があります。これらは、車内の圧力変動が原因で発生します。スライディンググルーフの位置を変更するか、またはサイドウインドウを少し開いてください。ノイズが減るか、またはなくなります。

スライディンググルーフのリバース機能

スライディンググルーフには自動リバース機能が装備されています。閉じている動作中に障害物がスライディンググルーフをブロックした、または妨げた場合は、スライディンググルーフは自動的に再び開きます。ただし、オートリバース機能は単なる補助にすぎず、スライディンググルーフを閉じるときの注意に代わるものではありません。

⚠ **警告**

以下のとき、リバース機能は反応しません：

- 小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
- 閉じるまで残り 4 mm 以下となったとき
- リセット中
- リバース機能作動のすぐあとに再度手動でスライディンググルーフを閉じるとき

リバース機能は、これらの状況で挟み込まれることを回避することはできません。けがの危険性があります。

閉動作の間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動閉動作中に、どの方向でもスイッチを押します。

閉動作が停止します。

スライディンググルーフの操作

開閉

オーバーヘッドコントロールパネル

① 上げる

② 開く

③ 閉じる/下げる

▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします。

▶ [ ] スイッチを対応する方向へ押すか、または引きます。

ℹ 手応えがあるところを越えるまで [ ] スイッチを押した場合は、自動開閉動作が対応する方向で開始されます。再びを押すことにより、自動作動を停止できます。

サンシェードは、スライディングルーフと連動して自動的に開きます。サンシェードは、スライディングルーフがチルトアップしているか、閉じているときに手動で開閉できます。

ℹ エンジンを停止するかキーを抜いた後も、スライディングルーフの操作を続けることができます。5 分間、運転席や助手席ドアを開くまで、この機能は作動したままになります。

レインクローズ機能

エンジンスイッチのキーが **0** の位置にあるか、または取り外されている場合は、以下のときにスライディングルーフが自動で閉じます。

- 雨が降り始めた場合
- 極端な外気温度の場合
- 6 時間経過後の場合
- 電力供給に故障がある場合

車内を換気するため、パノラミックスライディングルーフの後部がチルトアップした状態に保たれます。

ℹ レインクローズ機能により閉じられたときにスライディングルーフが妨げられた場合は、再び少し開きます。そして、レインクローズ機能が解除されます。

以下の場合は、スライディングルーフは閉じません。

- 後部が上がっている
- ブロックされた
- レインセンサーに雨滴がかからないとき (車が橋の下やカーポートに入っているときなど)

リセット

❗ リセット操作を行なっても、まだスライディングルーフが開閉しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

スライディングルーフがスムーズに作動しないときは、リセットを行なってください。

▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします。

▶ スライディングルーフの後部を完全に上げます。(▷ 107 ページ)

▶ [ ] スイッチをそのまま数秒間押し続けます。

▶ スライディングルーフが再び全開閉できることを確認します(▷ 107 ページ)。

▶ そうでない場合は、上の手順を再度繰り返してください。

パノラミックスライディングルーフの操作

開閉

ルーフオペレーティングユニット
① チルトアップ
② 開く
③ 閉じる/チルトダウン

パノラミックスライディングルーフは、電動ブラインドが開いているときにのみ操作することができます(▷ 110 ページ)。

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ [ ] スイッチを対応する方向へ押すか、または引きます。

ℹ [ ] スイッチを抵抗があるところを越えて押すと、自動開閉動作が対応する方向で開始されます。再度を押すと、自動動作を停止できます。

スライディングルーフが閉じているときのみ、自動で開く機能を使用できます。

レインクローズ機能

エンジンスイッチのキーが **0** の位置にある場合、またはそれが抜かれている場合は、パノラミックスライディングルーフが自動的に閉じます。

- 雨が降り始めたとき
- 外気温度が極端に高い、または低いとき
- 約 6 時間が経過したとき
- バッテリー電圧が低下したとき

車内を換気するため、スライディングルーフはチルトアップした状態で維持されます。

ℹ レインクローズ機能でパノラミックスライディングルーフが閉じている途中で遮られると、再度少し開きます。そして、レインクローズ機能が解除されます。

以下のときは、パノラミックスライディングルーフは閉じません。

- スライディングルーフをチルトアップしているとき
- 障害になる物が挟まっているとき
- レインセンサーに雨滴がかからないとき（車が橋の下やカーポートに入っているときなど）

パノラミックスライディングルーフの電動ブラインドの操作

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

電動ブラインドの開閉時、身体の一部が電動ブラインドとフレームまたはスライディングルーフ間に挟み込まれるおそれがあります。 けがの危険性があります。

開閉動作の間は、身体を電動ブラインドの動いている部分に近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動開閉動作中に、どの方向でもスイッチを押します。

開閉動作が停止します。

電動ブラインドは日射しから車内を守ります。パノラミックスライディングルーフが閉じているときにのみ、電動ブラインドを一緒に開閉することができます。

電動ブラインドのリバース機能

電動ブラインドには、オートリバース機能が装備されています。閉じる動作中に障害物が電動ブラインドをブロックした、または制限した場合、電動ブラインドは自動的に再度開きます。ただし、オートリバース機能は補助に過ぎず、電動ブラインドを閉じるときの注意に代わるものではありません。

⚠ **警告**

特に、リバース機能は小さな指のように柔らかい、軽いおよび薄いものには反応しません。リバース機能は、これらの状況で挟み込まれることを回避することはできません。けがの危険性があります。

閉じている間は、身体の一部を電動ブラインドの動いている範囲内に近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動閉動作中に、どの方向でもスイッチを押します。

閉動作が停止します。

電動ブラインドの開閉

オーバーヘッドコントロールパネル
① 開く
② 開く
③ 閉じる

▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします。

▶ [□] スイッチを対応する方向へ押すか、または引きます。

ℹ [□] スイッチを抵抗があるところを越えて押すと、対応する方向で自動開閉動作が開始されます。再度を押すと、自動動作を停止できます。

パノラミックスライディングルーフと電動ブラインドのリセット

! リセット後にパノラミックスライディングルーフおよび電動ブラインドが完全に開かない、または閉じない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡下さい。

パノラミックスライディングルーフや電動ブラインドがスムーズに作動しない場合は、パノラミックスライディングルーフや電動ブラインドをリセットしてください。

▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします。

▶ パノラミックスライディングルーフが完全に閉じるまで、[□] スイッチを矢印 ③ の方向に抵抗があるところまで繰り返し引きます。

▶ [□] スイッチを引いたまま数秒間保持します。

▶ 電動ブラインドが完全に閉じるまで、[□] スイッチを矢印 ③ の方向に抵抗があるところまで繰り返して引きます。

▶ [□] スイッチを引いたまま数秒間保持します。

▶ パノラミックスライディングルーフ (▷ 109 ページ) および電動ブラインド (▷ 110 ページ) が再度完全に開くことができることを確認します。

▶ そうでない場合は、再度リセット操作を行なってください。

スライディングルーフのトラブル

車両には、スライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフが装備されています。この項目では、"スライディングルーフ"という言葉は、スライディングルーフの両方の種類に言及しています。

⚠ **警告**

スライディングルーフをブロックされたまたはリセットされた後すぐに再度閉じる場合、スライディングルーフはより大きなまたは最大の力で閉じます。 リバース機能は作動しません。 この手順のとき、身体を閉じる部分に挟み込まれるおそれがあります。 これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

閉動作の間は、身体を閉じる部分に近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動開閉動作中に、どの方向でもよいのでスイッチを押します。

閉動作が停止します。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
スライディングルーフを閉じることができず、原因が分からない。	スライディングルーフが閉じているときに挟み込みの抵抗を検知したため停止し、その位置から少し開いた場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ スライディングルーフがブロックされたらただちに、スライディングルーフが閉じるまでオーバーヘッドコンソールの ▭ スイッチを抵抗があるところまで引き下げて保持します。 スライディングルーフは、より強い力で閉じます。 スライディングルーフが再度抵抗を挟み込みの検知したため停止し、その位置から少し開いた場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ スライディングルーフがブロックされたらただちに、スライディングルーフが閉じるまでオーバーヘッドコンソールの ▭ スイッチを抵抗があるところまで引き下げて保持します。 挟み込み防止機能が作動しない状態でスライディングルーフが閉じます。

ℹ スライディングルーフのオートリバース機能に関する情報は (▷ 107 ページ) を参照してください。

役に立つ情報 114
運転席の適切なシートポジション
.... 114
シート 115
ステアリング 117
ミラー 118
メモリー機能 118

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 32 ページ)

運転席の適切なシートポジション

⚠ **警告**

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。

▶ シート調整に関する安全上のガイドラインを守ってください。(▷ 115 ページ)

▶ シート ③ が正しく調整されていることを確認してください。

パワーシートの調整 (▷ 116 ページ)

シートを調整するときは、以下を確認してください：

- 運転席エアバッグからできるだけ離れている。
- 通常の起こした位置で着座している。
- シートベルトを正しく着用できる。
- ほぼ垂直の位置になるようにバックレストを調整している。
- 大腿部が軽く支えられるようにシートの角度を調整している。
- ペダルを正しく踏むことができる。

▶ ヘッドレストが適切に調整されていることを確認してください。

そのときは、ヘッドレストの中央部によって、後頭部が目の高さで支えられていることを確認してください。同様に、後頭部がヘッドレストとできるだけ近くにあり、ヘッドレストに支えられていることを確認してください。

▶ ステアリング調整に関する安全上のガイドラインを守ってください。(▷ 117 ページ)

▶ ステアリング ① が正しく調整されていることを確認してください。

手動調整式ステアリングの調整 (▷ 117 ページ)

電動調整式ステアリングの調整 (▷ 117 ページ)

ステアリングを調整するときは、以下を確認してください。

- 腕に適度な余裕があるまま、ステアリングを握ることができる。
- 足を自由に動かすことができる。
- メーターパネル内のすべての表示が確認できる。

▶ シートベルトに関する安全上のガイドラインを守ってください(▷ 50 ページ)。

▶ シートベルト ② を正しく着用しているかどうかを確認します(▷ 52 ページ)。

シートベルトは、以下のように着用してください。

- 身体に密着させる。
- 肩の中央をにかかるように通っている。
- 骨盤部分の腰にかかるように通っている。

▶ 走行する前に、ルームミラーとドアミラーを道路と交通状況がよく見える角度に調整してください (▷ 118 ページ)。

▶ **メモリー機能装備車：**メモリー機能を使用してシート、ステアリング、ドアミラーの設定を保存します (▷ 118 ページ)。

シート

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

保護者のいない状態で、お子様がシートを調整すると、挟み込まれる可能性があります。 けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

⚠ **警告**

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。

⚠ **警告**

シートの高さは慎重に調整しないと、挟み込まれて負傷するおそれがあります。とくに子供は、電動シート調整スイッチを誤って押してしまい、挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

シートが動いている間は、シート調整システムのレバー部品の下に手や身体などを入れないでください。

⚠ **警告**

シートを調整するとき、シートガイドレールなどに挟み込まれるおそれがあります。 けがの危険性があります。

シートを調整する場合、身体がシートの動いている部分に触れていないということを確認してください。

⚠ **警告**

ヘッドレストが合っておらず、正しく調整されていない場合、本来の機能を果たすことができなくなります。 これにより、事故またはブレーキ作動時に頭部および首周りにけがをする危険性が高まります。

必ずヘッドレストを取り付けた状態で走行してください。 走行を開始する前に、ヘッドレストの中央が乗員の目の高さにあることを確認してください。

⚠ **警告**

バックレストをほぼ垂直の位置に動かしていない場合は、シートベルトは意図さ

れた保護レベルを発揮しません。ブレーキ時または事故の場合に、シートベルトの下側にもぐり込み、腹部または頸部などがけがを負うおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

走行を開始する前に、シートを正しい位置に調整してください。バックレストがほぼ垂直の位置にあり、シートベルトのショルダー部分が肩の中央にかかっていることを常に確認してください。

! シートとシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。
- シートカバーが濡れたときは、シートヒーターを使用しないでください。シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートカバーを清掃してください。"日常の手入れ"をご覧ください。
- シートの上に重い物を載せないでください。 また、シートクッションの上にナイフやくぎ、工具などの鋭利な物を置かないでください。 シートはできるだけ人を乗せるためだけに使用してください。
- シートヒーターの使用中は、ブランケットやコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシート、補助シートなどにより、シートを覆わないでください。

! シートの前後位置を調整するときは、足元やシートの下または後方に物がないことを確認してください。 シートや物を損傷するおそれがあります。

ℹ ヘッドレストはフロントシートから取り外すことはできません。ただし、リアコンパートメントのヘッドレストは取り外せます。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

ℹ その他の関連事項：

- エアバッグに関する重要な安全上の注意 (▷ 54 ページ)
- ラゲッジルームの拡大（リアシートを倒す） (▷ 256 ページ)
- 子供を乗せるときの保護 (▷ 61 ページ)

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- シートの調整
- ヘッドレストの調整
- リアシートの調整 (2 列目 および 3 列目シート)
- マルチコントロールシートバックの調整
- 電動ランバーサポートの調整
- シートベンチレーターの作動 / 停止の切り替え

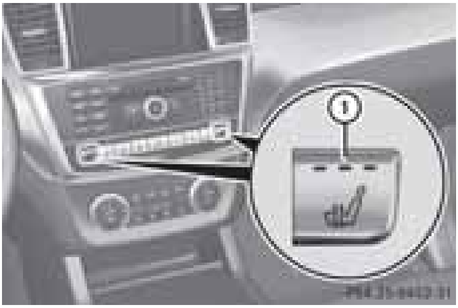
シートヒーターの作動/停止

作動/停止

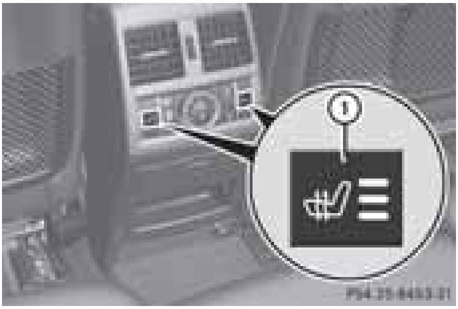
⚠ **警告**

シートヒーターを連続して使用すると、シートクッションおよびバックレストが異常に過熱する原因となります。 高温により、温度変化を感知できにくい乗員や、異常な高温に対処できない乗員の健康に悪影響を与えたり、低温火傷を起こすおそれがあります。 けがの危険性があります。

したがって、シートヒーターを連続して使用しないでください。



運転席および助手席シート



リアシート

スイッチの 3 つの赤い表示灯は、選択したヒーターレベルを表します。

約 8 分後に、レベル **3** からレベル **2** へ、システムが自動的に切り替わります。

約 10 分後に、レベル **2** からレベル **1** へ、システムが自動的に切り替わります。

レベル **1** に設定した約 35 分後に、システムが自動的にオフにします。

▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします(▷ 141 ページ)。

▶ **作動させる：**希望のヒーターレベルに設定されるまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

▶ **停止する：**すべての表示灯が消灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

ⓘ バッテリー電圧が非常に低下した場合は、シートヒーターが停止することがあります。

シートヒーターのトラブル

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

ステアリング

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。

⚠ **警告**

子供がステアリングを調整するとステアリングに挟まれる可能性があります。けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- ステアリングの調整
- ステアリングヒーター
- イージーエントリー機能

ミラー

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ルームミラー
- ドアミラー
- 自動防眩ルームミラー＆ドアミラー（運転席側）
- 助手席側ドアミラーの駐車時の位置

メモリー機能

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- メモリーの設定
- 記憶した位置を呼び出す

役に立つ情報 120
車外ライト 120
ルームライト 125
電球の交換 125
フロントワイパー 129

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 32 ページ)

車外ライト

全体的な注意事項

日中にライトなしで走行したい場合は、マルチファンクションディスプレイで"デイタイムドライビングライト"機能をオフにしてください (▷ 205 ページ)。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

• 非常点滅灯
• ヘッドライトウォッシャー
• ヘッドライト内側の曇り

車外ライトの設定

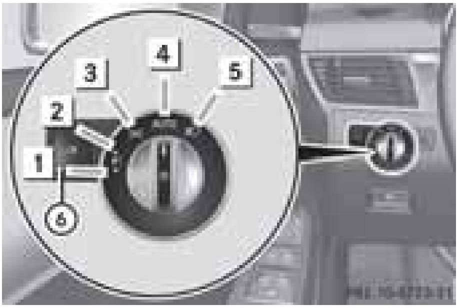
設定方法

ライトは以下を操作して設定できます。

• ライトスイッチ
• コンビネーションスイッチ (▷ 122 ページ)
• マルチファンクションディスプレイ

ライトスイッチ

操作



1 左側パーキングランプ
2 右側パーキングランプ
3 車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明
4 AUTO ヘッドライトのオートモード、ライトセンサーによる制御
5 ロービーム/ハイビームヘッドライト
⑥ リアフォグランプ

車両から離れるときに警告音が鳴る場合は、ライトが点灯していることがあります。

▶ ライトスイッチを AUTO にまわします。

車外ライト (車幅灯/パーキングランプを除く) は、以下の操作を行なうと自動的に消灯します。

• エンジンスイッチからキーを抜く
• キーが 0 の位置のときに運転席ドアを開く

ヘッドライトのオートモード

⚠ 警告

ライトスイッチを AUTO に設定しているときは、霧、雪、または霧雨のような天候状態のために視界を悪くする他の原因がある場合は、ロービームヘッドライトが自動的にオンにならないことがあります。事故の危険性があります。

このような状況のときは、ライトスイッチを にまわします。

ライトのオートモード機能は単なる支援にすぎません。車両の照明に関する責任は、常に運転者にあります。

通常は、ライトスイッチを AUTO に設定することをお勧めします。ライト設定は、周囲の明るさに応じて以下のように自動的に選択されます (例外：霧、雪、霧雨などの天候による視界不良の場合) 。

- エンジンスイッチのキーが **1** の位置のとき：周囲の明るさに応じて車幅灯が自動的に点灯または消灯します。
- エンジンがかかっているとき：マルチファンクションディスプレイでデイタイムドライビングライト機能を設定している場合は、デイタイムドライビングライトまたは車幅灯およびロービームヘッドライトが周囲の明るさの明るさ度合いよって自動的に点灯または消灯に切り替わります。

▶ **ヘッドライトのオートモードを点灯する：** ライトスイッチを AUTO にまわします。

ロービームヘッドライトがオンのときは、メーターパネルの緑色の表示灯 が点灯します。

ロービームヘッドライト

⚠ **警告**
ライトスイッチを AUTO に設定しているときは、霧、雪、または霧雨のような天候状態のために視界を悪くする他の原因がある場合は、ロービームヘッドライトが自動的にオンにならないことがあります。事故の危険性があります。
このような状況のときは、ライトスイッチを にまわします。

イグニッションがオンで、ライトスイッチが の位置にあるときは、周囲の明るさの状況が暗いことをライトセンサーが検知していなくても、車幅灯とロービームヘッドライトが点灯します。これは、霧や雨のときに便利です。

▶ **ロービームヘッドライトを点灯する：** エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわすか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを にまわします。
メーターパネルの緑色の表示灯 が点灯します。

リアフォグランプ

リアフォグランプは、濃霧の交通でのお客様の車両の被視認性を改善します。リアフォグランプの使用に関する、国ごとに規定された法律を遵守してください。

▶ **リアフォグランプを点灯する：** エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわすか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを または AUTO にまわします。

▶ スイッチを押します。
メーターパネルの黄色の表示灯 が点灯します。

▶ **リアフォグランプを消灯する：** スイッチを押します。
メーターパネルの黄色の表示灯 が消灯します。

車幅灯

! バッテリーが過放電すると、次回のエンジン始動を可能にするために、車幅灯またはパーキングランプが自動的に消灯します。法的基準にしたがって車両を安全で十分な明るさのところに常に駐車してください。車幅灯 を何時間も連続してご使用にならないでください。可能であれば、 右側または 左側パーキングランプを点灯してください。

▶ **点灯する：** ライトスイッチを [symbol] にまわします。
メーターパネルの緑色の表示灯 [symbol] が点灯します。

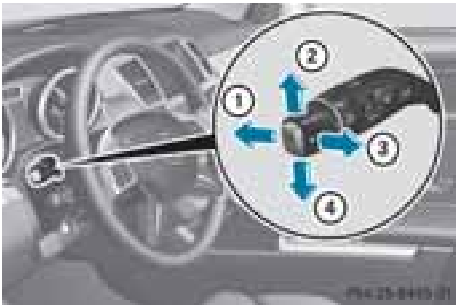
パーキングランプ

パーキングランプを点灯すると、車両の対応する側が点灯します。

▶ **パーキングランプを点灯する：** キーがエンジンスイッチにないか、または **0** の位置になっています。

▶ ライトスイッチを [symbol] (車両の左側) または [symbol] (車両の右側) にまわします。

コンビネーションスイッチ



① ハイビームヘッドライト
② 右側の方向指示灯
③ パッシングライト
④ 左側の方向指示灯

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 方向指示灯
- ハイビームヘッドライト
- パッシングライト

インテリジェントライトシステム

全体的な注意事項

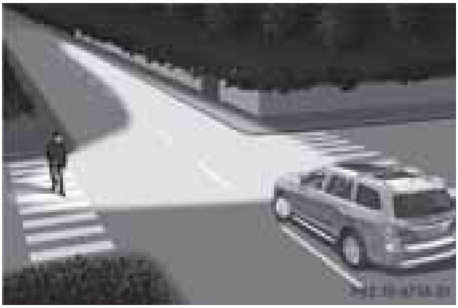
インテリジェントライトシステムは、実際の走行や天候状況に合わせてヘッドライトを自動的に調整するシステムです。車両速度や天候状況などに応じて路面の照射を向上させる最新機能を提供します。システムには、アクティブライトシステムやコーナリングライト、ハイウェイモード、フォグランプ強化機能が含まれます。 システムは周囲が暗いときのみ作動します。
マルチファンクションディスプレイを使用して"インテリジェントライトシステム"を作動させたり解除したりできます。

アクティブライトシステム

アクティブライトシステムは、前輪のステアリングの動きに合わせて、ヘッドライトを動かすシステムです。 このようにして、走行中は対応する範囲が照射されたままになります。 歩行者、サイクリスト、動物などを認識できます。

以下のときに作動します： ヘッドライトが点灯しているとき。

コーナリングライト



コーナリングライトは、コーナリング時に進行方向の路面を広く照射し、夜間の交差点などで運転者の視界を向上させます。ロービームヘッドライトが点灯しているときのみ、作動します。

作動：

- 40km/h 以下の速度で走行していて、方向指示灯を作動させた、またはステアリングをまわした場合
- 40km/h～70km/h の間の速度で走行していて、ステアリングをまわした場合

コーナリングライトは短時間点灯し続けますが、約 3 分後に自動的に消灯します。

ハイウェイモード

ハイウェイモードでは、ヘッドライトの照射範囲が拡大されます。

作動： 110 km/h 以上の速度で走行していて、少なくとも 1,000 m なんらかの大きなステアリングの動きがない場合、または 130 km/h 以上の速度で走行している場合。

上記はライトの機能の説明です。走行するときは必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

解除： 作動後に、80 km/h 以下の速度で走行した場合。

フォグランプ強化機能

フォグランプ強化機能は運転者の眩しさを軽減し、道路の端の照射を向上させます。

作動： 70 km/h 以下の速度で走行していて、リアフォグランプを点灯した場合

非作動： 作動後に 100 km/h 以上の速度で走行した場合、またはリアフォグランプを消灯した場合

上記はライトの機能の説明です。走行するときは必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

オフロードライト

オフロードライトは、オフロード走行中にロービームヘッドライトから左右対称で、広い幅でさらに明るい光が照射されることにより被写体/障害物をすばやく認識する手助けをします。

以下のときに作動します： 50 km/h 以下の速度で走行中にオフロードプログラム選択ダイヤルが 1 または 2 の位置にあるとき

以下のときに非作動になります：
50 km/h 以上の速度で走行しているとき

オフロードライトが点灯しているとき、コーナリングライト機能は常に作動、アクティブライト機能は作動停止、ヘッドライト光軸コントロールは静止モードにセットされています。

アダプティブハイビームアシスト

全体的な注意事項

この機能を設定すると、ヘッドライトのハイビームとロービームを自動的に切り替えることができます。ライトを点灯している対向車両または先行車両をシステムが検知した場合は、ヘッドライトをハイビームからロービームに切り替えます。

このシステムは、他車との車間距離に応じてロービームヘッドライトの照射範囲を自動調整します。他車が検知されなくなると、システムは再びハイビームヘッドライトに切り替えます。

システムの照度センサーは、フロントウインドウ裏側のオーバーヘッドコントロールパネル付近に装着されています。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

アダプティブハイビームアシストは、以下の道路利用者には反応しません。

- 歩行者などライトを持っていない
- 自転車にライトが装着されていても、ライトが暗い
- ガードレールの後ろにいるなど、道路使用者のライトが遮られている

まれに、アダプティブハイビームアシストはライトをもっている道路使用者をまったく検知しなかったり、検知が遅れたりします。 このような場合は、ハイビームヘッドライトが自動で切り替わらなかったり、他の道路使用者がいるときに不意に切り替わる場合があります。 事故の危険性があります。

道路や交通事情に常に注意して、適切なタイミングでハイビームヘッドライトをオフにしてください。

アダプティブハイビームアシストは、道路、天候または交通状況を考慮に入れることはできません。アダプティブハイビームアシストは単なる支援にすぎません。運転者には、そのときの明るさ、視界および交通状況に応じて、車両のライトを調整する責任があります。

特に以下の状況では、障害物の検知が困難になります。

- 霧や激しい雨、雪などで視界が悪い
- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている

アダプティブハイビームアシストの作動

▶ **作動させる：** ライトスイッチを AUTO にまわします。

▶ 手応えのあるところを越えるまで、コンビネーションスイッチを矢印の方向 ① に押します。

周囲が暗く、ライトセンサーがロービームヘッドライトを作動させたときは、マルチファンクションディスプレイの表示灯 が点灯します。

25 km/h 以上の速度で走行している場合：

ヘッドライトの照射範囲は、他の車両や他の道路使用者との距離に応じて自動的に設定されます。

約 30 km/h 以上の速度で走行していて、他の道路使用者が検知されていない場合：

自動的にハイビームヘッドライトが点灯します。メーターパネルの表示灯 も点灯します。

25 km/h 以下の速度で走行しているか、または他の道路使用者が検知されている、または道路が十分に照らされている場合：

自動的にハイビームヘッドライトが消灯します。メーターパネルの表示灯 が消灯します。マルチファンクションディスプレイの表示灯 は点灯したままになります。

▶ **停止する：**コンビネーションスイッチを通常の位置に戻す、またはライトスイッチを他の位置に動かします。

マルチファンクションディスプレイの表示灯 は消灯します。

ルームライト

ルームライトとルーフオペレーティングユニットの概要は"はじめに"をご覧ください。

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- ルームライトの自動点灯
- ルームライトの手動点灯
- 緊急時点灯機能

電球の交換

重要な安全上の注意事項

⚠ 危険

キセノンバルブには高電圧が発生しています。キセノンバルブのカバーを取外し、電気端子に触れると、感電するおそれがあります。 致命的なけがをするおそれがあります。

決して、キセノンバルブの構成部品や電気端子に触れないでください。 キセノンバルブに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

キセノンライトが装備されているときは、以下のように確認することができます。エンジンを始動したときに、キセノンライトからの光の軸が上から下に動き、元に戻ります。この動きを確認するには、エンジンを始動する前にヘッドライトを点灯させなければなりません。

⚠ 警告

作動時、電球、ランプおよびコネクターは非常に熱くなります。 電球を交換するとき、これらの構成部品を触れると火傷するおそれがあります。 けがの危険性があります。

電球を交換する前に、これらの構成部品を冷ましてください。

落ちた、またはガラス管に引っかき傷がある電球は使用しないでください。

以下のとき、電球が破裂するおそれがあります。

- 触れたとき
- 温度が高いとき
- 落としたとき
- 引っかいたとき

この用途のために設計された放電管の電球のみを使用してください。同一種類のスペア電球および正しい電圧でのみ取り付けてください。

ガラス管上に付いた痕は、電球の寿命を短くします。ガラス管を素手で触らないでください。必要に応じて、冷えているときにガラス管をアルコールで清掃し、毛羽立ちのない布でふき取ります。

点灯している間、電球を水分から保護してください。電球に液体が浸入しないようにしてください。

キセノン電球以外にもご自身で交換できない電球があります。挙げられてる電球のみを交換してください (▷ 126 ページ)。お客様自身で交換できない電球は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

電球交換の支援が必要なときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

新しい電球が点灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

電球やライトは、車両の安全性の重要な装備です。そのため、これらの機能が正常であることを常に確認してください。ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

電球交換の概要 - 電球

以下の電球を交換できます。電球の種類の詳細は凡例をご覧ください。

ハロゲンヘッドライト

① ロービームヘッドライト：H7 55 W
② ハイビームヘッドライト：H7 55 W
③ 車幅灯/パーキングランプ：W 5 W BV

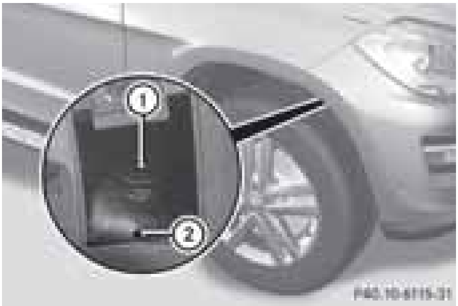
テールライト

① ブレーキランプ：P 21 W-L

フロントの電球交換

フロントホイールアーチのカバー取付け/取外し

フロントの電球を交換する前に、前輪のハウジングからカバーを取り外してください。

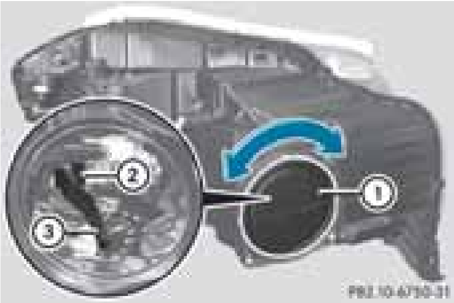


- **取り外し：** ライトスイッチをオフにします。
- 前輪を内側にまわします。
- 適切なツールを使用して、固定用ピン ② を取り外します。
- カバー ① を上にずらし、取外します。
- **取り付け：**カバー ① を再び差し込み、かみ合うまで下にずらします。
- 固定用ピン ② を差し込みます。

ロービームヘッドライト （ハロゲンヘッドランプ）

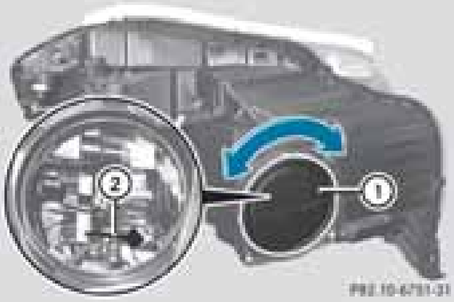
- フロントホイールアーチのカバーを取り外します(▷ 126 ページ)。
- ハウジングカバー ① を反時計回りにまわして引き出します。
- ソケット ② を反時計回りにまわして引き抜きます。
- ソケット ② から電球を抜き取ります。
- 新しい電球をソケット ②に差し込みます。
- ソケット ② をランプに差し込み、時計回りにまわします。
- ハウジングカバー ① の位置を合わせ、時計回りにまわしてロックさせせます。
- フロントホイールアーチのカバーを交換します (▷ 126 ページ)。

ハイビームヘッドライト（ハロゲンヘッドライト）



- ライトを消灯します。
- ボンネットを開きます。
- ハウジングカバー ① を反時計回りにまわして引き出します。
- レバー ③ を上方に引き、ソケット ② を取り外します。
- ソケット ② から電球を取り外します。
- 新しい電球をソケット ② に差し込みます。
- 同時にソケット ② を押して、レバー ③ を下方に引きます。
- ハウジングカバー ① の位置を合わせ、時計回りにまわしてロックさせせます。

車幅灯/パーキングランプ（ハロゲンヘッドランプ）



- ライトを消灯します。
- ボンネットを開きます。
- ハウジングカバー ① を反時計回りにまわして引き出します。
- ソケット ② を引き抜きます。
- ソケット ② から電球を取り外します。
- 新しい電球をソケット ② に差し込みます。
- ソケット ② を差し込みます。
- ハウジングカバー ① の位置を合わせ、時計回りにまわしてロックさせせます。

リアの電球交換

メンテナンスフラップの開閉

左側のメンテナンスフラップ

右側のメンテナンスフラップ

ブレーキランプの電球を交換する前に、ラゲッジルーム内のメンテナンスフラップを開く必要があります。

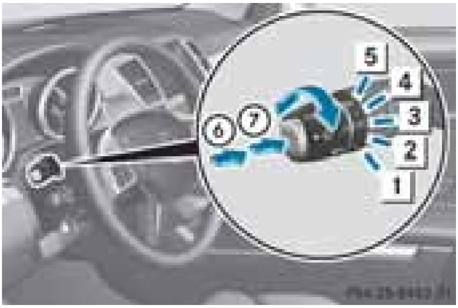
- **開く：**メンテナンスフラップ ① の上部を解除し、ドライバーなどを使用して下方の矢印方向に下げます。
- 右側：先に救急セットを取り除き、ラゲッジネットを下方に引きます。
- **閉じる：** メンテナンスフラップ ① を再びはめます。

ブレーキライト

▶ ライトを消灯します。
▶ ラゲッジルームを開きます。
▶ メンテナンスフラップを開きます。
(▷ 128 ページ)
▶ ソケット ① を反時計回りにまわして取り外します。
▶ ソケット ① から電球を抜き取ります。
▶ 新しい電球をソケット ①に差し込みます。
▶ ソケット ① をランプに差し込み、時計回りにまわします。
▶ メインテナンスフラップを閉めます。
(▷ 128 ページ)

フロントワイパー

ワイパーの作動/停止の切り替え

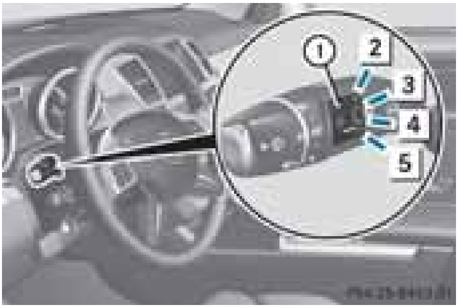


コンビネーションスイッチ

1 [0] ワイパーの停止
2 [•••] 間欠拭き取り、低速（レインセンサーは低感度に設定）
3 [••••] 間欠拭き取り、高速（レインセンサーは高感度に設定）
4 [—] 連続拭き取り、低速
5 [═] 連続拭き取り、高速
⑥ 1 回の拭き取り
⑦ ウォッシャー液を使用しての拭き取り

ワイパーブレードが摩耗した場合は、フロントウインドウは十分に拭き取られなくなります。交通状況への注意を妨げるおそれがあります。

リアワイパーの作動/停止の切り替え



コンビネーションスイッチ

① リアワイパースイッチ
2 ウォッシャー液を使用しての拭き取り
3 I 間欠ワイパーをオンにする
4 0 間欠ワイパーをオフにする
5 ウォッシャー液を使用しての拭き取り

ワイパーブレードの交換

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

ワイパーブレードを交換中にワイパーが動き出した場合、ワイパーアームに挟まれるおそれがあります。 けがの危険性があります。

ワイパーブレードを交換する前に、ワイパーおよびイグニッションのスイッチを必ずオフにしてください。

! ワイパーアームがフロントウインドウ/リアウインドウから離れて倒れている場合は、ボンネット/テールゲートを決して開かないでください。

ワイパーブレードのないワイパーアームをフロントウインドウまたはリアウインドウの元の位置に決して戻さないでください。

ワイパーブレードを交換するときは、フロントウインドウのワイパーアームを確実に持ってください。 ワイパーブレードのないワイパーアームを放し、フロントウインドウ/リアウインドウの上に落ちた場合は、フロントウインドウ/リアウインドウが衝撃の力で損傷するおそれがあります。

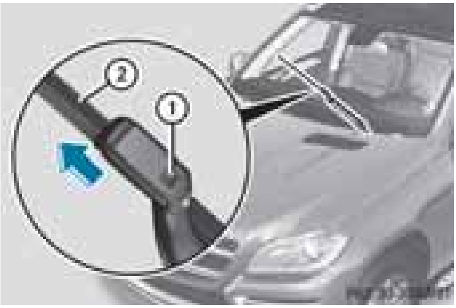
メルセデス・ベンツはワイパーブレードの交換をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

! ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーアーム以外には触れないようにしてください。

フロントウインドウのワイパーブレードの交換

ワイパーブレードを取り外す

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
▶ ワイパーアームをフロントウインドウから起こします。



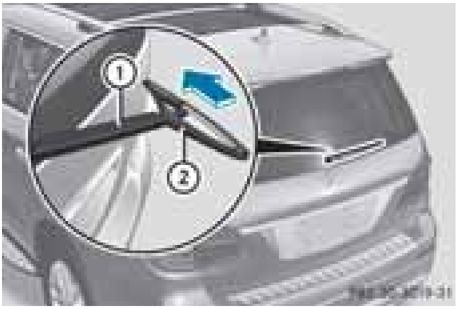
▶ 解除ノブ ① をしっかりと押し、ワイパーブレード ② をワイパーアームから矢印の方向に引き上げます。

ワイパーブレードを取り付ける

- 新しいワイパーブレード ① をワイパーアームの固定部に合わせ、矢印 の方向へ所定の位置にスライドさせせます。ワイパーブレードを音が聞こえるまでかみ合わせます。
- ワイパーブレードが確実に固定されたことを確認します。
- ワイパーアームをウインドウの元の位置に戻します。

リアワイパーブレードの交換

ワイパーブレードを取り外す



- エンジンスイッチからキーを抜きます。
- 固定されるまでワイパーアーム ① をリアウインドウから起こします。
- ワイパーブレード ② を、ワイパーアーム ① に対して直角の位置にします。
- ワイパーアーム ① を持ち、解除されるまでワイパーブレード ② を矢印の方向に押します。
- ワイパーブレード ② を取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

- 新しいワイパーブレード ② をワイパーアーム ① に合わせます。
- ワイパーアーム ① を持ち、固定されるまでワイパーブレード ② を矢印と反対の方向に押します。
- ワイパーブレード ② が正しい位置にあることを確認します。
- ワイパーブレード ② をワイパーアーム ① と平行の位置にします。
- ワイパーアーム ① をリアウインドウの元の位置に戻します。

ワイパーのトラブル

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

役に立つ情報 134
エアコンディショナーシステムの概要 134
エアコンディショナーシステムの操作 137

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 32 ページ)

エアコンディショナーシステムの概要

全体的な注意事項

以下のページで推奨されている設定に従ってください。ウインドウが曇るおそれがあります。

ウインドウを曇りから防ぐためには：

- エアコンディショナーを短時間のみ停止してください
- 内気循環モードを短時間のみ作動させてください
- AC モードを作動させてください
- 必要な場合は、"フロントウインドウデフロスター"機能を短時間作動させてください

エアコンディショナーは温度と車内の湿度を調整して、空気中の汚染物質をフィルターにかけます。

エアコンディショナーは、エンジンが作動しているときにのみ作動します。サイドウインドウおよびルーフが閉じているときにのみ、最適に作動します。

余熱ヒーター機能は、イグニッションがオフのときにのみ作動または停止することができます。キーワード"余熱ヒーター"で、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

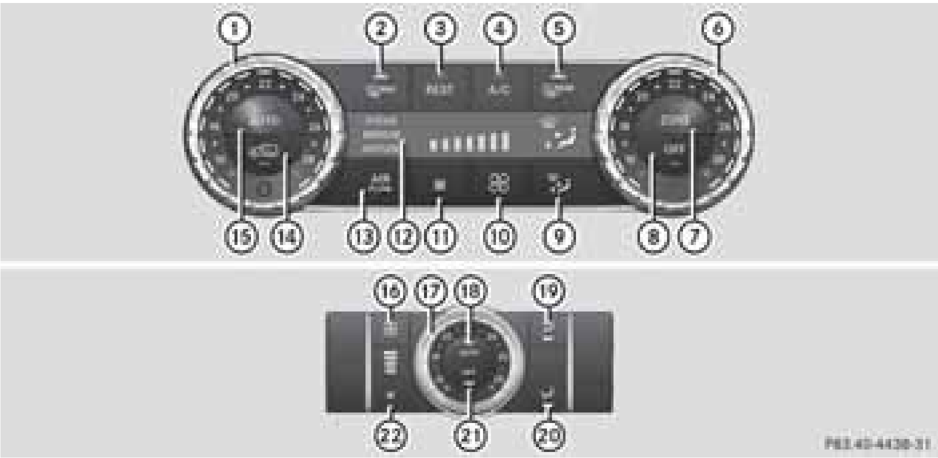
i 暖かい気候の間は、例えばコンビニエンスオープニング機能を使用して少しの間車両を換気します。

これにより、冷却処理が速くなり、より速く希望の車内温度に達します。

i 内蔵フィルターによりほこりや煤煙の大部分の粒子や、花粉の大部分をろ過することができます。気体状の汚染物質および臭いも減少させます。詰まったフィルターは車内に供給される空気の量を減らします。このため、整備手帳で規定されているフィルターの交換間隔に必ず従ってください。重度の大気汚染などの環境状況に左右されるため、間隔は整備手帳に記載されているものより短くなることがあります。

i オートエアコンディショナーを乾燥させるために、キーを抜いてから 1 時間は、余熱ヒーター機能が自動的に作動する可能性があります。その後、車両は約 30 分間換気を行います。

マルチゾーンクライメートコントロール（前後左右独立調整）のコントロールパネル



フロントコントロールパネル

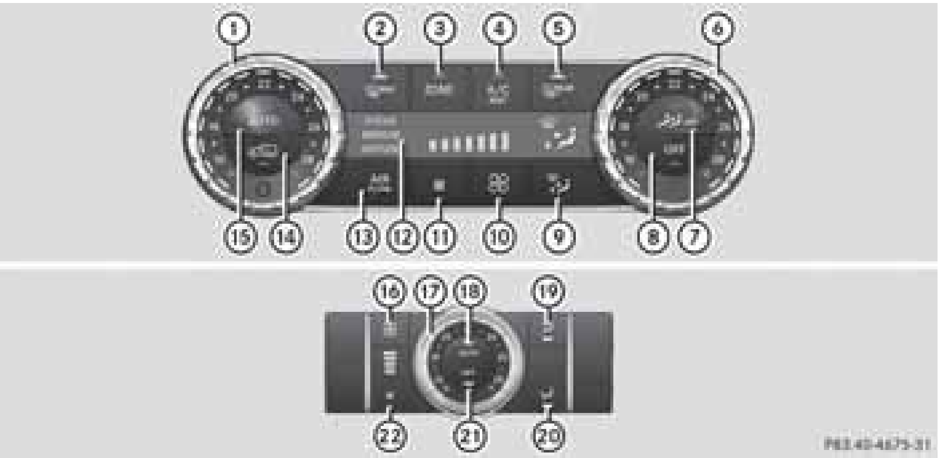
① 温度の設定、左
② フロントウインドウの曇り取り
③ 余熱ヒーター機能の作動/停止
④ AC モードの作動/停止
⑤ リアデフォッガーの作動/停止の切り替え
⑥ 温度の設定、右
⑦ ゾーン機能の作動/停止の切り替え
⑧ エアコンディショナーの作動/停止の切り替え
⑨ 送風口の設定
⑩ 送風量を上げる
⑪ 送風量を下げる
⑫ ディスプレイ
⑬ エアコンディショナーモードの設定
⑭ 内気循環モードの設定/解除
⑮ エアコンディショナーを AUTO モードに設定

リアコントロールパネル

⑯ 送風量を上げる
⑰ 温度の設定
⑱ 後席のエアコンディショナーの自動制御
⑲ リアの送風口から送風

⑳ 足元の送風口から送風
㉑ 後席のエアコンディショナーのオン/オフの切り替え
㉒ 送風量を下げる

後席エアコンディショナーを含むマルチゾーンクライメートコントロール（前後左右独立調整）のコントロールパネル



フロントコントロールパネル

① 温度の設定、左
② フロントウインドウの曇り取り
③ ゾーン機能の作動/停止の切り替え
④ AC モードの作動/停止
余熱ヒーター機能の作動/停止
⑤ リアデフォッガーの作動/停止の切り替え
⑥ 温度の設定、右
⑦ 後席のエアコンディショナーのオン/オフの切り替え
⑧ エアコンディショナーの作動/停止の切り替え
⑨ 送風口の設定
⑩ 送風量を上げる
⑪ 送風量を下げる
⑫ ディスプレイ
⑬ エアコンディショナーモードの設定
⑭ 内気循環モードの設定/解除
⑮ エアコンディショナーを AUTO モードに設定

リアコントロールパネル

⑯ 送風量を上げる
⑰ 温度の設定
⑱ 後席のエアコンディショナーの自動制御
⑲ リアの送風口から送風
⑳ 足元の送風口から送風
㉑ 後席のエアコンディショナーのオン/オフの切り替え
㉒ 送風量を下げる

エアコンディショナーシステムの操作

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- エアコンディショナーの作動/停止の切り替え
- AC モードの作動/停止
- エアコンディショナーをオートモードに設定する
- エアコンディショナーモードの設定
- 温度の設定
- 送風配分の設定
- 送風量の設定
- ゾーン機能の作動/停止の切り替え
- フロントウインドウの曇り取り
- ウインドウの曇り取り
- リアデフォッガーの作動/停止の切り替え
- 内気循環モードの作動/停止
- 内気循環スイッチを使用してのコンビニエンスオープニング/クロージング
- 余熱ヒーター機能の作動/停止
- 送風口の調整

役に立つ情報 140
慣らし運転の注意事項 140
走行 140
オートマチックトランスミッション 146
給油 149
駐車 155
運転のヒント 157
走行システム 161

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 32 ページ)

慣らし運転の注意事項

重要な安全上の注意事項

いくつかのドライブ・システムおよびドライブセーフティシステム用のセンサーシステムは、納車後または修理後に一定距離を走行すると自動的に同期します。この認識作業が完了しないと、システムは、十分な効果を達成できません。

交換された新しいブレーキパッド / ライニングおよびディスクは、数百キロメートルの走行後にのみ最適なブレーキ効果を発揮します。ブレーキペダルにより大きな力をかけることにより、減少したブレーキ効果を補ってください。

最初の 1,500 km まで

最初から十分な注意を払ってエンジンを取り扱った場合は、エンジンの寿命まで最大限の性能を得ることができます。

- 最初の 1500 km は、さまざまな車両速度およびエンジン回転数で走行してください。
- フルスロットルで走行するなど、この期間は車両への大きな負担は避けてください。
- エンジン回転数がタコメーターのレッドゾーン (許容限度) の ⅔ を超えないように、適切にギアシフト操作しながら運転してください。
- ブレーキを効かせるために、手動でギアをシフトダウンしないでください。
- 踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏む (キックダウン) ことは避けるようにしてください。

1500 km 後は、最大負荷およびエンジン回転数まで車両を徐々に加速することができます。

AMG 車両の慣らし運転に関する追加の注意事項

- 最初の 1,500 km では、140 km/h 以上の速度で走行しないでください。
- エンジンが最大エンジン回転数 4,500 rpm に達することは短時間のみにしてください。
- 最初の 1,500 km は、主に走行モード **C** で車両を運転してください。

ℹ 車両のエンジンおよび駆動系部品の交換を行なった場合も、慣らし運転に関するこれらの注意事項に従ってください。

走行

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルを妨害することがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。フロアマットは指示にしたがって必ず確実に固定し、ペダル操作の妨げにならないようにペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。緩んだフロアマットを使用したり、

フロアマットを重ねて置かないでください。

⚠ **警告**

以下のような適していない履物は、ペダルの正しい作動を妨げることがあります。

- 薄いソールの靴
- 高いヒールの靴
- スリッパ

事故の危険性があります。

適した履物を着用し、ペダルの正しい作動を確保します。

⚠ **警告**

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ **警告**

走行時にパーキングブレーキが完全に解除されていない場合は、パーキングブレーキは以下のようになることがあります。

- オーバーヒートおよび火災の原因
- 車両にブレーキを効かせられなくなる

火災と事故の危険性があります。発進する前に、パーキングブレーキを完全に解除してください。

! 走行する前に、パーキングブレーキを確実に解除してください。 パーキングブレーキの加熱、誤作動や早期摩耗の原因となります。

! 素早く暖機運転します。 エンジンが暖まっていないときは、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

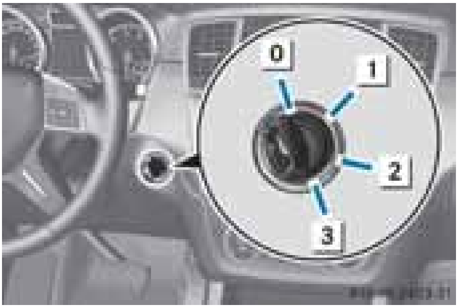
オートマチック車のシフト操作は、完全に停車して行なってください。

滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪を空転させないように穏やかにアクセルペダルを操作してください。 駆動系部品が損傷するおそれがあります。

! **AMG 車：**エンジンオイル温度が約 +20 ℃以下のときなどエンジンが暖まっていない場合は、エンジン保護のためにエンジン回転数が制限されることがあります。 エンジンを保護し、スムーズに作動させるため、エンジンが冷えているときはアクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。

キーの位置

キー



0 キーを差し込む / 抜く位置

1 エンジン停止時にワイパーなどの電気装備が使用できる位置

2 イグニッション（すべての電気装備への電源供給）および運転するときの位置

3 エンジンを始動する

ℹ キーがその車両のものでなくても、イグニッションロックに差し込んで回すことはできます。しかし、イグニッションはオンになりません。エンジンの始動はできません。

キーレスゴー

全体的な注意事項

キーレスゴースイッチ装備車には、キーレスゴー機能が内蔵されたキーと脱着式のキーレスゴースイッチが付いています。

エンジンスイッチにキーレスゴースイッチが差し込んであり、車内にキーがなければなりません。

キーレスゴースイッチをエンジンスイッチに差し込んだときは、システムは約2秒の認識時間を必要とします。その後にキーレスゴースイッチを使用することができます。

連続してキーレスゴースイッチを数回押すことは、エンジンスイッチのキーの位置を変更することに相当します。これは、ブレーキペダルを踏んでいない場合のみです。

ブレーキペダルを踏んでキーレスゴースイッチを押した場合は、ただちにエンジンが始動します。

車両とキーとの間で定期的に行なわれる無線通信によるチェックにより、車内に有効なキーがあるかどうかを確認します。エンジンを始動したときなどに、このことが行なわれます。

キーを操作せずに車両を始動する：

- キーレスゴースイッチがエンジンスイッチに差し込まれていなければなりません。
- キーが車内になければなりません。
- キーまたはキーレスゴーで車両が施錠されていてはいけません。(▷ 95 ページ)

以下にはキーを近づけないでください。

- 携帯電話や他のキーなどの電子機器
- 硬貨や金属片などの金属物
- 金属ケースなどの金属物の内部

これらはキーレスゴー付きのキーの機能に影響を与えることがあります。

温度制御式カップホルダーにキーレスゴーキーを置かないでください(▷ 261 ページ)。キーレスゴーキーが検知されません。

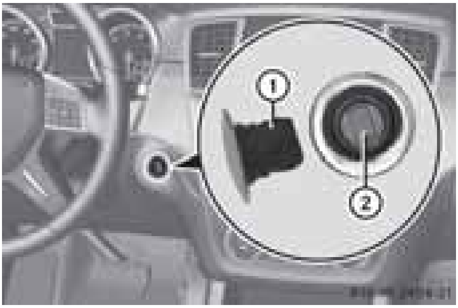
キーのリモコンで、またはキーレスゴーで車両を施錠した場合は、しばらくすると以下のようになります。

- キーレスゴースイッチでイグニッションをオンにすることができなくなります。
- 車両が再度解錠されるまで、キーレスゴースイッチでエンジンを始動できなくなります。

フロントドアのスイッチを使用して車両を集中施錠した場合は (▷ 99 ページ)、キーレスゴースイッチでエンジンを始動し続けることができます。

ℹ 車両が動いている間にキーレスゴースイッチを約 3 秒間押し続けることにより、エンジンを停止することができます。この機能は、ECO スタートストップ機能の自動エンジン停止の機能とは独立して作動します。

キーレスゴーでのキーの位置



① キーレスゴースイッチ
② エンジンスイッチ

イグニッションをオンにしたときは、メーターパネルのすべての表示灯が点灯します。エンジンを始動した後に表示灯が消灯しない、または走行中に点灯する

場合は、(▷ 220 ページ) をご覧ください。

キーレスゴースイッチ ① がまだ押されていないときは、キーがイグニッションから取り外されているときと同じ状態です。

▶ **電力供給をオンにする：** キーレスゴースイッチ ① を 1 回押します。
電力供給がオンになります。これでワイパーなどの電気装備を作動させることができます。

ⓘ 電力供給は以下のときに再度停止します。

- 運転席ドアを開いた、および
- キーレスゴースイッチ ① をこの位置で 2 回押したとき

▶ **イグニッションをオンにする：** キーレスゴースイッチ ① を 2 回押します。
イグニッションがオンになります。

ⓘ 次の場合は、イグニッションがオフになります：

- 運転席ドアを開いた、および
- キーレスゴースイッチ ① をこの状態で 1 回押したとき

キーレスゴースイッチの取り外し

エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外し、通常のようにキーを使用して車両を始動することができます。

シフトポジション P のときにのみ、キーレスゴーモードとキー操作の間で切り替えることができます。

▶ エンジンスイッチ ② からキーレスゴースイッチ ① を取り外します。

ⓘ 車から離れるときでも、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外す必要はありません。ただし、車両を離れるときは必ずキーを携帯してください。キーが車内にある限りは、以下のことができます。

- キーレスゴースイッチを使用して車両を始動できます。
- 電気装備を操作できます。

エンジンの始動

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行い、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P からシフトする
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ **警告**

エンジンの燃焼は、一酸化炭素のような有毒な排気ガスを排出します。これらの排気ガスを吸い込むと中毒につながります。致命的なけがの危険性があります。従って、十分な換気がない閉じた空間で

▷▷

エンジンを作動させたままにしないでください。

⚠ 警告

動物または環境の影響によってもたらされた可燃物が熱くなっているエンジンの部品または排気システムに接触すると、発火するおそれがあります。火災のおそれがあります。

定期的な点検を行ない、エンジンルーム、または排気システムに可燃性の異物がないことを確認してください。

! エンジンを始動するときは、アクセルを踏まないでください。

全体的な注意事項

ℹ **ガソリンエンジン車：** 冷間始動後は最大 30 秒間、触媒コンバーターが予熱されます。この間、エンジンの音が変わることがあります。

オートマチックトランスミッション

▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。
マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示に **P** が表示されます。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

ℹ シフトポジション **P** および **N** でエンジンを始動できます。

キーでの始動操作

▶ **ガソリンエンジンを始動する：** キーをエンジンスイッチの **3** の位置までまわし、エンジンがかかったらすぐに手を放します (▷ 141 ページ)。

▶ **ディーゼルエンジンを始動する：** キーをエンジンスイッチの **2** の位置にまわします (▷ 141 ページ)。
メーターパネルの予熱表示灯 が点灯します。

▶ 予熱表示灯 が消灯したときに、キーを **3** (▷ 141 ページ)の位置にまわして、エンジンがかかったらすぐに放します。

ℹ エンジンが暖まっている場合は、予熱なしでエンジンを始動することができます。

キーレスゴースイッチを使用してのエンジンの始動

▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。

▶ **ガソリンエンジンを始動する：** キーレスゴースイッチを 1 度押します (▷ 142 ページ)。
エンジンが始動します。

▶ **ディーゼルエンジンを始動する：** キーレスゴースイッチを 1 度押します (▷ 142 ページ)。
予熱が行なわれ、エンジンが始動します。

ℹ エンジンスイッチにキーを差し込まずに、キーレスゴースイッチを使用して車両を始動できます。車内にキーがあり、キーレスゴースイッチがエンジンスイッチに差し込まれていなければなりません。エンジン始動のためのこの手順は、ECO スタートストップ機能の自動エンジン始動機能とは独立して作動します。

発進

オートマチックトランスミッション

⚠ **警告**
エンジン回転数がアイドリング回転数以上で、トランスミッションをポジション D または R に入れると、車両は突然発進することがあります。事故の危険性があります。
トランスミッションをポジション D または R に入れるときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、同時に加速しないでください。

▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。
▶ トランスミッションをポジション D または R にシフトします(▷ 147 ページ)。
▶ ブレーキペダルを放します。
▶ 注意しながらアクセルペダルを踏みます。
電気式パーキングブレーキは自動的に解除されます。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。
メーターパネルの赤色の表示灯 (P) が消灯します。

ⓘ ブレーキペダルを踏んでいる場合にのみ、トランスミッションをポジション P から希望のポジションにシフトすることができます。その後にのみ、パーキングロックが解除されます。ブレーキペダルが踏まれていない場合も、ダイレクトセレクトレバーを動かすことができますが、パーキングロックは効いたままになります。

ⓘ 発進すると、自動的に車両が施錠されます。ドアのロックノブが下がります。
ドアは車内からいつでもロックを解除して開くことができます。
また、車速感応ドアロックを解除することもできます (▷ 205 ページ)。

ⓘ エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正な作動温度に達します。

ヒルスタートアシスト

ヒルスタートアシストは、坂道発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、運転者の発進操作を補助します。ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが車を停止したまま保持します。そのため、車が動き出す前に、ブレーキペダルからアクセルペダルへ余裕を持って踏みかえることができます。

⚠ **警告**
しばらくすると、ヒルスタートアシストは車両にブレーキを効かせなくなり、動き出すおそれがあります。 事故やけがの危険性があります。
従って、すばやくブレーキペダルからアクセルペダルに足を動かします。ヒルスタートアシストで車が停止しているときは、絶対に車から離れないでください。

▶ ブレーキペダルから足を放します。
車両はその後、約 1 秒間停止します。
▶ 発進します。

ヒルスタートアシストは以下のような状況では作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
- トランスミッションがポジションが N にあるとき
- 電気式パーキングブレーキを効かせているとき
- ESP®が故障しているとき

ECO スタートストップ機能

はじめに

特定の条件下で車両が停止した場合は、ECO スタートストップ機能はエンジンを自動的に停止します。

再度発進するときは、エンジンは自動的に始動します。それにより、ECO スタートストップ機能は、燃料消費と排出ガスを低減させる支援を行ないます。

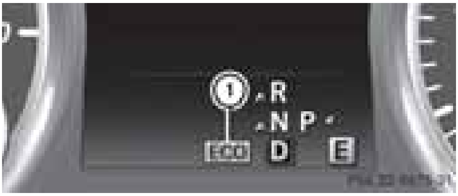
重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

エンジンが自動的にオフになり、車両から出ると、エンジンは自動的に再始動します。車両が動き始めることがあります。事故やけがの危険性があります。

車両から出たい場合は、必ずイグニッションをオフにし、動き出さないように車両を固定します。

全体的な注意事項



① ECO スタートストップ機能表示

マルチファンクションディスプレイに ECO マークが緑色で表示される場合は、車両が停止したときに ECO スタートストップ機能がエンジンを自動的にオフにします。

キーまたはキーレスゴースイッチを使用してエンジンを始動させるたびに、ECO スタートストップ機能が設定されます。

ECO スタートストップ機能が手動で解除されている (▷ 146 ページ)、または故障が原因でシステムが解除されている場合は、ECO マークは表示されません。

AMG 車：ECO スタートストップ機能は、走行モード **C** でのみ使用できます。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 自動エンジン停止
- 自動エンジン始動
- ECO スタートストップ機能の解除/設定

エンジンのトラブル

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

オートマチックトランスミッション

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

エンジン回転数がアイドリング回転数以上で、トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れると、車両は突然発進することがあります。事故の危険性があります。

トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れるときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、同時に加速しないでください。

⚠ **警告**

エンジンをオフにすると、オートマチックトランスミッションはニュートラルポジション **N** に切り替わります。車両が動き出すおそれがあります。事故の危険性があります。

エンジンをオフにした後は、必ずパーキングポジション **P** に切り替えてください。パーキングブレーキを効かせて、駐車した車両が動き出すのを防いでください。

DIRECT SELECT レバー

シフトポジションの概要

P　パーキングロック付きパーキングポジション
R　リバースギア
N　ニュートラル
D　ドライブ

ダイレクトセレクトレバーは、ステアリングの右側にあります。

ℹ ダイレクトセレクトレバーは常に元の位置に戻ります。マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示に現在のシフトポジション **P**、**R**、**N** または **D** が表示されます。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- シフトポジションおよび走行モード表示
- パーキングポジション P に入れる
- パーキングポジション P の自動選択
- リバースギア R に入れる
- ドライブポジション D に入れる

ニュートラル N にシフトする

⚠ **警告**

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行い、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

▶ トランスミッションが **D** または **R** の位置にある場合：最初に手応えがあるところまで、ダイレクトセレクトレバーを上または下に押します。

▶ トランスミッションが **P** の位置にある場合：ブレーキペダルを踏んで、最初に手応えがあるところまで、ダイレクトセレクトレバーを上または下に押します。

エンジンを停止したときは、オートマチックトランスミッションは自動的に **N** にシフトします。

けん引システム付き洗車機で車両を洗車するときなど、オートマチックトランスミッションのシフトをニュートラル **N** に維持しておきたい場合は、以下の注意事項に従ってください。

キーで：

- イグニッションがオンになっていることを確認します。
- 車両が停車しているときに、ブレーキペダルを踏んで、そのまま保持します。
- ニュートラル N を選択します。
- ブレーキペダルを放します。
- 電気式パーキングブレーキが利いている場合は解除します。
- イグニッションをオフにして、エンジンスイッチにキーを残します。

キーレスゴーキーで：

- イグニッションがオンになっていることを確認します。
- 車両が停車しているときに、ブレーキペダルを踏んで、そのまま保持します。
- パーキングポジション P に入れます。
- ブレーキペダルを放します。
- エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します。
- エンジンスイッチにキーを差し込みます。
- イグニッションをオンにします。
- ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。
- ニュートラル N を選択します。
- ブレーキペダルを放します。
- 電気式パーキングブレーキが効いている場合は解除します。
- イグニッションをオフにして、エンジンスイッチにキーを残します。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- シフトポジション
- 運転のヒント
- 走行モード選択スイッチ
- ステアリングのギアシフトパドル
- オートマチック走行モード（AMG 車）
- トランスミッションのトラブル

マニュアル走行モード

全体的な注意事項

この走行モードでは、ステアリングのギアシフトパドルを使用して、常に自分自身でギアを変えることができます。トランスミッションはポジション D でなければなりません。

ℹ 連続走行モード M に加えて、一時的走行モード M も作動させることができます。デジタル版取扱説明書をご覧ください。

マニュアル走行モードの作動

マニュアル走行モード M では、トランスミッションがポジション D にある場合には、ステアリングのギアシフトパドルを使用して自分自身でギアを変えることができます。現在の走行モードおよび入っているギアは、マルチファンクションディスプレイに表示されます。

▶ **AMG 車：** マルチファンクションディスプレイに M が表示されるまで、走行モード選択スイッチを押します。デジタル版取扱説明書をご覧ください。

▶ **オン & オフロードパッケージ装備車：** 走行モード選択スイッチを押します。詳しくはデジタル版取扱説明書をご覧ください。

シフトアップ（AMG 車を除くすべての車両）

▶ メーターパネルのマルチファンクションディスプレイに推奨ギアシフト ① が表示された場合は、ステアリング右側のギアシフトパドルを引きます（デジタル版取扱説明書をご覧ください）。
オートマチックトランスミッションが推奨ギア ② にシフトします。

シフトアップ（AMG 車）

! マニュアルギアシフト M では、現在のギアでのエンジン許容回転数に達しても、自動的にシフトアップしません。 エンジンの許容回転数に達すると、エンジンの過回転を防ぎエンジンを保護するため、燃料供給が停止します。 エンジン回転数が許容回転数を超えて、タコメーターのレッドゾーンに入らないように注意してください。 エンジンが損傷するおそれがあります。

① ギアインジケーター
② シフトアップインジケーター

エンジン回転数がレッドゾーンに達する前に、シフトアップインジケーターがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

▶ スピードメーターのマルチファンクションディスプレイの色が赤色に変わり、ディスプレイメッセージ UP が表示された場合は、ギアをシフトアップします。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- シフトダウン
- キックダウン
- マニュアル走行モードの解除

給油

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

燃料は可燃性の高いものです。 燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジン、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

⚠ **警告**

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料は決して飲まないこと、また目や衣服に付着させないでください。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹸および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医師の診察を受けてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。無理に吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

⚠ **警告**

静電気の蓄積により、火花が発生したり、燃料の気体に引火するおそれがあります。火災および爆発の危険性があります。

燃料給油口を開いたり、給油ノズルに触れる前に、必ず車体に触ってください。蓄積されている可能性がある静電気を放電します。

⚠ **警告**

ディーゼルエンジン装備車両：

ディーゼル燃料とガソリンを混ぜると、引火点は純粋なディーゼル燃料のものよりも低くなります。エンジンがかかっているときは、排気システムの部品が気付かないうちにオーバーヒートすることがあります。火災の危険性があります。

ガソリンを給油しないで下さい。ガソリンをディーゼル燃料と混ぜないでください。

! ディーゼルエンジン車両に給油するためにガソリンを使用しないでください。ガソリンエンジン車両に給油するために軽油を使用しないでください。 誤って異なる燃料を給油した場合は、イグニッションをオンにしないでください。 さもないと、燃料が燃料システムに入ります。少量の誤った燃料でも、燃料システムとエンジンの損傷につながるおそれがあります。 修理費用が高くなります。 メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料系統から完全に抜き取ってください。

! ガソリンエンジン車両に給油するために軽油を使用しないでください。誤って異なる燃料を給油した場合は、イグニッションをオンにしないでください。さもないと、燃料が燃料システムに入るおそれがあります。少量の誤った燃料でも、燃料システムやエンジンの損傷につながるおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料系統から完全に抜き取ってください。

! 給油ノズルの自動停止後は、それ以上補給しないでください。燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。

! 給油中に燃料を塗装面にこぼさないよう注意してください。 塗装面が損傷するおそれがあります。

! 燃料携行缶から燃料を補給するときは、フィルターを使用してください。 燃料携行缶に付着した微粒子によって、フューエルラインや燃料噴射システムの部品が詰まるおそれがあります。

給油作業中は車内に戻らないでください。再度帯電することがあります。

燃料タンクに給油しすぎた場合は、給油ノズルを外すときに燃料が飛散することがあります。

燃料および燃料品質に関するさらなる情報は (▷ 322 ページ)をご覧ください。

セルフサービスのガソリンスタンド

給油に関する注意事項を遵守してください 。(▷ 149 ページ)

セルフ式のガソリンスタンドで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- 給油前に必ずエンジンを停止して、ドアやサイドウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油フラップを開くときから、一連の給油作業を必ずひとりで行なってください。

  給油作業を行なう人以外は燃料給油フラップに近づかないでください。
- キャップの開閉は確実に行なってください。火気を近付けないようにしてください。

- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料があふれるおそれがあります。
- 給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

給油

全体的な注意事項

重要な安全上の注意事項を遵守してください (▷ 149 ページ)。

キーでまたはキーレスゴーを使用して車両を開閉したときは、燃料給油口フラップも自動的に解錠または施錠されます。

メーターパネル内には、燃料給油口キャップの位置 [⛽▸] が表示されています。給油ポンプ横の矢印は、車両の側面を示しています。

燃料給油口フラップは車両の右側後方にあります。

燃料給油口フラップを開く

① 燃料給油口フラップを開く
② 燃料給油口キャップを差し込む
③ 使用燃料表示
④ タイヤ空気圧表

▶ エンジンを停止します。
▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
▶ キーレスゴー：運転席ドアを開きます。これは、キーの位置 **0** ："キーを抜いた" 状態に相当します。
運転席ドアを再度閉じることができます。
▶ 燃料給油口フラップの矢印の方向 ① に押します。
燃料給油口フラップが開きます。
▶ 燃料給油口キャップを反時計回りにまわして取り外します。
▶ 燃料給油口キャップを燃料給油口フラップ ② の裏側にあるホルダーブラケットに差し込みます。
▶ タンクの給油口に燃料ポンプノズルを完全に差し込み、所定の位置に掛けて、給油します。
▶ 給油ノズルが自動停止した時点で給油を停止してください。

ℹ 最初にポンプが給油を停止した後は、それ以上燃料を追加しないでください。さもないと、燃料が漏れることがあります。

燃料給油口フラップを閉じる

▶ キャップを給油口に合わせ、音がしてロックされるまで時計回りにまわします。
▶ 燃料給油口フラップを閉じます。

ℹ 車両を施錠する前に燃料給油口フラップを閉じてください。

走行装備

燃料および燃料タンクのトラブル

この項目では、安全性に関わるトラブルの内容と対応方法について説明しています。さらなるトラブルの内容および対応方法は、デジタル版取扱説明書にあります。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
燃料が漏れている。	フューエルラインまたは燃料タンクに問題がある。 ⚠ **警告** 火災または爆発の危険性がある。 ▶ ただちにキーをエンジンスイッチの **0** の位置にまわして、エンジンスイッチからキーを抜いてください(▷ 141 ページ)。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

AdBlue® （BlueTEC 車のみ）

使用に関する重要な注意事項

AdBlue® の残量が約 3.8 l まで低下したときは、マルチファンクションディスプレイに AdBlue を 補充してください 取扱説明書を参照 というメッセージが表示されます。

▶ 3.8 L 以上の AdBlue®を追加します 。
▶ 60 秒以上イグニッションをオンにしてください。
▶ エンジンを始動します。

ℹ AdBlue®タンクへの補給は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうこともできます。

BlueTEC 排気ガス処理装置や AdBlue® についてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

補給手順についての重要な注意事項

AdBlue®はディーゼルエンジンの排気ガス処理装置用の水溶性の液体です。以下のようなものです。

- 無毒
- 無色および無臭
- 不燃性

AdBlue®タンクを開いた場合は、少量のアンモニアの気体が放たれることがあります。

アンモニアの気体は刺激臭があり、特に皮膚、粘膜そして目に刺激を与えます。目、鼻および喉に燃えるような感覚を感じることがあります。咳き込んだり、涙目になる可能性があります。

発生したアンモニア蒸気を吸い込まないでください。換気の良い場所でのみ、AdBlue®タンクの補給を行なってください。

AdBlue®を飲み込んだり、皮膚、眼または衣服に触れないようにしてください。AdBlue®は子供から離してください。

お客様または他の人が AdBlue®に触れた場合は、以下に従ってください。

- ただちに、石けんおよび水で AdBlue®を肌からすすぎ落としてください。
- AdBlue®が目に触れた場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医師の診察を受けてください。
- AdBlue®を飲み込んだ場合は、ただちに口を十分にすすいでください。多量の水を飲んでください。ただちに医師の診察を受けてください。
- AdBlue®に触れた衣類は、ただちに着替えてください。

! ISO 22241 に適合した AdBlue®のみを使用してください。AdBlue®にいかなる添加剤を混ぜたり、AdBlue®を水で薄めないでください。BlueTEC 排気ガス後処理システムを損傷することがあります。

! AdBlue® のタンクに補充するためには、車両は水平な路面に駐車していなければなりません。車両を水平な路面に駐車しているときにのみ、意図したように AdBlue®のタンクに補充することができます。これにより、容量の変動が避けられます。水平でない路面にある車両に補充することは許可されていません。あふれる危険性があり、BlueTEC 排気ガス後処理システムの部品を損傷する原因になることがあります。

! 補充を行なっているときに、カーペットや塗装面などの表面に AdBlue®が付着したときは、十分な水でただちに洗い流してください。洗い流したあとは、ただちに湿らせた布と冷水で AdBlue®を拭き取ってください。 AdBlue®が結晶化してしまったときは、スポンジと冷水で取り除いてください。 AdBlue®の残留物は、一定時間後に結晶化し、表面を損傷させます。

! AdBlue® は燃料の添加剤ではなく、燃料タンクに足してはいけません。AdBlue®を燃料タンクに加えると、エンジンの不具合につながるおそれがあります。

AdBlue®タンクへの補給はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。ただし、以下でも AdBlue®タンクへの補給を行なうことができます。

- AdBlue®補給ポンプを備えた補給ステーション
- AdBlue®補給用ボトル
- AdBlue®補給容器

補給ポンプで補給を行なっている間にポンプのノズルが自動的に停止したときは、AdBlue®タンクが完全に補給されています。それ以上 AdBlue®タンクに補給しないでください。AdBlue®が漏れることがあります。

すでに開封してある補給容器を車両で運搬することを避けるために、可能な場合は、AdBlue®タンクに補給するときは補給用ボトルまたは容器を完全に空にしてください。

AdBlue®に関するさらなる情報 (▷ 324 ページ)

AdBlue®補給キャップを開く

キーでまたはキーレスゴーを使用して車両を開閉したときは、燃料給油口フラップも自動的に解錠または施錠されます。

▶ イグニッションをオフにします。

▶ 燃料給油口フラップを矢印の方向 ① に押します。
燃料給油口フラップが開きます。

▶ AdBlue®補給口キャップ ② を反時計回りにまわして取り外します。
AdBlue®補給口キャップ ② はプラスチックバンドでつながっています。

AdBlue®補給容器

! 使い捨てホースを非常に強い力で締めないでください。さもなければ、使い捨てホースが壊れるおそれがあります。

▶ AdBlue® 補充容器 ②上部にある開口部のキャップを外します。

▶ 使い捨てホース ① を AdBlue® 補充容器 ② の開口部に取り付け、時計回りに手締めします。

ℹ 使い捨てホース ① を車両の AdBlue® 補給口に固定するまで、使い捨てホース ① は閉じた状態になります。

▶ 使い捨てホース ① を車両の補給口に取り付け、時計回りに手締めします。抵抗が感じられたら、使い捨てホース ① は十分に固定されています。

▶ AdBlue® 補充容器 ② を持ち上げ、傾けて AdBlue® を注入します。

ℹ AdBlue®タンクが完全に補給されたときは、補給が停止します。それ以上 AdBlue®タンクに補給しないでください。AdBlue® 補充容器 ② は、少しでも中身を注入すると抜き取ることができます。

▶ 車両の補充口の使い捨てホース ① を反時計回りにまわして取り外します。

▶ AdBlue® 補充容器 ② に接続された使い捨てホース ① を反時計回りにまわして取り外します。

▶ AdBlue® 補充容器 ② に再びキャップをはめます。

AdBlue®補給容器は多くの補給ステーションまたはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。AdBlue®補給容器は、補給ホースとともに販売されていることもあります。車両の AdBlue®タンクに適切に装着しない補給ホースは、過補給を防止することができません。過補給の結果、AdBlue®が漏れることがあります。メルセデス・ベンツは過補給防止の専用の使い捨てホースを用意しています。これは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。AdBlue®は様々な容器や入れ物で入手できます。使い捨てホースは、メルセデス・ベンツの AdBlue®補給容器とともにでのみ使用してください。

AdBlue®補給用ボトル

! AdBlue® 補充ボトルは手の力でのみ締めてください。さもないと、壊れることがあります。

▶ AdBlue® 補充用ボトル ① の保護キャップを外します。

▶ AdBlue®補充ボトル ① を補充口の記載どおりにセットし、手で締め付けます。

▶ AdBlue® 補充用ボトル ① を補給口側に押し付けます。
AdBlue®タンクが補給されます。最大約 1 分かかることがあります。

ℹ AdBlue® 補充用ボトル ① を押すのをやめると充填が停止し、少しでも注入すればボトルを抜き取ることができます。

▶ AdBlue® 補充用ボトル ① を抜き取ります。

▶ AdBlue® 補充用ボトル ① を反時計回りにまわして取り外します。
▶ AdBlue® 補充用ボトル ① の保護キャップを再び閉じます。

AdBlue®補給ボトルは多くの補給スタンドまたはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。ねじ切りされたシールのない補給用ボトルには、過補給防止機能がありません。過補給の結果、AdBlue®が漏れることがあります。メルセデス・ベンツでは、ねじ切りされたシールのある専用補給ボトルを用意しています。これらは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

AdBlue®補給口キャップを閉じる

▶ AdBlue® 補充キャップ ② を補給口に取り付け、時計回りにまわします。
▶ 燃料給油フラップを閉じるには、矢印の方向 ①に押します。
▶ 15 km/h より速く走行します。
約 1 分後に AdBlue を 補充してください 取扱説明書を確認 というメッセージが消えます。

ℹ マルチファンクションディスプレイに AdBlue を 補充してください 取扱説明書を確認 というメッセージが表示され続ける場合は、AdBlue®をさらに補給する必要があります。

駐車

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告
葉、草または小枝のような可燃性の素材は、排気システムの高温部品または排気ガスの排気に長時間触れると発火することがあります。火災の危険性があります。
可燃性の素材が車両の熱い部品に触れないように車両を駐車してください。特に、乾燥した草原、または収穫した穀物畑に駐車しないでください。

⚠ 警告
走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。
走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ 警告
保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。
- パーキングブレーキを解除したとき
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P からシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。
車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

! 車両が動き出さないように、必ず適切な方法で固定してください。車体または駆動系を損傷するおそれがあります。

車両が不意に動き出さないためには、以下のようにしてください。
- 電気式パーキングブレーキを効かせなければなりません
- シフトポジション P にして、キーをエンジンスイッチから抜かなければなりません
- 上り坂または下り坂勾配では、前輪を縁石方向に向けなければなりません

- 上り坂または下り坂の勾配では、荷物を積載していない車両は輪止め、または類似のものなどで前輪を固定しなければなりません。
- 上り坂または下り坂の勾配では、荷物を積載していない車両は輪止め、または類似のものなどで後輪を固定しなければなりません。

エンジンの停止

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

エンジンをオフにすると、オートマチックトランスミッションはニュートラルポジション N に切り替わります。車両が動き出すおそれがあります。事故の危険性があります。

エンジンをオフにした後は、必ずパーキングポジション P に切り替えてください。パーキングブレーキを効かせて、駐車した車両が動き出すのを防いでください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、エンジンを停止する方法が記載されています。

電気式パーキングブレーキ

全体的な注意事項

⚠ **警告**

保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキを解除したとき
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P からシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

電気式パーキングブレーキの機能は、バッテリー電圧の影響を受けます。バッテリーの電圧が低い、またはシステムに不具合がある場合は、解除してあるパーキングブレーキを効かせることができない場合があります。

▶ このような場合は、水平な場所にのみ車両を駐車して、動き出さないように固定してください。

▶ オートマチックトランスミッションをポジション P にシフトします。

バッテリーの電圧が低い、またはシステムに不具合がある場合は、効かせているパーキングブレーキを解除することができないことがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

ℹ エンジンが停止しているときに、電気式パーキングブレーキは定期的に機能チェックを行ないます。発生する音は問題ありません。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 手動での作動/解除
- 自動的な作動
- 自動解除
- 緊急ブレーキ操作

長期間の車両の駐車

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

運転のヒント

全体的な注意事項

重要な安全上の注意

⚠ 警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

無駄のない運転 – 燃料を節約する

燃料を節約するために以下のヒントに注意してください。

- タイヤは常に推奨タイヤ空気圧に充填されている必要があります。
- 必要のない荷物は取り出します。
- 必要でないときはルーフラックを取り外します。
- エンジンを低いエンジン回転数で暖機します。
- 頻繁な加速やブレーキは避けてください。
- 整備手帳またはメンテナンスインジケーター画面に記されたメンテナンスの時期を確認してください。 すべてのメンテナンス作業を受ける際には Daimler AG の定めた規定に従ってください。

寒い気候、交通渋滞や起伏のある地形では、燃料消費量も増加します。

ECO 表示

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

ブレーキ

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

エンジンのブレーキ効果を増やすために滑りやすい路面でシフトダウンすると、駆動輪がグリップを失うことがあります。これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

滑りやすい道路では、シフトダウンによるエンジンブレーキを効かせないでください。

下り坂勾配

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

高い、および低い負荷

⚠ 警告

走行中にブレーキペダルの上に足を置くと、ブレーキシステムがオーバーヒートすることがあります。これにより制動距離が増加して、ブレーキシステムが故障する原因になるおそれもあります。事故の危険性があります。

ブレーキペダルをフットレストとして使用しないでください。ブレーキペダルとアクセルペダルを同時に踏まないでください。

さらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

濡れた路面

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

塩化物が散布された道路でのブレーキ性能の制約

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

新品のブレーキパッド/ライニング

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

AMG 車用強化ブレーキシステム

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

濡れた路面の走行

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ハイドロプレーニング現象
- 冠水路の走行
- オフロードの河川などを渡る

冠水路の走行をする場合は、必ず水深値を守ってください (▷ 329 ページ)。

寒冷時の走行

⚠ **警告**

エンジンのブレーキ効果を増やすために滑りやすい路面でシフトダウンすると、駆動輪がグリップを失うことがあります。これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

滑りやすい道路では、シフトダウンによるエンジンブレーキを効かせないでください。

⚠ **危険**

マフラーが遮られ、適切な換気が可能でない場合は、一酸化炭素（CO）のような有毒ガスが車内に入り込んでくることがあります。車両が雪にはまった場合などがあてはまります。致命的なけがの危険性があります。

エンジンまたは補助ヒーターを作動させたままにする場合は、マフラーや車両周辺に雪がないことを確認してください。新鮮な空気の適切な供給を確保するために、風のほうを向いていない車両側のウインドウを開きます。

さらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

オフロード走行

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

急な斜面で斜めに走行している、または斜面で走行しているときに曲がる場合は、車両が横に滑り、傾き、横転することがあります。事故の危険性があります。

急な斜面では常に落下線（直進での登りまたは下り）内を走行し、車両を旋回させないでください。

⚠ **警告**

車高が高い場合は、車両の重心位置が上がります。これにより、上り坂または下り坂勾配で車両がより簡単に横転することがあります。事故の危険性があります。

最も低い可能な車高を選択します。

オフロード、砂、泥および水辺を走行するときに、例えばオイルが混ざったりすると、ブレーキに入り込むことがあります。これにより、ブレーキ性能は減少、またはブレーキ全体の故障、または磨耗や亀裂が増加することもあります。ブレーキ特性は、ブレーキに入り込んだ材質によって変化します。オフロード走行後にブレーキを清掃してください。ブレーキ性能の減少、または耳障りな音を検知した場合は、できるだけ早くブレーキシステムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。変わったブレーキ特性に運転スタイルを合わせてください。

オフロード走行は、曲がるときに機械部品、またはシステムの故障につながるおそれがあるような車両の損傷の可能性を増やします。運転スタイルを地形の状態

に適するように合わせてください。注意して運転してください。 車両の損傷はメルセデス・ベンツ指定サービス工場でただちに修理してください。

オフロードを走行しているときは、トランスミッションをポジション N に切り替えないでください。 サービスブレーキを使用して、ブレーキを利かせようとすると、車両のコントロールを失うことがあります。 勾配がとても急な場合は、リバースギアで後退します。

全体的な注意事項

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

オフロード走行前のチェックリスト

- **エンジンオイルレベル：** エンジンオイルを点検し、必要であれば補充します。
  急な勾配を走行するときは、車両に適切にオイルを供給するようにオイルレベルが十分に高くなければなりません。
- **タイヤ交換工具キット：**ジャッキが作動することを点検し、車両にホイールレンチ、頑丈なけん引ケーブルおよび折りたたみ式シャベルがあることを確認してください。
- **ホイールおよびタイヤ：**タイヤトレッドの深さおよびタイヤ空気圧を点検してください。
- 損傷を点検し、小さな石のような異物をホイール / タイヤから取り除きます。
- 紛失しているバルブキャップを装着します。
- へこんだ、または損傷したホイールを取り替えます。
- **ホイール：** へこんだ、または曲がったホイールは、タイヤ空気圧の損失につながり、タイヤビードが損傷するおそれがあります。オフロード走行前に、ホイールを点検し、必要であればホイールを交換して下さい。

オフロード走行後のチェックリスト

! オフロード走行後に車両の損傷を検知した場合は、車両をすぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

- **オン & オフロードパッケージ装備車：** オンロードプログラムを作動させます。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。
- **オン & オフロードパッケージ非装備車：** オンロードプログラムを解除します。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。
- LOW RANGE オフロードギアを解除します。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。
- DSR を解除します。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。
- ハイウェイ / 高速走行レベルなどの、路面状況に適した高さになるように車高を再び下げてください。
- ヘッドライトおよびリアライトを清掃し、損傷を点検します。
- 前と後のライセンスプレートを清掃します。
- 水流でホイール / タイヤを清掃し、異物を取り除きます。
- 水流でホイール、ホイールアーチ、および車両の下側を清掃し、異物や損傷を点検します。
- 小枝や植物の一部が挟まっていないか点検してください。これらにより火災の危険性が増加し、燃料パイプ、ブレーキホース、またはアクスルジョイントおよびプロペラシャフトのラバーベローズが損傷するおそれがあります。
- 走行後は必ず、車台全体、ホイール、タイヤ、ブレーキ、車体構造、ステア

リング、シャシ、および排気システムの損傷を点検してください。

▶ 砂、泥、砂利、水または似たように汚れた状態で長期間走行した後は、ブレーキディスク、車輪、ブレーキパッド / ライニングおよびアクスルジョイントを点検し、清掃してください。

▶ オフロード走行後に強い振動を検知した場合は、車輪や駆動系の異物を点検し、必要であればそれらを取り除いてください。異物は、バランスを妨げ、振動の原因になることがあります。

起伏のある地形の走行は、通常の道路を走行するよりも車両に大きな負担を与えます。オフロード走行後は、車両を点検してください。これにより、損傷をすぐに検知し、お客様や他の道路使用者の事故の危険性を減らすことができます。

砂地の走行

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

わだちや砂利道

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

障害物を越える走行

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

上り坂の走行

アプローチ/デパーチャーアングル

⚠ **警告**

急な斜面で斜めに走行している、または斜面で走行しているときに曲がる場合は、車両が横に滑り、傾き、横転することがあります。事故の危険性があります。

急な斜面では常に落下線（直進での登りまたは下り）内を走行し、車両を旋回させないでください。

- オフロード走行の警告に従ってください(▷ 158 ページ)。
- 坂道や急な斜面を走行しているときは落下線（直進での登り、 または下り）に従ってください。
- 極端な上り坂や下り坂を走行する前に、オフロードプログラム (▷ 199 ページ) または LOW RANGE オフロードギア (▷ 200 ページ)を選択してください。
- ゆっくり走行します。
- ゆるやかに加速し、車輪がグリップしていることを確認してください。
- 大きな走行抵抗がある砂や泥地を走行しているとき以外は、高いエンジン回転数は避けてください。
- ステアリング左側のギアシフトパドルを使って勾配に適した低いギアにシフトしてください。
- 長い急な下り坂では、左ギアシフトパドルを使用して、低いギアにシフトしてください。

オフロードを走行するときは、シフトポジション N にシフトしないでください。サービスブレーキを使用して車両にブレーキを効かせようとすると、車両のコントロールを失うことがあります。車両にとって勾配が非常に急な場合には、リバースギアで後退してください。

常にアプローチ/デパーチャーアングル値に注意してください(▷ 329 ページ)。

最大登坂能力

必ず登坂能力の数値を守ってください (▷ 330 ページ)。

丘の頂上

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

下り坂の走行

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

走行システム

クルーズコントロール

全体的な注意事項

クルーズコントロールは一定の走行速度を維持します。設定速度を超えないようにするために自動的にブレーキを効かせます。長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載している場合は、適時低いギアを選択してください。そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。

道路や交通状況が長時間の一定速度の維持に適している場合にのみ、クルーズコントロールを使用してください。30 km/h 以上の走行速度を記憶させることができます。

重要な安全上の注意事項

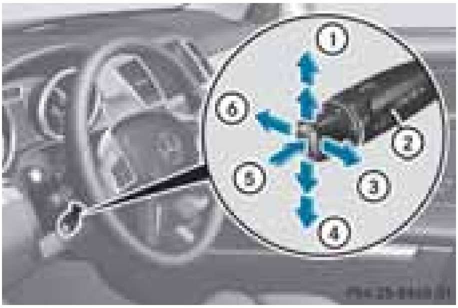
運転スタイルを合わせていない場合は、クルーズコントロールは事故の危険性を軽減できないだけでなく、物理的限界を超えることもできません。クルーズコントロールは道路、天気、交通事情を考慮することはできません。クルーズコントロールは単なる支援に過ぎません。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、車線の維持に関する責任があります。

次のような場合にはクルーズコントロールを使用しないでください。

- 一定の速度を維持できないような道路および交通状況（例：混雑している交通状況、または曲がりくねっている道路）
- 滑りやすい路面 ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が滑るおそれがあります。
- 霧、激しい雨または雪などのために視界が悪いとき

運転者を交代する場合は、次の運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

クルーズコントロールレバー



① 速度を設定する/上げる
② LIM 表示灯
③ 現在の速度/最後に記憶させた速度に設定する
④ 速度を設定する/下げる
⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ クルーズコントロールの解除

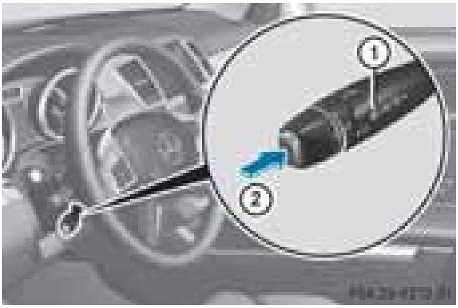
クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② は現在選択されている機能を表示します。

- **LIM 表示灯 ② が消灯：** クルーズコントロールが選択されています。
- **LIM 表示灯 ② が点灯：** 可変スピードリミッターが選択されています。

クルーズコントロールを作動させると、記憶された速度がマルチファンクションディスプレイに 5 秒間表示されます。

クルーズコントロールの選択



▶ LIM 表示灯 ① が消灯しているか確認してください。
消灯しているときは、クルーズコントロールが選択されています。
消灯していないときは、クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ②に押します。
クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ① が消灯します。クルーズコントロールが選択されます。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 作動条件
- 速度の記憶、維持、呼び出し
- 速度の設定
- クルーズコントロールの解除

可変スピードリミッター

全体的な注意事項

設定された速度を超えないように可変スピードリミッターは自動的にブレーキを効かせます。長い急な下り坂勾配で、特に車両に荷物を積載しているときやトレーラーをけん引しているときは、適時低いギアを選択してください。そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキをオーバーヒートや早期の摩耗から防ぎます。さらにブレーキが必要な場合は、継続的ではなく、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。

可変スピードリミッターまたはスノータイヤスピードリミッターを設定することができます。

- **可変**スピードリミッターは市街地などでの速度制限のためのものです。
- **スノータイヤ**スピードリミッターは、ウィンタータイヤを装着して走行するときなど、長時間の速度制限のためのシステムです。(▷ 165 ページ)

ℹ スピードメーターに表示された速度は記憶された制限速度と若干異なる場合があります。

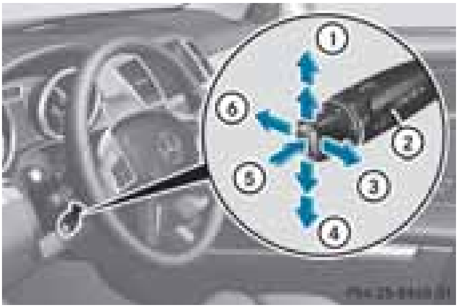
重要な安全上の注意事項

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、可変スピードリミッターは事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて安全を確保することはできません。可変スピードリミッターは路面、天候および交通状況を考慮することはできません。 可変スピードリミッターは補助装置です。 運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。

運転者を交代する場合は、交代する運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

可変スピードリミッター

クルーズコントロールレバー



① 速度を設定する/上げる
② LIM 表示灯
③ 現在の速度/最後に記憶させた速度に設定する
④ 速度を設定する/下げる
⑤ クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ 可変スピードリミッターを解除する

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールまたはディストロニック・プラスおよび可変スピードリミッターを操作できます。

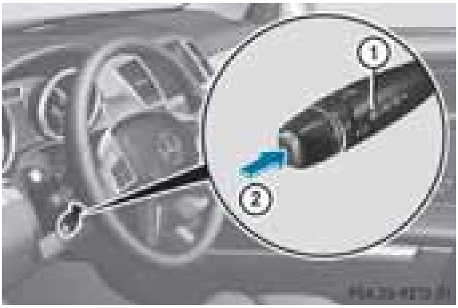
▶ **可変スピードリミッターとクルーズコントロール/ディストロニック・プラスを切り替える：** クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑤ に押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② は現在選択されている機能を表示します。

- **LIM 表示灯 ② が消灯：** クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されています。
- **LIM 表示灯 ② が点灯：** 可変スピードリミッターが選択されています。

エンジンがかかっている間に、クルーズコントロールレバーを使用して、30 km/h 以上のいかなる速度に速度を制限することができます。

可変スピードリミッターの選択



運転者を交代する場合は、交代する運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

▶ LIM 表示灯 ① が点灯しているか確認してください。
点灯しているときは、可変スピードリミッターはすでに選択されています。
消灯していないときは、クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ②に押します。
クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ① が点灯します。可変スピードリミッターが選択されます。

現在の速度の記憶

エンジンがかかっているときにクルーズコントロールレバーを使用して、約 30 km/h 以上のあらゆる速度に速度を制限できます。

▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④に軽く押します。
現在の速度が設定されマルチファンクションディスプレイに表示されます。
マルチファンクションディスプレイのスピードメーターで、設定速度から下のセグメントが点灯します。

現在の速度の記憶および最後に記憶させた速度の呼び出し

⚠ **警告**

設定速度を呼び出し、それが現在の速度より低いときは、車両が減速します。 設定速度を覚えていないと、車両が不意に減速することがあります。 事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。 設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

▶ クルーズコントロールレバーを手前 ③ に軽く引きます。

速度の設定

▶ **設定速度を約 10 km/h 単位で調整する：**設定速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上 ① に、設定速度を下げるにはレバーを下 ④ に軽く操作します。

または

▶ 希望の速度になるまでクルーズコントロールレバーを保持します。 速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上 ① に、速度を下げるには下 ④ に操作します。

▶ **設定速度を 1 km/h 単位で調整する：**高い速度には上方へ ①、低い速度には下方へ ④ 、クルーズコントロールレバーを圧力点まで軽く押します。

または

▶ 希望する速度になるまでクルーズコントロールレバーを保持します。 速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上 ① に、速度を下げるには下 ④ に操作します。

可変スピードリミッターの解除

可変スピードリミッターを解除するためにはいくつかの方法があります。

▶ クルーズコントロールレバーを前方 ⑥ に軽く押します。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑤ に軽く押します。
クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が消灯します。可変スピードリミッターは解除されます。
クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されます。

以下のときは可変スピードリミッターが自動的に解除されます。

- 踏み応えがあるところを越えてアクセルペダルを踏み（キックダウン)、現在の速度が保存された速度と 20 km/h 以上異ならない場合にのみ。このときは警告音が鳴ります。
- DSR を作動させたとき
- オフロードプログラム 2 を起動したとき（オン&オフロードパッケージ装備車)

ブレーキ操作で可変スピードリミッターを解除することはできません。

ℹ エンジンを停止したときは、記憶されている速度は消去されます。

スノータイヤスピードリミッター
マルチファンクションディスプレイを操作して、約 160 km/h(例えばウィンタータイヤで走行するとき) から最高速度までの間の値に、常に速度を制限できます(▷ 205 ページ)。

設定速度に到達する少し前に、マルチファンクションディスプレイに速度が表示されます。

可変スピードリミッターを解除しても、スノータイヤスピードリミッターは作動したままになります。

アクセルペダルをいっぱいまで踏み込んでも（キックダウン)、設定された制限速度を超えることはできません。

ディストロニック・プラス

全体的な注意事項

ディストロニック・プラスは速度を制御し、前方に検知された車両との距離を自動的に維持する支援を行ないます。ディストロニック・プラスは設定された速度を超えないように自動的にブレーキを効かせます。

長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載している場合は、適時低いギアを選択してください。そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。

ディストロニック・プラスが前方に速度の遅い車両を検知すると、事前に設定された先行車のと距離を維持するため、車両にブレーキをかけて減速させます。

ディストロニック・プラスが衝突の危険があることを検知した場合は、視覚的および聴覚的に警告を行ないます。運転者の操作なしでは、ディストロニック・プラスは衝突を回避することはできません。断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの距離警告灯が点灯します。安全な場合にのみ、ただちにブレーキを効かせて先行車両との距離を広げ、危険回避の操作を行なってください。

走行時のディストロニック・プラスの支援のためには、レーダーセンサーを設定して作動させる必要があります。さくいんにある"レーダーセンサーシステム"をご覧ください。

前方に車両がいない場合は、ディストロニック・プラスはクルーズコントロールと同じように 30 km/h から 200 km/h の間の速度範囲で作動します。前方で車両が走行している場合は、0 km/h ～ 200 km/h の間の速度範囲で作動します。

急な坂道を走行しているときは、ディストロニック・プラスを使用しないでください。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

ディストロニック・プラスは以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 駐停車している車両など、道路上の静止している障害物
- 対向車や横切る車両

この場合、ディストロニック・プラスは警告も介入も行ないません。 事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

⚠ **警告**

ディストロニック・プラスは、他の道路使用者や複雑な交通状況を常に明確に認識できるとは限りません。

走行装備

その場合、ディストロニック・プラスは以下のように作動することがあります。

- 不必要な警告を行ない、車両にブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる
- 不意に加速する

事故の危険性があります。

特に、ディストロニック・プラスから警告が送られた場合は、慎重に運転しブレーキをかける用意をしてください。

⚠ **警告**

ディストロニック・プラスは最大制動力の約 40% までで車両にブレーキをかけます。 制動力が不十分なときは、ディストロニック・プラスが音とランプで警告を送ります。 事故の危険性があります。

その場合は、必ずご自身でブレーキをかけ、危険回避の運転操作を行なってください。

! ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。 車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください：

- けん引されるとき
- 洗車時

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、ディストロニックプラスは事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて運転を支援することはできません。ディストロニックプラスは路面、天候および交通状況を考慮することはできません。ディストロニックプラスはあくまでも運転を支援するシステムです。運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。

以下のときは、ディストロニックプラスを使用しないでください：

- 一定の速度を維持できないような道路や交通状況のとき(例、混雑してる交通やカーブしている道路)。
- 滑りやすい路面のとき。ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が滑るおそれがあります。
- 霧や激しい雨、雪のときなど、不十分な視界のとき。

ディストロニックプラスは、オートバイなど前方を走行している幅の狭い車両、または異なるラインを走行している車両を検知しないことがあります。

特に以下のときは、障害物の検知が困難になります。

- センサーに異物が付着しているとき、またはセンサーが何かでおおわれているとき
- 降雪時
- 他のレーダー送信機による干渉
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こりやすいとき

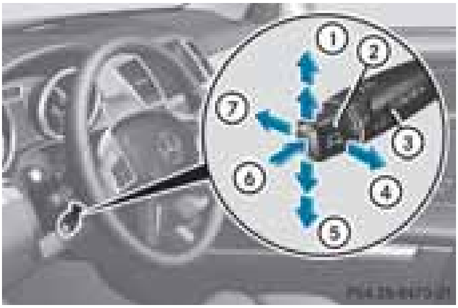
ディストロニックプラスが先行車を検知しなくなると、設定速度に予期せず加速することがあります。

以下の場合は加速するおそれがあります：

- 車線変更やスリップする道路を走行しているとき
- 左側通行で右車線のとき
- 右側通行で左車線のとき

運転者を交代する場合は、交代する運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

クルーズコントロールレバー



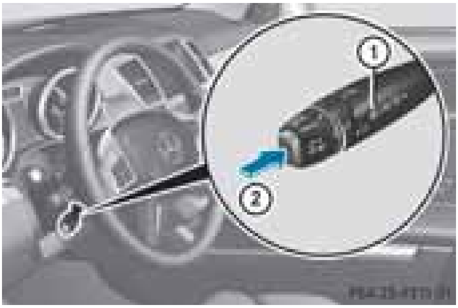
① 速度を設定する/上げる
② 規定の最短距離を設定する
③ LIM 表示灯
④ 現在の速度/最後に記憶させた速度に設定する
⑤ 速度を設定する/下げる
⑥ ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
⑦ ディストロニック・プラスを解除する

クルーズコントロールレバーでディストロニック・プラスおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ③ は現在選択されている機能を表示しています。

- **LIM 表示灯 ③ が消灯：** ディストロニック・プラスが選択されています。
- **LIM 表示灯 ③ が点灯：** 可変スピードリミッターが選択されています。

ディストロニック・プラスの選択



▶ LIM 表示灯 ① が消灯しているか確認してください。
消灯しているときは、ディストロニック・プラスがすでに選択されています。
消灯していないときは、クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ②に押します。
クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ①が消灯します。ディストロニック・プラスが選択されます。

ディストロニック・プラスの作動

作動条件

ディストロニック・プラスを作動させるには、以下の条件を満たさなければなりません。

- エンジンがかかっている。ディストロニック・プラスが使用できるようになる前には、少なくとも 2 分間走行していなければなりません。
- 電気式パーキングブレーキが解除されている。
- ESP® が設定されているが、介入していない。
- トランスミッションがポジション **D** である。
- **P** から **D** にシフトするときに運転席ドアが閉じている、または運転者のシートベルトが装着されている。
- 助手席ドアとリアドアが閉じている。

- オフロードプログラム 2 が解除されている（オン&オフロードパッケージ装備車）
- DSR は解除されている
- 車両が横滑りしていない
- ディストロニック・プラスの機能が選択されている(▷ 167 ページ)

設定する

▶ クルーズコントロールレバーを軽く手前に引くか ④ 、上 ① または下 ⑤ に操作します。
ディストロニック・プラスが作動します。

▶ 希望の速度になるまでクルーズコントロールレバーを上 ① にまたは下 ⑤ に繰り返し操作します。

▶ アクセルペダルから足を放してください。
希望の記憶させた速度までのみ、先行車両の速度に自車の速度が合わせられます。

先行車が検知され、マルチファンクションディスプレイに表示されると、30 km/h 以下の速度で走行するときもディストロニック・プラスを作動させることができます。例えば車線変更などで先行車が検知されなくなり、表示されなくなると、ディストロニック・プラスは解除されます。このときは警告音が鳴ります。

ℹ アクセルペダルから完全に足を放していない場合は、マルチファンクションディスプレイにディストロニックプラス制御待機中というメッセージが表示されます。このときは、ゆっくり走行している先行車両との設定距離は維持されません。アクセルペダルの位置に応じた速度で走行します。

現在の速度/最後に記憶させた速度で作動させる

⚠ **警告**

設定速度を呼び出し、それが現在の速度と異なるときは、車両が加速または減速します。 設定速度を覚えていないと、車両が不意に加速したりブレーキがかかることがあります。 事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。 設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

▶ クルーズコントロールレバーを手前に軽く引きます ④。

▶ アクセルペダルから足を放してください。
ディストロニック・プラスが作動します。初めて作動させたときは、そのときの速度が記憶されます。さもなければ、以前に記憶させた数値に車両の巡航速度を設定します。

ディストロニック・プラスでの運転

発進と走行

▶ **ディストロニック・プラスで発進したい場合**：ブレーキペダルから足を放します。

▶ クルーズコントロールレバーを軽く手前に引くか ④ 、上 ① または下 ⑤ に操作します。

または

▶ 軽くアクセルペダルを踏みます。
車両が発進して、速度を先行車両の速度に合わせます。

先行車両がいない場合は、ディストロニック・プラスはクルーズコントロールと同じように作動します。

先行車両が減速したことをディストロニック・プラスが検知した場合は、車両

にブレーキを効かせます。このようにして選択された距離が維持されます。

より速く走行している車両をディストロニック・プラスが前方に検知した場合は、走行速度が上がります。ただし、記憶させた速度までのみ車両は加速します。

ブレーキを踏んだとき、車両が停止していないときはディストロニック・プラスは解除されます。

車線の変更

追い越し車線に移るときは、以下のときにディストロニック・プラスが運転者を支援します。

- 60 km/h より速く走行している
- ディストロニック・プラスが先行車両との距離を維持している
- 対応する方向指示灯を作動させている
- ディストロニック・プラスが衝突の危険を検知していない

これらの条件を満たした場合は、車両は加速します。車線変更に時間がかかりすぎたり、車両と先行車両との距離が短すぎる場合は、加速は中断されます。

ⓘ 車線を変更するときは、左側ハンドル車両では左の車線を、右側ハンドル車両では右の車線をディストロニック・プラスはモニターします。

停止

⚠ **警告**

車から離れるときは、ディストロニック・プラスによりブレーキがかかっていても以下の場合は車両が動き出すことがあります。

- システムまたは電源供給に異常があるとき
- 乗員または車外の誰かがクルーズコントロールレバーを操作して、ディストロニック・プラスが解除されたとき
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき
- バッテリーの接続を外したとき
- 同乗者などがアクセルペダルを踏んだとき

事故の危険性があります。

車から離れるときは、必ずディストロニック・プラスをオフにして車両が動き出さないように固定します。

先行車両が停止したことをディストロニック・プラスが検知した場合は、車両が停止するまでブレーキを効かせます。

一度車両が停止すると、停車したままになり、ブレーキを踏む必要はありません。

しばらくすると電気式パーキングブレーキにより車両が動かなくなり、サービスブレーキの負担が軽減されます。

設定した最短距離によっては、車両は先行車両後方の十分な距離があるところで停止することがあります。設定最短距離はクルーズコントロールレバーのダイヤルを使用して設定します。

ディストロニック・プラスが作動していて以下の場合に、自動的に電気式パーキングブレーキによって車両が動かなくなります：

- 運転席ドアが開いていて、運転席のシートベルトが着用されていない
- ECO スタートストップ機能により自動的に停止したのではなく、エンジンを停止した
- システムに異常が発生した
- 電力供給が十分でない

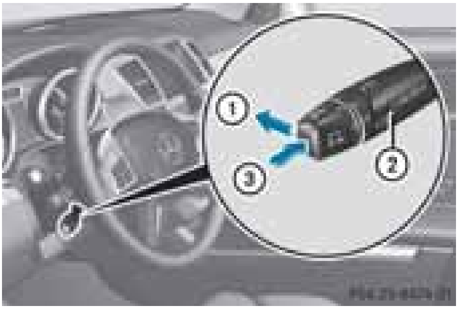
急な登り坂または下り坂勾配で、または故障が発生したときは、トランスミッションがポジション P に自動的にシフトされることがあります。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 速度の設定
- 指定最小車間距離の設定
- メーターパネルのディストロニック・プラスのディスプレイ表示

ディストロニック・プラスの解除



ディストロニック・プラスを解除するためにはいくつかの方法があります。

▶ クルーズコントロールレバーを前方 ① に軽く押します。

または

▶ 車両が停止していない場合にブレーキを効かせます。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ③ に軽く押します。
可変スピードリミッターが選択されます。クルーズコントロールレバーのLIM 表示灯 ② が点灯します。

ディストロニック・プラスを解除すると、マルチファンクションディスプレイに約5 秒間ディストロニックプラス オフというメッセージが表示されます。

ℹ エンジンを停止するまでは、最後に記憶された速度が記憶されたままになります。

ℹ アクセルペダルを踏んだ場合でも、ディストロニック・プラスは解除されません。追い越すために加速した場合は、追い越しを終了した後に、ディストロニック・プラスは最後に記憶された速度に車両の速度を調整します。

以下の場合は、ディストロニック・プラスが自動的に解除されます。

- 電気式パーキングブレーキを効かせた、または車両が自動的に電気式パーキングブレーキで固定された
- 25 km/h より遅く走行していて、先行車両がいない、または先行車両が検知されなくなった
- ESP®が介入したり、ESP®を解除した
- トランスミッションが **P**、**R**、または **N** ポジションにある
- 発進するためにクルーズコントロールレバーを前方に引き、助手席ドアまたはいずれかのリアドアが開いている
- DSR を作動させた
- オン&オフロードパッケージ装備車でオフロードプログラム 2 を起動した
- 車両が横滑りした

ディストロニック・プラスが解除された場合は、警告音が鳴ります。マルチファンクションディスプレイに ディストロニックプラス オフ というメッセージが約 5 秒間表示されます。

ディストロニック・プラスでの運転のヒント

全体的な注意事項

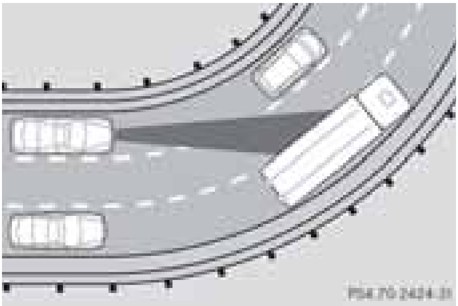
以下の交通状況では特に注意して運転してください。

- カーブでの走行、カーブに入るときやカーブを抜けるとき
- 車線の中央を走行していない車両があるとき

- 車線変更する他の車両があるとき
- 幅の狭い車両があるとき
- 障害物や停止車両があるとき
- 横切る車両があるとき

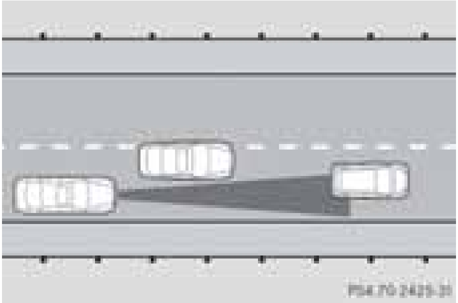
そのような状況では必要であればブレーキを効かせてください。ディストロニック・プラスは解除されます。

カーブでの走行、カーブに入るときやカーブを抜けるとき



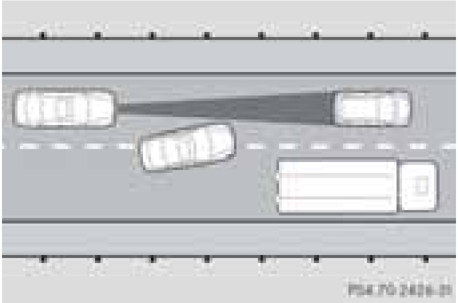
カーブではディストロニック・プラスの車両を検知する能力には限界があります。予期せずまたは遅くブレーキを効かせることがあります。

車線の中央を走行していない車両



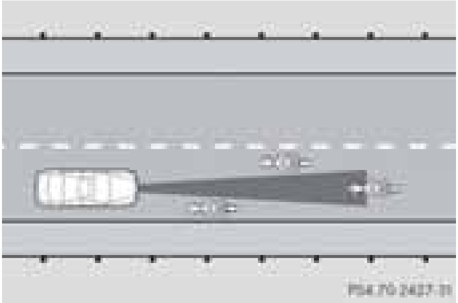
ディストロニック・プラスは車線の中央を走行していない車両を認識することができません。先行車との距離は非常に短くなることがあります。

車線変更する他の車両



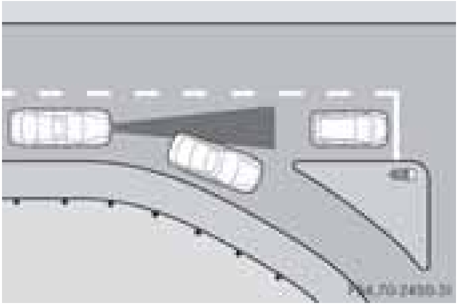
ディストロニック・プラスは割り込んでくる車両を検知しません。この車両との距離は非常に短くなることがあります。

幅の狭い車両



ディストロニック・プラスは道路の端の幅の狭い車両を検知しないことがあります。先行車との距離は非常に短くなることがあります。

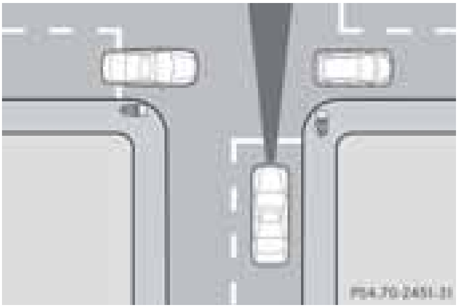
障害物や停止車両



ディストロニック・プラスは障害物や停止車両に対してブレーキを効かせないこ

とがあります。例えば、検知していた車両がカーブを曲がり、障害物や停止車両が現れたときは、ディストロニック・プラスはこれらに対してブレーキを効かせないことがあります。

横切る車両



ディストロニック・プラスは車線を横切る車両を誤って検知することがあります。交差点の信号でディストロニック・プラスを作動させると、例えば不意に車両が発進することがあります。

レベルコントロール（オン&オフロードパッケージ装備車）

重要な安全上の注意事項

レベルコントロールは、走行状況や路面状況に応じて車高を自動的に調整します。これにより、燃料消費率と走行安定性の向上を図ります。

車高調整は走行中に行なってください。これにより、選択した車高レベルに素早く変更することができます。

駐車中に外気温度が変化すると、車高レベルが変化したように見えることがあります。気温が下がると車高レベルが下がり、気温が上がるにつれて車高レベルも上がります。

車両を解錠するかドアを開くと、駐車している間に車両が荷重の不均衡を補正し始めます。ただし、長期間駐車した後などに大幅な車高調整を行なうには、エンジンをかける必要があります。安全のため、ドアが閉じているときのみ車高を下げることができます。ドアが開くと、車高の下がる動作が中断されます。ドアを閉じると、車高調整が継続されます。

オフロード走行については、(▷ 158 ページ) をご覧ください。

⚠ 警告

車両を下げるときに、車体と車輪の間、または車両の下に手足がある場合、挟まれるおそれがあります。 けがの危険性があります。

車両を下げるときは、車両の下、またはホイールアーチのすぐ近くに誰もいないことを確認してください。

⚠ 警告

高すぎる車高で走行すると、車両の重心が高すぎるため走行特性が損なわれることがあります。 車両がカーブする際などに横滑りすることがあります。 事故の危険性があります。

常にできるだけ低い車高レベルを選択し、走行スタイルを調整してください。

⚠ 警告

シャーシを上げたり、下げたりして走行するとき、車両のブレーキ操作や車両操縦性が著しく損なわれるおそれがあります。 さらに、シャーシを上げると、車両が許容車高を超える可能性があります。 事故の危険性があります。

発進する前に、必要な車高レベルに設定してください。

⚠ 警告

車両の重心位置が高いため、あるいは走行状況に適していない速度で走行すると、車両が横滑りしたり、急ハンドル時に横転するおそれがあります。 事故の危険性があります。

常に車両の走行特性および路面や天候の状態に応じた速度で慎重に運転してください。

! 極めて険しい地形を走行するときは、適切なタイミングで車高レベルを上げてしてください。 十分な地上高が確保されているか確認してください。 そうでないと車体を損傷するおそれがあります。

- SUV は他の車種と比較して、走行により横転する可能性があります。

  車両を安全な方法で運転しないと、横転するなどの事故を引き起こし、重傷や致命傷を負うおそれがあります。
- 車両が横転する事故が発生した際、シートベルトを着用していない乗員の方は、シートベルトを着用している乗員の方よりも死亡する確率が高くなります。

  運転者と乗員全員が常にシートベルトを着用する必要があります。

基本設定

車高調整レベルは、選択された基本設定によって異なります。

以下のいずれかを選択してください。

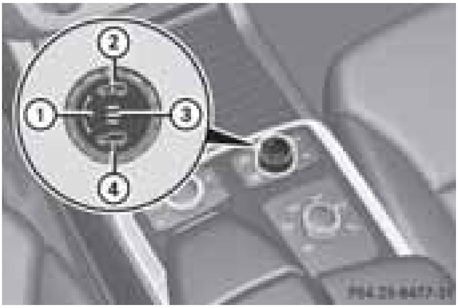
- ハイウェイ/高速レベル： 通常の道路を走行するとき
- オフロードレベル 1： コントロールが容易なオフロードの状況で走行するとき
- オフロードレベル 2： 通常のオフロードの状況で走行するとき
- オフロードレベル 3： 極めて過酷なオフロードの状況から低速で脱出するとき

個々の車高レベルは、ハイウェイレベルと次のように異なります。

- ハイウェイレベル：+/–0 mm
- 高速レベル：–15 mm
- オフロードレベル 1：+ 30 mm
- オフロードレベル 2：+ 60 mm
- オフロードレベル 3：+ 90 mm

概要

! 車高を下げるときは、十分な地上高が確保されていることを確認してください。そうでないと、車体が地面に当たりアンダーボディを損傷するおそれがあります。



① 選択ダイヤル
② 車高アップ
③ 表示灯
④ 車高ダウン

オフロードレベル

全体的な注意事項

- 特に険しい地形でオフロード走行するときに限りオフロードレベル 3 を選択してください。
- 車両操縦性の変化に合わせて運転スタイルを調整してください。
- 20 km/h を超えないように走行してください。

ホールド機能

全体的な注意事項

ホールド機能は以下のようなときに運転者を支援します。

- 特に急な坂道で発進するとき
- 急な坂道で車を動かすとき
- 発進待ちをしているとき

運転者がブレーキペダルを踏まなくても、車両が停止した状態を保ちます。

発進するためにアクセルペダルを踏んだときは、ブレーキ効果が解除されホールド機能は解除されます。

ℹ オフロード走行時や急勾配の道路、滑りやすい路面などグリップが低い状況では、ホールド機能を使用しないでください。このような路面では、ホールド機能で停車した状態を維持できません。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

車両を離れるときは、ホールド機能によりブレーキを効かせているにも関わらず、以下のときに発進するおそれがあります。

- システムまたは電圧の供給に不具合がある
- 例えば車両乗員によってアクセルペダルが踏まれることによりホールド機能が解除される
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造される
- バッテリーの接続が外された

事故の危険性があります。

車両を離れる前には常にホールド機能を解除し、発進しないように車両を固定してください。

! ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。 車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください：

- けん引されるとき
- 洗車時

ホールド 機能を解除します (▷ 175 ページ)。

作動条件

ホールド機能は以下のときに作動させることができます。

- 車両が停止しているとき
- エンジンがかかっているとき、またはエンジンを ECO スタートストップ機能によって自動的に停止しているとき
- 運転席ドアを閉じているとき、または運転者がシートベルトを着用しているとき
- 電気式パーキングブレーキが解除されているとき
- トランスミッションのポジションが **D**、**R**、**N** のとき
- ディストロニック・プラスが解除されているとき

ホールド機能を作動させる

▶ 作動条件が合っていることを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏みます。

▶ マルチファンクションディスプレイに ① が表示されるまで、ブレーキペダルを素早くさらに踏みます。
ホールド機能が作動します。ブレーキペダルから足を放すことができます。

ℹ 最初にブレーキペダルを踏んだときにホールド機能が作動しない場合には、少し待った後に再度試してください。

ホールド機能を解除する

ホールド機能は以下のときに自動的に解除されます。

- アクセルペダルを踏んで、トランスミッションがポジションDまたはRである。
- トランスミッションをポジションPにシフトした。
- マルチファンクションディスプレイから①が消えるまで、ブレーキペダルを再度一定の強さで踏んだ。
- 電気式パーキングブレーキを使用して車両を動かないようにした。
- ディストロニック・プラスを作動させた。

ℹ しばらくすると電気式パーキングブレーキにより車両が動かなくなり、サービスブレーキの負担が軽減されます。

ホールド機能が作動していて以下の場合に、自動的に電気式パーキングブレーキによって車両が動かなくなります。

- 運転席ドアが開いていて、運転席のシートベルトが着用されていない
- ECOスタートストップ機能により自動的に停止したのではなく、エンジンを停止した
- システムに異常が発生した
- 電力供給が十分でない

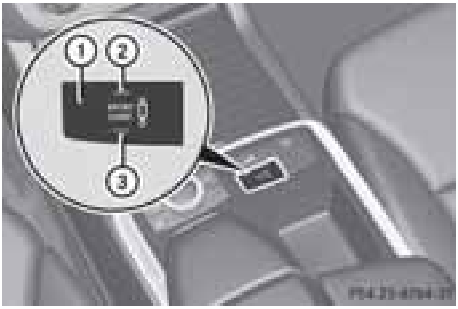
急勾配の道路を走行しているときや異常が発生したときは、トランスミッションが自動的にPにシフトされることがあります。

AIRマティックパッケージ

全体的な注意事項

AIRマティックサスペンションは、走行状況に合わせてサスペンション特性を切り替えたり、車高や減衰力を調整できるシステムです。このシステムは2つ以上の機構で構成されています。それらは、ADS（アダプティブ・ダンピング・システム）(▷ 175 ページ) とレベルコントロール (▷ 176 ページ) です。さらに、車両にはアクティブカーブシステム (▷ 175 ページ) が装備されている場合もあります。

ADS（アダプティブ・ダンピング・システム）



例：オン&オフロードパッケージ非装備車

① サスペンションモード選択スイッチ
② スポーツモード表示灯
③ コンフォートモード表示灯

アクティブカーブシステム

アクティブカーブシステムは、可変スタビライザーにより走行快適性と車両の俊敏性の両方を最適化します。選択されているADSモード (▷ 175 ページ) に応じて、アクティブカーブシステムも設定を変化させます。

ADSコンフォートモードを選択すると、以下の制御が行なわれます。

- 起伏のある路面で車体のローリング（横揺れ）を低減します。
- コーナリング時のロール角を低減します。
- 車両の俊敏性を確保します。

ADS スポーツモードを選択すると、以下の制御が行なわれます。

- ロール角を大幅に低減します。
- 車両の俊敏性がさらに向上します。

レベルコントロール

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

車両を下げるときに、車体と車輪の間、または車両の下に手足がある場合、挟まれるおそれがあります。 けがの危険性があります。

車両を下げるときは、車両の下、またはホイールアーチのすぐ近くに誰もいないことを確認してください。

⚠ **警告**

高すぎる車高で走行すると、車両の重心が高すぎるため走行特性が損なわれることがあります。 車両がカーブする際などに横滑りすることがあります。 事故の危険性があります。

常にできるだけ低い車高レベルを選択し、走行スタイルを調整してください。

⚠ **警告**

シャーシを上げたり、下げたりして走行するとき、車両のブレーキ操作や車両操縦性が著しく損なわれるおそれがあります。 さらに、シャーシを上げると、車両が許容車高を超える可能性があります。 事故の危険性があります。

発進する前に、必要な車高レベルに設定してください。

⚠ **警告**

車両の重心位置が高いため、あるいは走行状況に適していない速度で走行すると、車両が横滑りしたり、急ハンドル時に横転するおそれがあります。 事故の危険性があります。

常に車両の走行特性および路面や天候の状態に応じた速度で慎重に運転してください。

! 極めて険しい地形を走行するときは、適切なタイミングで車高レベルを上げてしてください。 十分な地上高が確保されているか確認してください。 そうでないと車体を損傷するおそれがあります。

! 車高を下げるときは、十分な地上高が確保されていることを確認してください。そうでないと、車体が地面に当たりアンダーボディを損傷するおそれがあります。

- SUV は他の車種と比較して、走行により横転する可能性があります。

  車両を安全な方法で運転しないと、横転するなどの事故を引き起こし、重傷や致命傷を負うおそれがあります。
- 車両が横転する事故が発生した際、シートベルトを着用していない乗員の方は、シートベルトを着用している乗員の方よりも死亡する確率が高くなります。

  運転者と乗員全員が常にシートベルトを着用する必要があります。

全体的な注意事項

"オフロード走行"に関するさらなる情報は、(▷ 158 ページ) をご覧ください。

レベルコントロールは、走行状態や路面状況に応じて車高を自動的に調整します。これにより、燃料消費率と走行安定性の向上を図ります。

ADS コンフォートモード (▷ 175 ページ) を選択すると、走行速度が増すにつれて車高が高速レベルまで下がります。減速するにつれて車高がハイウェイレベルまで再び上がります。

ADS スポーツモード (▷ 175 ページ) を選択すると、基本設定に応じて車高はハイウェイレベルを飛ばして直接高速レベルまで下がります。 (▷ 177 ページ)

車高調整は走行中に行なってください。これにより、選択した車高レベルに素早く変更することができます。

駐車中に外気温度が変化すると、車高レベルが変化したように見えることがあります。気温が下がると車高が下がり、気温が上がるにつれて車高も上がります。

車両を解錠するかドアを開くと、駐車している間に車両が荷重の不均衡を補正し始めます。ただし、長期間駐車した後などに大幅な車高調整を行なうには、エンジンをかける必要があります。安全のため、ドアが閉じているときのみ車高を下げることができます。ドアが開くと、車高の下がる動作が中断されます。ドアを閉じると、車高調整が継続されます。

基本設定（AMG 車以外）

車高調整レベルは、選択された基本設定によって異なります。オフロード走行時は上昇レベル、通常の道路ではハイウェイレベルまたは高速レベルを選択してください。

個々の車高レベルは、ハイウェイレベルと次のように異なります。

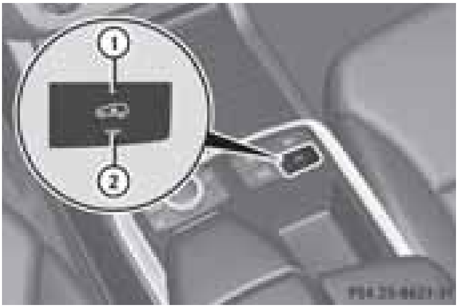
- ハイウェイレベル：+/-0 mm
- 高速レベル：-15 mm
- 上昇レベル：+60 mm

基本設定（AMG 車）

車高調整レベルは、選択された AMG RIDE CONTROL 設定によって異なります。オフロード走行時は上昇レベル、通常の道路ではハイウェイレベルまたは高速レベルを選択してください。

コンフォートモードでは、ハイウェイレベルと比較したとき、上昇レベルは車両レベルと対応して 50 mm 上昇します。

上昇レベル



例：オン&オフロードパッケージ非装備車

① レベルコントロールスイッチ

② レベルコントロール表示灯

上昇レベルは、路面状況に合っているときのみ選択してください。そうしないと、燃料消費量が増加し車両操縦性が損なわれるおそれがあります。

ハイウェイ/高速レベル

! 車高を下げるときは、十分な地上高が確保されていることを確認してください。そうでないと、車体が地面に当たりアンダーボディを損傷するおそれがあります。

以下のとき、車両は自動的にハイウェイレベルに調整されます。

- 80 km/h より速く走行した、または
- 65 km/h ～ 80 km/h の速度で約 20 秒間走行したとき

選択されている ADS モード (▷ 175 ページ) に応じて、高速時には車両が高速レベルに下がります。

AMG RIDE CONTROL のスポーツサスペンション

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 車高
- サスペンション制御

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

車両を下げるときに、車体と車輪の間、または車両の下に手足がある場合、挟まれるおそれがあります。 けがの危険性があります。

車両を下げるときは、車両の下、またはホイールアーチのすぐ近くに誰もいないことを確認してください。

⚠ 警告

以下を行なうと、車高が下がります：

- コンフォートまたはスポーツサスペンション制御を選択し、そして
- エンジンをオフにした後に車両をロックしたとき

ホイールハウスの近くや車両の下に人がいると、挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

エンジンを停止しているときは、ホイールハウスの近くや車両の下に人がいないことを確認してください。

! 以下の場合に、車両は約 10 mm 下がります。

- スポーツまたはコンフォートサスペンション制御を選択し、そして
- エンジンを停止した
- 車両を施錠します。

駐車するときは、車高が下がって縁石に接触しないように車両の位置を確認してください。車両が損傷するおそれがあります。

車高

レベルコントロールは、走行状態や路面状況に応じて車高を自動的に調整します。レベルコントロールは、サスペンションを最適にして、荷物搭載時でも地上高を一定に保ちます。これにより走行時の安全性と燃料消費率が向上します。

AIR マティックパッケージおよびアクティブカーブシステムは常に AMG RIDE CONTROL (▷ 175 ページ) に付属しています。 スポーティなサスペンション設定により、標準の車両と比較して、車両の位置および速度の下降および上昇の規定値は異なります。

コンフォートおよびスポーツ走行モードでは、施錠後車両が Sport+ レベルに下がります。 車両は施錠後上昇レベルから下がりません。

エンジンをオフにした後、設定は保存されたままです。 エンジンが始動したとき、AMG RIDE CONTROL COMFORT などの選択した設定は保存されます。

ⓘ 駐車中に外気温度が変化すると、車高レベルが変化したように見えることがあります。気温が下がると車高が下がり、気温が上がるにつれて車高も上がります。

サスペンション制御

全体的な注意事項

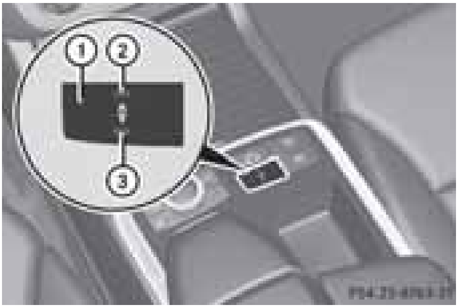
電子制御サスペンションシステムは常時作動しています。このシステムは走行時の安全性と乗り心地の向上を図ります。

以下の状況に応じて減衰力は車輪ごとに個別に調整されます。

- 運転者の走行スタイル
- 路面状況
- スポーツモード、スポーツモード+またはコンフォートモードの設定

選択した内容は、エンジンスイッチからキーを抜いても記憶されます。

スポーツモード



スポーツモードではサスペンション制御がより固くなり、路面追従性が向上します。例えば曲がりくねった道などを走行するときにはこのモードを選択してください。

▶ スイッチ ① を 1 回押します。
表示灯 ② が点灯します。これでスポーツモードが選択されます。
マルチファンクションディスプレイに AMG Ride Control SPORT と表示されます。

スポーツ＋モード

スポーツ＋モードでは、サスペンション制御がより固くなり、最適な路面追従性が確保されます。サーキット場での走行時は主にこのモードを選択します。

表示灯 ③ と ② が消灯しているとき：

▶ スイッチ ① を 2 回押します。
表示灯 ③ と ② が点灯します。これでスポーツ＋モードが選択されます。車両が約 10 mm 低くなります。
マルチファンクションディスプレイに AMG Ride Control SPORT ＋というメッセージが表示されます。

表示灯 ② が点灯しているとき：

▶ スイッチ ① を 1 回押します。
2 番目の表示灯 ③ が点灯します。これでスポーツ＋モードが選択されます。車両が約 10 mm 低くなります。
マルチファンクションディスプレイに AMG Ride Control SPORT ＋というメッセージが表示されます。

コンフォートモード

コンフォートモードでは、車両の走行特性がより快適になります。快適な運転スタイルが好みの場合は、このモードを選択します。自動車道路のまっすぐな道路のような直線道路を速く走行するときもコンフォートモードを選択してください。

▶ 表示灯 ③ と ② が消えるまで、スイッチ① を繰り返し押します。
これでコンフォートモードが選択されます。車両は Sport ＋ モードと比較して、約 10 mm 高くなります。
マルチファンクションディスプレイに AMG Ride Control COMFORT と表示されます。

パークトロニック

重要な安全上の注意事項

パークトロニックは超音波センサーによる、電子的な駐車の支援です。車両と物体との距離を視覚的および聴覚的に示します。

パークトロニックは単なる支援に過ぎません。すぐ近くに対する運転者の注意の代わりになるものではありません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。ステアリング操作や駐車を行なっている間は、周囲に人や動物、障害物がないことを確認してください。

! 駐車するときは、鉢植えやトレーラーけん引部などセンサーの上下にあるものに十分注意をしてください。パークトロニックはこれらが車両の至近距離にあるときは感知できません。車両や物を損傷するおそれがあります。

センサーは雪やその他の超音波を吸収しやすいものを感知しないことがあります。

自動洗車機やトラックの圧縮空気ブレーキ、空気ドリルなどが発生する超音波によりパークトロニックが機能しないことがあります。

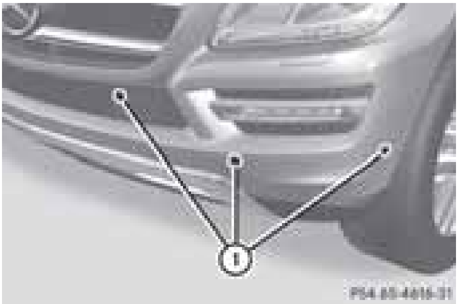
不整地などではパークトロニックが正しく作動しないことがあります。

パークトロニックは以下のときに自動的に作動します：

- イグニッションをオンにした
- トランスミッションをポジション D、R または N にシフトした
- 電気式パーキングブレーキを解除した

パークトロニックは 18 km/h 以上の速度で解除されます。それより低い速度で再作動します。

パークトロニックはフロントバンパーの 6 個のセンサーとリアバンパーの 4 個のセンサーを使用して、車両周辺のエリアをモニターします。



① 例：左側フロントバンパーのセンサー

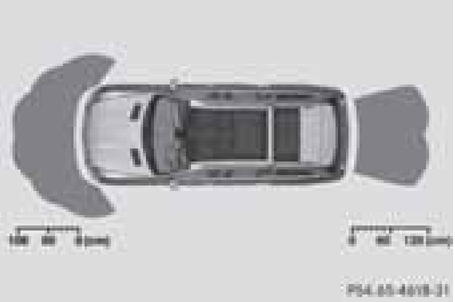
センサーの範囲

全体的な注意事項

以下のときは、パークトロニックは障害物を考慮しません。

- 人や動物、障害物などが検知範囲の下にある
- 突き出た荷物、車両後部、または積載用スロープなどが検知範囲の上にある

側面図



上面図

センサーに汚れ、氷、泥などが付着していない状態にしてください。適切に機能しないことがあります。センサーに損傷を与えないように注意して、定期的に清掃してください。(▷ 273 ページ)

フロントセンサー

センター部	約 100 cm
コーナー部	約 60 cm

リアセンサー

センター部	約 120 cm
コーナー部	約 80 cm

最短距離

センター部	約 20 cm
コーナー部	約 15 cm

この範囲内に障害物がある場合は、対応する警告表示が点灯して警告音が鳴ります。距離が最短以下になった場合は、距離が表示されなくなることがあります。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 警告表示
- パークトロニックの解除/作動
- パークトロニックのトラブル

アクティブパーキングアシスト

全体的な注意事項

アクティブパーキングアシストは超音波により駐車を支援するシステムです。これは車両の両側の道路を測定します。駐車マークは、適切な駐車スペースを示します。アクティブにステアリング操作に介入し、駐車を支援します。

パークトロニックも利用できます(▷ 179 ページ)。

重要な安全上の注意事項

アクティブパーキングアシストはあくまでも運転を支援するシステムです。運転者の代わりに周辺状況を確認することはできません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。ステアリング操作や駐車を行なう間は、進行方向に人や動物、障害物が存在しないことを確認してください。

パークトロニックが解除されているときは、アクティブパーキングアシストも使用できません。

⚠ **警告**

検知範囲上に障害物があると、アクティブパーキングアシストが早すぎるステアリング操作をすることがあります。 衝突するおそれがあります。 事故の危険性があります。

アクティブパーキングアシストの検知範囲上に障害物があると、車両が停止し、アクティブパーキングアシストが解除されます。

⚠ **警告**

ステアリング操作での作動介入により、アクティブパーキングアシストを行ないます。 ブレーキを操作しない場合、事故を起こす危険性があります。

ステアリング操作や駐車を行なうときは、運転者がブレーキをかける必要があります。

⚠ **警告**

駐車するときや駐車スペースから出るとき、車両がはみ出し、対向車線に入ることがあります。他の道路使用者とぶつかる可能性があります。事故の危険性があります。

他の道路利用者に注意してください。必要な場合は停車して、アクティブパーキングアシストの作動を解除してください。

! 避けられないときは、ゆっくりと鋭角でない角度で縁石などの障害物を乗り越えてください。 ホイールやタイヤを損傷するおそれがあります。

アクティブパーキングアシストは、以下のような駐車するのに適さないスペースを表示することがあります：

- 駐車または停車の規制
- 私道の手前または建物の出入り口
- 路面が駐車するのに適してない場所

駐車の知識：

- 狭い道路では、できるだけ駐車スペースの近くを通過して走行してください。
- ゴミが散らかっていたり、草が茂っている駐車スペースは、確認や測定が不正確になることがあります。

- トレーラーけん引部が一部を占有している駐車スペースは、それが識別できなかったり、測定が不正確になることがあります。
- 雪や激しい雨により正しく計測されていない駐車スペースに誘導されることがあります。
- 駐車操作を行なっている間は、パークトロニック (▷ 181 ページ) の警告メッセージに注意してください。
- 運転者はいつでもステアリング操作に介入して修正できます。その場合はアクティブパーキングアシストが解除されます。
- 車両からはみ出ている荷物を運んでいるときは、アクティブパーキングアシストを使用しないでください。
- スノーチェーンを装着しているときは、決してアクティブパーキングアシストを使用しないでください。
- タイヤの空気圧が常に適正であることを確認してください。これは車両の駐車特性に直接影響を与えます。

アクティブパーキングアシストは以下のような駐車スペースで使用してください。

- 走行する方向と平行なとき
- カーブしていないまっすぐな道にある
- 歩道などでなく、道路と同じ高さにある

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 駐車スペースの検知
- 駐車
- 駐車スペースからの退出
- アクティブパーキングアシストの中止

360° カメラシステム（サラウンドビュー）

全体的な注意事項

360° カメラシステムは 4 つのカメラで構成されるカメラシステムです。

システムは以下のカメラからの映像を判断します。

- パーキングアシストリアビューカメラ
- フロントカメラ
- ドアミラーの 2 つのカメラ

カメラは車両のすぐ周囲をモニターします。システムは、駐車時や見通しの悪い出口などで運転者を支援します。

360° カメラシステムの映像は、COMAND ディスプレイに全画面表示モードまたは 6 種類の分割画面表示で表示することができます。分割画面表示には車両上面表示も含まれます。この表示は、装着されているカメラにより提供されたデータから生成されます（バーチャルカメラ）。

6 つの分割画面表示は以下とおりです。

- 車両上面表示とリアビューカメラからの映像（130° 表示角度）
- 上面表示とフロントカメラの映像（最大ステアリング角度は非表示）
- 車両上面表示とリア拡大表示
- 車両上面表示とフロント拡大表示
- ドアミラーカメラからの車両上面表示および後面表示映像（後輪表示）
- ドアミラーカメラからの車両上面表示および前面表示映像（前輪表示）

機能が作動していて、トランスミッションを D または R の位置から N にシフトしたときは、COMAND ディスプレイに以前の画面が表示されます。可動式のガイドラインが非表示になります。

シフトポジションを D と R の間で切り替えたときは、直前に選択されていたフロントまたはリアビューが表示されます。

重要な安全上の注意事項

360°カメラシステムは単なる支援にすぎません。周囲に対する運転者の注意の代わりになるものではありません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。ステアリング操作や駐車を行なっている間は、周囲に人や動物、障害物がないことを確認してください。

360°カメラシステムは、状況によっては障害物の歪んだ映像を映し出したり、障害物が正確に映し出されなかったり、まったく映らないことがあります。以下のエリアにある障害物は、カメラで映し出すことができません。

- フロントバンパーの下
- フロントバンパーの近接部
- リアバンパーのすぐ近く
- リアバンパーの下
- トランクリッドのハンドルの真上
- ドアミラーの近接部

運転者には安全を確保する責任があり、駐車や運転操作を行なうときは、常に周囲の状況に注意しなければなりません。これには、車両の後方、前方および両側が含まれます。さもないと、運転者や他の人に危険がおよぶおそれがあります。

360°カメラシステムは、以下のときはまったく機能しなくなるか、制限された方法でのみ機能します。

- ドアが開いている場合
- ドアミラーが格納されている場合
- テールゲートが開いているとき
- 激しい雨、雪または霧
- 夜や非常に暗い場所
- カメラに強い光が直接当たっている場合
- 周囲が蛍光灯のバルブ、または LED の光で照らされている（ディスプレイがちらつくことがあります）
- 冬に暖かい車庫に入るなど、急激な温度変化があった場合
- カメラのレンズが汚れていたり、覆われている場合
- カメラ装着部の車両の構成部品が損傷した場合。このようなときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの位置および設定を点検してください。

このような場合は、360°カメラシステムを使用しないでください。さもないと、車両を駐車をしているときに、他の人にけがをさせたり、物を損傷するおそれがあります。

作動条件

360°カメラシステムの映像は、以下のときに表示されます。

- 車両に 360°カメラシステムが装備されている
- COMAND システムが作動している。別冊の COMAND システムの取扱説明書をご覧ください。
- 360° カメラ の機能が作動しているとき

SYS スイッチを使用して 360°カメラシステムを作動させる

▶ SYS スイッチを 2 秒以上押します。別冊の COMAND システムの取扱説明書をご覧ください。
シフトポジション **D** または **R** のいずれかが選択されているかによって、以下の画面が表示されます。
  - フロントカメラからの映像の全画面表示
  - リアビューカメラからの映像の全画面表示

COMAND システムを使用して 360° カメラシステムを作動させる

▶ SYS スイッチを押します。別冊の COMAND システム取扱説明書をご覧ください。

▶ COMAND コントローラーをまわして ⟨◎⟩、システムを選択し、押して ◎ 確定します。

▶ 360° カメラを選択し、押して ◎ 確定します。
シフトポジション D または R のいずれかが選択されているかによって、以下の画面が表示されます。
- 車両上面表示およびフロントカメラからの映像による分割画面表示、または
- 車両上面表示およびリアビューカメラからの映像による分割画面表示

COMAND コントローラーに関するさらなる情報は、別冊の COMAND システムの取扱説明書をご覧ください。

リバースギアを使用して 360° カメラシステムを作動させる

リバースギアに入れることで、自動的に 360° カメラシステムの映像が表示されます。

▶ イグニッションロックのキーが **2** の位置にあることを確認します。

▶ COMAND システムでリバース連動設定が作動していることを確認します。別冊の COMAND システム取扱説明書をご覧ください。

▶ **360° カメラシステムの映像を表示する：**リバースギアに入れます。
COMAND ディスプレイは、分割画面に以下の車両後方のエリアを示します。
- ガイドラインのある車両
- 車両の上面表示

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- COMAND ディスプレイの表示
- パークトロニックディスプレイでの映像表示

360° カメラシステムの表示を停止する

機能が作動していて、車両が 30 km/h の速度を超えるとすぐに、機能は停止します。COMAND ディスプレイに前回の画面が表示されます。ディスプレイの ⮌ マークを選択し、COMAND コントローラーを押して ◎ 選択することでもディスプレイを切り替えることもできます。

アテンションアシスト

全体的な注意事項

アテンションアシストは高速道路や幹線道路のような道路で、長時間の変化の少ない走行をするときに運転者を支援します。80 km/h から 180 km/h の範囲で作動します。運転者の疲労や集中力欠如の増加の典型的な兆候を検知した場合は、アテンションアシストは休憩を促します。

重要な安全上の注意事項

アテンションアシストは単なる支援にすぎません。疲労や集中力欠如を検出するのが遅すぎたり、まったくしないことがあります。十分な休憩を取り、集中力がある運転者の代わりになるものではありません。

以下のときは、アテンションアシストの機能が制限されたり、警告が遅れる、またはまったく行なわれないことがあります。

- 路面が平坦でなかったり、穴があるなど、道路の状態が悪い場合
- 横風が強い場合
- 高いスピードでカーブを曲がっているときや急加速をしているときなど、スポーティな走行を行なっている場合
- 主に 80 km/h より遅く、または 180 km/h より速く走行している場合
- 時刻が正しく設定されていない場合
- 車線を変更したり走行速度を変えるなどの活発な運転状況の場合

走行を継続するときは、以下のときにアテンションアシストはリセットされ、運転者の疲労の評価を開始します。

- エンジンを停止した
- 運転者を交代したり、休憩を取るために、運転者がシートベルトを外して運転席のドアを開いた

アテンションアシストの設定

▶ マルチファンクションディスプレイを使用してアテンションアシストを設定します (▷ 205 ページ)。

アテンションアシストが解除されているときは、マルチファンクションディスプレイのアシスト一覧に OFF マークが表示されます。

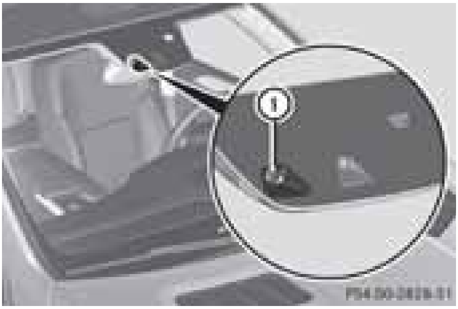
アテンションアシストは、エンジンが始動した後に自動的に設定されます。

マルチファンクションディスプレイの警告とディスプレイメッセージ

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

ナイトビューアシストプラス

全体的な注意事項



通常のヘッドライトの照明に加え、ナイトビューアシストプラスは赤外線を利用して路面を照射します。 ナイトビューアシストプラスのカメラ ① は、赤外線を検知して COMAND ディスプレイに白黒の映像として表示します。 COMAND ディスプレイには、ハイビームヘッドライトで映し出される路面と同じ映像が表示されます。 進行方向の道路状況や障害物を素早く確認することができます。 歩行者検知機能が作動しているときは、システムで認識された歩行者がナイトビューアシストプラスのディスプレイに強調表示されます。

対向車のヘッドライトの光は、マルチファンクションディスプレイに表示されるナイトビューアシストプラスの映像に影響を与えることはありません。 対向車がいるために、メインビームヘッドライトをオンにできないときも同様です。

ℹ 赤外線は人の目に見えないため、対向車を眩惑させることはありません。 したがって、対向車がいる場合でもナイトビューアシストプラスを作動させることができます。

重要な安全上の注意事項

ナイトビューアシストプラスはあくまでも補助装置であり、注意を払った運転

の代わりになるものではありません。ナイトビューアシストプラスの映像のみに頼らないでください。先行車両との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作の責任は運転者にあります。常に路面や天候の状態に合わせて運転してください。

以下のときはシステムの作動が損なわれたり、正しく機能しないことがあります。

- 雪や雨、霧や小雨などで視界が悪いとき
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っているとき、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われているとき
- カーブや上り坂、下り坂を走行しているとき

以下のような状況下では歩行者が正常に検知されなかったり、まったく検知されないことがあります。

- 歩行者の身体の一部または全部が駐車車両などの障害物で隠れているとき
- ナイトビューアシストプラスのディスプレイに表示される歩行者の輪郭が強い光の反射などで不完全になったり途切れているとき
- 歩行者が周囲の背景などに溶け込んでいるとき
- 座っている、かがんでいる、または横たわっているなど、歩行者が立っていない状態のとき

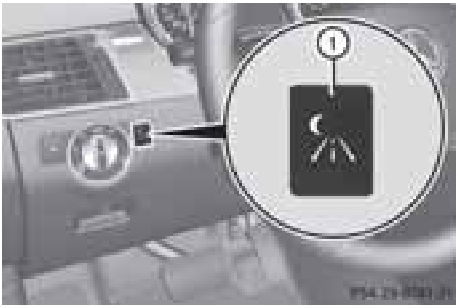
ナイトビューアシストプラスの作動

作動条件

ナイトビューアシストプラスは、以下のときにのみ作動させることができます。

- エンジンスイッチのキーが 2 の位置にある。
- 暗い
- ライトスイッチが AUTO または ≣D の位置にある
- リバースギアに入っていない

ナイトビューアシストプラスの作動



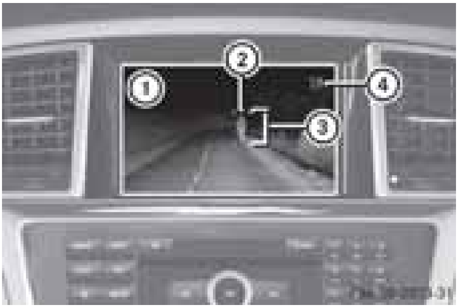
▶ COMAND システムがオンになっていることを確認します。

▶ スイッチ ① を押します。
COMAND ディスプレイにナイトビューアシストプラスの画像が表示されます。

COMAND ディスプレイの照度の調整方法については、COMAND システム取扱説明書をご覧ください。

ℹ 赤外線照射ヘッドライトは、車両が 10 km/h 以上の速度で走行しているときにのみ作動します。これは、停車している間は完全な視界を得ているのではなく、ナイトビューアシストプラスが作動しているかどうかを確認できないことを意味しています。

歩行者検知機能



① ナイトビューアシストプラスの映像
② 検知された歩行者

③ フレーム
④ 歩行者検知のマーク

ℹ 歩行者検知機能では動物を検知することはできません。

ナイトビューアシストプラスは人の輪郭などの特徴により歩行者を認識します。

歩行者検知機能は以下のときに自動的に作動します。

- ナイトビューアシストプラスが作動しているとき
- 約 10 km/h より速く走行している
- 街路灯がない郊外を走行するときなど、周囲が暗いとき

歩行者検知機能の作動中は、マーク ④ が表示されます。歩行者が検知された場合、フレーム ③ 付きで強調表示されます。歩行者検知システムが歩行者を検知したときは、フロントウインドウ越しに前方を直接確認してください。ディスプレイ表示だけでは障害物や歩行者までの距離を正確に把握することはできません。

歩行者だけでなく障害物が強調表示される場合もあります。

フロントウインドウの曇りまたは汚れ

カメラの前のフロントウインドウの内側や外側が曇っていたり汚れていると、ナイトビューアシストプラスのディスプレイに影響します。

▶ **曇りを取る：** エアコンディショナーの設定を確認し(▷ 137 ページ)、カメラのカバーを開きます(▷ 273 ページ)。

▶ **フロントウインドウの内側の曇りを取る：** カメラのカバーを開いて(▷ 273 ページ) フロントウインドウを掃除します(▷ 273 ページ)。

ナイトビューアシストプラスのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ナイトビューアシストプラスの画質が低下している。	ワイパーの汚れがフロントウインドウに付着している。 ▶ ワイパーブレードを交換してください(▷ 130 ページ)。
	洗車場で洗車した後で、フロントウインドウに汚れが付着している。 ▶ フロントウインドウを掃除してください(▷ 273 ページ)。
	フロントウインドウのカメラ装着部分が傷付いている。 ▶ フロントウインドウを交換してください。
	フロントウインドウの内側が曇っている。 ▶ フロントウインドウの曇りを取ってください(▷ 137 ページ)。
	フロントウインドウが凍っている。 ▶ フロントウインドウを解凍してください (▷ 137 ページ)。
	フロントウインドウの内側に汚れがある。 ▶ フロントウインドウの内側を掃除してください(▷ 273 ページ)。

レーントラッキングパッケージ

全体的な注意事項

レーントラッキングパッケージはブラインドスポットアシスト (▷ 188 ページ) とレーンキーピングアシスト (▷ 190 ページ) で構成されます。

ブラインドスポットアシスト

全体的な注意事項

ブラインドスポットアシストは、レーダーセンサーシステムを使用して車両の両側のエリアをモニターします。30 km/h 以上の速度で運転者を支援します。ドアミラーの警告表示によって、モニターしている範囲で検知された車両に運転者の注意が向けられます。そのときに車線変更する側の方向指示灯を作動させると、視覚的および聴覚的な衝突警告が行なわれます。モニターするために、ブラインドスポットアシストはリアバンパーのセンサーを使用します。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

ブラインドスポットアシストは以下の場合は車両に反応しません。

- 自車が追い越そうとしている隣接車線の車両が接近し過ぎ、死角エリアに入ったとき
- 接近と追い越しの速度差が非常に大きいとき

このような状況では、ブラインドスポットアシストは運転者に警告を発することができません。事故の危険性があります。

常に交通状況に十分注意を払い、車両の両側と安全な車間距離を維持してください。

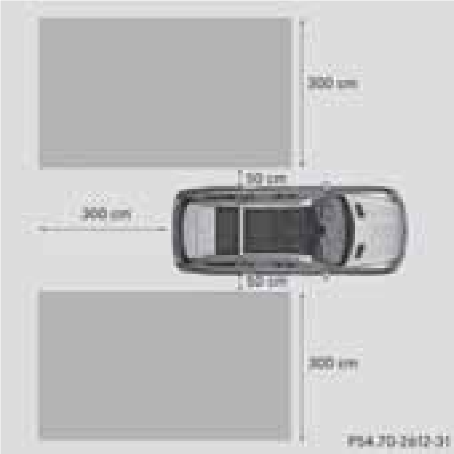
ブラインドスポットアシストは単なる支援にすぎません。車両を検知できないことがあり、注意した運転の代わりになるものではありません。

センサーのモニター範囲

特に以下のときは、障害物の検知が困難になります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 霧や激しい雨、雪、霧雨などで視界が悪い
- オートバイや自転車などの、幅の狭い車両
- 非常に幅の広い車線
- 幅の狭い車線
- 車両が車線の中央を走行していない
- 隔壁その他の道路分離帯

このときは、モニター範囲にある車両は示されません。



ブラインドスポットアシストは、図に示すように 3.0 m までの車両後方および車両のすぐ脇の範囲をモニターします。

車線の幅が狭い場合、車両が中央を走行していない場合は 2 車線横を走行している車両が検知されることがあります。これは、ご自身の車両寄りの車線端部に車両がいる場合などです。

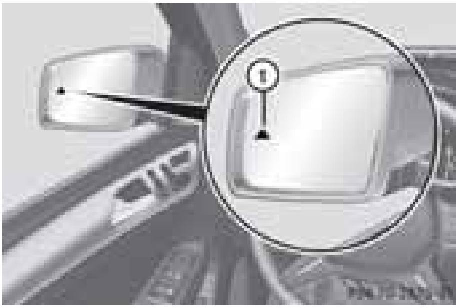
以下は、システムの特性に起因するものです。

- ガードレール、または類似の連続している車線境界の近くを走行しているときに、誤って警告が発せられることがあります。
- トレーラーなどの長い車両と長時間並走しているときに、警告が中断されることがあります。

ブライドスポットアシストの 2 個のレーダーセンサーは、リアバンパーの両側に内蔵されています。バンパーのセンサー付近に汚れ、氷や泥が付着していないことを確認してください。自転車キャリヤや突き出た荷物などでセンサーが覆われないようにしてください。強い衝撃を受けたり、バンパーに損傷を与えたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの状態を点検してください。さもないと、ブラインドスポットアシストが正常に作動しなくなることがあります。

表示および警告表示

ブラインドスポットアシストは、30 km/h 以下の速度では作動しません。このときは、モニター範囲にある車両は示されません。



① 黄色の表示灯/赤色の警告灯

ブラインドスポットアシストが作動している場合は、ドアミラーの表示灯 ① が約 30 km/h の速度まで黄色に点灯します。約 30 km/h 以上の速度では、表示灯が消灯し、ブラインドスポットアシストが作動可能になります。

30 km/h 以上の速度でブラインドスポットアシストのモニター範囲内で車両が検知された場合は、対応する側の警告灯 ① が赤色に点灯します。この警告は、後方または側方から車両がブラインドスポットのモニター範囲に入ってきたときに常に行なわれます。車両を追い越すときは、速度差が 12 km/h 以下の場合にのみ警告が行なわれます。

リバースギアに入れた場合は、黄色の表示灯は消灯します。そして、ブラインドスポットアシストが解除されます。

表示灯/警告灯の明るさは周囲の明るさによって自動的に調整されます。

衝突警告

ブラインドスポットアシストのモニター範囲で車両が検知されていて、対応する方向指示灯を作動させた場合は、警告音が 2 回鳴ります。赤色の警告灯 ① が点滅します。方向指示灯をそのままにしている場合は、赤色の警告灯 ① の点滅により検知された車両が示されます。警告音はそれ以上鳴りません。

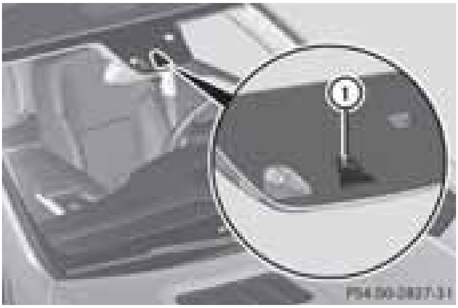
デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下に関する情報があります。

- ブラインドスポットアシストの作動

レーンキーピングアシスト

全体的な注意事項



① レーンキーピングアシストカメラ

レーンキーピングアシストは、フロントウインドウ上部に装着されたカメラ ① で車両前方をモニターします。レーンキーピングアシストは路面の車線を検知し、車線を外れそうになる前に運転者に警告を行ないます。

マルチファンクションディスプレイの表示単位 速度/距離: 機能で km を選択すると (▷ 205 ページ)、レーンキーピングアシストが約 60 km/h 以上の速度で作動を開始します。miles 表示が選択されている場合は、支援範囲は 40 mph から始まります。

前輪が車線ラインを越えた場合は警告が行なわれます。警告はステアリングを 1.5 秒 以内で振動させることにより行なわれます。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

レーンキーピングアシストは常に明確に車線ラインを検知することはできません。

このような場合、レーンキーピングアシストは以下を行うことがあります

- 不必要な警告を発する
- 警告を発しない

事故の危険性があります。

特にレーンキーピングアシストが警告しているときは、必ず交通状況および車線内を保つように特に注意してください。

⚠ 警告

車両が元の車線に戻らないと、レーンキーピングアシストによって警告が発せられます。 事故の危険性があります。

レーンキーピングアシストが警告しているときは、常に運転者自身で車両のステアリング操作やブレーキ操作または加速操作を行ってください。

運転スタイルを合わせていない場合は、レーンキーピングアシストは事故の危険性を軽減することも、物理的な法則を乗り越えることもできません。レーンキーピングアシストは、道路、天候、または交通状況を考慮することはできません。レーンキーピングアシストは単なる支援にすぎません。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、車線の維持に関する責任があります。

レーンキーピングアシストは車両を車線内に維持することはできません。

以下のときは、システムの作動が損なわれたり、正しく機能しないことがあります：

- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や霧雨によるなど、視界が悪い
- 対向交通、太陽または他の車両からの反射などで眩惑がある（路面が濡れている場合など）
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っている、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われている
- 工事エリアなどで 1 車線の車線ラインが全くないか、またはいくつかある、不明瞭である
- 車線ラインが摩耗していたり黒ずんでいる、または汚れや雪などに覆われている
- 先行車両との車間距離が短くて車線ラインが検知できない
- 車線の分岐や他との交差、合流などで車線ラインが頻繁に変わる
- 道路が狭かったりカーブしている
- 道路に様々な状況の著しい日陰がある

レーンキーピングアシストの作動

詳細は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

アクティブドライビングアシスタンスパッケージ

全体的な注意事項

アクティブドライビングアシスタンスパッケージは、ディストロニック・プラス (▷ 165 ページ) 、アクティブブラインドスポットアシスト (▷ 191 ページ)、およびアクティブレーンキーピングアシスト (▷ 194 ページ) で構成されています。

アクティブブラインドスポットアシスト

全体的な注意事項

アクティブブラインドスポットアシストはレーダーセンサーシステムを使用して、運転者後方の車両側方エリアをモニターします。ドアミラーの警告表示によって、モニターしている範囲で検知された車両に運転者の注意が向けられます。車線変更するために該当する方向指示灯を作動させた場合は、視覚的および聴覚的な衝突警告も発せられます。側面衝突の危険性が検知された場合は、修正ブレーキが

衝突の回避を支援することがあります。車線修正ブレーキの適用前に、アクティブブラインドスポットアシストは進行方向および側方の空いているスペースを測定します。そのために、アクティブブラインドスポットアシストは前向きのレーダーセンサーを使用します。

アクティブブラインドスポットアシストは、約 30 km/h の速度から支援を行ないます。

重要な安全上の注意事項

アクティブブラインドスポットアシストはあくまでも運転を支援するためのシステムです。いくつかの車両は検知できないことがあり、注意を払った運転の代わりになるものではありません。

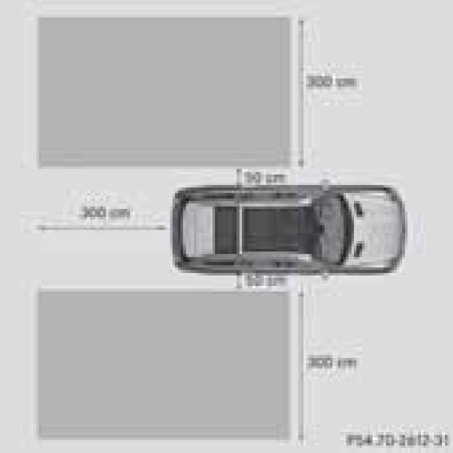
> ⚠ **警告**
>
> アクティブブラインドスポットアシストは以下のような車両には反応しません。
>
> - 追い越してくる際に、側面に近づき過ぎて死角に入った車両
> - 接近と追い越しの速度差が非常に大きいとき
>
> この場合、アクティブブラインドスポットアシストは警告も介入も行ないません。事故の危険性があります。
>
> 常に交通状況に十分注意を払い、車両の両側に安全な車間距離を維持してください。

レーダーセンサー

アクティブブラインドスポットアシストのレーダーセンサーは、前後のバンパーおよびラジエタートリムのカバー裏側に内蔵されています。バンパーとラジエタートリムのカバーに、汚れや氷、泥がないことを確認してください。リアセンサーが自転車用ラック、または突き出た荷物などによって覆われないようにしてください。強い衝撃を受けたり、バンパーに損傷を与えたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの機能を点検してください。さもないと、アクティブブラインドスポットアシストが正しく機能しなくなることがあります。

モニター範囲

> ⚠ **警告**
>
> アクティブブラインドスポットアシストはすべての交通状況と道路使用者を検知するわけではありません。事故の危険性があります。
>
> 他の交通や障害物との距離が十分であることを常に確認してください。



アクティブブラインドスポットアシストは、図に示すように車両後方の 3.0 m まで、およびすぐ脇の範囲をモニターします。このために、アクティブブラインドスポットアシストはリアバンパーのレーダーセンサーを使用します。

特に以下のときは、障害物の検知が困難になることがあります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 霧や激しい雨、雪、霧雨などで視界が悪い

このときは、モニター範囲にある車両は示されません。

走行装備

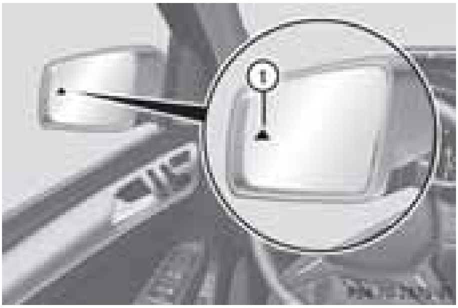
アクティブブラインドスポットアシストはオートバイや自転車のような幅の狭い車両を検知しなかったり、非常に遅れてからのみ検知することがあります。

車線が狭い場合、特に車両が車線の中央を走行していない場合は、お客様の車両の隣車線の次の車線の車両を検知することがあります。これは、お客様の車両に近い方の車線端部に車両が走行している場合などです。

以下は、システムの特性に起因するものです。

- ガードレール、または類似の連続している車線境界の近くを走行しているときに、誤って警告が発せられることがあります。
- トレーラーなどの特に長い車両と長時間並走しているときに、警告が中断されることがあります。

表示および警告表示



① 黄色の表示灯/赤色の警告灯

アクティブブラインドスポットアシストは約 30 km/h 以下の速度では作動しません。このときは、モニター範囲にある車両は示されません。

アクティブブラインドスポットアシストがオンになると、30 km/h の速度までドアミラーの表示灯 ① が黄色に点灯します。30 km/h 以上の速度では、表示灯は消灯し、アクティブブラインドスポットアシストは作動可能になります。

30 km/h 以上の速度でアクティブブラインドスポットアシストのモニター範囲で車両が検知された場合は、対応する側の警告灯 ① が赤色に点灯します。この警告は、後方または側方から車両がブラインドスポットのモニター範囲に入ってきたときに常に行なわれます。車両を追い越すときは、速度差が 12 km/h 以下の場合にのみ警告が発せられます。

リバースギアに入れた場合は、黄色の表示灯は消灯します。アクティブブラインドスポットアシストは作動しなくなります。

表示灯/警告灯の明るさは周囲の明るさによって自動的に調整されます。

視覚的および聴覚的な衝突警告

運転者が車線変更のために方向指示灯を作動させ、側方のモニター範囲で車両が検知された場合は、視覚的および聴覚的な衝突警告が発せられます。その後、警告音が 2 回鳴り、赤色の警告灯 ① が点滅します。方向指示灯をそのままにしている場合は、検知された車両が赤色の警告灯 ① の点滅により示されます。警告音はそれ以上鳴りません。

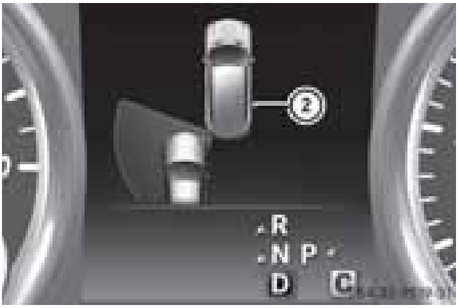
車線修正ブレーキの適用

モニター範囲でアクティブブラインドスポットアシストが側面衝突の危険性を検知した場合は、車線修正ブレーキの適用が行なわれます。これは、運転者の衝突回避を支援するために設計されています。

⚠ 警告

車線修正ブレーキの適用は、常に衝突を防ぐわけではありません。 事故の危険性があります。

特に、アクティブブラインドスポットアシストが警告するまたは車線修正ブレーキの適用をする場合、必ずステアリング操作、ブレーキ操作、加速操作を行なってください。常に両側との安全な車間距離を維持してください



車線修正ブレーキが適用された場合は、ドアミラーの赤色の警告灯 ①が点滅して、警告音が 2 回鳴ります。加えて、側面衝突の危険性を強調した表示 ② がマルチファンクションディスプレイに表示されます。

まれに、システムが適切でないブレーキの適用を行なうことがあります。ステアリングを反対方向に軽く操作するか、または加速した場合は、いつでも車線修正ブレーキの適用が中断されます。

車線修正ブレーキの適用は 30 km/h ～ 200 km/h の速度範囲で行なわれます。

以下の場合には、走行状況に合った、または全く合わない車線修正ブレーキの適用が行なわれます。

- 車両の両側に、車両やガードレールなどの障害物がある
- 側方すぐのところに車両が接近している
- 高いコーナリング速度のスポーティな走行スタイルをとっている
- 明確にブレーキ操作またはアクセル操作を行なっている
- ESP®または PRE-SAFE®ブレーキのような走行安全システムが適用されている
- ESP®が解除されている
- オフロードプログラムを起動している（オン&オフロードパッケージ非装備車）
- オフロードプログラム 1 または 2 を起動している（オン&オフロードパッケージ装備車）
- LOW RANGE オフロードギアを選択している（オン&オフロードパッケージ装備車）
- タイヤ空気圧の低下やタイヤの不具合が検知されている

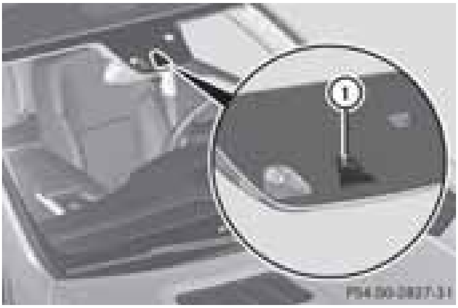
デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下に関する情報があります。

- アクティブブラインドスポットアシストの作動

アクティブレーンキーピングアシスト

全体的な注意事項



アクティブレーンキーピングアシストは、フロントウインドウ上部に装着されたカメラ ① で車両前方をモニターします。アクティブレーンキーピングアシストは路面の車線マークを検知し、意図せずに車線を外れる前に運転者に警告を行ないます。警告に反応しない場合は、車線修正ブレーキを適用することにより、車両を元の車線に戻すことができます。

マルチファンクションディスプレイの 表示単位 速度/距離 で km を選択している場合は(▷ 205 ページ)、アクティブレーンキーピングアシストは 60 km/h の速度で作動を開始します。miles 表示が選

択されている場合は、支援範囲は約40 mph から始まります。

重要な安全上の注意事項

運転スタイルを合わせていない場合は、アクティブレーンキーピングアシストは事故の危険性を軽減することはできません。さらに、それは物理的限界を超えることはできません。レーンキーピングアシストは、道路、天候、または交通状況を考慮することはできません。レーンキーピングアシストは単なる支援にすぎません。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、車線の維持に関する責任があります。

アクティブレーンキーピングアシストは車両を車線内に保ち続けることはできません。

> ⚠ **警告**
>
> アクティブレーンキーピングアシストは必ずしも明確に車線ラインを検知することはできません。
>
> このような場合、アクティブレーンキーピングアシストは以下を行うことがあります
>
> - 不要な警告を行ない、車両に車線修正ブレーキをかける
> - 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる
>
> 事故の危険性があります。
>
> 特にアクティブレーンキーピングアシストが警告しているときは、必ず交通状況に注意を払い車線内に保つようにしてください。 危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

以下のときは、システムの作動が損なわれたり、正しく機能しないことがあります：

- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や霧雨によるなど、視界が悪い
- 対向交通、太陽または他の車両からの反射などで眩惑がある（路面が濡れている場合など）
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っている、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われている
- 工事エリアなどで 1 車線の車線マークが全くないか、またはいくつかある、不明瞭である
- 車線マークが摩耗していたり黒ずんでいる、または汚れや雪などに覆われている
- 先行車両との車間距離が短くて車線マークが検知できない
- 車線の分岐や他との交差、合流などで車線マークが頻繁に変わる
- 道路が狭かったりカーブしている
- 道路上の日陰との差が大きいとき
- 隣接したレーンに車両がいないと検知され、車線マークが壊れているとき

ステアリングの警告振動

前輪が車線マークを越えた場合は警告が行なわれます。警告はステアリングを1.5 秒以内で振動させることにより行なわれます。

車線マークを越える場合、必要な状況で適切なタイミングでのみ警告を行なうため、システムは特定の状況を認識し、それに応じて警告を行ないます。

以下のときは、早めに警告の振動が行なわれます。

- カーブの外側の車線マークに近づいた。
- 自動車道路など、道路の車線の幅が非常に広い。
- システムが実線の車線マークを検知した。

以下のときは、遅めに警告の振動が行なわれます。

- 道路の車線の幅が狭い。
- カーブの内側をまたいだ。

車線修正ブレーキの適用

⚠ **警告**

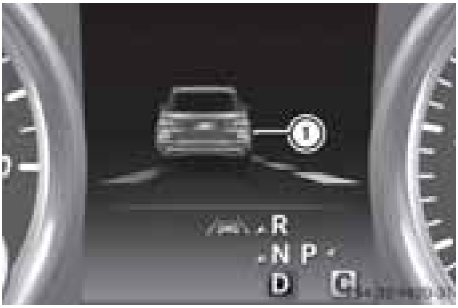
車線修正ブレーキを適用しても車両が元の車線に戻るとは限りません。 事故の危険性があります。

特に、アクティブレーンキーピングアシストが警告する、または車線修正ブレーキが適用される場合、必ずステアリング操作、ブレーキ操作、加速操作を行なってください。

⚠ **警告**

アクティブレーンキーピングアシストは交通状況や道路を利用している人を検知しません。まれに、実線の車線マークの上を故意に走行した後などにシステムによって適切でないブレーキが適用されることがあります。 事故の危険性があります。

ステアリングを反対方向に軽く操作すると、適切でないブレーキの適用を中断できます。他の交通や障害物との距離が十分であることを常に確認してください。



車線修正ブレーキの適用が行なわれた場合は、マルチファンクションディスプレイに ① が表示されます。

特定の状況で車線から外れた場合には、車両の片側にブレーキが軽く効きます。これは、車両を元の車線に戻すように支援するために意図されています。

車線修正ブレーキの適用は、実線の認識可能な車線マークの上を走行した後にのみ行なわれます。これにはその前にステアリングの断続的な振動による警告が出されている必要があります。さらに、両側に車線マークのある車線が認識されていなければなりません。ブレーキの適用により、走行速度も少し低下します。

ℹ 車両が元の車線に戻った後にのみ、次の車線修正ブレーキの適用が行なわれます。

以下のときは、車線修正ブレーキの適用は行われません。

- 明確に、および活発にステアリング操作、ブレーキ操作または加速を行なっている。
- きついカーブの内側をまたいだ。
- 方向指示灯を作動させた。
- ESP®、PRE-SAFE®ブレーキまたはアクティブブラインドスポットアシストのような走行安全システムが介入した。

- 高いコーナリング速度、または急加速のスポーティな運転スタイルを行なっている。
- ESP®を解除する。
- トランスミッションがポジション **D** でない。
- オフロードプログラムを起動しているとき（オン&オフロードパッケージ非装備車）
- オフロードプログラム 1 または 2 を起動しているとき（オン&オフロードパッケージ装備車）
- LOW RANGE オフロードギアを選択しているとき（オン&オフロードパッケージ装備車）
- タイヤ空気圧の減少やタイヤの不具合が検知されて表示された。

アクティブレーンキーピングアシストは道路や交通状況は検知しません。以下のときはいつでも、不適切なブレーキの適用は中断されます。

- ステアリングを反対方向に軽く操作する。
- 方向指示灯を作動させる。
- 明確にブレーキ操作または加速操作を行なう。

以下のときに、車線修正ブレーキの適用は自動的に中断されます。

- ESP®、PRE-SAFE®ブレーキまたはアクティブブラインドスポットアシストのような走行安全システムが介入した。
- 車線マークが検知されなくなった。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下に関する情報があります。

- アクティブレーンキーピングアシストの設定

オンロードプログラム（オン&オフロードパッケージ装備車）

全体的な注意事項

オンロードプログラムは公道を走行するときに運転者を支援し、オフロードプログラムはオフロード走行時に運転者を支援します。（▷ 200 ページ）

AUTO プログラム

① オンロードプログラム選択ダイヤル
② AUTO プログラム表示灯

SPORT プログラム

① オンロードプログラム選択ダイヤル
② SPORT プログラム表示灯

スノープログラム

① オンロードプログラム選択ダイヤル
② スノープログラム表示灯

オフロード走行システム

4MATIC（フルタイム 4 輪駆動システム）

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、4MATIC は事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて運転を支援することはできません。 4MATIC は路面、天候および交通状況を考慮することはできません。 4MATIC はあくまでも運転を支援するシステムです。 運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。

! 片方のアクスルを持ち上げた状態で車両をけん引しないでください。 トランスファーケースを損傷するおそれがあります。このような損傷はメルセデス・ベンツの一般保証では保証されません。 全ての車輪が接地しているか、完全に持ち上がっていなければなりません。 車輪全てが完全に接地している状態で車両をけん引するときは、取扱説明書に従ってください。

! 機能テストや性能テストを行なうには、必ず 2 軸式ダイナモメーターを使用してください。 このようなダイナモメーターで車両を作動させる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。 お守りいただかないと、駆動装置やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

4MATIC は 4 輪すべてが常に駆動力を維持するシステムです。システムは、ESP® や 4ETS と連動して、タイヤのグリップが低く駆動輪が空転する状況で車両の駆動力を高めます。

i 冬に走行するときには、ウィンタータイヤ (M+S タイヤ)や必要であればスノーチェーンを装着すると 4MATIC の効果が最大限に発揮されます。

"オフロード走行"に関するさらなる情報は、(▷ 158 ページ) をご覧ください。

DSR（ダウンヒル・スピード・レギュレーション）

重要な安全上の注意事項

DSR は下り走行時に運転者を支援するシステムです。このシステムを使用して、マルチファンクションディスプレイで設定した速度を保つことができます。下り坂が急勾配になるほど DSR のブレーキ作用が増大します。平坦な道路や上り坂を走行するときは、DSR のブレーキ作用は最小限になるか、まったく効かなくなります。

DSR は、作動可能な状態でオートマチックトランスミッションのシフトポジションが **D**、**R** または **N** のときに設定速度を制御することができます。アクセルペダルまたはブレーキペダルを操作すれば、マルチファンクションディスプレイで設定した速度よりも高い/低い速度で走行することができます。

"オフロード走行"に関するさらなる情報は、(▷ 158 ページ) をご覧ください。

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、DSR は事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて安全を確保す

ることはできません。DSR は路面、天候および交通状況を考慮することはできません。DSR は補助装置です。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。

下り走行時の危険回避や安全確保については、常に運転者に全責任があります。路面やタイヤの状態によって DSR は設定された速度を維持できない場合があります。路面や交通状況に合わせて設定速度を選択し、必要であればブレーキペダルを踏んでください。

⚠ **警告**

走行している速度と設定している速度が異なり、滑りやすい路面で DSR を作動させているとき、ホイールはトラクションを失う可能性があります。これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

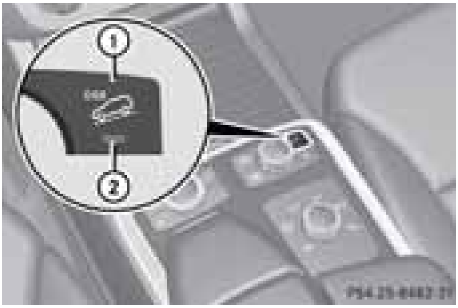
ＤＳＲ を作動する前に、路面の状況および走行速度と設定速度の差を考慮してください。

⚠ **警告**

設定した速度よりも高い速度で走行し、DSR を作動させた場合、車両は急な下り坂で減速します。 設定速度を覚えていないと、車両が不意に減速することがあります。 事故の危険性があります。

DSR が作動する前に、設定速度に減速してください。 設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

全体的な注意事項



例：オン&オフロードパッケージ装備車

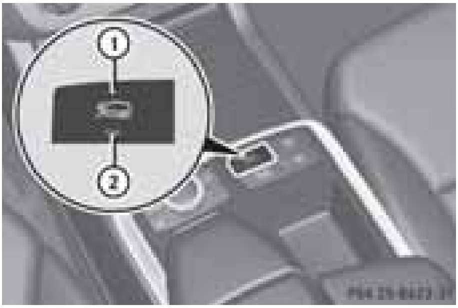
① DSR スイッチ

② DSR 表示灯

デジタル版取扱説明書には、以下に関する情報があります。

- DSR の作動
- DSR の解除
- 設定速度の変更

オフロードプログラム（オン&オフロードパッケージ非装備車）



① オフロードプログラムスイッチ

② オフロードプログラム表示灯

オフロードプログラムは、オフロード走行時に運転者を支援します。エンジンの性能特性やオートマチックトランスミッションの変速特性がオフロードの走行状況に合わせて調整されます。オフロード走行に最適化された ABS、ESP® および 4ETS のプログラムが起動します。緩

やかなアクセルレスポンスが選択されます。そのため、加速時はアクセルペダルをより深く踏み込む必要があります。

積雪路や凍結路の走行時またはスノーチェーンを装着しているときはオフロードプログラムを使用しないでください。

オフロード走行については、(▷ 158 ページ) をご覧ください。

オフロードプログラム（オン&オフロードパッケージ装備車）

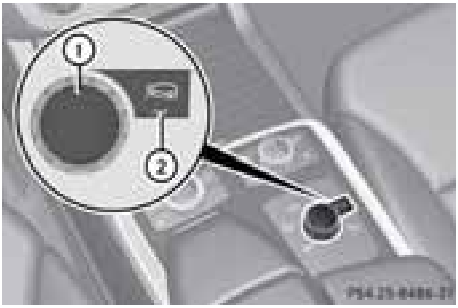
全体的な注意事項

オフロードプログラムは、オフロード走行時に運転者の支援を行ないます。エンジンの性能特性やオートマチックトランスミッションの変速特性がオフロードの走行状況に合わせて調整されます。オフロード走行に最適化された ABS、ESP® および 4ETS のプログラムが起動します。オフロード走行に最適なアクセルレスポンスが選択されます。そのため、加速時はより深くアクセルペダルを踏む必要があります。

積雪路や凍結路の走行時またはスノーチェーンを装着しているときはオフロードプログラムを使用しないでください。

オフロード走行については、(▷ 158 ページ) をご覧ください。

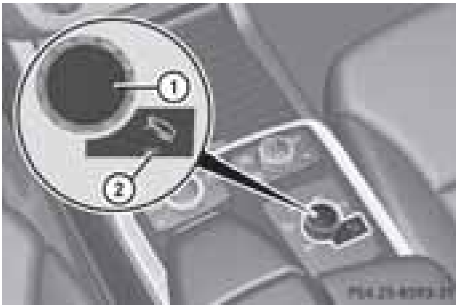
オフロードプログラム 1



① 選択ダイヤル

② オフロードプログラム表示灯 1

オフロードプログラム 2



① 選択ダイヤル

② オフロードプログラム表示灯 2

LOW RANGE オフロードギア（オン&オフロードパッケージ装備車）

重要な安全上の注意

⚠ 警告

滑りやすい路面で LOW RANGE オフロードギアを選択すると、以下のときにトラクションが低下するおそれがあります。

- 走行時にアクセルペダルを緩めたとき
- ブレーキ時にオフロード ABS が作動したとき

車輪がトラクションを失うと、操舵不能になります。 これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

滑りやすい路面を走行するときは、決して LOW RANGE オフロードギアを選択しないでください。

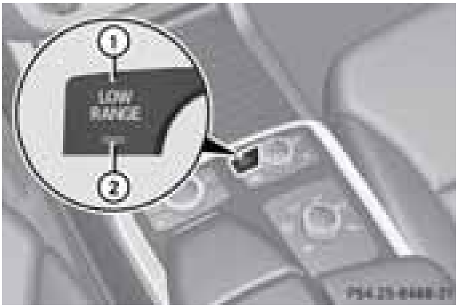
⚠ 警告

トランスファーのシフトチェンジが完了するまで待たないと、トランスファーがニュートラルポジションに入ったままになることがあります。 被駆動輪への動力伝達が妨げられるおそれがあります。 車両が不意に動き出すおそれがあり危険です。 事故の危険性があります。

トランスファーの変速プロセスが完了するまで待ってください。

シフトチェンジ中はエンジンを切らないでください。また、オートマチックトランスミッションで他のギアにシフトしないでください。

全体的な注意事項



① LOW RANGE オフロードギアスイッチ
② LOW RANGE オフロードギア表示灯

LOW RANGE オフロードギアは、オフロード走行時や渡河時に運転者を支援します。LOW RANGE が締結しているときは、エンジンの性能特性やオートマチックトランスミッションの変速特性がオフロードの走行状況に合わせて調整されます。

HIGH RANGE から LOW RANGE に切り替える

! LOW RANGE から HIGH RANGE への切り替えは、必ず以下のときに行なってください。

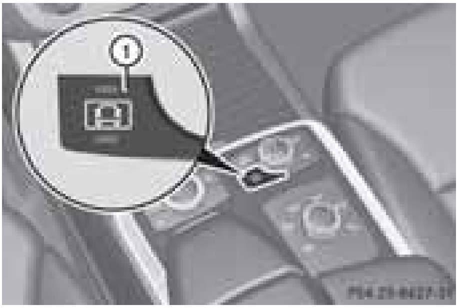
- エンジンがかかっているとき
- シフトポジションを **N** にしたとき
- 約 40 km/h 以下の速度で走行しているとき

LOW RANGE から HIGH RANGE に切り替える

! HIGH RANGE から LOW RANGE への切り替えは、必ず以下のときに行なってください。:

- エンジンがかかっているとき
- シフトポジションを **N** にしたとき
- 約 70 km/h 以下の速度で走行しているとき

COMAND ディスプレイのオン&オフロードメニュー（オン&オフロードパッケージ装備車）



COMAND ディスプレイに一部の走行装備、走行モードおよび追加情報を表示することができます。

▶ エンジンスイッチが **2** の位置にあることを確認します。
▶ COMAND システムが起動していることを確認します。別冊の COMAND システム取扱説明書をご覧ください。
▶ 機能スイッチ ① を押します。
対応する表示が COMAND ディスプレイに表示されます。
- レベルコントロール
- ステアリング角度
- 車両の傾斜角
- 上り坂または下り坂の勾配（%）
- 選択されたオンロード/オフロードプログラム

- トランスファーケースのディファレンシャルロックの状態
- LOW RANGE オフロードギアの選択
- LOW RANGE オフロードギアの状態
- オンロードトレーラープログラムの選択

役に立つ情報 204
重要な安全上の注意事項 204
表示および操作 204
メニューおよびサブメニュー 205
ディスプレイメッセージ 207
メーターパネルの警告および表示灯 219

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 32 ページ)

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全な時にのみ、操作するようにしてください。 安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

⚠ **警告**

メーターパネルに故障や異常がある場合は、安全性に関わる機能を認識することができません。走行安全性が損なわれる可能性があります。 事故の危険性があります。

注意して運転してください。すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

マルチファンクションディスプレイを操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムからのメッセージや警告のみを表示します。 そのため、常に安全に走行してください。 車両を安全に操作しないと、事故の原因になるおそれがあります。

メーターパネルの図は、をご覧ください。

表示および操作

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 冷却水温度計
- タコメーター
- セグメント付きスピードメーター
- マルチファンクションディスプレイ
- 外気温度表示

マルチファンクションディスプレイの操作

概要

① マルチファンクションディスプレイ
② 音声認識の作動：別冊の取扱説明書をご覧ください
③ 右側コントロールパネル
④ 左側コントロールパネル
⑤ リターンスイッチ

▶ **マルチファンクションディスプレイを作動させる：** エンジンスイッチのキーを 1 の位置にまわします。

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクションディスプレイの表示と設定を操作することができます。

左側コントロールパネル

◀ ▶	• メニューやメニューバーの呼び出し
▲ ▼	**軽く押す：** • リストのスクロール • サブメニューや機能の選択 • オーディオ メニュー：保存した放送局、音楽トラックまたはビデオシーンの選択 • TEL (電話) メニュー：電話帳の表示、名前や電話番号の選択
▲ ▼	**押して保持する：** • オーディオ メニュー： 高速スクロールによる、前 / 次の放送局または音楽トラック、ビデオシーンの選択 • TEL (電話) メニュー： 電話帳を開いている場合、高速スクロールの開始
OK	• 選択 / ディスプレイメッセージの確定 • Tel (電話) メニュー：電話帳への切り替え、および選択した番号の発信開始 • オーディオ メニュー： 放送局サーチ機能による希望の放送局の選局

右側コントロールパネル

(終話ボタン)	• 通話の拒否、または終了 • 電話帳 / 発信履歴の終了
(通話ボタン)	• 発信、または受話 • 発信履歴への切り替え
+ −	• 音量の調整
(ミュートボタン)	• ミュート

リターンスイッチ

↩	**軽く押す：** • 戻る • 音声認識の停止：別冊の取扱説明書をご覧ください • ディスプレイメッセージの消去 / 最後に使用したトリップ メニュー機能の呼び出し • 電話帳 / 発信履歴の終了
↩	**押して保持する：** • トリップ メニューの基本画面の呼び出し

メニューおよびサブメニュー

メニュー概要

ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押してメニューバーを呼び出し、メニューを選択します。

マルチファンクションディスプレイの操作 (▷ 204 ページ)

デジタル版取扱説明書には、個々のメニューに関するさらなる情報情報が記載されています。

車両に装着されている装備に応じて、以下のメニューを呼び出すことができます。

- トリップメニュー
- ナビ メニュー（ナビゲーションのメッセージ）
- オーディオ メニュー
- TEL メニュー（電話）
- アシストメニュー（アシスト）
- メンテナンスメニュー
- 設定メニュー
- オン＆オフロードメニュー
- AMG メニュー（AMG 車）

ディスプレイメッセージ

はじめに

全体的な注意事項

本項目では、安全に関わるディスプレイメッセージおよびその対応方法などについて記載しています。その他のメッセージおよびその対応方法の記載については、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

ディスプレイメッセージはマルチファンクションディスプレイに表示されます。

取扱説明書では記号マークを伴うディスプレイメッセージを簡略化しているため、マルチファンクションディスプレイのマークと異なる場合があります。

ディスプレイメッセージの指示に従って対応し、この取扱説明書の追加の注意事項に従ってください。

いくつかのディスプレイメッセージは、警告音、または連続音が伴います。

車両を駐停車するときは、ホールド機能 (▷ 173 ページ) および駐車 (▷ 155 ページ) に関する注意に従ってください。

ディスプレイメッセージを非表示にする

▶ ディスプレイメッセージを非表示にするには、ステアリングの OK または ⮌ スイッチを押します。
ディスプレイメッセージが消えます。

マルチファンクションディスプレイには、重要度の高いメッセージが赤色で表示されます。 一部の優先順位の高いディスプレイメッセージは、非表示にできません。

これらのメッセージは、故障や異常の原因が解決するまでマルチファンクションディスプレイに常時表示されます。

メッセージメモリー

マルチファンクションディスプレイは、特定のディスプレイメッセージを **メッセージメモリー**に保存します。以下のようにしてディスプレイメッセージを呼び出すことができます。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、メンテナンス メニューを選択します。
メッセージがある場合は、ディスプレイに 2 メッセージ のように故障の件数が表示されます。

▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、2 メッセージ を選択します。

▶ OK を押して確定します。

▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、ディスプレイメッセージをスクロールします。

エンジンスイッチからキーを抜くと、重要度の高い一部のメッセージを除いて、メッセージがすべて削除されます。 故障の原因が解決すると、重要度の高いメッセージも削除されます。

安全システム

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
現在使用できません 取扱説明書を参照	ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、BAS（ブレーキアシスト）、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよびクロスウインドアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、CPA（衝突警告システム）、BAS PLUS、PRE-SAFE® ブレーキも故障していることがある。 メーターパネルの 、 、 警告灯も点灯している。 アテンションアシストが解除されている。 考えられる原因： • 自己診断がまだ完了していない • バッテリーの電圧が不十分なことがある ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがある。 ステアリング特性やブレーキ特性が著しく影響を受けることがある。緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリングを動かしながら、適切な直線路で慎重に走行してください。 ディスプレイメッセージが消えた場合は、上記の機能が再度作動可能になります。 ディスプレイメッセージが表示され続ける場合： ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
作動できません 取扱説明書を参照	故障のため、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよびクロスウインドアシストが作動しない状態になっている。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	アダプティブブレーキライト、CPA（衝突警告システム）、BAS PLUS、PRE-SAFE® ブレーキも故障していることがある。 さらに、メーターパネルの [ブレーキ警告灯] [ESP®警告灯]、[ESP® OFF警告灯]、[ABS警告灯] 警告灯も点灯している。 アテンションアシストが解除されている。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがある。 ステアリング特性やブレーキ特性が著しく影響を受けることがある。緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
現在 使用できません 取扱説明書を参照	故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよびクロスウインドアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、CPA（衝突警告システム）、BAS PLUS、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 さらに、メーターパネルの と 警告灯も点灯している。 例えば、自己診断がまだ完了していないことが考えられる。 アテンションアシストが解除されている。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがある。 緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリングを動かしながら、適切な直線路で慎重に走行してください。 ディスプレイメッセージが消えた場合は、上記の機能が再度作動可能になります。 ディスプレイメッセージが表示され続ける場合： ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
作動できません 取扱説明書を参照	故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよびクロスウインドアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、CPA（衝突警告システム）、BAS PLUS、PRE-SAFE® ブレーキも故障していることがある。 さらに、メーターパネルの と 警告灯も点灯している。 アテンションアシストが解除されている。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがある。 緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
EBD ABS 作動できません 取扱説明書を参照	故障のため、EBD（電子制動力配分装置）、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよびクロスウインドアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、CPA（衝突警告システム）、BAS PLUS、PRE-SAFE® ブレーキも故障していることがある。 さらに、メーターパネルの と 、ABS 警告灯が点灯し、警告音が鳴った。 アテンションアシストが解除されている。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがある。 ステアリング特性やブレーキ特性が著しく影響を受けることがある。緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

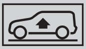
ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ブレーキ液レベル 点検して ください	ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液が不十分である。さらに、メーターパネルの 警告灯が点灯し、警告音も鳴った。 ⚠ **警告** ブレーキ性能が損なわれることがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▷ 155 ページ)。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。これを行なっても問題は解消しません。
SRS システム 故障 工場で点検	乗員保護装置が故障している。 メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなることがある。 けがのおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 乗員保護装置に関するさらなる情報は、(▷ 48 ページ) をご覧ください。
フロント左 SRS システム故障 工場で点検またはフロント右 SRS システム故障 工場で点検	フロント左側またはフロント右側の乗員保護装置に異常がある。メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなることがある。 けがのおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
リア左 SRS システム故障 工場で点検またはリア右 SRS システム故障 工場で点検	リア左側またはリア右側の乗員保護装置に異常がある。メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなることがある。 けがのおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
リア中央 SRS システム故障 工場で点検	リア中央の乗員保護装置に異常がある。メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなることがある。 けがのおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
左ウインドウバッグ故障 工場で点検または右ウインドウバッグ 故障 工場で点検	左または右のウインドウバッグに故障がある。メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** 左側または右側のウインドウバッグが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなることがある。 けがのおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジン

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
冷却水が減少停車してエンジンを停止	冷却水が熱すぎる。 警告音も鳴った。 ⚠ **警告** オーバーヒートしているエンジンで絶対に走行しないでください。エンジンがオーバーヒートしているときに走行すると、エンジンルームにフルード類が漏れ、引火する原因になるおそれがあります。 さらに、ボンネットを開くことにより、オーバーヒートしたエンジンからの蒸気により重大な火傷の原因になるおそれがあります。 けがのおそれがあります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 155 ページ) ▶ エンジンが冷えるまで待ってください。 ▶ 凍った泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないことを確認してください。 ▶ ディスプレイメッセージが消え、冷却水温度が 120 ℃以下になるまではエンジンを再始動しないでください。さもないと、エンジンが損傷することがあります。 ▶ 冷却水温度表示に注意してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 通常の使用条件下で指定の冷却水レベルでは、冷却水温度が 120 ℃ まで上がることがあります。

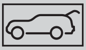
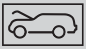
走行システム

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 最高速度 20 km/h	設定したオフロードレベルの許容速度を超過している。 また、車両のアイコンとディスプレイメッセージの間に車高レベルが表示される。警告音も鳴った。 ⚠ **警告** 車両が傾いたり、横転することがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 車両操縦性の変化に合わせて運転スタイルを調整してください。 ▶ ステアリングを大きく動かさないでください。また、急なステアリング操作を避けてください。 ▶ オフロードレベル 2 に達するまでは、20 km/h を超えないように走行してください。
ACTIVE CURVE SYSTEM 故障 取扱説明書 参照	アクティブカーブシステムが故障している。車両の操縦安定性が著しく損なわれる。警告音も鳴った。 ⚠ **警告** 事故の危険性があります。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ 車両操縦性の変化に合わせて運転スタイルを調整してください。 ▶ 急カーブでの急加速や急なステアリング操作を避けてください。 ▶ 80 km/h 以上の速度で走行しないでください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

タイヤ

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
タイヤ空気圧 タイヤを点検してください	タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの急激な空気の漏れを検知した。 警告音も鳴った。 考えられる原因： • ホイールおよびタイヤの位置を変更した、または新しいホイールおよびタイヤを取り付けた • 1 本または複数のタイヤ空気圧が正しくない ⚠ **警告** 空気圧不足のタイヤは以下のような危険をもたらします。 • 負荷や車両の速度が上昇すると特に、タイヤがバーストすることがある。 • タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が著しく損なわれることがある。 • 走行特性、およびステアリング操作やブレーキ操作が著しく損なわれることがある。 事故の危険性があります。 ▶ 急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。そのときは、交通状況に注意してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▷ 155 ページ)。 ▶ タイヤを点検し、必要な場合はタイヤがパンクしたときの指示に従ってください(▷ 278 ページ)。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要に応じてタイヤ空気圧を適正にしてください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。 (▷ 304 ページ)

車両

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	テールゲートが開いている。 ⚠ **警告** エンジンがかかっているときにテールゲートが開いている場合は、排気ガスが車内に入るおそれがある。 中毒の危険性があります。 ▶ テールゲートを閉じてください。
	ボンネットが開いている。 警告音も鳴った。 ⚠ **警告** 車両が動いているときは、開いたボンネットで視界が遮られることがある。 事故の危険性があります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▷ 155 ページ)。 ▶ ボンネットを閉じてください。
 パワーステアリング故障 取扱説明書を参照	パワーステアリングのアシストが故障している。 警告音も鳴った。 ⚠ **警告** ステアリング操作に大きな力が必要になる。 事故の危険性があります。 ▶ 必要とされる大きな力を加えることができるかどうかを確認してください。 ▶ **安全にステアリング操作ができる場合：**慎重にメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 ▶ **安全にステアリング操作ができない場合：**走行を続けないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

メーターパネルの警告および表示灯

全体的な注意事項

この章では、メーターパネルに表示される安全に関わる表示灯と警告灯および対応方法について説明しています。 メーターパネルに表示される他の表示灯と警告灯の概要および対応方法については、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

安全性

シートベルト

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンを始動した後、運転席ドアまたは助手席ドアを閉じるとすぐに、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	運転者または助手席乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください (▷ 52 ページ)。 警告灯が消灯します。
	助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートから物を取り除き、安全な場所に収納してください。 警告灯が消灯します。
赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴った。	運転者または助手席乗員がシートベルトを着用していない。同時に、25 km/h 以上の速度で走行しているか、または速度が一時的に 25 km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください (▷ 52 ページ)。 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
	助手席シートの上に荷物を置いている。同時に、25 km/h 以上の速度で走行しているか、または速度が一時的に 25 km/h を超えた。 ▶ 助手席シートから物を取り除き、安全な場所に収納してください。 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。

安全システム

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
(!) エンジンがかかっている間に黄色のブレーキシステム警告灯が点灯する。	⚠ 警告 ブレーキシステムが故障しているため、ブレーキの作動に影響を与えることがある。 事故の危険性があります。 ▶ マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されているときは、そのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(!) エンジンがかかっている間に赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	⚠ 警告 ブレーキの倍力装置が故障しているため、ブレーキの作動に影響を与えることがある。 事故の危険性があります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。（▷ 155 ページ） ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
(!) エンジンがかかっている間に赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	リザーブタンクのブレーキ液の量が不十分である。 ⚠ 警告 ブレーキ性能が損なわれることがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▷ 155 ページ) ▶ ブレーキ液を補給しないでください。補給しても問題は解消しません。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンがかかっている間に黄色の ABS 警告灯が点灯する。	故障のため、ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）が解除されている。そのため、BAS（ブレーキアシスト）、BAS プラス、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、PRE-SAFE®、PRE-SAFE®ブレーキ、CPA（衝突警告システム）、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシストおよびアダプティブブレーキライトなどの機能も解除されている。 アテンションアシストが解除されている。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがある。 ステアリング特性やブレーキ特性が著しく影響を受けることがある。緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ABS コントロールユニットが故障している場合は、ナビゲーションシステム、オートマチックトランスミッションのような、他のシステムも作動しなくなることがある。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
(ABS) エンジンがかかっている間に黄色の ABS 警告灯が点灯する。	ABS が一時的に作動しない。そのため、BAS、BAS プラス、ESP®、EBD（エレクトロニック・ブレーキフォース・ディストリビューション）、PRE-SAFE®、PRE-SAFE®ブレーキ、CPA（衝突警告システム）、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライトなどの機能も解除されている。 アテンションアシストが解除されている。 考えられる原因： • 自己診断がまだ完了していない • バッテリーの電圧が不十分なことがある ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前後輪がロックするおそれがある。 ステアリング特性やブレーキ特性が著しく影響を受けることがある。緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができない。 事故の危険性があります。 ▶ 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリングを動かしながら、適切な直線路で慎重に走行してください。 警告灯が消灯したときは、上記の機能が再度作動します。 警告灯が点灯したままの場合： ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
(ABS) エンジンがかかっている間に黄色の ABS 警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	EBD が故障している。そのため、ABS、BAS、BAS プラス、ESP®、PRE-SAFE®、PRE-SAFE®ブレーキ、CPA（衝突警告システム）、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライトなどの機能も作動しない状態になっている。 アテンションアシストが解除されている。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前後輪がロックするおそれがある。 ステアリング特性やブレーキ特性が著しく影響を受けることがある。緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯、黄色の ESP®および ESP®オフ警告灯、黄色の ABS 警告灯が点灯する。	ABS および ESP® が故障している。そのため、BAS、BAS プラス、PRE-SAFE®、PRE-SAFE®ブレーキ、CPA（衝突警告システム）、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライトなどの機能も作動しない状態になっている。 アテンションアシストが解除されている。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前後輪がロックするおそれがある。 ステアリング特性やブレーキ特性が著しく影響を受けることがある。緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
走行中に黄色の ESP®警告灯が点滅する。	車両が横滑りをする危険性があるか、少なくとも 1 つの車輪が空転し始めているため、ESP®やトラクションコントロールが作動している。 クルーズコントロールやディストロニック・プラスは解除される。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中は緩やかに加速してください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP®を解除しないでください。 まれに、ESP® を解除したほうがよい場合 (▷ 84 ページ) もあります。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
[ESP OFF] エンジンがかかっている間に黄色のESP®オフ警告灯が点灯する。	ESP®が解除されている。 ⚠ 警告 ESP®が解除されている場合は、ESP®が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ ESP®を再度設定してください。 まれに、ESP® を解除したほうがよい場合 (▷ 84 ページ) もあります。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ESP®を設定することができない場合： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で ESP®の点検を受けてください。
[ESP] [ESP OFF] エンジンがかかっているときに黄色のESP®および ESP®オフ警告灯が点灯する。	故障のため、ESP®、BAS、BAS プラス、PRE-SAFE®、PRE-SAFE®ブレーキ、CPA（衝突警告システム）、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシストおよびアダプティブブレーキライトが作動しない状態になっている。 アテンションアシストが解除されている。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。 緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンがかかっているときに黄色のESP®およびESP®オフ警告灯が点灯する。	ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、およびクロスウインドアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、CPA（衝突警告システム）、BAS PLUS、PRE-SAFE® ブレーキも故障していることがある。 アテンションアシストが解除されている。 自己診断がまだ完了していない ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。 緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリングを動かしながら、適切な直線路で慎重に走行してください。 警告灯が消灯したときは、上記の機能が再度作動します。 警告灯が点灯したままの場合： ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっている間に赤色の乗員保護装置警告灯が点灯する。	乗員保護装置が故障している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなることがある。 けがのおそれがあります。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で乗員保護装置を点検してください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	乗員保護装置に関するさらなる情報は、(▷ 48 ページ) をご覧ください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンがかかっている間に赤色の冷却水警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	冷却水温度が 120 ℃を超えている。エンジンラジエターへの送風が遮られているか、冷却水量が低すぎることがある。 ⚠ **警告** エンジンが十分に冷却されないため、エンジンが損傷することがある。 オーバーヒートしているエンジンで絶対に走行しないでください。エンジンがオーバーヒートしているときに走行すると、エンジンルームにフルード類が漏れ、引火する原因になるおそれがあります。 さらに、ボンネットを開くことにより、オーバーヒートしたエンジンからの蒸気により重大な火傷の原因になるおそれがあります。 けがのおそれがあります。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▷ 155 ページ)。 ▶ 車両から降り、エンジンが冷えるまで車両から安全な距離を確保してください。 ▶ 注意事項 (▷ 267 ページ) に従って、冷却水量を点検し、冷却水を補給してください。 ▶ 頻繁に冷却水を補給している場合は、エンジン冷却システムの点検を受けてください。 ▶ 凍った泥などにより、エンジンラジエターへの送風が遮られていないことを確認してください。 ▶ 冷却水温度が 120 ℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行することができます。 ▶ 山道の走行や、停止/発進を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷は避けてください。

走行システム

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
⚠ 走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。	選択された速度に対し、先行車両との距離が近すぎる。 ▶ 距離を広げてください。
⚠ 走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	進行方向にいる車両または静止している障害物に急速に接近している。 ▶ ただちにブレーキをかける準備をしてください。 ▶ 交通状況に注意して運転してください。ブレーキ操作や危険回避操作が必要となることがあります。 ディストロニック・プラスについて詳しくは、(▷ 165 ページ) をご覧ください。 PRE-SAFE® ブレーキについて詳しくは、(▷ 87 ページ) をご覧ください。 車間距離警告機能について、詳しくは (▷ 80 ページ)をご覧ください。

役に立つ情報 232
全体的な注意事項 232
重要な安全上の注意事項 232
著作権の情報 232
機能の制限 232
COMAND システムの操作システム 233
オンラインとインターネット機能 240

役に立つ情報

ℹ これらの取扱説明書は印刷時点で利用可能な COMAND システムのすべての標準装備やオプション装備について記載しています。 国により、仕様が異なる場合があります。 本書に記載されているすべての機能が、お客様の車両に当てはまらない可能性があることにご留意ください。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 32 ページ).

全体的な注意事項

これらの取扱説明書の COMAND システムの項には、COMAND システムとオンラインおよびインターネット機能の操作の基本原則が記載されています。詳細はデジタル版取扱説明書をご覧ください。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全な時にのみ、操作するようにしてください。 安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

COMAND システムを操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。

COMAND システムは、例えば以下のことを考慮せずに目的地までのルートを検索します。

- 信号
- 一時停止および優先標識
- 駐車または停車の規制
- 道路の道幅の狭さ
- その他、道路や交通ルール、規則

COMAND システムは地図上のデータが実際の状況と違う場合には、適切でない走行案内をすることがあります。例えば、道が変更されたり、または一方通行の方向が変更になったときです。

このため、走行中は、道路や交通ルール、規則を常に遵守してください。システムの走行案内よりも道路や交通ルール、規則を常に優先してください。

わずか 50 km/h の速度でも、車両は 1 秒あたり約 14 m の距離を進むことを念頭においてください。

著作権の情報

全体的な注意事項

車両やその電子部品で使用されているフリーのオープンソースソフトウェアのライセンスの情報を以下のウェブサイトで見つけることができます：**http://www.mercedes-benz.com/opensource**

機能の制限

安全のために、車両走行中は COMAND システムのいくつかの機能が制限されたり、利用できないことがあります。このことは、例えば、いくつかのメニュー項目が選択できなかったり、COMAND システムにこの結果に対するメッセージが表示されることで、ご確認いただけます。

COMAND システムの操作システム

概要

① COMAND ディスプレイ (▷ 234 ページ)
② シングル DVD ドライブ付き COMAND コントロールパネル
③ COMAND コントローラー (▷ 239 ページ)

COMAND システムを使用して以下の基本機能が操作できます。

- ナビゲーションシステム
- オーディオ機能
- 電話機能
- ビデオ機能
- システムの設定
- オンラインとインターネット機能
- デジタル版取扱説明書

以下のようにして基本機能を呼び出すことができます。

- 対応するスイッチを使用して
- COMAND ディスプレイの基本機能バーを使用して
- リモコンを使用して

COMAND ディスプレイ

ディスプレイの概要

ラジオの表示例

①	ステータスバー	時刻および電話操作の現在の設定を表示します。
②	オーディオメニューの呼び出し	作動しているオーディオ基本機能を強調します。三角はこの基本機能に選択可能なサブメニューがあることを示します。
③	基本機能バー	基本機能バーから希望する基本機能を呼び出すことができます。 基本機能が作動しているときは、白色の文字によって識別可能です。
④	表示/選択ウインドウ	ラジオモードで作動しているオーディオ基本機能の内容を表示します。
⑤	ラジオメニューバー	ラジオモードで作動しているオーディオ基本機能の他の機能を表示します。

メニュー概要

ナビ	オーディオ	電話	ビデオ	システム	🌐 マーク
地図表示切替	ラジオ	電話	テレビ	設定メニューを呼び出す	デジタル版取扱説明書を呼び出す
地図表示形式	ディスク	アドレス帳	DVD ビデオ		COMAND Online とインターネットを呼び出す
VICS 表示	メモリーカード		外部入力		
施設マークの表示	ミュージックレジスター				
設定	USB メモリー				
案内の中止/継続	メディアインターフェース				
コンパス	Bluetooth®オーディオ				
	外部入力				

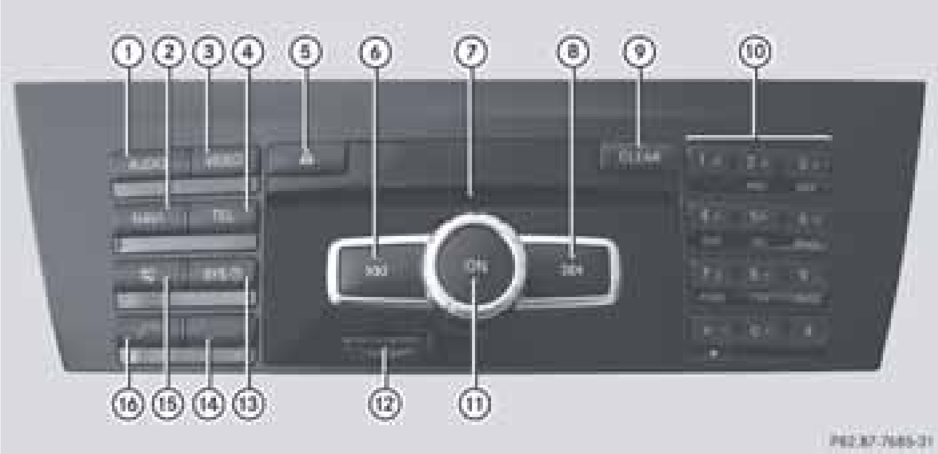
システムメニュー概要

システム	時間	スプリットビュー	燃費	シート	ディスプレイオフ
ディスプレイの設定	☑ 自動時刻設定のオン/オフを切り替え	助手席側からの COMAND システム機能の操作	燃料消費量表示を呼び出す	運転席/助手席の設定を変更する	ディスプレイのオフ
音声認識	手動時刻設定				

システム	時間	スプリットビュー	燃費	シート	ディスプレイオフ
リアビューカメラまたは 360° カメラシステム	時刻/日付形式の設定				
言語の設定					
お気に入りスイッチ					
☑Bluetooth® の作動/解除					
自動音量調整					
データのインポート/エクスポート					
COMAND システムをリセットする					

ℹ メニュー項目の 360° カメラ が表示されている場合は、システムメニューの システム に 画面 OFF を呼び出されます。

COMAND システムコントロールパネル



	機能	ページ
①	最後に選択されていたオーディオモード（例：ラジオモード）に切り替える	
②	ナビゲーションモードに切り替える 設定メニューを表示する	
③	最後に選択されていたビデオモード（例：テレビモード）に切り替える	
④	電話基本メニュー（Bluetooth®インターフェースによる電話機能）を呼び出す アドレス帳を呼び出す	
⑤	CD/DVD の格納/排出	
⑥	放送局サーチ機能を使用して放送局を設定する 早戻し 前のトラックを選択する	
⑦	ディスクスロット • CD/DVD を挿入する • CD/DVD を排出する	
⑧	放送局サーチ機能を使用して放送局を設定する 早送り 次のトラックを選択する	
⑨	クリアスイッチ • 文字を削除する • 項目を削除する	

	機能	ページ
⑩	テンキー • 放送局プリセットによって放送局を選択する • 手動で放送局を登録する • 携帯電話を認証する • 電話番号の入力 • 文字入力 • メモリーから天気予報の場所を選択する [#] 再生されている現在のトラックを表示する [#] 文字バーのあるリスト：文字の設定（かな/漢字/アルファベット/カタカナ/数字入力）を切り替える [#] 選択リストとしてのリスト：文字の設定（カタカナ/アルファベット）を切り替える [*] 周波数を手動で入力して放送局を選択する [*] トラックを選択する	
⑪	COMAND システムの作動/停止の切り替え 音量の調整	
⑫	SD メモリーカードスロット	
⑬	設定メニューを呼び出す	
⑭	通話を拒否する 通話を終える 保留中の通話を拒否する	
⑮	サウンドのオン/オフを切り替える マイクのオン/オフの切り替え ナビゲーションの音声案内を停止する	
⑯	通話を受ける 番号をダイアルする リダイアル 保留中の通話を受ける	

COMAND コントローラー

概要

① COMAND コントローラー

COMAND コントローラーを使用して COMAND ディスプレイのメニュー項目を選択できます。
以下のことができます。

- メニューまたはリストの呼び出し
- メニューまたはリスト内のスクロール、そして
- メニューまたはリストの終了

操作

例：COMAND コントローラーを操作する

COMAND コントローラーは以下のようなことができます。

- 軽く押す、または押して保持する ◎
- 時計回り、または反時計回りにまわす ↺◎↻
- 左右にスライドする ←◎→
- 前後にスライドする ↑◎↓
- 斜めにスライドする ↗◎↙

操作の例

説明では、操作の順番は以下に記載されているようになります。

▶ AUDIO スイッチを押します。
最後に選択されていたオーディオソースがオンになります。

▶ COMAND コントローラーをスライドして ↑◎、オーディオ を選択し、押して ◎ 確定します。
オーディオメニューが表示されます。

▶ COMAND コントローラーをまわして ↺◎↻、ミュージックレジスター のように異なるオーディオソースを選択し、押して ◎ 確定します。
ミュージックレジスターがオンになります。

COMAND コントローラーのスイッチ

概要

① リターンスイッチ (▷ 240 ページ)
② クリアスイッチ (▷ 240 ページ)
③ シート機能のスイッチ
④ お気に入りスイッチ

ℹ 車両にシート機能スイッチがない場合は、2 つのお気に入りスイッチがあります。

ℹ AMG 車両：COMAND コントローラーは、① および ② スイッチで構成されています。

リターンスイッチ

[↩] スイッチを使用してメニューを終了したり、現在の操作モードの基本画面を呼び出すことができます。

▶ **メニューを終了する：** リターンスイッチ [↩] を軽く押します。
COMAND システムは現在の操作モードのなかで、一つ上のメニュー階層に切り替わります。

▶ **基本画面を呼び出す：** リターンスイッチ [↩] を押して保持します。
COMAND システムは現在の操作モードの基本表示に切り替わります。

クリアスイッチ

▶ **個々の文字を削除する：** [c] スイッチを軽く押します。

▶ **入力全体を削除する：** [c] スイッチを押して保持します。

シート機能のスイッチ

[シート] スイッチを使用して、以下のシート機能を呼び出すことができます。

- マルチコントロールシートバック（電動ランバーサポート付）
- アクティブマルチコントロールシートバック（ダイナミックシートとマッサージ機能）
- バランス（シートヒーターの配分）

お気に入りスイッチ

スイッチを押すことにより、あらかじめ設定した機能をお気に入りスイッチ [*] に指定して、それらを呼び出すことができます。

オンラインとインターネット機能

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- インターネットアクセスデータの選択/設定
- COMAND Online とインターネット
- Google™ ローカル検索
- 目的地/ルートのダウンロード
- 天気表示
- インターネット

全体的な注意事項

アクセスの条件

⚠ **警告**

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全な時にのみ、操作するようにしてください。 安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

COMAND システムを操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。

オンライン機能とインターネットアクセスは、Bluetooth® インターフェースを介して利用することができます。

機能を使用するには、以下の条件が必要です。

- 携帯電話が DUN Bluetooth® プロファイル（**D**ial-**U**p **N**etworking：ダイアルアップネットワーク) をサポートしていて、Bluetooth® 経由で COMAND システムに接続されている。DUN Bluetooth® プロファイルは携帯電話のインターネットへのダイアルアップ接続を確立させることができます。
- 関連する接続費用を計算するために使用される、データオプション付きの有効な携帯電話サービス契約が必要です。
- 接続されている携帯電話のために、携帯電話ネットワークプロバイダーのアクセスデータが、COMAND システムで設定されていなければなりません (▷ 242 ページ)。

ℹ 接続されている携帯電話が PAN Bluetooth プロファイル（パーソナルエリアネットワーク)をサポートしている場合は、自動設定機能を使用できます (▷ 243 ページ)。

ℹ 適合している携帯電話の詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場へお問い合わせください。

ℹ 携帯電話によっては、独立して DUN Bluetooth® プロファイルをオンにしなければならないものもあります (携帯電話の取扱説明書をご覧ください)。

ℹ 携帯電話の中には同時に 2 つの Bluetooth® プロファイルのみをサポートするものがあります (例：Bluetooth® 電話機能のハンズフリープロファイルおよびオーディオストリーミングの Bluetooth® オーディオプロファイル)。さらにインターネット接続を確立させたときは、Bluetooth® オーディオ経由での再生が停止することがあります。

ℹ 正しくないアクセスデータを使用すると、追加の費用が発生することがあります。これは、契約と違う項目や、他の契約/データパッケージの項目を使用したときに発生します。

ℹ 個々の COMAND システムのメルセデス・ベンツアプリが使用できるかは、国によって異なります。

ℹ 利用規約は、COMAND システムが初めて使用されたとき、およびそれ以降年に 1 度表示されます。車両が停止しているときにのみ、利用規約を読んで同意してください。

ℹ 車両が動いている間は、インターネットのページは表示できません (▷ 250 ページ)。

データをインポート/エクスポートし、そのために インターネットデータ オプションを選択するときは、携帯電話のネットワークプロバイダーのパスワードは保存**されません**。

インターネットに再度接続するときは、以下のように進めます。

▶ **ステップ 1：** 携帯電話のネットワークプロバイダーを削除します。

▶ **ステップ 2：** 携帯電話のネットワークプロバイダーを再度選択する (オプション 1)か、手動で設定します (オプション 2)。

車両が走行している間の接続障害

以下の場合は、接続が切断されることがあります。

- 特定の地域において、携帯電話のネットワーク範囲が不十分なとき
- 携帯電話の送信/受信エリア（携帯電話の基地局）を他に移動して空いているチャンネルがないとき
- 使用可能なネットワークに適していない SIM カードを使用しているとき

機能の制限

以下の状況のときは、携帯電話を使用できなかったり、携帯電話を使用できなくなったり、使用できるようになるまでに待たなければならないことがあります。

- 携帯電話の電源が入っていないとき
- COMAND システムの"Bluetooth®"機能がオフになっているとき
- Bluetooth® 接続の電話を使用していて、携帯電話の"Bluetooth®" 機能がオフになっているとき
- 携帯電話が携帯電話のネットワークにログインしていないとき
- 携帯電話ネットワークと携帯電話がともに、電話とインターネット接続の同時使用が認められていないとき

ℹ 使用している携帯電話と携帯電話ネットワークによっては、インターネットに接続しているときは着信できないことがあります。

ローミング

他の国でご自身の車両を運転していて、COMAND システムのインターネットおよびオンライン機能を使用しているときは、追加の費用（ローミング料金）が発生することがあります。他の国にいるときは、SIM カードがデータローミングをできるようにしなければなりません。携帯電話のネットワークプロバイダーがローミングパートナーとデータローミングの契約を結んでいない場合は、インターネット接続を確立できないことがあります。他の国にいるときにデータローミングを避けたい場合は、携帯電話のこの機能を非作動にしてください。

アクセスデータの設定

はじめに

接続された携帯電話のインターネットアクセスデータは、携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。COMAND システムでのインターネットアクセスデータに必要な設定は、以下に記載されています。

選択された/手動で設定された携帯電話のネットワークプロバイダーは、選択/設定されたときに接続されている携帯電話のみで有効です。再接続されたときは携帯電話のネットワークプロバイダーは自動的に設定されます。

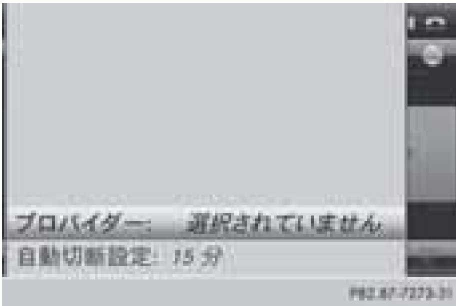
ℹ 他の国でお客様の車両を運転していて、COMAND システムとインターネットアクセス機能を使用しているときは、追加費用（ローミング料金）が発生することがあります。

ℹ 車両が停止しているときにアクセスデータの設定を調整してください。交通状況から注意がそれて、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

インターネットアクセスデータの選択/設定

携帯電話のネットワークプロバイダーのリストを呼び出す

▶ COMAND コントローラーをまわして ⟲◎⟳、基本機能バーで 🌐 アイコンを選択し、押して ⊚ 確定します。
カルーセルビュー（マルチウインドウ）が表示されます。



▶ COMAND コントローラーをスライドしてから ↓◎、まわして ⟲◎⟳、設定 を選択し、押して ◎ 確定します。
初めて携帯電話を COMAND システムに接続するときは、プリセットされている携帯電話のネットワークプロバイダーはありません。プロバイダ名： に選択されていません という言葉が続きます。
携帯電話が接続されていて、携帯電話のネットワークプロバイダーが選択されている場合は、携帯電話のネットワークの名称が プロバイダ名： の後に表示されます。

▶ COMAND コントローラーを押します ◎。
携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。

携帯電話のネットワークプロバイダーのリスト（空欄）

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを設定するために、以下のことができます。

- 携帯電話のネットワークプロバイダーのあらかじめ設定されたアクセスデータを選択する (▷ 244 ページ)
- 自動設定を選択する。 - このオプションは、接続されている携帯電話が Bluetooth® PAN（パーソナルエリアネットワーク）プロファイルをサポートしている場合にのみ、プロバイダーのリストに表示されます (▷ 243 ページ)。
- 携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを手動で設定する (▷ 246 ページ)

アクセスデータの自動設定

要件 ： Bluetooth® 経由で電話が COMAND システムに接続されていて、

Bluetooth® PAN プロファイルをサポートしていなければなりません。

オプション 1 電話がまだインターネットアクセスに設定されていない場合

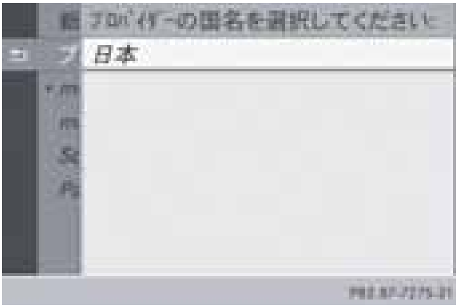
▶ COMAND コントローラーをスライドしてから ↑◎、まわして ⟲◎⟳、基本機能バーでアイコン 🌐 を選択し、押して ◎ 確定します。
自動設定が可能であることを知らせるメッセージが表示されます。

▶ はい を選択し、押して ◎ 確定します。

オプション 2：

▶ 携帯電話のネットワークプロバイダーのリストで、COMAND コントローラーをまわして ⟲◎⟳、自動設定 <Device_name> を選択し、押して ◎ 確定します(▷ 242 ページ)。
携帯電話から設定データが転送されます。設定が成功した場合は、ドット ● が 自動設定 <機器名> の前に表示されます。

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの選択



プロバイダーの検索

▶ COMAND コントローラーをまわして ⟲◎⟳、携帯電話のネットワークプロバイダーのリストで プロバイダー検索 を選択し、押して ◎ 確定します (▷ 242 ページ)。
国のリストが表示されます。

▶ 押して ◎、日本 を確定します。
使用可能な携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。

ℹ 携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータが接続している携帯電話で一度選択されると、携帯電話が接続されるたびに再び読み込まれます (▷ 242 ページ)。

ℹ 接続している携帯電話の SIM カードおよび関連するデータパッケージ（アクセス設定）を提供している携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを設定しなければなりません。他の国にいる場合は、アクセスデータは同じままです（ローミング）。他のネットワークのアクセスデータは選択**されません**。

複数のアクセスデータを提供している携帯電話のネットワークプロバイダーがあります。これは、例えば使用しているデータパッケージによって異なります。

携帯電話のネットワークプロバイダーは 1 つのアクセス設定のみを持っています。

▶ COMAND コントローラーをまわして 〔◎〕、携帯電話のネットワークプロバイダーを選択し、押して ◎ 確定します。
メニューが表示されます。

▶ **プリセットアクセスデータを確認する：**編集 を選択し、◎ で確定します。
アクセスデータのリストが表示されます。
アクセスデータを確認します (▷ 246 ページ)。

▶ **アクセスデータが正しい場合：** リセットスイッチ [↩] を押すか、または [↩] マークを選択し、押して ◎ 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを受け取ることができます。

▶ 保存 を選択し、押して ◎ 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。プロバイダーのアクセスデータを受け取ります。

▶ **アクセスデータを編集する：**"携帯電話のネットワークプロバイダーの"アクセステータの手動設定" (▷ 246 ページ) に記載されているように進めてください。
編集したアクセスデータを確定すると、携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示され、選択したプロバイダーが表示されます。

携帯電話のネットワークプロバイダーには複数のアクセス設定があります。

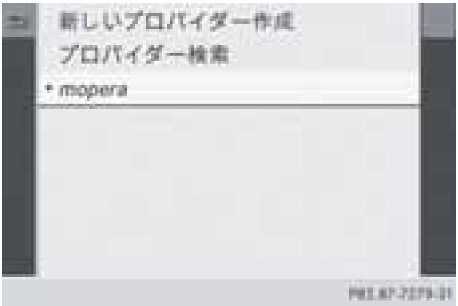
▶ COMAND コントローラーをまわして 〔◎〕、適切なアクセス設定を選択し、押して ◎ 確定します。
メニューが表示されます。

▶ **アクセス設定を確認する：**編集 を選択し、押して ◎ 確定します。
アクセスデータのリストが表示されます。
アクセスデータを確認します (▷ 246 ページ)。

▶ **アクセスデータが正しい場合：** リターンスイッチ [↩] または [↩] マーク を押して、押して ◎ 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを受け取ることができます。

▶ 保存 を選択し、押して ◎ 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。プロバイダーのアクセスデータを受け取ります。

▶ **アクセスデータを編集する：**"携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセステータの手動設定" (▷ 246 ページ) に記載されているように進めてください。
編集したアクセスデータを確定すると、携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示され、選択したプロバイダーが表示されます。



選択したプロバイダーがある携帯電話のネットワークプロバイダーのリスト

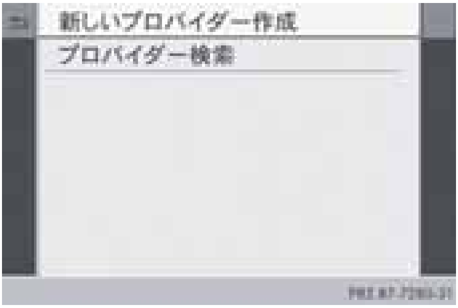
現在選択されているアクセス設定（項目の前の ● で示されています）は接続されている携帯電話に使用されています。

▶ **カルーセルビュー（マルチウインドウ）に戻る：** リターンスイッチ を 2 回押します。

または

▶ COMAND コントローラーを押して、リターンスイッチ を押します。

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの手動設定



アクセスデータのリスト（新しいプロバイダー）

アクセスデータのリストを呼び出す

▶ COMAND コントローラーを押して、携帯電話のネットワークプロバイダーのリストで 新しいプロバイダー作成 を確定します。
アクセスデータのリストが表示されます。標準的な名前 プロバイダー <x> が プロバイダー名： の欄に自動的に入力されます。ここで項目を作成することができます。

ℹ 携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータは接続されている携帯電話に一度設定されます。

アクセスデータの説明

入力欄	意味
プロバイダー名：	携帯電話のネットワークプロバイダーのリストに表示されるプロバイダーの名前。名前を自由に選択できます。 標準的な項目は プロバイダー <x> です。
電話番号:	接続を確立するためのアクセス番号 ℹ アクセス番号はプロバイダーによって異なります。
アクセスポイント：	APN ネットワークアクセスポイント（**A**ccess **P**oint **N**ame：アクセスポイント名） ℹ ネットワークのアクセスポイントは入力されている必要はありません。
ユーザーID：	ユーザー ID は携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 ℹ すべての携帯電話ネットワークプロバイダーで入力が必要なわけではありません。
パスワード：	パスワードは携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 ℹ すべての携帯電話ネットワークプロバイダーで入力が必要なわけではありません。 ℹ パスワードはデータをインポート/エクスポートすると失われます。
DNS アドレス：	DNS アドレス（**D**omain **N**ame **S**ervice：ドメインネームサービス）は自動的に決めるか、手動で入力することができます。必要な情報は携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 ℹ ほとんどの携帯電話のネットワークプロバイダーは自動 機能をサポートしています。マニュアル オプションを選択すると、通常は DNS アドレスを入力する必要があります。
DNS1: DNS2:	DNS サーバーのアドレスを手動で入力するための欄。アドレスは携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。

接続の確立/終了

接続を確立する

接続の確立の条件は、"全体的な注意事項" (▷ 240 ページ) に記載されています。

▶ **オプション 1：** COMAND コントローラーをまわして ⟲◎⟳、基本機能バーで 🌐 アイコンを選択し、押して ◎ 確定します。
カルーセルビュー（マルチウインドウ）が表示されます。

▶ Mercedes-Benz Apps または Internet Favorites（インターネットお気に入り）パネルが前面になるまで COMAND コントローラーをまわすか ⟲◎⟳、スライドします ←◎→。

▶ **オプション 2：** ウェブアドレスを入力します (▷ 250 ページ)。

P82.87-9361-31

P82.87-9362-31

▶ どちらのオプションも、COMAND コントローラーを押します ◎。
インターネットの接続が確立されます。
作動しているインターネット接続はマーク ① で識別されます。例は、Mercedes-Benz Apps メニューを示しています。

▶ **接続を中止する：** 接続を確立している間に、押して ◎ 中止 を確定します。

または

▶ COMAND システムまたはマルチファンクションステアリングの [☎] スイッチを押します。

ℹ インターネット接続の作動と同時に電話の通話が行われる場合は、[☎] マークが ① に表示されます。使用している携帯電話および携帯電話のネットワークによっては、インターネット接続は作動したままになります。

接続を終了する

カナダのみ：

▶ COMAND システムまたはマルチファンクションステアリングの [☎] スイッチを押します。

または

▶ カルーセルビュー（マルチウインドウ）の右下にあるハサミマークを選択して、押して ◎ 確定します。

ℹ 携帯電話のインターネット接続が中止された場合は、COMAND システムは再接続しようとします。そのため、接続は常に COMAND システムまたはマルチファンクションステアリングで閉じるようにしてください。

インターネットラジオ

全体的な注意事項

良好なインターネット接続のためには、オーディオデータを効果的に送信することが要求されます。最良の受信を可能にするためには、携帯電話が電話ブラケッ

ト（オプション）経由で車両の外部アンテナに接続されていなければなりません。

インターネットラジオを使用しているときは、比較的大きな量のデータが送信できることを念頭においてください。1 秒当たり平均 128 kbit のデータ転送速度は、1 時間当たり 56 MB のデータを転送できます。

データを受信している間は、放送局のデータ転送速度が表示されます。

インターネットラジオの呼び出し

▶ COMAND コントローラーをスライドしてから ↑◎、まわして ⟲◎⟳、基本機能バーで 🌐 アイコンを選択し、押して ◎ 確定します。
カルーセルビュー（マルチウインドウ）が表示されます。

▶ COMAND コントローラーをまわして ⟲◎⟳、インターネットラジオ のパネルを前面にし、押して ◎ 確定します。
インターネットラジオのメニューが表示されます。

放送局検索

▶ インターネットラジオのメニューで 検索 を選択します。
検索条件のあるリストが表示されます。

▶ 条件を選択し、押して ◎ 確定します。

ℹ 検索条件としての例として、ナビゲーションの目的地の近くにあるインターネットラジオの放送局を設定することができます。

放送局への接続

▶ 放送局を検索します (▷ 249 ページ)。

▶ メニューでインターネットラジオ（再生）を選択し ▶、押して ◎ 確定します。
接続が確立されます。

データストリーミングが中断された場合は、接続を再確立するための試みが自動的に行なわれます。

接続の手動再確立：

▶ メニューでもう一度インターネットラジオ（再生）を選択し ▶、押して ◎ 確定します。

データー転送の終了：

▶ メニューでインターネットラジオ（停止）を選択し ■、押して ◎ 確定します。

または

▶ 例えば ディスク のような、他のオーディオソースに切り替えます。

ナビゲーションなどのオーディオソースでない基本機能に切り替えた場合は、データ接続は作動したままになります。設定した放送局を聴き続けることができます。

インターネット

表示制限

インターネットページは走行中は表示できません。

ウェブサイトを呼び出す

カルーセルビュー（マルチウインドウ）を呼び出す

▶ COMAND コントローラーをスライドしてから ↑◎、まわして ↺◎↻、基本機能バーで 🌐 アイコンを選択し、押して ◎ 確定します。
カルーセルビュー（マルチウインドウ）が表示されます。

ウェブアドレスを入力することができます。

ウェブアドレスの入力

文字バーまたはテンキーのいずれかを使用してウェブアドレスを入力できます。

▶ COMAND コントローラーをスライドしてから ◎↓、まわして ↺◎↻、www を選択し、押して ◎ 確定します。
入力メニューが表示されます。

▶ **文字バーを使用して入力を行なう：**
ウェブアドレスを入力行に入力します。最初の文字を入力行に入力するとすぐに、リストがその下に表示されます。入力した文字で始まるウェブアドレスと、すでに呼び出されたウェブアドレスがリストに表示されます。
初めて呼び出したときはリストは空欄です。

▶ ウェブアドレスを入力した後に、COMAND コントローラーをスライドしてから ◎↓、まわして ↺◎↻、ok マークを選択し、押して ◎ 確定します。
ウェブサイトが呼び出されます。

ウェブサイトを操作する

手順	動作
▶ コントローラーをまわす ↺◎↻ 。	選択できる（リンク、文字欄または選択リストなど）そのときの項目から次に移動し、ウェブサイトのそれぞれの項目を強調します。
コントローラーをスライドする。 ▶ 左右 ←◎→ ▶ 上下 ↑◎↓ ▶ 斜め ↖◎↗	ページのポインターを動かします。
▶ コントローラーを押す ◎。	メニューを呼び出す、または選択した項目を開きます。

手順	動作
▶ [↩] スイッチを押します。	前のページを呼び出します。
▶ [c] スイッチを押します。	インターネットのブラウザを、または複数が開いているときは現在のウインドウを閉じます。

役に立つ情報 254
収納エリア 254
機能 261

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 32 ページ)

収納エリア

積載のガイドライン

⚠ **警告**

荷物や重い荷物が固定されていない、または十分に固定されていないと、すべったり、放り出されて乗員にぶつかるおそれがあります。 特にブレーキ操作時や急な進路変更時にけがをする可能性があります。

荷物は放り出されないように、必ず収納してください。 走行前に、荷物や積載物などがすべったりひっくり返ったりしないように固定されていることを確認してください。

⚠ **警告**

燃焼型エンジンは、一酸化炭素などの有毒な排気ガスを排出します。 エンジン作動中、とくに走行中にテールゲートが開いていると、排気ガスが車内に入るおそれがあります。 中毒を起こすおそれがあります。

テールゲートを開く前に、エンジンをオフにしてください。 テールゲートを開いたまま走行しないでください。

⚠ **警告**

マフラーのテールパイプおよびテールエンドが非常に熱くなることがあります。車両のこれらの部品に触れた場合は、やけどするおそれがあります。けがのおそれがあります。

特にマフラーのテールパイプおよびテールエンド周辺には常に注意してください。これらの構成部品に触れる前には冷ましてください。

荷物の積み方は車両操縦性に大きく影響します。荷物を積むときは、以下の点に注意してください。

- 最高許容車両総重量および車両の許容軸重（乗員を含む）を超えないようにしてください。
- 荷物はラゲッジルームに積むことをお勧めします。
- 重い物はできるだけ前方、およびラゲッジルーム内のできるだけ低い位置に積んでください。
- 荷物がシートのバックレストの上端よりも高くならないようにください。
- 必ずリアシートまたはフロントシートのバックレストに接するように積んでください。シートバックレストがしっかりと固定されていることを確認してください。
- 可能な場合は、できるだけ空いている座席の後方に荷物を置くようにしてください。
- 固定用リングおよびラゲッジネットを荷物や積載物を運搬するために使用してください。
- 荷物の大きさと重さに適した荷物固定用リングおよび固定具のみを使用してください。
- 荷物を積むときはセーフティネット内に掛けてください。
- 強度のある耐摩耗性の荷物固定用ストラップなどを使用して、荷物を確実に固定してください。鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。

ℹ 荷物固定具は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

収納スペース

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

収納物を車内に正しく収納しないと、滑ったり、飛び出したりして、乗員がけがをするおそれがあります。 特にブレーキ操作や急な進路変更を行ったときは、けがをするおそれがあります。

- このようなときや似たような状況で収納物が飛び出さないように、常に収納する
- 収納物は必ず小物入れ、収納ネットまたはラゲッジネットからはみ出さないようする
- 走行中はロック可能な小物入れを閉じる
- 重い物、固い物、先の尖った物、鋭利な物、壊れやすいもの、大きな物はラゲッジルームに収納し、固定する

荷物の積み方 (▷ 254 ページ) をお守りください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- グローブボックス
- アームレスト下の小物入れ
- サングラス入れ
- フロントセンターコンソールの小物入れ
- センターコンソール (後席) の小物入れ

収納ネット

① 助手席足元のラゲッジネット

① フロントシート後部のラゲッジネット

① ラゲッジルームのラゲッジネット

荷物の積み方 (▷ 254 ページ) および収納用スペースに関する安全上の注意 (▷ 255 ページ) をお守りください。

後席のスルーローディング機能

荷物や重い荷物をスルーローディング機能で運搬する際に固定していないと、す

べったり、投げ出されたりして、乗員にぶつかる恐れがあります。

荷物の積み方 (▷ 254 ページ) および収納用スペースに関する安全上の注意 (▷ 255 ページ) をお守りください。

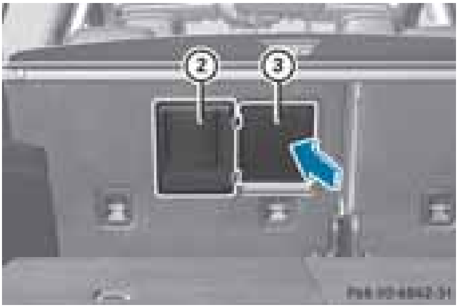
スルーローディングはラゲッジルームから開きます。

▶ 2 列目シートのシートバックレストをロック解除して、カーゴ/ロード位置に傾けます。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

▶ リアシートのアームレストを倒します。

▶ リアシートのセンターヘッドレストを最大位置に引き上げます (▷ 116 ページ)。

▶ リリースキャッチ ① を左にスライドさせ、フラップ ② を左に開いてリアシートの後側につけます。



▶ カバー ③ を前方に押して、リアシートのアームレストの上に倒します。

ラゲッジルームの拡大

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

リアベンチシート/後部座席と座席の背もたれが固定されていない場合、急なブレーキ操作や事故のときに、前に倒れる可能性があります。

- これにより、乗員は、リアベンチシート/後部座席または座席の背もたれによってシートベルトに押さえ込まれます。 シートベルトは、充分な保護効果を発揮することができず、さらにけがをするおそれがあります。
- ラゲッジルームの荷物や重い荷物はシートバックレストで固定することはできません。

けがをするおそれが高まります。

走行前に、必ずシートバックレストおよびリアベンチシート/後部座席が固定されていることを確認してください。

! リアシートを前方に倒す前にシートクッションのロックを解除して折りたたんでください。 バックレストが損傷するおそれがあります。

バックレストを前方に倒しているときは、フロントシートを最後方位置に動かすことはできません。 フロントシートおよびリアシートが破損するおそれがあります。

荷物の積み方 (▷ 254 ページ) をお守りください。

ラゲッジルーム容量を拡大するため、2 列目シートの左右バックレストは別々に倒すことができます。

3 列シート装備車では、ラゲッジルームを最大に拡大するため、あらかじめ 3 列目シートを折りたたんでおく必要があります。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

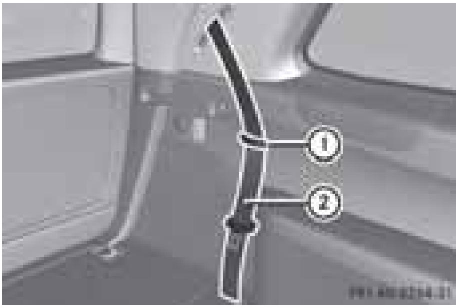
リアシートを前に倒す

! バックレストは重いです。 したがって、倒すときには特に注意が必要です。 バックレストおよびシートクッションを損傷させないために、ヘッドレストがいっぱいまで押し下げられていることを確認してください。

ℹ 運転席または助手席シートが大柄の人用に設定されている場合、リアシートを前に倒すことができない場合があります。 この場合には、フロントシートをできるだけ前に動かしてください。

- ヘッドレストを最も低い位置に動かします。 これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。
- シートクッション ② のリリースループ ① を引きます。
- シートクッション ② を上にたたみます。

- リリースハンドル ③ を矢印の方向に引きます。
  バックレストがロック解除されました。
- ラゲッジルーム位置に達するまで、バックレストを前方に倒します。



- シートベルト ② をそれぞれのクリップ ① の下に導きます。

リアシートを後ろに倒す

⚠ **警告**

シートバックレストおよびシートクッションが所定の位置に適切にロックされていることを確認してください。

- シートバックレスト ② を起こしてロックします。その間にシートベルトが引っかかっていないか確認してください。
- シートクッション ① を元に戻します。
- 必要であれば、ヘッドレストを引き上げて高さを調整します。これに関する

情報はデジタル版取扱説明書にあります。

荷物の固定

荷物固定用リング

全体的な注意事項

⚠ 警告

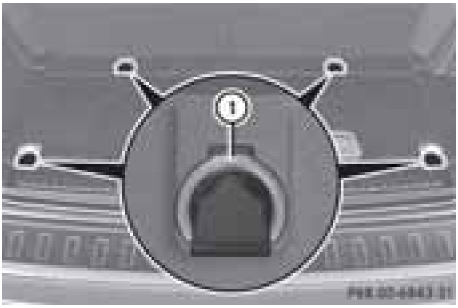
テザーアンカーは荷物を固定できません。トップテザーアンカーで荷物を固定する場合、トップテザーアンカーはブレーキ操作時、急な進路変更または事故のときに引き出される可能性があります。 重い荷物がすべったり、転がったり、飛び出して乗員にぶつかるおそれがあります。けがの危険性があります。

荷物を固定するときにのみ固定用リングを使用してください。

荷物の固定に関する、以下の点に注意してください。

- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。
- 荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。
- 伸縮性のあるストラップまたはネットを使用して荷物を固定しないでください。これらは、軽い荷物のための滑り止め防止としてのみ意図されています。
- 固定用具が荷物のとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。

ラゲッジルーム



ラゲッジルーム内に 4 個の荷物固定用リング ① があります。

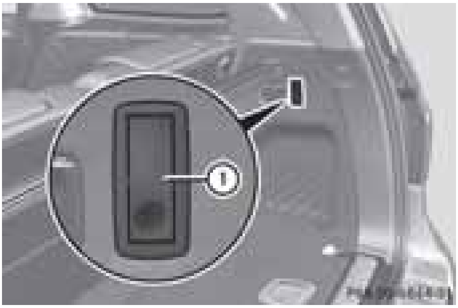
バッグフック

⚠ 警告

バッグフックは重い荷物やラゲッジルームの積載物を固定することはできません。荷物やラゲッジルームの積載物が飛び出す可能性があり、ブレーキ操作や急な進路変更で乗員にぶつかる可能性があります。 けがの危険性があります。

バッグフックには軽い荷物のみをかけてください。 バッグフックに固いもの、鋭利なもの、壊れやすい物をかけないで下さい。

! バッグフックには、約 3 kg 以上の荷物をかけないでください。 バッグフックは、荷物を固定する目的で使用しないでください。



バッグフックはラゲッジルームの右側にあります。

収納と機能

▶ バッグフック ① のマークを押します。

▶ バッグフック ① が回り、フックが使用できます。

ラゲッジルームカバー

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

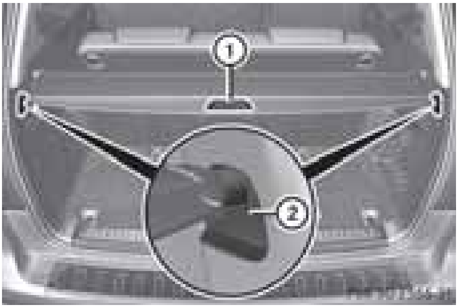
ラゲッジルームカバーには、荷物や重い荷物などを固定することはできません。固定されていない荷物や重い荷物が、急な進路変更やブレーキ操作または事故のときなどにぶつかる可能性があります。けがや致命的なけがをするおそれが高まります。

荷物は放り出されないように、必ず収納してください。 ラゲッジルームカバーを使用していても、荷物や重い荷物がすべったり、放り出されることを防ぐために、荷物固定用ストラップなどで固定してください。

! 荷物を車内に積むときは、ラゲッジルーム内の荷物をサイドウインドウ下端より高く積み上げないでください。 ラゲッジルームカバーの上に重い物を載せないでください。

ラゲッジルームカバーは 2 列目または 3 列目シート後方に取り付けることができます。

ラゲッジルームカバーの展開/収納

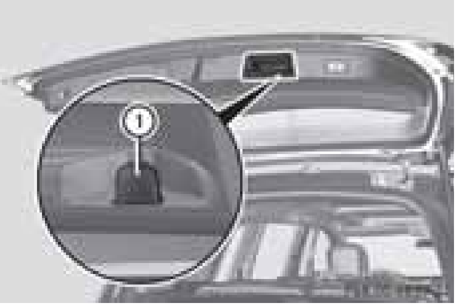


▶ **展開する：** グリップハンドル ① を持って、ラゲッジルームカバーを後方に引き、左右のフック ② に固定します。

▶ **格納する：**左右のフック ② からラゲッジルームカバーを外します。

▶ グリップハンドル ① を使用してラゲッジルームカバーを前方に導き、完全に巻き取ります。

テールゲートのコートフック



① コートフック

ラゲッジルームフロア下の収納スペース

⚠ **警告**

ラゲッジルームフロアを開いて走行すると、荷物が放り出され、乗員にぶつかるおそれがあります。 特にブレーキ操作や急な進路変更を行ったときは、けがをするおそれがあります。

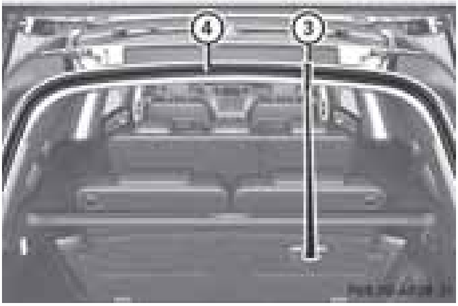
走行する前に、必ずラゲッジルームフロアを閉じてください。

タイヤ交換ツールキットは収納スペース内にあります。

▶ **開く：**フレームを押さえながら、ハンドル ① を下方 ② に押します。
ハンドル ① が浮き上がります。

▶ ハンドル ① を使ってラゲッジルームフロアを、ラゲッジルームカバーに当たるまで持ち上げます。

▶ ラゲッジルームフロアの底面にあるフック ③ を矢印の方向に引き出します。



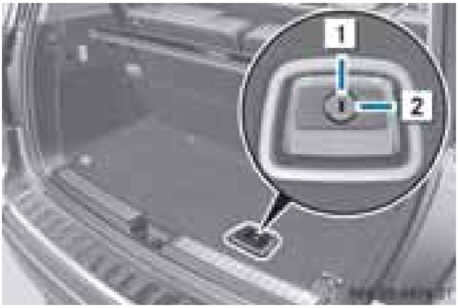
▶ フック ③ をラゲッジルームの上側ウェザーストリップ ④ にかけます。

▶ **閉じる：**フック ③ をラゲッジルームの上側ウェザーストリップ ④ から外します。

▶ ラゲッジルームフロアボードの底面にあるブラケットにフック ③ を固定します。

▶ ラゲッジルームフロアを下ろします。

▶ ラゲッジルームフロアをロックするまで押し込みます ②。



1 ラゲッジルームフロア、解除

2 ラゲッジルームフロア、ロック

ラゲッジルームフロアはエマージェンシーキーでロック/ロック解除できます。

ルーフラック

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

ルーフに荷物を積むと、車両の重心位置が上がり、走行特性が変化します。 ルーフの最大積載量を越える場合、走行特性や、ステアリング操作やブレーキ操作が大幅に損なわれるおそれがあります。 事故の危険性があります。

運転スタイルを調整し、ルーフの最大積載量を決して超えないでください。

! ルーフラックは、メルセデス・ベンツ車用に認定された推奨品の使用をお勧め

します。 推奨品以外の製品を取り付けると車両を損傷するおそれがあります。

ルーフラックに荷物を積むときは、走行中に車両を損傷しないように確実に固定してください。

車両の装備に応じて、ルーフラックを取り付けたときに、以下の操作ができることを確認してください。

- スライディングサンルーフをいっぱいに上げる
- パノラミックスライディングルーフをいっぱいに開ける
- テールゲートをいっぱいに開く

最大ルーフ積載量は 100 kg です。

ルーフラックの取り付け

▶ ルーフラックをルーフレール ① に固定します。この作業はメーカーの取付説明書を遵守してください。

機能

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- カップホルダー
- リアサイドウインドウのブラインド
- 灰皿
- ライター
- 12V 電源ソケット
- 赤外線反射フロントウインドウ

サンバイザー

概要

① ミラー照明
② 固定部
③ クリップ
④ バニティミラー
⑤ バニティミラーカバー

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- サンバイザーのバニティミラー
- 横方向からの眩しさ

フロアマット

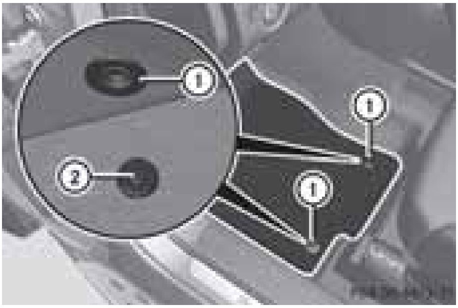
⚠ 警告

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルを妨害することがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。フロアマットは指示にしたがって必ず確実に固定し、ペダル操作の妨げにならないようにペダルとの間

▷▷

に十分な空間があることを確認してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。



例：運転席側フロアマット

- ▶ **運転席および助手席：**対応するシートを後方にスライドします。
- ▶ **後席：**対応する前席を前方にスライドします。
- ▶ **取り付ける：**フロアマットを足元に敷きます。
- ▶ フロアマットの凹部 ① を押し、フロアの凸部 ② にはめ込みます。
- ▶ **取り外す：**フロアの凸部 ② からフロアマットを引いて外します。
- ▶ フロアマットを取り外します。

後付けした防眩フィルム

ウインドウの内側に遮光フィルムなどを貼り付けると、携帯電話やラジオなどの電波受信に影響を与えるおそれがあります。導電性フィルムや金属コーティングが施されたフィルムを貼り付けた場合は、特に電波受信への影響が懸念されます。遮光フィルムについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

役に立つ情報 264
エンジンルーム 264
エンジンルームの概要 271
ASSYST PLUS 271
手入れ 271

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 32 ページ)

エンジンルーム

ボンネット

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

解除すると、走行中にボンネットが開いて視界の妨げとなり危険です。 事故の危険性があります。

走行中にボンネットを解除しないでください。

⚠ 警告

開閉中、ボンネットが急に下がる場合があります。 ボンネットの動作範囲では、けがの危険性があります。

ボンネットの動作範囲に誰もいないことを確認して、ボンネットを開閉してください。

⚠ 警告

エンジンがオーバーヒートしたときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。 けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。 エンジンルームで火災が発生したときは、ボンネットを閉じたままにし、消防局に連絡してください。

⚠ 警告

エンジンルームには可動部品があります。ラジエターファンなどの特定の構成部品は、イグニッションをオフにした後も動き続けたり、再度突然動くことがあります。けがの危険性があります。

エンジンルームの作業を行わなければならない場合は：

- イグニッションをオフにしてください。
- ファンの回転範囲など、可動部品周囲の危険な範囲には決して触れないでください。
- 宝飾品や時計は外してください。
- 衣服や髪の毛などの物は、動いている部品から離してください。

⚠ 警告

イグニッションシステムおよび燃料噴射システムは高電圧下で作動しています。高電圧を含んだ構成部品に接触すると、感電するおそれがあります。 けがの危険性があります。

イグニッションをオンにしたら、イグニッションシステムまたは燃料噴射システムの構成部品に決して触れないでください。

ボンネットを開く

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。 エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

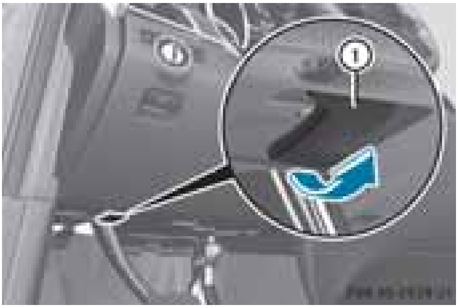
なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ 警告

ボンネットを開いているとき、ワイパーを作動位置のままにしていると、ワイパーリンケージでけがをするおそれがあります。 けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、必ずワイパーおよびエンジンスイッチをオフにしてください。

! ワイパーアームを起こしたままでボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触して、損傷するおそれがあります。



▶ フロントウインドウワイパーが停止していることを確認します。
▶ ボンネットロック解除レバー ① を引きます。
ボンネットのロックが解除されます。

▶ 隙間に手を入れ、ボンネット固定ハンドル ② を引き上げながらボンネットを持ち上げます。

ボンネットを約 40 cm 持ち上げた場合は、ガス封入式の支柱によりボンネットは自動的に開き、開いたまま保持されます。

ボンネットを閉じる

▶ ボンネットを下げ、約 20 cm の高さから下ろします。
▶ ボンネットが確実に固定されていることを確認します。
ボンネットがわずかに上がる場合は、確実に固定されていません。再度開き、少し力を入れて閉じます。

エンジンオイル

全体的な注意事項

! エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的にエンジンオイル量を点検し、必要に応じて補給または交換してください。

運転スタイルによって、車両は 1,000 km 当たり最大 0.8 L のオイルを消費します。新車のときや頻繁にエンジン回転数を上げて走行する場合は、オイル消費量はこれより増加します。

エンジンによっては、オイルレベルゲージは異なる位置に装着されています。

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

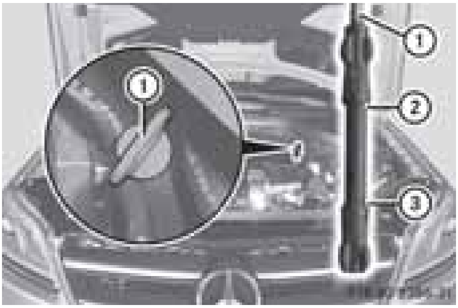
- 車両を水平な場所に停車している。
- エンジンが温まっている場合は、エンジンを停止してから約 5 分以上経過している。
- エンジンを短時間のみ始動した場合など、エンジンが通常の作動温度にない場合は、計測を行なう前に約 30 分 待ちます。

オイルレベルゲージを使用してオイル量の点検

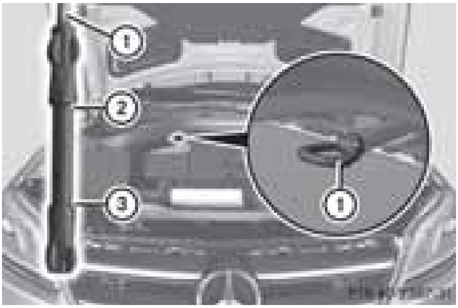
⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。 エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。



例：ガソリンエンジン装備車



例：ディーゼルエンジン車

▶ オイルレベルゲージ ① をオイルレベルゲージチューブから引き抜きます。

▶ オイルレベルゲージ ①を拭きます。

▶ オイルレベルゲージ ① をガイドチューブにいっぱいまでゆっくり差し込んで、再度引き抜きます。
レベルが MIN マーク ③ と MAX マーク ② の間にあるときは、オイルレベルは適正です。

▶ オイルレベルが MIN マーク ③ 、またはそれ以下まで下がっている場合は、エンジンオイルを 1.0 L 補充してください。

エンジンオイルの追加

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。 エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ 警告

エンジンオイルがエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。 火災およびけがの危険性があります。

エンジンオイルが補給口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを冷やし、エンジンを始動する前に、エンジンオイルで汚れた構成部品を清掃してください。

環境

エンジンオイルを補給するときは、こぼさないように注意してください。 エンジンオイルが地面や排水溝に流れると、環境に悪影響を与えます。

! サービスシステム装備車両のために承認されているエンジンオイルとオイルフィルターのみを使用してください。サービスプロダクトに関するメルセデス・ベンツの仕様に適合するためにテス

トされ、承認されたエンジンオイルとオイルフィルターのリストはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

エンジンまたは排気システムの損傷は以下のことに起因します。

- サービスシステムで承認されていない仕様のエンジンオイルやオイルフィルターの使用
- サービスシステムで要求される交換期間を過ぎた後のエンジンオイルやオイルフィルターの交換
- エンジンオイル添加剤の使用

! オイルを過剰に補給しないでください。 エンジンオイルを過剰に補給すると、エンジンまたは触媒が損傷する可能性があります。 余分なエンジンオイルを抜き取ってください。

例：エンジンオイルフィラーキャップ

▶ キャップ ① を反時計回りにまわして取り外します。

▶ エンジンオイルを補給します。
オイル量がエンジンオイルレベルゲージの MIN マーク、またはそれ以下の場合は、エンジンオイルを 1.0 L 補充してください。

▶ キャップ ① を補給口に合わせ、時計回りにまわします。
キャップが元の場所に確実にロックされていることを確認します。

▶ エンジンオイルレベルゲージを使用してオイル量を再度点検します (▷ 266 ページ)。

エンジンオイルについてのさらなる情報は、(▷ 325 ページ) をご覧ください。

定期的なオイルの交換

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。 メンテナンスインジケーター表示により、標準的な交換時期が定められています。 ただし、交換時期は使用状況に左右されます。 詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

冷却水

冷却水量の点検

⚠ **警告**

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。 エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

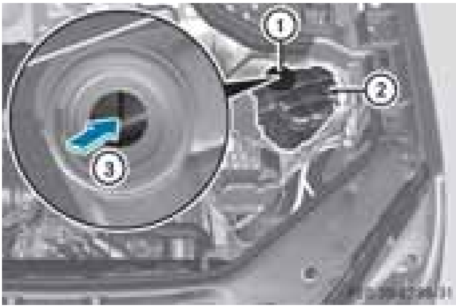
なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ **警告**

エンジンが温まっている場合は特に、エンジン冷却システムに圧力がかかっています。 キャップを開くとき、高温の冷却水が吹き出す可能性があります。 けがの危険性があります。

キャップを開く前に、エンジンを冷ましてください。 開くときは、手袋と保護メガネを着用してください。 キャップを

ゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。



▶ 車両を水平な場所に停めます。

車両が水平な場所にあり、エンジンが冷えている場合にのみ、冷却水量を点検してください。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▷ 141 ページ)。

キーレスゴー装備車では、キーレスゴースイッチを 2 度押します (▷ 142 ページ)。

▶ マルチファンクションディスプレイのエンジン冷却水温度計を確認します。冷却水温度は 70 ℃以下でなければなりません。

▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわします (▷ 141 ページ)。

▶ キャップ ① を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

▶ キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。
冷えているときに冷却水が補給口内のマーカーバー ③ のレベルにある場合は、冷却水リザーブタンク ② 内に十分な冷却水があります。

温かいときに冷却水量が補給口内のマーカーバー③ から約 1.5 cm 上にある場合は、冷却水リザーブタンク ② 内に十分な冷却水があります。

▶ キャップ ① を取り付け、時計回りにいっぱいまでまわします。

冷却水についての詳しい情報は、(▷ 326 ページ)をご覧ください。

冷却水の補給

⚠ **警告**

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。 エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

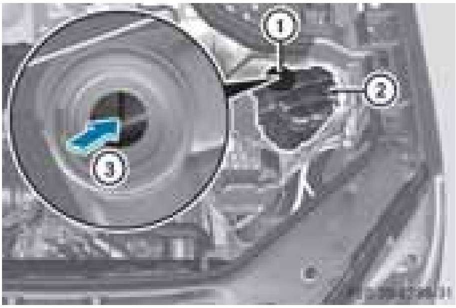
なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ **警告**

不凍液は可燃性の強い液体です。不凍液を取り扱う場合は、火気や裸火を近づけたり、近くで喫煙しないでください。

不凍液が高温のエンジン部品に付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。不凍液をエンジンルームにこぼさないよう注意してください。

! 冷却水が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面が損傷するおそれがあります。



例

冷却水リザーブタンク ② 内の冷却水量が低すぎる場合は、水平な場所に停止し、エンジンが冷えているときに冷却水を補給してください。

▶ キャップ ① を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。
▶ キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。
▶ 冷却水をマーカーバー ③ まで補給してください。
使用状況 (▷ 326 ページ) に合わせた水道水と不凍/腐食剤の濃度で使用します。
▶ キャップ ① を取り付け、時計回りにいっぱいまでまわします。
▶ エンジンを始動し、約 5 分後に再度停止して冷まします。
▶ 冷却水量 (▷ 267 ページ) を点検し、必要であれば補給します。

定期的な冷却水の交換

冷却水の品質は時間とともに劣化します。整備手帳の指示に従い、定期的に冷却水を交換してください。 詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

エンジンのオーバーヒート

⚠ **警告**
エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。 エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。
なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ **警告**
エンジンがオーバーヒートしたときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。 けがの危険性があります。
ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。 エンジンルームで火災が発生したときは、ボンネットを閉じたままにし、消防局に連絡してください。

⚠ **警告**
エンジンが温まっている場合は特に、エンジン冷却システムに圧力がかかっています。 キャップを開くとき、高温の冷却水が吹き出す可能性があります。 けがの危険性があります。
キャップを開く前に、エンジンを冷ましてください。 開くときは、手袋と保護メガネを着用してください。 キャップをゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

オーバーヒートしたときは：

- メーターパネルに約 120 ℃ 以上の冷却水温度が表示されている。
- マルチファンクションディスプレイに冷却水が減少 停車して エンジンを停止というメッセージが表示されている。
- エンジンがかかっているときに、メーターパネルに赤色の冷却水警告灯 [冷却水警告灯] が表示される。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

エンジンがオーバーヒートした場合の、操作方法に関する詳細は (▷ 215 ページ) を参照してください。

他のサービスプロダクト

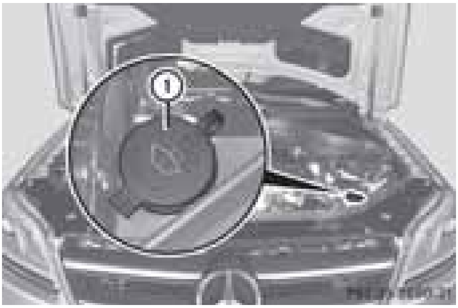
ウインドウウォッシャーとヘッドライトウォッシャーの補給

⚠ **警告**
エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。 エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。
なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

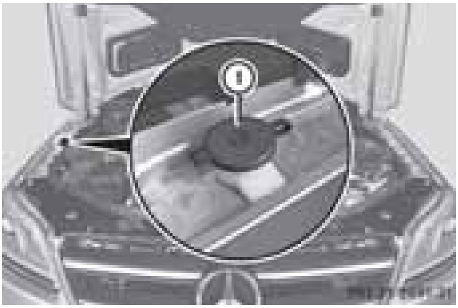
⚠ **警告**

ウインドウウォッシャー液の濃縮液は高い可燃性です。 熱いエンジン部品または排気システムに触れると、発火することがあります。火災およびけがの危険性があります。

ウインドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。



例：ウォッシャー液リザーブタンク



例：AMG 車両のウォッシャー液リザーブタンク

- **開く：** タブを持ってキャップ ① を引き上げます。
- あらかじめ混合しておいたウォッシャー液を補給します。
- **閉じる：** キャップ ① を補給口に押し付けて、固定します。

ウォッシャー液リザーブタンクは、ウインドウウォッシャーおよびヘッドライトウォッシャー両方に使用されます。

ヘッドライトウォッシャー装備車両の場合、推奨される最小ウォッシャー液量 は 3.5 リットルです。

ヘッドライトウォッシャー装備車両の場合、推奨される最小ウォッシャー液量 は 1 リットルです。

ウォッシャー液が 1 リットルより低い場合、マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液の補充を促すメッセージが表示されます 。

ウインドウウォッシャー液/不凍液について、詳しくは (▷ 327 ページ) をご覧ください。

ブレーキ液量

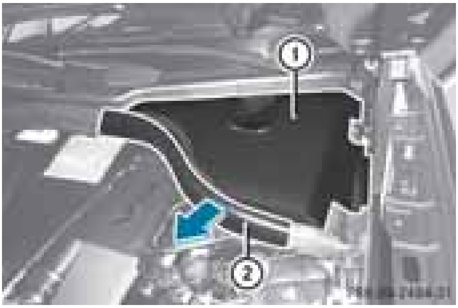
⚠ **警告**

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。 エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

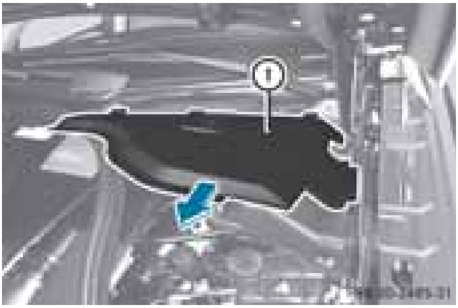
なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

! ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液レベルが MIN マークに下がった、あるいは下回ったことに気がついた場合は、ただちにブレーキシステムの漏れを点検してください。 ブレーキパッド / ライニングの厚さも点検してください。 ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

絶対にブレーキ液を補給しないでください。 ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。

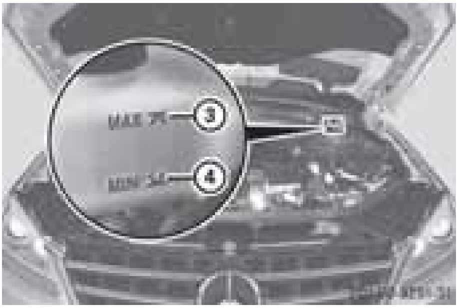


▶ カバー ① の周辺に取り付けられたシール ② を矢印の方向に引き剥がします。



▶ カバー ① をフロント側に持ち上げます。

▶ カバー ① を矢印の方向に引き出します。

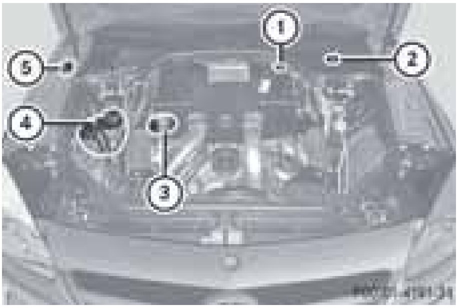


例

レベルがブレーキ液リザーブタンクのMIN マーク ④ と MAX マーク ③ の間にあれば、ブレーキ液量は適正です。

カバー ① を取り付けるには、以下と同じ順序の逆の順序で行なってください。 取り付け時は、カバー ① のガイドがバルクヘッドの切欠き部にはまっていることを確認してください。

エンジンルームの概要



例

① オイルレベルゲージ

② ブレーキ液リザーブタンク

③ エンジンオイルキャップ

④ 冷却水リザーブタンク

⑤ ウォッシャー液リザーブタンク

ASSYST PLUS

デジタル取扱説明書には、ASSYST PLUS メンテナンスインジケーター画面の詳細が記載されています。

手入れ

全体的な注意事項

環境

空の容器や使用済みのクリーニングクロスは、環境に配慮した方法で廃棄してください。

! お車の手入れをされる場合は、次のものは絶対に使用しないでください。

- 乾いた布や目の粗い布、硬めの布など
- 研磨剤を含む洗剤
- 溶剤
- 溶剤を含む洗剤

強く擦らないでください。

リングやスクレーパーなどのかたい物が、塗装面や保護膜に触れないようにしてください。塗装面や保護膜が損傷するおそれがあります。

! 特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、清掃したままで車両を長い間駐車しないでください。ホイールクリーナーが、ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングの錆を増加させる原因になるおそれがあります。このため、清掃した後は数分間走行してください。ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングを、ブレーキ制動により加熱して乾燥させます。その後で駐車してください。

定期的な車の手入れにより、長い期間品質を保つことができます。

メルセデス・ベンツが推奨し、承認した手入れ用品およびクリーナーを使用してください。

外装の手入れ

自動洗車機

⚠ **警告**

自動洗車機で洗車した直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。事故の危険性があります。

車両を洗車した後は、完全にブレーキの性能が元に戻るまでは道路状況に注意して慎重にブレーキ操作を行ってください。

! ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。 車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください：

- けん引されるとき
- 洗車時

! 注意：

- サイドウインドウおよびスライディングルーフが完全に閉じていること
- ベンチレーション / ヒーターの送風が停止していること（OFF スイッチが押されていること）
- ワイパースイッチが **0** の位置になっていること

車両を損傷するおそれがあります。

! けん引装置付きの洗車機では、オートマチック車の場合シフトポジションを **N** にしてください。車両が損傷するおそれがあります。

- キーレスゴー非装備車：
  エンジンスイッチからキーを抜かないでください。エンジンを停止しているときは、運転席ドアまたは助手席ドアを開かないでください。オートマチックトランスミッションが自動的に **P** にシフトされ、ホイールがロックします。オートマチックトランスミッションをシフトポジション **N** にすることにより、ホイールのロックを防ぐことができます。
- キーレスゴー装備車：
  エンジンを停止しているときは、運転席ドアまたは助手席ドアを開かないでください。オートマチックトランスミッションが自動的に **P** にシフトされ、ホイールがロックします。

以下に従って、オートマチックトランスミッションがポジション **N** のままであることを確認してください。

- ▶ 車両が停止していて、イグニッションがオフになっていることを確認してください。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▷ 141 ページ)。
  キーレスゴー装備車両では、キーレスゴースイッチの代わりにキーを使用します。
- ▶ ブレーキペダルを踏んだまま保持します。
- ▶ オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトします。
- ▶ ブレーキペダルを放します。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを解除します。
- ▶ イグニッションをオフにして、エンジンスイッチにキーを残したままにします。

最初から自動洗車機で洗車することができます。

ひどい汚れは、自動洗車機で洗車をする前に洗ってください。

自動洗車機を使用した後は、フロントウインドウやワイパーブレードのワックスを拭いてください。フロントウインドウの残留物に起因する汚れを防ぎ、ワイパーのノイズを低減します。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 手洗い
- 高圧洗浄機器
- 車輪の清掃
- 塗装面の清掃
- マットペイントの手入れと取り扱い
- ウインドウの清掃
- ワイパーブレードの清掃
- 車外ライトの清掃
- ドアミラー方向指示灯の清掃
- センサーの清掃
- 360°カメラシステムの清掃
- マフラーの清掃

車内の手入れ

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- ディスプレイの清掃
- ナイトビューアシストプラスの清掃
- 樹脂製トリムの清掃
- ステアリングとギアレバー / セレクターレバーの清掃
- ウッド / トリムストリップの清掃
- シートカバーの清掃
- シートベルトの清掃
- ルーフライニングとカーペットの清掃

役に立つ情報 276
車載品の収納場所 276
パンク 278
バッテリー（車両） 283
ジャンプスタート 287
けん引およびけん引始動 290
ヒューズ 293

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 32 ページ)

車載品の収納場所

非常信号用具

車内には懐中電灯が装備されています。

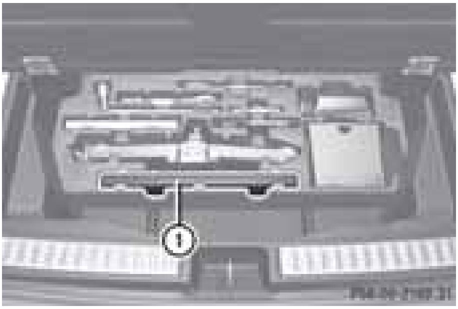
運転席ドアまたは助手席ドアのいずれかの小物入れに収納されています。

ℹ 新品の懐中電灯には電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙片が挟まれています。 初めて使用する前に、紙片を取り除きます。

ℹ 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。 電池が切れたら交換してください。

停止表示板

停止表示板の取り外し



停止表示板の収納場所（例：タイヤフィットキット装備車）

停止表示板 ① はラゲッジルームフロア下の収納スペースにあります。

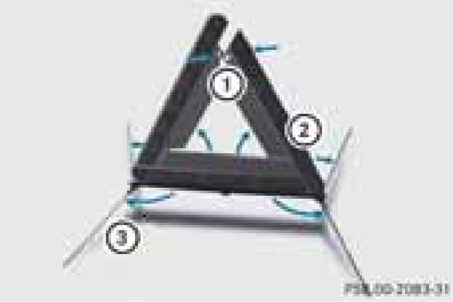
▶ テールゲートを開きます。

▶ ラゲッジルームフロアを持ち上げます (▷ 259 ページ)。

ℹ 車両の装備によって、停止表示板 ① はラゲッジルームフロア下以外の場所にあることもあります。

▶ 停止表示板 ①を取り外します。

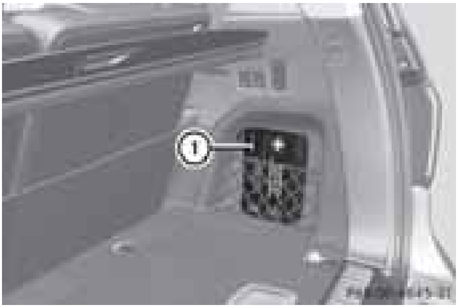
停止表示板の組み立て



▶ 脚 ③ を下および、側方外側に出します。

▶ 側方の反射板 ② を引き上げて三角形を作り、上部の押し込み式ビス ① を使用して上部で固定します。

救急セット



▶ テールゲートを開きます。

▶ 救急セット ① をラゲッジネットから取り出します。

ℹ 最低 1 年に 1 回、救急セットの使用期限が切れていないか確認してください。中身が揃っているか確認し、なくなりかけたものは補充してください。

車載工具

一般的な注意事項

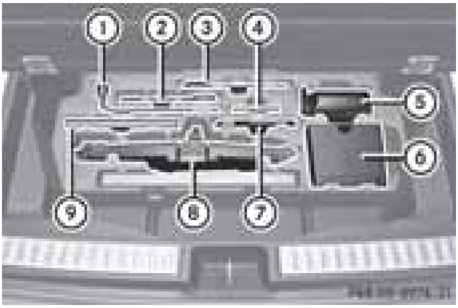
車載工具はラゲッジルームフロアボードの下に収納されています。

ℹ 国ごとの仕様の違いによって、車両にはタイヤ交換工具は装備されていません。車輪交換用工具の中には、その車両専用のものが含まれています。車両の車輪交換を行なうために必要な工具についてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

必要なタイヤ交換工具としては、以下のものなどが含まれることがあります。

- ジャッキ
- 輪止め
- ホイールレンチ
- ラチェットレンチ
- ガイドボルト

タイヤフィット装備車両

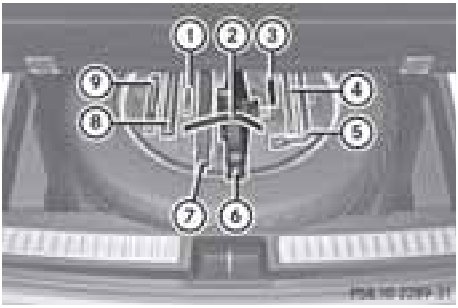


① ホイールレンチ
② けん引フック
③ ラチェットレンチ
④ ガイドボルト
⑤ タイヤシール剤充填ボトル
⑥ タイヤ充填コンプレッサー
⑦ 折りたたみ式輪止め
⑧ ジャッキ
⑨ ホイールボルト

▶ ラゲッジルームフロアを上方に開きます (▷ 259 ページ)。

▶ タイヤフィットキットを使用します (▷ 280 ページ)。

応急用ミニスペアタイヤ装備車両



① ガイドボルト
② ベルクロファスナー
③ 折りたたみ式輪止め
④ ラチェットレンチ

⑤ ホイールレンチ
⑥ ジャッキ
⑦ 停止表示板
⑧ ホイールボルト
⑨ けん引フック

▶ ラゲッジルームフロアを上方に開きます (▷ 259 ページ)。

パンク

車両の準備

お客様の車両には、以下が装備されていることがあります。

- MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）
  MOExtended タイヤ装備車両では、車両の準備作業は必要ありません。
- タイヤフィットキット
- 応急用スペアタイヤ（一部の国のみ）

ホイールの交換 / 装着に関する情報 (▷ 304 ページ)

▶ 往来からできるだけ離れた、かたく、滑らない水平な場所に車両を停止します。
▶ 非常点滅灯を作動させます。
▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▷ 155 ページ)
▶ 可能な場合は、前輪を直進位置にしてください。
▶ **オン&オフロード パッケージ装備車：** ハイウェイレベルが選択されていることを確認してください(▷ 172 ページ)。
▶ **オン&オフロード パッケージ装備車：** ハイウェイレベルが選択されていることを確認してください(▷ 172 ページ)。
▶ エンジンを停止します。
▶ **キーレスゴー非装備車：** エンジンスイッチからキーを抜きます。
▶ **キーレスゴー装備車：** 運転席ドアを開きます。
車両の電気システムが、0 の状態になります。これにより、キーを抜いたときと同様になります。
▶ **キーレスゴー装備車：** エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します (▷ 142 ページ)。
▶ 乗員全員を車両から降ろします。そのときは、彼らが危険にさらされないことを確認してください。
▶ タイヤ交換をするときは、危険なエリアの近くに誰もいないことを確認してください。タイヤ交換を直接補助しない人は、フェンスの向こう側に立つなどしてください。
▶ 車両から降りてください。そのときは交通状況に注意してください。
▶ 運転席ドアを閉じます。
▶ 適切な場所に停止表示板を置いてください(▷ 276 ページ)。法規を遵守してください。
▶ 重い荷物を降ろします。

ⓘ 自動車道路や高速道路では、停止表示板を使用することにより後続車両に警告を発することが法律で義務付けられています。

ⓘ イグニッションがオフになっていても、12V 電源ソケットのみを使用して、タイヤ充填コンプレッサーを操作します (▷ 261 ページ)。
緊急カットオフにより、バッテリーの電圧が過度に降下しないようにします。バッテリーの電圧が過度に低い場合は、電源ソケットへの電力は自動的に停止します。これにより、エンジンを始動するために十分な電力が確保されます。

MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）

全体的な注意事項

MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）により、1 本または複数のタイヤの空気圧がすべて損失しても、車両の走行を続けることができます。影響を受けたタイヤには明らかに目に見える損傷があるとは限りません。

タイヤウォールの MOExtended マークで MOExtended タイヤを識別できます。このマークはタイヤサイズ表示、耐荷重性能 、スピードインデックスの横に表示されています。

MOExtended タイヤは、作動しているタイヤ空気圧警告システムと一緒にのみ使用することができます。

マルチファンクションディスプレイに空気圧警告メッセージが表示された場合：

- ディスプレイメッセージの指示に従ってください。(▷ 217 ページ)
- タイヤに損傷があるかを確認してください。
- 運転する場合は、以下の注意事項を遵守してください。

最長走行距離は、車両に部分的に積載しているときは約 80 km、車両にいっぱいまで積載をしているときは約 30 km です。

車両の荷物に加えて、走行可能な距離は以下によって異なります。

- 走行速度
- 道路状況
- 外気温度

ランフラットモードで走行可能な距離は、極端な走行状況/操作によって短くなったり、穏やかな運転スタイルによって長くなることがあります。

走行可能な距離は、タイヤ空気圧警告システムの警告メッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されたときが起点になります。

最高速度が約 80 km/h を超えないようにしてください。

ⓘ 1 本または 4 本全てのタイヤを交換するときは、必ず以下のみを使用してください。

- 車両に指定されたタイヤサイズ
- "MOExtended" マーク付きタイヤ

タイヤがパンクし、MOExtended タイヤと交換できない場合は、一時的な措置として標準タイヤを使用してください。必ず適正なサイズと適正な種類（サマータイヤまたはウィンタータイヤ）を使用してください。

ⓘ MOExtended タイヤ装備車両には、タイヤフィットキットを標準装備していません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットキットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットキットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

エマージェンシーモードで運転すると、コーナリングや急加速、ブレーキ時などに走行特性が低下します。事故の危険性があります。

規定の最高速度を超えないでください。急激なステアリング操作、運転操作、障害物(縁石、穴、オフロード)を超える運転を避けてください。これは特に荷物積載時にあてはまります。

以下の場合は、エマージェンシーモードでの運転は中止してください。

- 大きい異音が聞こえるとき
- 車に振動が発生するとき
- 煙やタイヤの焦げる臭いが発生するとき

- ESP®が常時作動するとき
- タイヤのサイドウォールに裂け目があるとき

エマージェンシーモードでの運転のあとは、さらに使用できるかの確認のためにホイールリムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。不具合のあるタイヤは新品と交換してください。

タイヤフィットキット

重要な安全上の注意事項

タイヤフィットはタイヤシーラント剤です。

タイヤフィットを使用して、4 mm 以下のパンク、特にタイヤトレッドにあるものをふさぐことができます。タイヤフィットは、-20 ℃までの外気温度で使用できます。

⚠ **警告**

以下の状況のときは、タイヤフィットが十分に機能しないため、タイヤを適切に修理することはできません。

- 上記に記した以上のタイヤの裂け目や穴
- ホイールリムが損傷しているとき
- 非常に低い空気圧、またはパンクした状態で走行したとき

事故の危険性があります。

それ以上走行しないでください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

⚠ **警告**

タイヤフィットは有害で、炎症を起こす原因となります。皮膚、眼、服に付着させたり、吸い込んだりしないようにしてください。タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。タイヤフィットは子供の手の届かないところに保管してください。負傷するおそれがあります。

タイヤフィットが付着した場合は、以下の指示にしたがってください。

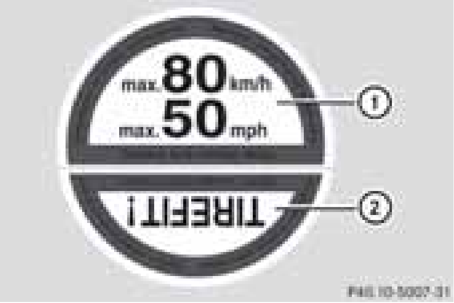
- タイヤフィットをただちに水道水で皮膚から洗い流してください。
- タイヤフィットが眼に付着した場合は、ただちに水道水で十分に洗い流してください。
- 万一、タイヤフィットを飲み込んだ場合は、ただちに水道水で口を十分すすぎ、水道水を大量に飲ませてください。無理に吐かせないでください。ただちに専門医の診断を受けてください。
- タイヤフィットが付着した衣類は、ただちに着替えてください。
- アレルギー反応が生じた場合は、ただちに専門医の診断を受けてください。

! 電動エアポンプは、一度に約 8 分以上連続して作動させると、ポンプがオーバーヒートするおそれがあります。

電動エアポンプが冷えたら、再び作動させることができます。

タイヤ充填コンプレッサーのステッカーにあるメーカーの安全上の指示に従ってください。

タイヤフィットキットの使用



タイヤフィットステッカー、2 部分

▶ タイヤに刺さったクギやネジなどは取り除かないでください。

▶ ラゲッジルームフロア下の収納スペースからタイヤフィットのボトル、付属のタイヤフィットステッカー、および

タイヤ充填コンプレッサーを取り出します(▷ 277 ページ)。

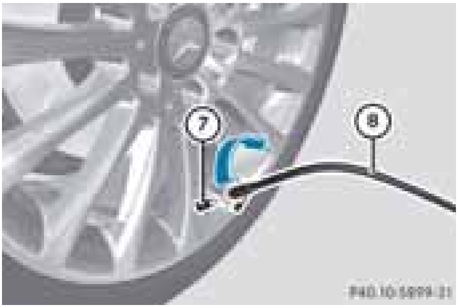
▶ タイヤフィットステッカーの ① 部分を運転者の視界内に貼ります。

▶ タイヤフィットステッカーの ② 部分を不具合のあるタイヤのホイールのバルブ付近に貼ります。

▶ ケーブル付き電源プラグ ④ とホース ⑤ をハウジングから取り出します。

▶ ホース ⑤ をタイヤフィットのボトル ① のフランジ ⑥ にしっかり取り付けます。

▶ タイヤフィットのボトル ① を頭を下にしてタイヤ充填コンプレッサーの凹部 ② にはめます。



▶ パンクしたタイヤのバルブ ⑦ からキャップを取り外します。

▶ タイヤフィットのホース ⑧ をパンクしたタイヤのバルブ ⑦ にねじ込みます。

▶ プラグ ④ を車両の 12 V ソケット (▷ 261 ページ) に差し込みます。

▶ エンジンスイッチのキーを **1** の位置にまわします (▷ 141 ページ)。

▶ タイヤ充填コンプレッサーの電源スイッチ ③ を **I** の位置にします。
タイヤ充填コンプレッサーが作動し始めます。応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。

ℹ 最初に、タイヤにタイヤフィットが送り込まれます。空気圧が一時的に約 500 kPa （5 bar/73 psi）まで上がることがあります。

この間は、タイヤ充填コンプレッサーを停止しないでください。

▶ タイヤ充填コンプレッサーを約 5 分間作動させます。その後にタイヤは 180 kPa（1.8 bar/26 psi）以上の圧力になっていなければなりません。

約 5 分後にタイヤ空気圧が 180 kPa (1.8 bar/26 psi) に達した場合：(▷ 282 ページ)

約 5 分後にタイヤ空気圧が 180 kPa (1.8 bar/26 psi) に達しなかった場合：(▷ 281 ページ)

ℹ タイヤフィットが漏れ出た場合は、そのまま乾燥させてください。フィルム状になり、剥がすことができます。
衣類にタイヤフィットが付着した場合は、できるだけ早くパークロロエチレンでクリーニングしてください。

不十分なタイヤ空気圧

5 分後に空気圧が 180 kPa（1.8 bar/26 psi）に達していない場合：

▶ タイヤ充填コンプレッサーを停止します。

▶ 不具合のあるタイヤのバルブから充填ホースを外します。

- ごく低速で約 10 m 前進または後退します。
- 再度、タイヤに空気を注入します。

  5 分後までには、タイヤ空気圧は 180 kPa（1.8 bar/26 psi）以上になっていなければなりません。

> ⚠ **警告**
>
> 規定の時間が経過したのに、必要十分なタイヤ空気圧に達しない場合は、タイヤは致命的に損傷しており、 タイヤフィットによる タイヤ修理はできません。損傷したタイヤや非常に低下したタイヤ空気圧により、車両のブレーキや走行特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。
>
> それ以上走行を続けないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

十分なタイヤ空気圧

> ⚠ **警告**
>
> タイヤフィットで一時的に修理したタイヤは車両操縦性が損なわれてしまい、高速走行には適しません。事故の危険性があります。
>
> そのため、状況に応じて運転スタイルを調整し慎重に走行してください。タイヤフィットで修理したタイヤで走行する場合は、 指定された最高速度を超過しないでください。

! 使用後は、ホースから余分なタイヤフィットが漏れ出ることがあります。タイヤフィットが付着すると、シミの原因になります。

したがって、ホースはタイヤフィットが収納されていた専用袋に収納してください。

> **環境保護に関する注意**
>
> 使用済みのタイヤフィットのボトルを廃棄処分する場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご依頼ください。

5 分後にタイヤ空気圧が 180 kPa（1.8 bar/26 psi）に到達している場合：

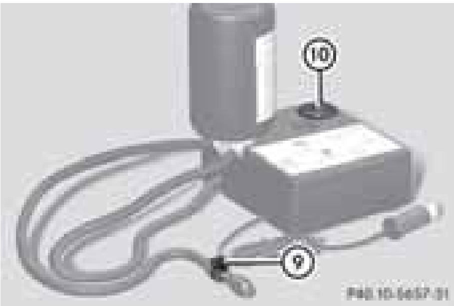
- タイヤ充填コンプレッサーを停止します。
- 不具合のあるタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- タイヤフィットのボトル、タイヤ充填コンプレッサーおよび停止表示板を収納します。
- **ただちに発進します。**

  タイヤフィットで修理されたタイヤの最高速度は 80 km/h です。運転者が容易に視認できるメーターパネル内に、タイヤフィットステッカーの上部を貼付してください。
- 約 10 分間走行した後に停止し、タイヤ充填コンプレッサーでタイヤ空気圧を点検します。

  タイヤ空気圧が 130 kPa（1.3 bar/19 psi）以上でなければなりません。

> ⚠ **警告**
>
> 短時間の走行後に規定タイヤ空気圧に達しない場合は、タイヤがひどく損傷しています。この場合は、タイヤフィットでタイヤを修理することができません。タイヤの損傷およびタイヤ空気圧が低すぎることにより、車両のブレーキ操作や操縦性が著しく損なわれるおそれがあります。事故発生の危険性があります。
>
> それ以上走行を続けずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

- タイヤ空気圧がまだ 130 kPa（1.3 bar/19 psi）以上の場合は修正します。数値は燃料給油口フラップをご覧ください。
- **タイヤ空気圧を上げる：** タイヤ充填コンプレッサーを作動させます。



⑨ 空気圧解放スイッチ
⑩ 空気圧ゲージ

▶ **タイヤ空気圧を下げる：** 充填ホースの空気圧解放スイッチ ⑨ を押します。

▶ タイヤフィットのボトル、タイヤ充填コンプレッサーおよび停止表示板を収納します。

▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、そこでタイヤを交換してください。

▶ できるだけ早くメルセデス・ベンツ指定サービス工場でタイヤフィットのボトルを交換してください。

▶ タイヤフィットのボトルは 4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

バッテリー（車両）

重要な安全上の注意事項

バッテリーの取り外し、または取り付けなどの作業は、専門的な知識および専用工具の使用が必要です。したがって、バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **警告**

バッテリーに不適切な作業を行なうと、例えばショートにつながり、車両の電子部品を損傷します。これにより、ライトシステム、ABS（アンチロック・ブレーキングシステム）または ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）のような安全に関連したシステムに機能の制限を与えることにつながるおそれがあります。車両の操作安全性が制限されるおそれがあります。例えば、以下のときに車両のコントロールを失うおそれがあります。

- ブレーキ時
- 急なステアリング操作時、および/または車両速度が道路の状態に合っていないとき

事故の危険性があります。

ショート、または似たような出来事のときは、すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。それ以上走行しないでください。バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

ℹ ABS および ESP®に関するさらなる情報は、(▷ 78 ページ) および (▷ 83 ページ) をご覧ください。

⚠ **警告**

静電気を帯びていると、火花が発生してバッテリーから発生する高可燃性のガスに引火することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱う前に、車体に触れて身体の静電気を放電させてください。

バッテリー充電時、およびジャンプスタート時は、可燃性の高い混合ガスが発生します。

お客様にも、そしてバッテリーにも静電気が帯電していないことを常に確認してください。静電気は以下の様な場合に帯電します。

- 合成繊維製の衣服を着用しているとき
- 衣服とシートの間で摩擦が起こるとき
- カーペットまたは他の合成繊維の上でバッテリーを引きずったとき
- バッテリーを布で拭いたとき

⚠ **警告**

充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。 バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。 爆発の危険性があります。

- 接続されたバッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリーの接続および切り離しを行なうときは、記載された手順通りにバッテリー端子を接続することが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。
- ブースターケーブルの接続、切り離しを行なうときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
- エンジン作動中は、決してバッテリー端子の接続または切り離しを行なわないでください。

⚠ **警告**

バッテリー液は腐食性があります。 けがをするおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。 バッテリーをのぞき込まないでください。 バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。 バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

環境保護に関する注意

電池には環境汚染物質が含まれています。 電池を家庭用ゴミとして廃棄することは法律で禁じられています。 使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。

電池は環境に配慮した方法で廃棄してください。 使用済みの電池は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお持ちいただくか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

! メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を定期的に受けてください。

整備手帳のメンテナンスインターバルを確認するか、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。 万が一、例外的な状況では、必ずご自身でバッテリーの接続を外す必要があり、以下のことを遵守してください。

- エンジンを切って、キーを外します。 キーレスゴー装備車の場合は、必ずイグニッションがオフになっていることを確認します。 メーターパネルのすべての表示灯が消灯していることを確認します。 たとえば、オルタネーターのような電子部品を損傷するおそれがあります。
- まずマイナス端子をはずして、次にプラス端子をはずします。 端子を入れ替

えないでください。 車両の電子部品を損傷するおそれがあります。

- バッテリーの接続を切った後、トランスミッションは P の位置でロックされます。車両は走り出さないように固定されます。 車両を動かすことができなくなります。

運転中はバッテリーおよびプラス端子のカバーをしっかり取り付けてください。

バッテリーを取り扱うときは、安全上の注意事項および防護措置を守ってください。

警告

バッテリーを取り扱うときは、火気や裸火、タバコは禁止です。火花の発生は避けてください。

バッテリー液には腐食性があります。皮膚、目または衣服への付着を防いでください。

手袋やエプロン、マスクなど、適切な保護衣を着用してください。

清潔な水で、ただちに飛散した酸を洗い流してください。必要であれば、医師の診察を受けてください。

保護眼鏡を着用してください。

子供を近づけないでください。

取扱説明書の指示に従ってください。

メルセデス・ベンツでは、安全のため、メルセデス・ベンツによりお客様の車両のためにテストされ、承認されたバッテリーのみを使用することを推奨します。これらのバッテリーは衝撃保護性能に優れており、事故などでバッテリーが損傷した際に乗員が酸で火傷をする危険性を低減します。

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分に充電されていることが必要です。

車両のバッテリーは他のバッテリーと同様に、車両を使用しないと徐々に放電する可能性があります。そのような場合、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの接続を外す作業を依頼してください。純正バッテリー充電器を使用してバッテリーを充電することもできます。詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車両を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多い場合は、通常よりも頻繁にバッテリー液量や充電状態を点検してください。車両を長期間使用しないときの保管方法については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ 駐車時に電気装備を必要としないときは、キーを抜いてください。エンジンスイッチにキーが差し込まれていると、電力をわずかに消費します。

ℹ バッテリーが放電した場合など、電力供給が中断したときは、以下のことを行なってください。

- 時計を設定します時計の設定に関する情報はデジタル版取扱説明書をご覧ください。

  COMAND システムおよびナビゲーションシステム装備車両では、時計は自動的に設定されます。
- ミラーを一度展開して、ドアミラーの自動展開/格納機能をリセットします (▷ 118 ページ)

バッテリーの充電

⚠ **警告**
バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。 爆発の危険性があります。
バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。 バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確保してください。 バッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ **警告**
バッテリー液は腐食性があります。 けがをするおそれがあります。
皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。 バッテリーをのぞき込まないでください。 バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。 バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

⚠ **警告**
放電したバッテリーは、気温が氷点下になると凍結するおそれがあります。 ジャンプスタートやバッテリーの充電を行なうときは、バッテリーからガスが発生することがあります。 爆発の危険性があります。
バッテリーの充電やジャンプスタートを行なう前に、凍結したバッテリー液を解凍してください。

! 必ず最大充電電圧が約 14.8 V のバッテリー充電器を使用してください。

! バッテリーを充電する場合は、必ずジャンプスタートターミナルを使用してください。

低温時に、表示灯/警告灯が点灯しない場合は、放電したバッテリーが凍結していることがあります。このような場合は、バッテリーを充電することも車両をジャンプスタートすることもできないことがあります。解凍したバッテリーの寿命は短くなることがあります。特に低温時の始動性能が損なわれることがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で解凍したバッテリーの点検を受けてください。

メルセデス・ベンツにより承認されたバッテリー充電器ユニット以外では、車両に装着されたままのバッテリーを決して充電しないでください。メルセデス・ベンツ車両用に特別に適合した、メルセデス・ベンツによりテストおよび承認されたバッテリー充電器ユニットはアクセサリーとして入手できます。装着された位置にあるバッテリーの充電が許可されています。情報および入手については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。バッテリー充電器に付属の説明書に従ってバッテリーを充電してください。

ジャンプスタートターミナルは、エンジンルーム (▷ 287 ページ)内にあります。

バッテリーを充電する前に、バッテリー充電器の取扱説明書をお読みください。

▶ ボンネットを開きます。
▶ ジャンプスタートにより救援車のバッテリーを接続したときと同じ順序で、バッテリー充電器をプラス端子とアース端子に接続してください (▷ 287 ページ)。

ジャンプスタート

ジャンプスタートには、エンジンルーム内のプラス端子とアースポイントで構成されているジャンプスタートターミナルのみを使用してください。

⚠ **警告**

バッテリー液は腐食性があります。 けがをするおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。 バッテリーをのぞき込まないでください。 バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。 バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

⚠ **警告**

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。 バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確保してください。 バッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ **警告**

充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。 バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。 爆発の危険性があります。

- 接続されたバッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリーの接続および切り離しを行なうときは、記載された手順通りにバッテリー端子を接続することが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。
- ブースターケーブルの接続、切り離しを行なうときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
- エンジン作動中は、決してバッテリー端子の接続または切り離しを行なわないでください。

⚠ **警告**

放電したバッテリーは、気温が氷点下になると凍結するおそれがあります。 ジャンプスタートやバッテリーの充電を行なうときは、バッテリーからガスが発生することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なう前に、凍結したバッテリー液を解凍してください。

! ガソリンエンジン車： 繰り返しての、および長時間にわたる始動の試みは避けてください。未燃焼燃料によって触媒コンバーターを損傷するおそれがあります。

低温時に表示灯/警告灯が点灯しない場合、放電したバッテリーが凍結していることがあります。このような場合、車両をジャンプスタートすることも、バッテリーを充電することもできないことがあります。解凍したバッテリーの寿命は短くなることがあります。特に低温時の始動性能が損なわれることがあります。解凍したバッテリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

車両の始動のために急速充電器を使用しないでください。車両のバッテリーが放電したときは、ブースターケーブルを使用して他の車両や補助バッテリーからエンジンをジャンプスタートすることができます。以下の点に従ってください。

- すべての車両でバッテリーに手が届くわけではありません。他の車両のバッテリーに手が届かない場合は、補助バッテリーまたはジャンプスタート装置を使用して、車両をジャンプスタートしてください。
- **ガソリンエンジン車両：**エンジンおよび排気システムが冷えているときにのみ、車両のジャンプスタートを行なってください。
- バッテリー液が凍結している場合は、エンジンを始動することはできません。最初にバッテリーを解凍してください。
- ジャンプスタートは、定格電圧 12 V のバッテリーを使用してのみ行なうことができます。
- 十分な太さがあり、絶縁された端子クランプの付いたブースターケーブルのみを使用してください。
- バッテリーが完全に放電した場合は、始動を試みる前に、ジャンプスタートのために接続したバッテリーを数分間接続したままにしてください。これにより、放電したバッテリーに若干充電されます。
- 2 台の車両が接触していないことを確認します。

以下のことを確認してください。

- ブースターケーブルが損傷していない
- ブースターケーブルをバッテリーに接続している間、端子クランプの絶縁されていない部分が他の金属部品と接触していない
- エンジンが回転しているとき、ブースターケーブルが V ベルトプーリーやファンなどの部品に巻き込まれないようにする

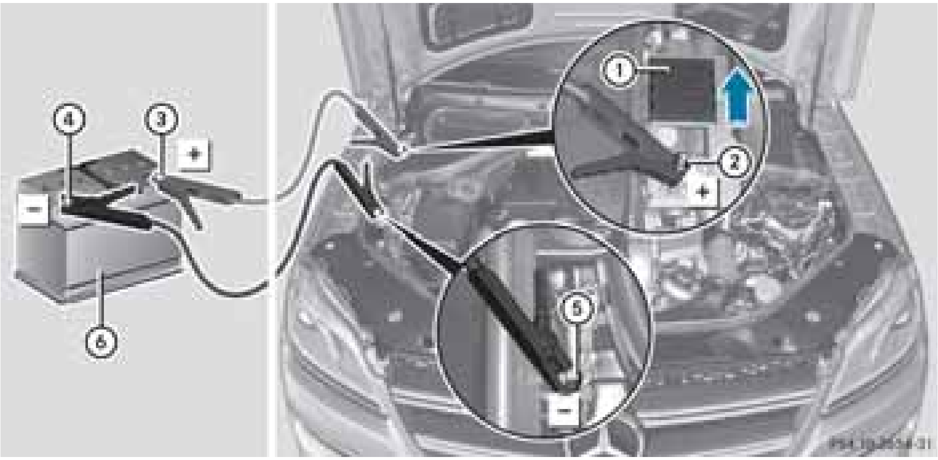
▶ 電気式パーキングブレーキを作動させ、車両が動き出さないように固定します。

▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。

▶ キーをエンジンスイッチの **0** の位置にまわして、取り外します (▷ 141 ページ)。キーレスゴー装備車両では、イグニッションがオフになっていることを確認します (▷ 142 ページ)。メーターパネル内のすべての表示灯が消灯します。

▶ リアデフォッガー、ライトなどすべての電気装備を停止します。

▶ ボンネットを開きます。



（例）

位置番号 ⑥ は、充電されている他車のバッテリーまたは対応するジャンプスタート装置を示しています。

▶ プラス端子 ② のカバー ① を矢印の方向に動かして開きます。

▶ ブースターケーブルを使用して、車両のプラス端子 ② を救援用バッテリー ⑥ のプラス端子 ③ に接続します。必ず最初に自車のプラス端子 ② から始めます。

▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング回転数で作動させます。

▶ ブースターケーブルを使用して、救援用バッテリー ⑥ のマイナス端子 ④ を自車のアースポイント ⑤ に接続します。ブースターケーブルは最初に救援用バッテリー ⑥ に接続します。

▶ エンジンを始動します。

▶ ブースターケーブルを外す前に、エンジンを数分間作動させてください。

▶ 最初にアースポイント ⑤ とマイナス端子 ④ から、次にプラスクランプ ② とプラス端子 ③ から、ブースターケーブルを取り外します。いずれの際も、最初に自車の端子から開始してください。

▶ ブースターケーブルを取り外した後に、プラス端子 ② のカバー ① を閉じます。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

ℹ ジャンプスタートは、通常の操作状況とはみなされていません。

ℹ ジャンプスタートのケーブル、およびジャンプスタートについての詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

けん引およびけん引始動

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

安全性に関連する機能は以下の場合に制限されるか、または使用できなくなります。

- エンジンが作動しないとき
- ブレーキシステムまたはパワーステアリングに不具合がある
- 電圧供給または車両の電気システムに不具合がある

車両をけん引する場合は、ステアリング操作、またはブレーキ操作により大きな力が必要になることがあります。事故の危険性があります。

そのような場合は、けん引バーを使用してください。けん引する前に、ステアリングが自由に動くことを確認してください。

⚠ **警告**

自車の許容総重量より重い車をけん引またはけん引始動しようとすると、以下の状態が発生するおそれがあります。

- けん引フックが外れる。
- トレーラーを連結した車両が横転する。

事故が起こるおそれがあります。

他車をけん引またはけん引始動するときは、自車の許容総重量より軽い車でなければなりません。

! ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。 車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください：

- けん引されるとき
- 洗車時

! パーキングブレーキが解除されていることを確認してください。パーキングブレーキが故障している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場をおたずねください。

! けん引ロープやロッドは、けん引フック以外にはかけないでください。 車体が損傷するおそれがあります。

! けん引ロープを使用してけん引を行なう場合は、必ず以下の点に注意してください。

- ロープは、両車とも同じ側につないでください。
- けん引ロープの長さは 5m 以内である必要があります。その中間に白い布 (30x30cm)を付けて、けん引中であることが周囲から明確にわかるようにしてください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- 走行中は、けん引する車のブレーキランプに注意してください。常に車間距離を維持しつつ、ロープをたるませないように走行してください。
- ワイヤーロープや金属製のチェーンは使用しないでください。車体に傷が付くおそれがあります。

! 車両の引き上げのためにけん引フックを使用しないでください。車両を損傷するおそれがあります。可能であれば、クレーンを使用して車両を引き上げてください。

! けん引する場合、ゆっくりとスムーズにけん引します。けん引される車両を急な角度は避け、できるだけまっすぐ引いてください。けん引力が大きすぎると、車両が損傷するおそれがあります。

ℹ けん引するときは、けん引ロープではなく、けん引バーを使用することをお勧めします。けん引バーは、けん引力を低く保つことができます。

! キーレスゴー装備車のけん引を行なう時は、エンジンスイッチを使用せずに

キーを操作します。オートマチック車の場合は、運転席ドアまたは助手席ドアを開くとシフトポジションが P になり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! ディファレンシャルロック装備車両：ディファレンシャルロックがオートマチックモードであることを確認します。けん引するときは、ディファレンシャルロックがオンになっていてはいけません。さもないと、トランスミッションが損傷することがあります。

! 車両は最長で約 50 km までけん引できます。 けん引する際の速度は、約 30 km/h を超えないようにしてください。

距離が約 50 km を超える場合は、必ず車両全体をリフトアップして、車両運搬車を利用してください。

! お客様の車両より重い車両のけん引またはけん引始動は絶対に避けてください。

けん引を行なうときは、各国の法規制に従ってください。

できるだけけん引は避け、車両を運搬してください。

車両のトランスミッションが損傷した場合は、運搬車またはトレーラーで運搬してください。

車両をけん引するときは、オートマチックトランスミッションがポジション N になければなりません。

バッテリーが接続されており、充電されていなければなりません。さもないと、以下のような事態を招きます。

- キーをエンジンスイッチの 2 の位置にまわすことができない
- 電気式パーキングブレーキを解除できない
- オートマチックトランスミッション装備車両では、トランスミッションをポジション N にシフトできない

i 車両をけん引してもらう前に、車速感応ドアロックを解除してください (▷ 205 ページ)。さもないと、車両を押したり、けん引するときに、閉め出されるおそれがあります。

車両をけん引する前に、けん引防止機能を解除してください (▷ 90 ページ)。

けん引フックの取り付け/取り外し

けん引フックの取り付け

例：けん引フック取り付け部のカバー

けん引フック締め付け用のブラケットは、バンパー内にあります。フロントおよびリアのカバー内にあります。

- 車載工具キット (▷ 277 ページ) からけん引フックを取り出します。
- **フロントのカバーを開く**：カバー ① のマークを矢印の方向（内側）に押します。
- **リアのカバーを開く**： 平らでとがっていないものを切り口に 挿入し、カバー ② をバンパーから引き出します。
- カバー ① または ② を開口部から外します。
- 停止するまで時計回りにけん引フックをまわし、締め付けます。

けん引フックの取り外し

- けん引フックを緩めて取り外します。
- カバー ① または ② をバンパーに取り付け、固定されるまで押します。
- けん引フックを車載工具キットに収納します。

両アクスルを接地させての車両のけん引

けん引を行なうときは、以下の安全注意事項を守ってください。 (▷ 290 ページ)

運転席または助手席ドアを開いたとき、またはエンジンスイッチからキーを取り外したときは、オートマチックトランスミッションは自動的に **P** の位置にシフトします。

車両をけん引するときにオートマチックトランスミッションを **N** の位置に保つためには、以下の点に従わなければなりません。

- 停車していることを確認し、イグニッション位置を **0** にします。
- イグニッション位置を **2** にします。
  キーレスゴー装備車の場合は、エンジンスイッチ(▷ 142 ページ)ではなくキーを操作します。
- ブレーキペダルを踏んだまま保持します。
- オートマチックトランスミッションのシフトポジションを **N** にします。
- ブレーキペダルを徐々に戻します。
- パーキングブレーキを解除します。
- イグニッション位置を **2** にします。
- 非常点滅灯スイッチを押します。(▷ 120 ページ)

ℹ 非常点滅灯を点滅させてけん引してもらうときは、方向指示を行なうために、通常通りコンビネーションスイッチを操作してください。このときは、希望の方向の方向指示灯のみが点滅します。コンビネーションスイッチを元に戻すと、非常点滅灯が再度点滅し始めます。

車両の運搬

! 車両を固定するときは、アクスルやステアリング構成部品などにかけずに、ホイールにのみかけてください。 車体を損傷するおそれがあります。

運搬のため車両をトレーラーまたはトランスポーターに引き上げるのにけん引フックを使用することができます。

- キーを エンジンスイッチの **2** の位置にまわします。
- オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトします。

車両を積載したら、ただちに以下のことを行なってください。

- 車両が動き出すのを防止するため、電気式パーキングブレーキを作動させます。
- オートマチックトランスミッションをポジション **P** にシフトします。
- キーをエンジンスイッチの **0** の位置にまわして、抜きます。
- 車両を固定します。

4MATIC 車に関する情報

! 4MATIC 装備車は、フロントまたはリアアクスルを持ち上げてけん引しないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。

車両のトランスミッションが損傷したり、フロントまたはリアアクスルが損傷した場合は、運搬車またはトレーラーで運搬してください。

電気装備が損傷したとき

バッテリーに不具合がある場合は、オートマチックトランスミッションは P の位置でロックされます。オートマチックトランスミッションを N の位置にシフトするには、ジャンプスタート時と同じ方法で 車両の電気装備に電力を供給しなければなりません(▷ 287 ページ)。

運搬車またはトレーラーで車両を運搬してください。

けん引始動（エンジンエマージェンシースタート）

! オートマチック車はけん引始動しないでください。オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

i "ジャンプスタート" に関する情報は、(▷ 287 ページ) にあります。

ヒューズ

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

切れたヒューズを使用したり、ブリッジしたり、またはより高いアンペア数のヒューズと交換すると、ケーブルに過負荷がかかります。 火災の原因になります。事故やけがの危険性があります。

切れたヒューズは、必ず正しいアンペア数の指定された新品のヒューズと交換してください。

! エンジンルーム内およびリアシート下のヒューズボックスには、"S"マークのあるヒューズのみを使用してください。さもなければ、部品またはシステムを損傷するおそれがあります。

車両のヒューズは異常のある回路への接続を切断します。ヒューズが切れた場合は、回路上のすべての構成部品とそれらの機能が作動しなくなります。

切れたヒューズは、色とヒューズの定格を確認した上で、同じ定格のヒューズと交換しなければなりません。ヒューズの定格は、ヒューズ配置表に記載されています。

新しく差し込んだヒューズが切れる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因究明および修理を行なってください。

ヒューズを交換する前に

重要な安全上の注意事項に従ってください。(▷ 293 ページ)

▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 155 ページ)

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチのキーを 0 の位置にまわして、抜きます (▷ 141 ページ)。キーレスゴー装備車の場合は、必ずイグニッションをオフにします (▷ 142 ページ) 。
メーターパネル内のすべての表示灯が消灯します。

ヒューズは、以下のヒューズボックス内にあります。

- ダッシュボードの助手席側のヒューズボックス
- 進行方向に見たときの車両のエンジンルーム内右側のヒューズボックス
- リアベンチシート下のヒューズボックス

ヒューズ配置表はリアベンチシート下のヒューズボックス内にあります(▷ 295 ページ)。

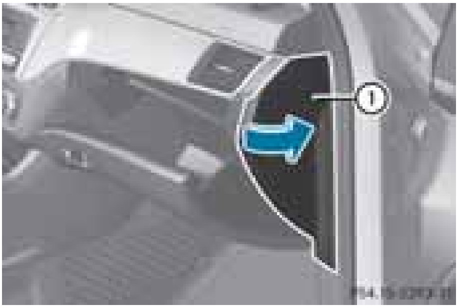
ダッシュボードのヒューズボックス

重要な安全上の注意事項に従ってください。(▷ 293 ページ)

! ドライバーなどの鋭利な物を使用して、ダッシュボードのカバーを開かないでください。 ダッシュボードやカバーを損傷するおそれがあります。

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にはまっていることを確認してください。 ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。



- 助手席ドアを開いてください。
- **開く：** カバー ① を矢印の方向に外側に引き、取り外します。
- **閉じる：** カバー ① をダッシュボードの前部に差し込みます。
- 固定されるまでカバー ① を内側に閉じます。

エンジンルーム内のヒューズボックス

重要な安全上の注意に注意してください(▷ 293 ページ)。

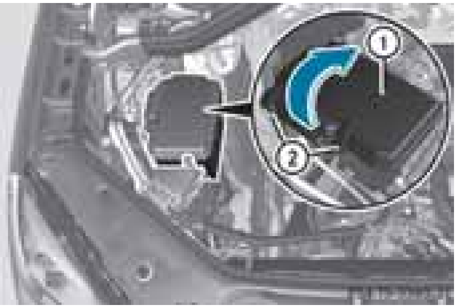
⚠ **警告**

ボンネットを開いているとき、ワイパーを作動位置のままにしていると、ワイパーリンケージでけがをするおそれがあります。 けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、必ずワイパーおよびエンジンスイッチをオフにしてください。

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にはまっていることを確認してください。 ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。



- ボンネットを開きます。
- 乾いた布を使用して、ヒューズボックスに付着している水分を取り除きます。
- **開く：** クランプ ② を開きます。
- カバー ① を矢印の方向に持ち上げて取り外します。
- **閉じる：** シール部がカバー ① の正しい位置にあることを確認します。
- カバー ① をヒューズボックス側面のリテーナーに差し込みます。

▶ カバー ① を閉じ、クランプ ② で固定します。

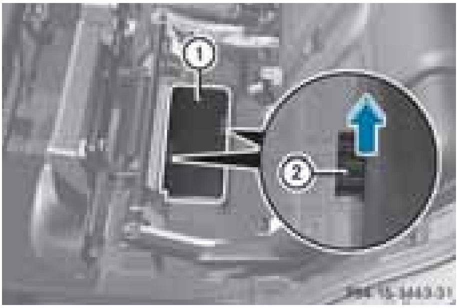
▶ ボンネットを閉じてください。

リアベンチシート下のヒューズボックス

重要な安全上の注意に注意してください(▷ 293 ページ)。

❗ カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

❗ カバーを閉じるときは、ヒューズボックスに確実にはまっていることを確認してください。 ヒューズボックス内に水分やゴミが入るとヒューズの作動に障害が生じたり、カバーがリアシートで損傷するおそれがあります。



▶ 左側のリアシートを前方へ倒します(▷ 256 ページ)。

▶ **開く：** ヒューズボックスカバー ① のそれぞれの側面にある凹部 ② をつかみます。

▶ カバー ① をヒューズボックスから矢印の方向に持ち上げます。

ℹ ヒューズ配置表はヒューズボックス側面の凹部にあります。

▶ **閉じる：** カバー ① をヒューズボックスに置きます。

▶ カバー ① をクランプがはまる音がするまで閉じます。

▶ 左側のリアシートを後方へ倒します(▷ 256 ページ)。

役に立つ情報 298
重要な安全上の注意事項 298
操作 299
寒冷時の取り扱い 301
タイヤ空気圧 301
タイヤ交換 304
ホイールとタイヤの組み合わせ .. 310
応急用スペアタイヤ 315

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 32 ページ)

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

誤ったサイズのホイールやタイヤを使用すると、車輪ブレーキまたはサスペンションの部品を損傷することがあります。事故の危険性があります。

純正部品の仕様に適合するホイールやタイヤと必ず交換してください。

ホイールを交換する場合、正しく取り付けるために以下を確認してください：

- 型式
- タイプ

タイヤを交換する場合、正しく取り付けるために以下を確認してください：

- 型式
- メーカー
- タイプ

⚠ **警告**

パンクは車両の走行、ステアリング、ブレーキ特性を著しく損なうことがあります。 事故の危険性があります。

ランフラット特性のないタイヤ：

- パンクしたタイヤで走行しないでください。
- ただちにパンクしたタイヤを応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤと交換するか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご相談ください。

ランフラット特性を持つタイヤ：

- MOExtended タイヤ(ランフラット特性を持つタイヤ)に関する情報と警告注意に注意してください。

メルセデス・ベンツにより承認されていない、または正しく使用されていないアクセサリーは、操作安全性を損なうおそれがあります。

承認されていないアクセサリーを購入し、ご使用になる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で以下についてご確認ください。

- 適合性
- 合法性
- 推奨品

車両のホイールとタイヤのサイズおよび種類に関する情報は"ホイール／タイヤの組み合わせ"(▷ 310 ページ) に記載されています。

車両のタイヤ空気圧に関する情報は、以下にあります。

- 燃料給油口フラップにあるタイヤ空気圧ラベル
- "タイヤ空気圧" の項目

ブレーキシステムおよびホイールの改造は許可されていません。ホイールスペーサーまたはブレーキダストシールドの使用は許可されていません。これらは車両の一般使用許可を無効にします。

ℹ タイヤとホイールについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

操作

走行に関する情報

車両に重い荷物を積んでいるときは、タイヤ空気圧を点検し、必要に応じて調整してください。

走行中は、振動や騒音が発生したり、ステアリングが片側に取られるなど、車両操縦性に変化が現れていないか注意してください。このような症状の原因には、タイヤやホイールの損傷が考えられます。タイヤに異常を感じたら、ただちに速度を落として慎重に運転してください。すみやかに安全な場所に停車して、タイヤとホイールに損傷がないか点検してください。タイヤが損傷すると、車両操縦性が損なわれる原因になります。損傷が何も認められない場合、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でタイヤおよびホイールの点検を受けてください。

車両を駐車するときは、タイヤが縁石や障害物により変形していないことを確認してください。また、縁石や路面の段差などを乗り越える必要がある場合は、速度を落とし、縁石や段差に対してタイヤをできるだけ直角にして乗り越えてください。そうしないと、タイヤ、特にサイドウォールが損傷するおそれがあります。

ホイールとタイヤの定期点検

⚠ 警告

タイヤが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。その結果として、車両のコントロールを失うおそれがあります。 事故発生の危険性があります。

タイヤに損傷がないか定期的に点検を行ない、損傷したタイヤはただちに新品と交換してください。

ホイールとタイヤの定期点検は、少なくとも月に 1 度、またオフロードや凹凸路の走行後にも行ない、タイヤに損傷がないか確認してください。ホイールが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。特に、以下のような損傷にご注意ください。

- タイヤの傷
- 刺し傷などの穴
- タイヤの裂け目
- タイヤの突起
- ホイールの変形や腐食

タイヤのトレッドの深さやタイヤの幅全体にわたるトレッドの状態を定期的に点検してください(▷ 300 ページ)。必要な場合は、タイヤ表面の内側を点検するために、前輪をフルロックまでまわしてください。

ほこりや水分の侵入を防ぎバルブを保護するため、すべてのホイールにバルブキャップを必ず装着してください。純正品または承認された製品以外のバルブキャップをバルブに装着しないでください。純正品以外のバルブキャップまたはタイヤ空気圧モニタリングシステムなどのシステムを装着しないでください。

長距離走行の前は特に、定期的にすべてのタイヤの空気圧を点検してください。必要であれば、タイヤ空気圧を調整してください (▷ 301 ページ)。

応急用スペアタイヤに関する注意事項を遵守してください (▷ 315 ページ)。

タイヤの耐用年数は、以下を含むさまざまな要因に左右されます。

- 走行スタイル
- タイヤ空気圧
- 総走行距離

タイヤトレッドに関する重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

タイヤのトレッドが不十分であると、タイヤのグリップが低下します。 このようなタイヤは水を排出することができなくなり、 濡れた路面で、特に走行状況に適していない速度で走行すると、ハイドロプレーニング現象が生じる危険性が高くなります。事故発生の危険性があります。

タイヤ空気圧が高すぎたり低すぎたりすると、トレッド面の位置によって偏摩耗が生じることがあります。タイヤの定期点検を行なう時は、タイヤの溝の深さだけでなく、タイヤの内側の摩耗状態も点検してください。

タイヤの溝の深さの最小値：

- サマータイヤ：3mm
- ウィンタータイヤ：4mm

安全保持のために、タイヤの溝の深さが法律で定められた最小値に達する前に、該当するタイヤを新品と交換してください。

タイヤの選択、装着および交換

⚠ 警告

記載されているタイヤ耐荷重性能および承認されている最高速度を超過すると、タイヤが損傷したり、タイヤが破裂したりするおそれがあります。 事故の危険性があります。

このため、車両モデルに使用が承認されているタイヤのタイプとサイズのみを使用してください。 車両に必要なタイヤ荷重指数と速度記号を確認してください。

タイヤ認証の際は、国ごとの仕様要件に注意してください。これらの要件には特定のタイヤのタイプを車両に使用するよう定められていることがあります。 さらに、特定の地域および運転領域で特定のタイヤのタイプを使用することは大変有益です。タイヤに関するさらなる情報はタイヤ小売店や工場、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

- タイヤとホイールは、4 輪とも同一種類、同一銘柄のものを装着してください。

  例外：パンクした場合は、違う種類、違う銘柄の使用が認められています。"MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）" の項目に従ってください (▷ 279 ページ)。
- 適正なサイズのタイヤをホイールに装着してください。
- 新しいタイヤでは最初の 100 km は控えめな速度で走行してください。この距離を走行後にのみ、最高の性能に達します。
- タイヤトレッド部の残り溝が不足したタイヤで走行しないでください。濡れた路面では タイヤのグリップが著しく低下します（ハイドロプレーニング現象）。
- 摩耗に関わらず、6 年以上経過したタイヤは交換してください。

応急用スペアタイヤに関する注意事項を遵守してください (▷ 315 ページ)。

MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）

MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）により、1 本または複数のタイヤの空気圧がすべて損失しても、車両の走行を続けることができます。

MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）は、作動しているタイヤ空気圧警告システムおよびメルセデス・ベンツにより特別にテストされたホイールとの組み合わせでのみ使用することができます。

パンクした MOExtended タイヤで走行する時の注意事項 (▷ 279 ページ)

ℹ MOExtended タイヤ装備車両には、タイヤフィットを標準装備していません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

寒冷時の取り扱い

全体的な注意事項

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

サマータイヤでの走行

+7 ℃以下の温度では、サマータイヤは弾力性を失い、トラクションと制動力が低下します。車両のタイヤを M+S タイヤに交換してください。非常に低い温度でのサマータイヤの使用は、亀裂が発生し、復元不可能なタイヤの損傷の原因になるおそれがあります。このようなタイヤの損傷は、保証の対象外になります。

⚠ **警告**

タイヤが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。その結果として、車両のコントロールを失うおそれがあります。 事故発生の危険性があります。

タイヤに損傷がないか定期的に点検を行ない、損傷したタイヤはただちに新品と交換してください。

M+S タイヤ

⚠ **警告**

ウィンタータイヤの溝の深さが約 4 mm 以下になったときは、冬季用のタイヤとして不適切になり、十分な接地性を確保できなくなります。 事故につながるおそれがあります。

ウィンタータイヤの溝の深さが約 4 mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。

さらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

スノーチェーン

⚠ **警告**

スノーチェーンが前輪に装着されている場合は、車体またはシャーシの部品に引き込まれることがあります。これにより、車両またはタイヤが損傷するおそれがあります。事故の危険性があります。

危険な状態を避けるために

- スノーチェーンを前輪に装着しないでください
- スノーチェーンは必ずペアで後輪に装着してください。

さらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧基準値

⚠ **警告**

タイヤ空気圧が不足または過剰な場合、以下の危険があります。

- 荷重が大きく車両速度が高い場合は特に、タイヤが破裂するおそれがある。
- タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が損なわれるおそれがある。
- ステアリング操作やブレーキ操作などの車両操縦性が大幅に損なわれるおそれがある。

事故を起こすおそれがあります。

▷▷

指定のタイヤ空気圧を遵守し、以下のときにはスペアタイヤを含むすべてのタイヤの空気圧を点検してください。

- 少なくとも 2 週間に 1 回
- 荷重が変化したとき
- 長距離走行を開始する前
- オフロード走行など、使用条件が変わったとき

必要であれば、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

⚠ 警告

適切でないアクセサリーをバルブに取り付けると、バルブに過負荷がかかって誤作動し、タイヤ空気圧が不足する原因となります。設計上、タイヤ空気圧モニターシステムを後装着すると、バルブが開いたままになり、タイヤ空気圧が不足するおそれもあります。事故発生の危険性があります。

標準仕様のバルブキャップまたはメルセデス・ベンツ純正の車両専用バルブキャップのみをバルブに取り付けてください。

⚠ 警告

タイヤ空気圧が何度も低下する場合は、ホイール、バルブまたはタイヤが損傷している可能性があります。タイヤ空気圧が不十分であると、タイヤが破裂するおそれがあります。事故発生の危険性があります。

- タイヤに異物がないか点検します。
- ホイールやバルブからの空気漏れがないか点検します。

損傷を修理できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

環境保護に関する注意

少なくとも 2 週間に 1 度、タイヤ空気圧の点検を行なってください。

車両の燃料給油口フラップ内側には、様々な使用状況でのタイヤ空気圧の表があります。

応急用スペアタイヤでの操作(▷ 315 ページ)

燃料給油口フラップ内側の表には、さまざまな積載状態でのタイヤ空気圧が記載されていることがあります。この表には、様々な乗員数および積載量のものが指定されています。実際の座席数と異なることがあります。さらなる情報は、車両の登録書類を確認してください。

タイヤサイズの指定がない場合、タイヤ空気圧情報ラベルに記載されているタイヤ空気圧は、車両用に承認されているすべてのタイヤに適用されます。

タイヤのサイズに応じて空気圧を調整する場合は、以下の空気圧に関する情報は、そのタイヤサイズのみに有効となります。

タイヤ空気圧を点検するためには、適切な空気圧ゲージを使用してください。タイヤの外観は、タイヤ空気圧に関する信頼性のある結論を出すことにはなりません。

可能であれば、タイヤが冷えているときにのみ、タイヤ空気圧を修正してください。

以下では、タイヤが冷えています：

- タイヤに直射日光が当たらない状態で、最低 3 時間車両を駐車した場合、および
- 車両が 1.6 km 以上走行しなかった場合

外気温度、走行速度およびタイヤの荷重によって、タイヤの温度およびタイヤ空気圧は 10 ℃ ごとに約 10 kPa (0.1 bar/1.5 psi) ずつ変化します。温まっているタイヤの空気圧を点検するときは、このことを考慮に入れてください。そのときの使用条件に対して非常に低い場合にのみ、タイヤ空気圧を修正してください。

著しく高い、または著しく低いタイヤ空気圧で走行すると、以下になります：

- タイヤ寿命が短くなります
- タイヤの損傷が増える原因になります
- ハンドリング特性および走行安全性へ悪影響を与えます（ハイドロプレーニング現象など）。

ℹ 低負荷用のタイヤ空気圧値は、快適な乗り心地を得ることができる最低値です。

ただし、高負荷用の数値を使用することもできます。これらは許容値であり、車両の走行に悪影響を与えることはありません。

タイヤ空気圧警告システム

一般的な注意事項

タイヤ空気圧警告システムは、車両が動いている間に、車輪の回転速度を使用して設定されているタイヤ空気圧をモニターします。これにより、システムはタイヤ空気圧の著しい低下を検知することができます。タイヤ空気圧の低下にともない車輪の回転速度が変化した場合は、マルチファンクションディスプレイに対応する警告メッセージが表示されます。

マルチファンクションディスプレイのメンテナンス メニューに表示されるメッセージ タイヤ空気圧 警告システム オン OKボタンで再始動 によってタイヤ空気圧警告を認識することができます。メッセージの表示に関する情報は、"タイヤ空気圧警告システムの再起動"の項目にあります (▷ 304 ページ)。

重要な安全上の注意事項

タイヤ空気圧警告システムは、適切でないタイヤ空気圧の設定には警告は行ないません。推奨タイヤ空気圧に関する注意事項に従ってください (▷ 301 ページ)。

タイヤ空気圧警告は、定期的なタイヤ空気圧点検の必要性に代わるものではありません。同時に複数のタイヤで均等に空気圧が低下した場合、タイヤ空気圧警告システムでは検知されません。

タイヤ空気圧モニタリングシステムは、タイヤに異物が刺さった場合などの急激な空気圧の低下には、警告を行なうことができません。空気圧が突然低下した場合は、ブレーキを慎重に効かせて車両を停止させます。急激なステアリング操作は避けてください。

以下では、タイヤ空気圧警告システムの機能が制限されたり、遅れることがあります：

- 車両のタイヤにスノーチェーンを装着している
- 冬季の道路状況
- 砂地や砂利道を走行している
- 非常にスポーティな運転スタイル（高速コーナリング、急加速など）で走行している
- 非常に重い、または大型のトレーラーをけん引している
- 重い荷物を積載して走行している（車内、またはルーフ上に）

タイヤ空気圧警告システムの再起動

以下の場合は、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

- タイヤ空気圧を変更した
- ホイールまたはタイヤを変更した
- 新しいホイールまたはタイヤを装着した

▶ 再起動の前に、4 本すべてのタイヤで、タイヤ空気圧が使用状況に応じて適正に設定されていることを確認してください。推奨タイヤ空気圧は燃料給油口フラップのラベルに記載されています。
タイヤ空気圧警告システムは、適切なタイヤ空気圧に設定されている場合にのみ、信頼性のある警告を行なうことができます。適切でないタイヤ空気圧に設定されている場合は、これらの適切でない数値がモニターされます。

▶ タイヤ空気圧に記載されている注意事項を守ってください (▷ 301 ページ)。

▶ キーがエンジンスイッチの **2** の位置にあることを確認します (▷ 141 ページ)。

▶ ステアリングの [◀] または [▶] スイッチを押して、メンテナンス メニューを選択します。

▶ [▲] または [▼] スイッチを押して、タイヤ空気圧を選択します。

▶ [OK] スイッチを押します。
マルチファンクションディスプレイにタイヤ空気圧 警告システム オン OK ボタンで再始動 というメッセージが表示されます。

再起動を確定したい場合：

▶ [OK] スイッチを押します。
タイヤ空気圧 正常ですか? というメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

▶ [▲] または [▼] スイッチを押して、はいを選択します。

▶ [OK] スイッチを押します。
マルチファンクションディスプレイにタイヤ空気圧 警告システム 再始動しました というメッセージが表示されます。
読み込み期間後に、4 輪すべてのタイヤに設定されたタイヤ空気圧のモニターを行ないます。

再起動をキャンセルしたい場合：

▶ [↩] スイッチを押します。

または

▶ タイヤ空気圧 正常ですか? というメッセージが表示される場合は、[▲] または [▼] スイッチを使用して、キャンセル を選択します。

▶ [OK] スイッチを押します。
前回の再起動時に保存されたタイヤ空気圧値が引き続きモニターされます。

タイヤ交換

パンク

タイヤがパンクしたときの対処方法に関する情報は、"万一のとき"(▷ 278 ページ)に記載されています。タイヤがパンクしたときに MOExtended タイヤで走行する際の情報は、"万一のとき"のセクションをご覧ください (▷ 279 ページ)。

応急用スペアタイヤ装備車：タイヤがパンクした場合は、"タイヤの取り付け" (▷ 305 ページ) の記載にしたがって応急用スペアタイヤを装着してください。

車輪の入れ替え

⚠ **警告**

ホイールまたはタイヤのサイズが異なる場合に、フロントとリアの車輪を入れ替えると、走行特性が著しく損なわれることがあります。車輪のブレーキまたはサスペンションの部品も損傷することがあります。 事故の危険性があります。

ホイールとタイヤが同じサイズの場合にのみ、フロントとリアの車輪を入れ替えてください。

異なるサイズのフロントとリアのホイールを入れ替えると、一般の使用許可が無効になることがあります。

"タイヤの取り付け"(▷ 305 ページ)の説明および安全上の注意を遵守してください。

使用状況により、フロントおよびリアタイヤの摩耗具合は異なります。タイヤに明らかな摩耗具合が形成される前に、車輪を入れ替えてください。一般的に、フロントタイヤではショルダー部が、リアタイヤではセンター部がより摩耗します。

前後同じサイズの車輪を持つ車両では、タイヤの摩耗具合に応じて約 5,000 ～ 10,000 km ごとに車輪を入れ替えることができます。回転方向が維持されていることを確認します。

車輪を入れ替えるときは常に、ホイールの接触面とブレーキディスクを十分に清掃してください。タイヤ空気圧を点検し、必要な場合はタイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

回転方向

タイヤの回転方向が指定されているタイヤは、例えばハイドロプレーニング現象のおそれがある状況などで補助的な効果を発揮します。 回転方向が指定されているタイヤは、指定された回転方向になるように装着することで性能を十分発揮できます。

タイヤのサイドウォールにある矢印は、正しい回転方向を示しています。

車輪の保管

タイヤは、乾燥した冷暗所に保管してください。また、 タイヤにオイルやグリース、ガソリン、軽油などが付着しないように保護してください。

車輪の清掃

⚠ **警告**

円形ジェットノズル（粉塵グラインダー）の水流は、タイヤまたはシャーシの部品に外見からは目に見えない損傷を引き起こすおそれがあります。このようにして損傷した部品は予期せず故障するおそれがあります。事故の危険性があります。

車両の清掃をするときに円形ジェットノズル付きの高圧式スプレーガンを使用しないでください。損傷したタイヤまたはシャーシの部品はすぐに交換してください。

車輪の取り付け

車両の準備

- **応急用スペアタイヤ装備車：** パンクした際に応急用スペアタイヤを装着するときは、"タイヤのパンク" (▷ 278 ページ) の車両の準備にある追加の注意事項を遵守してください。
- かたく、滑らない水平な地面に車両を停車します。
- 重い荷物を降ろします。
- 電気式パーキングブレーキを手動で効かせてください。
- 前輪を直進位置にします。

- ▶ トランスミッションをポジション P にシフトします。
- ▶ **オン&オフロード パッケージ装備車：** ハイウェイレベルが選択されていることを確認してください(▷ 172 ページ)。
- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ **キーレスゴー非装備車：** エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ **キーレスゴー装備車：** 運転席ドアを開きます。
  車両の電気システムが、0 の状態になります。これにより、キーを抜いたときと同様になります。
- ▶ **キーレスゴー装備車：** エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します (▷ 142 ページ)。
- ▶ 車両装備に含まれている場合は、車両からタイヤ交換工具キットを取り出します。
- ▶ 動き出さないように車両を固定します。

ℹ 国による仕様の違いとは別に、車両にはタイヤ交換工具キットは装備されていません。車両の車輪交換を行なうために必要な工具についての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

必要な車輪交換工具としては、例えば以下が含まれることがあります。

- ジャッキ
- 輪止め
- ホイールレンチ

車両が動き出さないように固定する

車両に輪止めが装備されている場合、輪止めはタイヤ交換工具キットの中に収納されています。 (▷ 277 ページ)

折りたたみ式の輪止めは、タイヤ交換時などに車が動き出すのを防止するための補助的な固定手段です。

- ▶ 両側のプレートを上方に起こします ①。
- ▶ 下側のプレートを引き出します ②。
- ▶ 下側のプレートの凸部をベースプレートの開口部に差し込みます③。

水平な場所で車両に輪止めをする

- ▶ **水平な場所：** 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、輪止めまたは適切な物を挟みます。

緩い下り坂で車両に輪止めをする

▶ **緩い下り坂：** 前輪と後輪の前方に輪止めまたは適切な物を挟みます。

車両を持ち上げる

⚠ **警告**

車両の適切なジャッキポイントに正しくジャッキを設置しないと、車両をジャッキアップした時にジャッキが倒れるおそれがあります。 負傷するおそれがあります。

必ず車両の適切なジャッキポイントにジャッキを設置してください。ジャッキの底面は車両のジャッキポイントの真下に来るように設置してください。

! "ミニスペア"応急用スペアタイヤ装備の AMG 車： "ミニスペア"応急用スペアタイヤは**リアアクスル** にのみ使用してください。"ミニスペア"応急用スペアタイヤをフロントアクスルに装着すると、ブレーキシステムが損傷するおそれがあります。

フロントアクスルのタイヤに不具合がある場合は、まずリアアクスルの損傷していない車輪を"ミニスペア"応急用スペアタイヤと交換しなければなりません。その場合のみ、フロントアクスルの不具合のある車輪はリアアクスルの損傷していない車輪と交換することができます。

"ミニスペア"応急用スペアタイヤの使用説明ラベルに従ってください。

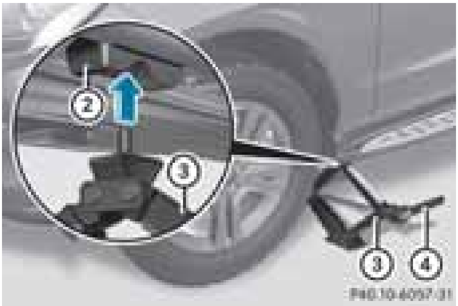
車両を持ち上げるときは以下に従ってください。

- 車両を持ち上げるときは、メルセデス・ベンツによりテストされ、承認された車両専用のジャッキのみを使用してください。ジャッキが正しく使用されていない場合は、車両を持ち上げている間に倒れるおそれがあります。
- ジャッキは、車輪を交換する短い時間に車両を持ち上げるためだけに設計されています。車両下部のメンテナンス作業を行なう目的には適していません。
- 上り坂や下り坂の斜面で車輪を交換しないでください。
- 車両を持ち上げる前に、パーキングブレーキを効かせて輪止めをして動き出さないようにしてください。車両を持ち上げている間は、パーキングブレーキを解除しないでください。
- ジャッキは、かたく平坦で滑らない地面の上に置いてください。やわらかい地面の上では、大型で平坦な耐荷重マットを使用してください。滑りやすい地面の上では、ラバーマットなどの滑り止めマットを敷いてください。
- ジャッキの下敷きとして、木製のブロックや類似のものを使用しないでください。さもないと、高さが制限されることにより、ジャッキが耐荷重性能を得られない可能性があります。
- タイヤの下面と地面との間の距離が 3cm を超えていないことを確認してください。
- 持ち上げた車両の下には絶対に手または足を入れないでください。
- 車両の下で横にならないでください。
- 車両を持ち上げているときは、エンジンを始動しないでください。
- 車両を持ち上げているときは、ドアやテールゲートを開閉しないでください。
- 車両を持ち上げているときは、車内に人がいないことを確認してください。

▶ ホイールレンチ ① を使用して、交換する車輪のボルトを約 1 回転緩めます。ボルトは完全に緩めないでください。

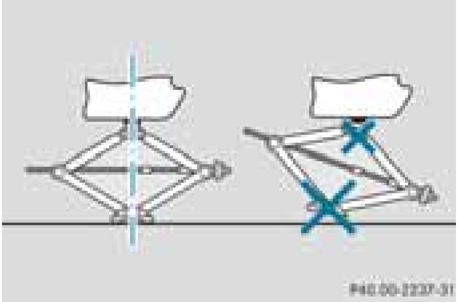
ジャッキポイントは、フロントのホイールアーチのすぐ後ろと、リアのホイールアーチのすぐ前にあります（矢印）。

▶ 車載工具からラチェットレンチを取り出して、**AUF** の文字が見えるようにジャッキの六角ナットに取り付けます。



▶ ジャッキ ③ をジャッキポイント ② の位置に合わせます。

ジャッキの中央部分が対象となるジャッキポイントの開口部に挿入されていなければなりません。



例

▶ ジャッキの底面がジャッキポイントの真下に位置していることを確認してください。

▶ ジャッキ ③ がジャッキポイント ② に完全にはまり、ジャッキの底面が地面に均一に接地するまでラチェットレンチ ④ をまわします。

▶ タイヤが地面から最大 3 cm 持ち上がるまで、ラチェットレンチ ④ をまわします。

車輪の取り外し

❗ 砂などの異物が付着しないように注意してください。ホイールボルトをねじ込む時に、ボルトやハブのネジ山が損傷するおそれがあります。

▶ 上側のホイールボルトを 1 本外します。
▶ ホイールボルトのかわりにネジ山にガイドボルト ① をねじ込みます。
▶ 残りのホイールボルトを完全に外します。
▶ タイヤを取り外します。

新しい車輪の取り付け

⚠ **警告**

オイルやグリースが付着したホイールボルトまたは損傷したホイールボルト/ハブのネジ山は、ホイールボルトが緩む原因になります。その結果として、走行中にホイールが緩むおそれがあります。事故発生の危険性があります。

ホイールボルトには、絶対にオイルやグリースを塗布しないでください。ネジ山が損傷している場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷したホイールボルトまたはハブのネジ山を切り直してください。それ以上は走行を続けないでください。

⚠ **警告**

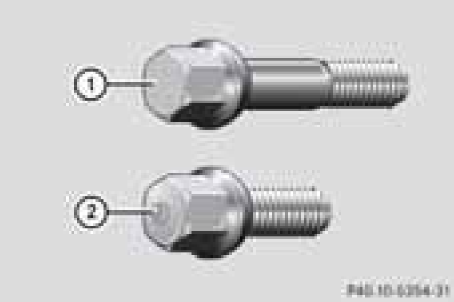
車両をジャッキアップしている時にホイールボルトまたはホイールナットを締め付けると、ジャッキが倒れることがあります。負傷の危険性があります。

車両が接地している場合にのみ、ホイールボルトまたはホイールナットを締め付けてください。

"車輪交換" (▷ 305 ページ) にある指示や安全上の注意に常に注意を払ってください。

ホイールボルトは、必ずホイールと車両に適合した製品を使用してください。安全上の理由のため、メルセデス・ベンツ車およびそれぞれのホイールのために承認されホイールボルトのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します。

! "ミニスペア"応急用スペアタイヤ を装着するときは、必ずホイールボルト ② を使用してください。"ミニスペア"応急用スペアタイヤを装着するときに他のホイールボルトを使用すると、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。



① 出荷時に供給されているすべてのホイール用のホイールボルト
② "ミニスペア"応急用スペアタイヤ用のホイールボルト

▶ ホイールおよびホイールハブの接合面を清掃します。
▶ 装着するホイールをガイドボルトにスライドさせて押し込みます。
▶ 手の力で締まるまで、ホイールボルトを締め付けます。
▶ ガイドボルトを取り外します。
▶ 手の力で締まるまで、最後のホイールボルトを締め付けます。

車両を下げる

⚠ **警告**

ホイールナットやボルトが規定の締め付けトルクで締め付けられていないと、ホイールが緩むおそれがあります。 事故発生の危険性があります。

タイヤを交換した後で、直ちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で、締め付けトルクの点検を受けてください。

- ▶ **AB** の文字が見えるように、ジャッキの六角ナットにラチェットレンチを取り付けます。
- ▶ 車両が再度しっかりと接地するまでラチェットレンチをまわします。
- ▶ ジャッキを横に置きます。
- ▶ 示されている対角パターンの順番（①～⑤）で、ホイールボルトを均一に締めます。締め付けトルクは、**150 Nm** でなければなりません。
- ▶ ジャッキをまわして元の状態に戻します。
- ▶ ジャッキと残りのタイヤ交換工具キットをラゲッジルームフロアの下の収納スペースに収納します。
- ▶ 新しく取り付けたタイヤの空気圧を点検し、それに応じて調整します。

  推奨タイヤ空気圧を遵守してください (▷ 301 ページ)。

ホイールとタイヤの組み合わせ

全体的な注意事項

! 安全に走行するため、タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。

それらのタイヤは、ABS や ESP® などのコントロールシステムに適応しており、以下のマークが付いています。

- MO = Mercedes-Benz Original
- MOE = Mercedes-Benz Original Extended(ランフラット特性を持つタイヤ)
- MO1 = Mercedes-Benz Original(特定の AMG タイヤ)

ランフラット特性を持つタイヤ (MOExtended)は、純正品および承認されたホイールだけに装着できます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリーを使用しないでください。車両操縦性や騒音、排出ガス、燃料消費などに悪影響を与えるおそれがあります。また、乗車人数や荷物が増えた場合などには、タイヤやホイールが車体やサスペンションに接触するおそれがあり、タイヤや車両の損傷につながるおそれがあります。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリーを装着した場合は、損傷が生じても保証の対象外になります。

タイヤやホイール、指定された組み合わせなどに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

! 再生タイヤは、元の損傷状態を確認することが難しいため、使用をお勧めできません。 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできなくなります。 中古タイヤは、過去の使用状況が確認できない場合は装着しないでください。

! 大径ホイール：特定のホイールサイズの断面幅が減少すると、悪路での乗り心地が低下します。 走行快適性および安定性が低下し、さらに路面の障害物を乗り越える際にホイールやタイヤへの損傷リスクが高くなります。

下記のタイヤ一覧表にある略号

- BA：前後の車輪
- FA：前輪
- RA：後輪

さまざまな使用条件での推奨タイヤ空気圧の表は、車両の燃料給油口フラップの内側にあります。タイヤ空気圧に関してのさらなる情報は (▷ 301 ページ)をご覧ください。タイヤ空気圧は定期的に、タイヤが冷えているときにのみ点検してください。

車両装備に関する注意事項 – 車両には常に以下のように装着してください。

- アクスル（左/右）に応じて決められた同じサイズのタイヤ
- サマータイヤ、ウィンタータイヤ、MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）など、異なる種類のタイヤを同時に装着しないでください。

MOExtended タイヤ装備車には、出荷時はタイヤフィットキットは装備されていません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

ℹ すべてのホイール/タイヤの組み合わせが、すべての国で工場出荷時に装着されているわけではありません。

タイヤ

GL 350 BlueTEC 4MATIC

サマータイヤ

R 19

タイヤ	軽合金ホイール
BA： 275/55 R 19 111 V[1]	BA： 8.5 J x 19 H2 ET 62

R 20

タイヤ	軽合金ホイール
BA： 275/50 R 20 109 W[1]	BA： 8.5 J x 20 H2 ET 62

R 21

タイヤ	軽合金ホイール
BA： 295/40 ZR 21 111 Y XL[1, 2]	BA： 10.0 J x 21 H2 ET 46

オールシーズンタイヤ

R 18

タイヤ	軽合金ホイール
BA：265/60 R 18 110 V M+S	BA： 8.0 J x 18 H2 ET 56.5

全地形タイヤ

R 18

タイヤ	軽合金ホイール
BA： 265/60 R 18 110 H M+S	BA： 8.0 J x 18 H2 ET 56.5

R 19

タイヤ	軽合金ホイール
BA： 275/55 R 19 111 H M+S[1]	BA： 8.5 J x 19 H2 ET 62

1 スノーチェーンの使用は許可されていません。"スノーチェーン"の項目にある注意事項に従ってください。
2 AMG スポーツパッケージ（コード P 31）装備車のみ使用可能。

ウィンタータイヤ
R 18

タイヤ	軽合金ホイール
BA： 265/60 R 18 110 H M+S	BA： 8.0 J x 18 H2 ET 56.5

R 19

タイヤ	軽合金ホイール
BA： 265/55 R 19 109 H M+S	BA： 8.5 J x 19 H2 ET 62

R 20

タイヤ	軽合金ホイール
BA： 275/50 R 20 109 H M+S	BA： 8.5 J x 20 H2 ET 62
BA： 275/45 R 20 110 V XL M+S [2]	BA： 9.0 J x 20 H2 ET 41

GL 550 4MATIC

サマータイヤ
R 19

タイヤ	軽合金ホイール
BA： 275/55 R 19 111 V[1]	BA： 8.5 J x 19 H2 ET 62

R 20

タイヤ	軽合金ホイール
BA： 275/50 R 20 109 W[1]	BA： 8.5 J x 20 H2 ET 62

R 21

タイヤ	軽合金ホイール
BA： 295/40 ZR 21 111 Y XL[1,2]	BA： 10.0 J x 21 H2 ET 46

2 AMG スポーツパッケージ（コード P 31）装備車のみ使用可能。
1 スノーチェーンの使用は許可されていません。"スノーチェーン"の項目にある注意事項に従ってください。

オールシーズンタイヤ
R 20

タイヤ	軽合金ホイール
BA： 275/50 R 20 109 H M+S[1, 3]	BA： 8.5 J x 20 H2 ET 62

全地形タイヤ
R 19

タイヤ	軽合金ホイール
BA： 275/55 R 19 111 H M+S[1]	BA： 8.5 J x 19 H2 ET 62

ウィンタータイヤ
R 19

タイヤ	軽合金ホイール
BA： 265/55 R 19 109 H M+S	BA： 8.5 J x 19 H2 ET 62

R 20

タイヤ	軽合金ホイール
BA： 275/50 R 20 109 H M+S	BA： 8.5 J x 20 H2 ET 62
BA： 275/45 R 20 110 V XL M+S [2]	BA： 9.0 J x 20 H2 ET 41

GL 63 AMG 4MATIC

サマータイヤ
R 21

タイヤ	軽合金ホイール
BA： 295/40 ZR 21 111 Y XL[1]	BA： 10.0 J x 21 H2 ET 46

1 スノーチェーンの使用は許可されていません。"スノーチェーン"の項目にある注意事項に従ってください。
3 MOExtended タイヤとして使用可能。
2 AMG スポーツパッケージ（コード P 31）装備車のみ使用可能。

ウィンタータイヤ
R 20

タイヤ	軽合金ホイール
BA： 275/45 R 20 110 V XL M+S	BA： 9.0 J x 20 H2 ET 41

応急用スペアタイヤ

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

スペアタイヤまたは応急用スペアタイヤと、交換した車輪のホイールまたはタイヤのサイズやタイヤの種類は異なることがあります。スペアタイヤ/応急用スペアタイヤを装着すると、走行特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。

危険な状態を避けるために

- 適宜運転スタイルを合わせ、慎重に運転してください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤを 1 つ以上装着しないでください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤは一時的にのみ使用してください
- ESP® をオフにしないでください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤは最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。ホイールとタイヤのサイズがタイヤの種類とともに正しいことに注意してください。

! "ミニスペア"応急用スペアタイヤ 装備の AMG 車： "ミニスペア"応急用スペアタイヤは**リアアクスル** にのみ使用してください。"ミニスペア"応急用スペアタイヤをフロントアクスルに装着すると、ブレーキシステムが損傷するおそれがあります。

フロントアクスルのタイヤに不具合がある場合は、まずリアアクスルの損傷していない車輪を"ミニスペア"応急用スペアタイヤ と交換しなければなりません。フロントアクスルの不具合のある車輪はリアアクスルの損傷していない車輪と交換することができます。

"ミニスペア"応急用スペアタイヤ の使用説明ラベルを遵守してください。

応急用スペアタイヤ、またはサイズの異なるスペアタイヤを使用するときは、80 km/h の最高速度を超えないようにしてください。

応急用スペアタイヤには、スノーチェーンを装着しないでください。

全体的な注意事項

応急用スペアタイヤの装着については"タイヤの取り付け" (▷ 305 ページ)に記載されています。

特に長距離走行の前には、応急用スペアタイヤを含めて、すべてのタイヤの空気圧を定期的に点検し、必要に応じて空気圧を調整してください(▷ 301 ページ)。

ホイールまたは"ホイールとタイヤ"に記載されている値は有効です (▷ 318 ページ)。

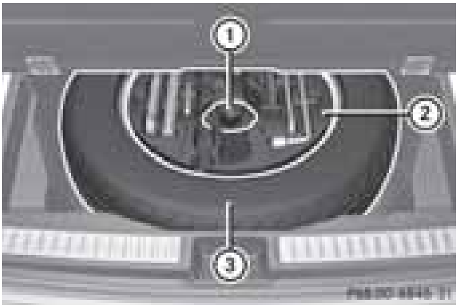
応急用スペアタイヤは回転方向とは逆に装着することができます。応急用スペアタイヤに記載されている使用制限時間ならびに制限速度に従ってください。

摩耗に関わらず、6 年以上経過したタイヤは交換してください。これは応急用スペアタイヤにも該当します。

ℹ 応急用スペアタイヤを装着して走行する場合は、タイヤ空気圧警告システム

が正常に機能しないことがあります。不具合のある車輪を新しい車輪に交換したときにのみ、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

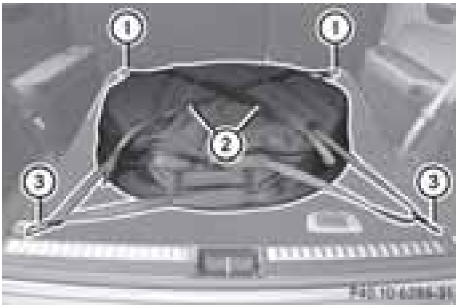
応急用スペアタイヤの取り外し



応急用スペアタイヤ (例: ロック可能なラゲッジルームフロア非装備車)

応急用スペアタイヤはラゲッジルームフロア下の収納スペースにあります。

- ▶ ラゲッジルームフロアを上方に開きます (▷ 259 ページ)。
- ▶ **ロック可能なラゲッジルームフロア装備車：** 収納トレイを取り外します。
- ▶ ベルクロファスナーを外します (▷ 277 ページ)。
- ▶ 停止表示板とジャッキを取り外します。
- ▶ 応急用スペアタイヤ固定具 ① を反時計回りにまわし、取り外します。
- ▶ 収納スペース ② を取り外します。
- ▶ 応急用スペアタイヤ ③ を取り外します。



Bang & Olufsen サウンドシステム装備車では、応急用スペアタイヤは応急用スペアタイヤのバッグ内に保管されています。応急用スペアタイヤのバッグはラゲッジルームの荷物固定用リングに固定されています。

応急用スペアタイヤを格納するには、3 列目リアシートを格納しなければなりません。デジタル版取扱説明書をご覧ください。

- ▶ **応急用スペアタイヤを取り外す：** テールゲートを開きます。
- ▶ 締め付けストラップ ② を外します。
- ▶ 締め付けストラップ ② のホールディングストラップフック ① および ③ を荷物固定用リングから外します。
- ▶ 応急用スペアタイヤのバッグと応急用スペアタイヤを取り外します。
- ▶ 応急用スペアタイヤのバッグを開け、応急用スペアタイヤを取り出します。

- ▶ **応急用スペアタイヤを収納する：** 応急用スペアタイヤをバッグに入れ、応急用スペアタイヤのバッグを閉じます。
- ▶ 応急用スペアタイヤの入ったバッグをキャリーストラップと一緒にラゲッジルームの後部に置きます。
- ▶ 締め付けストラップ ② のホールディングストラップフック ① および ③ を荷物固定用リングに取り付けます。
- ▶ 締め付けストラップ ② を締め付けます。

"タイヤの取り付け"(▷ 305 ページ)の説明および安全上の注意を遵守してください。

サービスデータ

"ミニスペア"応急用スペアタイヤ

タイヤ	軽合金ホイール
T 165/90 R19 119 M タイヤ空気圧：420 kPa（4.2 bar/61 psi）	4.5 B x 19 H2 ET 40

役に立つ情報 320
車両の電子制御部品 320
ビークルプレート 320
サービスプロダクトと容量 321
車両データ 328
オフロード走行用車両データ 329

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 32 ページ)

車両の電子制御部品

エンジン電子制御部品の不正改造

! コントロールユニット、センサー、作動構成部品、コネクターケーブルなど、電子制御部品およびその関連部品に関わる点検整備や修理などの作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。 車両の構成部品が通常より早く摩耗したり、保証を適用できないことがあります。

無線機（RF 送信機）の後付け

RF 送信機の装着については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場へお問い合わせください。

ビークルプレート

車台番号（VIN）のあるビークルプレート

例：ビークルプレート （右ハンドル車両）

▶ 運転席ドアを開きます。
ビークルプレート ① が確認できます。

例：ビークルプレート
② 車台番号

ℹ 車両のビークルプレートに示されたデータは、データの一例です。このデータは車両ごとに異なりますので、ここに示されたデータとは異なることがあります。お客様の車両に該当するデータは、車両のビークルプレートにあります。

車台番号

▶ フロント右側のドアを開きます。

▶ カバー ① を矢印の方向に開いて取り外します。
車台番号が確認できます。

車台番号はビークルプレートでも確認できます (▷ 320 ページ)。

エンジン番号

エンジン番号はクランクケースに刻印されています。さらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

サービスプロダクトと容量

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

サービスプロダクトは健康に有害で危険です。 けがの危険性があります。

サービスプロダクトの使用、保管および廃棄については、それぞれ元の容器のラベルの指示を遵守してください。 サービスプロダクトは必ず元の容器に密閉して保管してください。 サービスプロダクトは必ず子供の手の届かないところに保管してください。

環境

燃料および油脂は、環境汚染を配慮して、廃棄処分してください。

サービスプロダクトには以下のものが含まれます。

- 燃料
- 潤滑剤 （エンジンオイル、トランスミッションオイルなど）
- 冷却水
- ブレーキ液
- ウインドウウォッシャー液
- エアコンディショナーの冷媒

サービスプロダクトを取り扱ったり、保管および廃棄するときは、関連する法令に従ってください。

構成部品とサービスプロダクトは適合していなければなりません。メルセデス・ベンツでは、メルセデス・ベンツによりテストされ、承認された製品のみを使用することを推奨します。これらは、メルセデス・ベンツ取扱説明書の該当する項目に記載されています。

メルセデス・ベンツにより承認されたサービスプロダクトは、容器の以下のマークにより識別できます。

- MB-Freigabe （ MB-Freigabe 229.51 など）
- MB Approval （ MB Approval 229.51 など）

他のマークや推奨は、MB シート番号（MB229.5 など） に準拠した品質レベルまたは仕様を示しています。これらは、メルセデス・ベンツによる承認は必要としません。

さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

燃料

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

燃料は可燃性の高いものです。 燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジン、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

⚠ **警告**

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料は決して飲まないこと、また目や衣服に付着させないでください。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹸および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医師の診察を受けてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。無理に吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

燃料タンク容量

モデル	全容量
全モデル	100.0 L

モデル	予備燃料
AMG 車両	約 14.0 L
他の全モデル	約 12.0 L

ガソリン

燃料のグレード

! ガソリンエンジン車両に給油するために軽油を使用しないでください。誤って異なる燃料を給油した場合は、イグニッションをオンにしないでください。さもないと、燃料が燃料システムに入るおそれがあります。少量の誤った燃料でも、燃料システムやエンジンの損傷につながるおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料系統から完全に抜き取ってください。

! 最低 95 RON の無鉛ガソリンのみを使用して給油してください。

そうしないと、エンジンの出力が低下したり、エンジンが損傷する原因になります。

! 必ず指定の燃料を使用してください。その他の燃料で車両を操作すると、エンジンの不具合の原因になります。

! 以下のような燃料を使用しないでください。

- E85（エタノール配合率 85 %のガソリン）
- E100（エタノール 100 %）
- M15（メタノール配合率 15 %のガソリン）
- M30（メタノール配合率 30 %のガソリン）
- M85（メタノール配合率 85 %のガソリン）
- M100（メタノール 100 %）
- ガソリンと金属を含有する添加物
- ディーゼル

このような燃料を車両に推奨されている燃料とは決して混合しないでください。添加剤を使用しないでください。エンジンの損傷につながるおそれがあります。ただし、スラッジの生成を抑制・除去す

る効果のある添加剤を除きます。ガソリンにはメルセデス・ベンツで推奨された添加剤のみを混合してください。"添加剤"をご覧ください。さらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

通常、燃料グレードに関する情報は給油ポンプに表示されています。給油ポンプにラベルがない場合、ガソリンスタンドのスタッフにおたずねください。

ℹ E10 燃料には最大 10%のバイオエタノールが含まれています。お客様の車両は、E10 燃料の使用に適しています。E10 燃料をお客様の車両に給油することができます。

他の全モデル： 推奨燃料が使用できない場合は、一時的な措置としてオクタン価が 91 RON の無鉛レギュラーガソリンを使用することができます。このような燃料を使用した場合、エンジン性能が低下したり、燃料消費が増加したりすることがあります。フルスロットルでの走行および急加速は避けてください。91RON 以下の燃料を給油しないでください 。

給油に関する情報は、 (▷ 151 ページ)をご覧ください。

AMG 車両

! 燃料を給油するときは、最低 98 RON の無鉛プレミアムガソリンを使用してください。

指定以外の燃料を給油すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンが損傷するおそれがあります。

! 緊急時で指定燃料が入手できないときに限り、91 RON 無鉛レギュラーガソリンも使用できます。

その結果燃料消費量が著しく増大し、エンジン出力は著しく低下します。 アクセルをいっぱいに踏み込んで運転するのは避けてください。

91 RON あるいはそれ以下のグレードのガソリン以外の燃料しか入手できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でその燃料で走行するために必要な車両の調整を受けてください。

添加剤

! 燃料添加剤を後で加えてエンジンを作動させると、エンジン故障につながるおそれがあります。燃料に燃料添加剤を混ぜないでください。これには、生成堆積物除去および防止のための添加剤は含まれません。ガソリンにはメルセデス・ベンツにより承認された添加物のみを混合してください。製品の容器に記載の使用上の注意をお守りください。推奨添加剤に関するさらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

メルセデス・ベンツは、添加剤を含有している燃料ブランドの使用を推奨します。

一部の国で入手できる燃料の品質は、十分でないことがあります。結果として、残留物が噴射システムに堆積するおそれがあります。その場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談のうえ、メルセデス・ベンツにより推奨された洗浄添加剤をガソリンに混合してください。容器にある注意事項および規定の配合率を常に遵守してください。

ディーゼル

燃料のグレード

⚠ **警告**

ディーゼル燃料をガソリンと混ぜると、引火点は純粋なディーゼル燃料のものよりも低くなります。エンジンがかかっているときは、排気システムの部品が気付かないうちにオーバーヒートすることがあります。 火災の危険性があります。

ガソリンを給油しないで下さい。 ガソリンをディーゼル燃料と混ぜないでください。

! 給油には、欧州規格 EN 590 または同等の仕様に適合するディーゼル燃料のみを使用してください。 EN 590 に適合しない燃料を給油すると、エンジンや排気ガスシステムの摩耗が進んだり、損傷したりするおそれがあります。

! 以下のような燃料を使用しないでください。

- 船舶機用ディーゼル燃料
- 暖房用軽油
- バイオディーゼル
- 植物油
- ガソリン
- パラフィン油
- 灯油 / 白灯油

これらの燃料をディーゼル燃料に混ぜたり、いかなる特殊な添加剤も使用しないでください。エンジンの損傷につながるおそれがあります。

! **ディーゼルパティキュレートフィルター装備車両：** EU 以外の国では、 硫黄分 50 ppm 以下の低硫黄軽油のみを使用してください。さもないと、エミッションコントロールシステムが損傷するおそれがあります。

! **ディーゼルパティキュレートフィルター非装備車：**硫黄含有量が高いディーゼル燃料しか入手できない国では、車両のオイル交換をより短い周期で行なう必要があります。 オイル交換の周期に関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

通常、燃料のグレードに関する情報はポンプにあります。給油ポンプにラベルがない場合は、給油スタンドのスタッフにおたずねください。

給油についての情報 (▷ 151 ページ)。

外気温度が低いとき

冬になる前に、車両に冬季用ディーゼルを給油してください。

i 国特有の燃料特性、および低温抵抗性の燃料種類に関するさらなる情報は、ガソリンスタンドなどの石油会社で入手できます。

燃料消費の情報

環境に関する注意

CO_2（二酸化炭素）の排出は、地球温暖化の主な原因となります。車両の CO_2 排出量は、燃料消費と直接関係があり、以下の条件によって変化します。

- エンジンの燃焼効率
- 走行スタイル
- 環境の影響や道路状況、交通の流れのような、技術的ではない他の要因

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検整備を行なうことにより、CO_2 排出量を最小限に抑えることができます。

以下のような状況では、燃料消費量が増加します。

- 非常に低い外気温で
- 市街地で
- 短距離の走行で
- 山間路で

AdBlue®

重要な安全上の注意事項

AdBlue® (▷ 321 ページ) を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意に従ってください。

AdBlue®はディーゼルエンジンの排気ガス処理装置用の水溶性の液体です。AdBlue®は以下のような特性を持ちます。

- 無毒
- 無色および無臭
- 不燃性

AdBlue®タンクを開くと、少量のアンモニアの気体が放出されることがあります。

アンモニアの気体には刺激臭があり、特に皮膚、粘膜そして目に刺激を与えます。目、鼻および喉に燃えるような感覚を感じることがあります。咳き込んだり、涙目になる可能性があります。

発生したアンモニアの気体を吸い込まないようにしてください。換気の良い場所でのみ、AdBlue®のタンクへの補給を行なってください。

外気温度が低いとき

AdBlue®は約 -11 ℃ の温度で凍結します。車両には AdBlue®予熱ヒーターが標準装備されています。そのため、-11 ℃ 以下の温度でも冬季の作動が保証されています。

添加剤

! ISO 22241 に準拠した AdBlue®のみを使用してください。添加剤を AdBlue®に加えたり、AdBlue®を水で薄めたりしないでください。 BlueTEC 排気ガス処理装置が故障する場合があります。

純度

! AdBlue® 内に不純物 (他のサービスプロダクト、クリーナー、ほこりなど) が混入すると、以下のトラブルが起こるおそれがあります。

- 排出ガス値の増加
- 触媒コンバーターの損傷
- エンジンの損傷
- BlueTEC 排気ガス処理装置の故障

BlueTEC 排気ガス処理装置の故障を防ぐため、AdBlue®の純度が特に重要になります。

補修作業などで AdBlue®を AdBlue®タンクから汲み出したときは、汲み出した AdBlue®をタンクに戻さないでください。液体の純度が保証できなくなります。

容量

モデル	全容量
GL 350 BlueTEC 4MATIC	31.2 L

エンジンオイル

全体的な注意事項

エンジンオイルを取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意事項に注意してください (▷ 321 ページ)。

エンジンオイルの品質は、エンジンの性能や使用寿命に大きな影響を与えます。広範囲にわたるテストの末、メルセデス・ベンツでは最新の技術基準に適合するエンジンオイルのみを承認しています。

そのため、メルセデス・ベンツエンジンには、メルセデス・ベンツが承認したエンジンオイルのみを使用してください。

テストされ、承認されたエンジンオイルについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手でき

ます。オイル交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことを、メルセデス·ベンツは推奨します。

容量

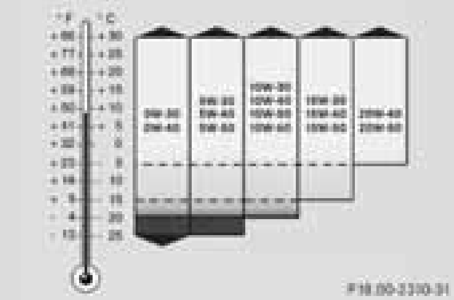
以下の数値は、オイルフィルターを含むオイル交換時のものです。

モデル	交換容量
GL 500 4MATIC	8.5 L
GL 350 BlueTEC 4MATIC	8.0 L
AMG 車両	外部オイルクーラーなし：8.5 L

添加剤

❗ エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジンオイルの粘度



粘度は、液体の流動特性を示します。エンジンオイルの粘度が高いほどゆっくりと流れ、粘度が低いほど速く流れます。

エンジンオイルの選択は、対応する外気温度を基準にして、SAE グレード（粘度）に応じたものにしてください。表では、使用すべき SAE グレードを示しています。低温の環境では、劣化や煤、添加剤などにより使用時のエンジンオイルの特性が著しく損なわれます。そのため、適切な SAE グレードの承認されたエンジンオイルを使用して、定期的にオイル交換を行なうことを強く推奨します。

ブレーキ液

⚠ **警告**

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。ブレーキ液の沸点を下げます。ブレーキ液の沸点が低すぎる場合、ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生します。 ブレーキ液が劣化しベーパーロックが起こると、ブレーキの性能が損なわれます。事故の危険性があります。

ブレーキ液は、定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

ブレーキ液 (▷ 321 ページ) を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意事項に従ってください。

ブレーキ液の交換時期は、整備手帳で確認してください。

承認されたブレーキ液に関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

ℹ ブレーキ液はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で定期的に交換し、点検内容は整備手帳をご確認ください。

冷却水

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

不凍液がエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。 火災およびけがの危険性があります。

不凍液を充填する前にエンジンを冷やしてください。 不凍液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してくだ

さい。エンジンを始動する前に、不凍液で汚れた構成部品を清掃してください。

! 冷却水は、必ず弊社指定の不凍液を混合したものを補給してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

冷却水についての詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

! たとえ高温の地域であっても、必ず適切な冷却水を使用してください。

不適切な冷却水を使用すると、エンジン冷却システムの腐食やオーバーヒートを防ぐことができなくなります。

i 冷却水はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で定期的に交換し、交換を整備手帳で確認してください。

冷却水 (▷ 321 ページ) を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意事項に従ってください。

冷却水は水と不凍液/防錆剤の混合液です。以下の役割があります。

- 防錆保護
- 凍結防止
- 沸点の上昇

不凍液/防錆剤が適切な濃度の場合は、作動中の冷却水の沸点は約 130 ℃ になります。

エンジン冷却システム内の不凍液/防錆剤の濃度は、

- 50 %以上にしてください。これにより、約 -37 ℃ までエンジン冷却システムを凍結から保護します。
- 55 % (-45 ℃ までの凍結防止保護) を超えないようにしてください。さもないと、熱が効果的に発散されません。

i 車両の納車時には、適切な凍結防止および防錆保護を行なうことができる濃度の冷却水が充填されています。

i 冷却水は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での定期整備ごとに点検が行なわれます。

ウインドウウォッシャーおよびヘッドライトウォッシャー

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

ウインドウウォッシャー液が熱いエンジン部品または排気システムに触れた場合、発火するおそれがあります。 火災およびけがの危険性があります。

ウインドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。

! 夏季用や冬季用など、ヘッドライトの樹脂製レンズに適したウォッシャー液のみを使用してください。不適切なウォッシャー液を使用すると、ヘッドライトの樹脂製レンズを損傷するおそれがあります。

! 蒸留水や脱イオン水をウォッシャー液リザーブタンクに入れないでください。レベルセンサーを損傷するおそれがあります。

! 夏季用および冬季用の純正ウォッシャー液を混合して使用します。純正品以外のウォッシャー液を使用すると、 噴射ノズルが詰まるおそれがあります。

ウォッシャー液を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意に従ってください(▷ 321 ページ)。

氷点より高い気温で：

▶ 水と夏用ウォッシャー液の混合液をウォッシャー液リザーブタンクに補充します。

水の量 100 に対して夏用ウォッシャー液の量 1 を混合します。

氷点より低い気温で：

▶ 水と冬用ウォッシャー液の混合液をウォッシャー液リザーブタンクに補充します。

外気温度に応じて混合率を調整してください。

- 約 -10 ℃まで：水の量 2 に対して冬用ウォッシャー液の量 1 を混合します。
- 約 -20 ℃まで：水の量 1 に対して冬用ウォッシャー液の量 1 を混合します。
- 約 -29 ℃まで：水の量 1 に対して冬用ウォッシャー液の量 2 を混合します。

ℹ 1 年を通して、夏用または冬用ウォッシャー濃縮液をウォッシャー液に追加してください。

車両データ

一般的な注意事項

記載の車両データについては、以下の点に注意してください。

- 記載の車高は、以下に応じて異なります。
  - タイヤ
  - 積載量
  - サスペンションの状態
  - オプション装備
- オプション装備により最大積載量は減少します。

寸法および重量

モデル	① 開いたときの高さ	② 最大ヘッドルーム
AMG 車両	2136 mm - 2199 mm	2002 mm

下記を装備している他の全モデル：	① 開いたときの高さ	② 最大ヘッドルーム
AIR マティックパッケージ	2132 mm - 2207 mm	1934 mm - 2009 mm
オン&オフロードパッケージ	2132 mm - 2237 mm	1934 mm - 2039 mm

ルーフの最大積載量

モデル	ルーフの最大積載量
全モデル	100 kg

バッテリー	
全モデル	
バッテリー電圧	12 V
バッテリー容量	95 Ah

オフロード走行用車両データ

冠水路の走行

! 水深は、表に明記された値を超えてはなりません。渡れる深さは流水よりも少ないことに注意してください。

表は、車両に積載されていて走行する準備ができているときの河川などを渡れる深さ ① を示しています。

積載され、走行準備ができている状態は、タンクが満たされている、すべての液類が補給されている、そして運転者が車中にいるという状態です。

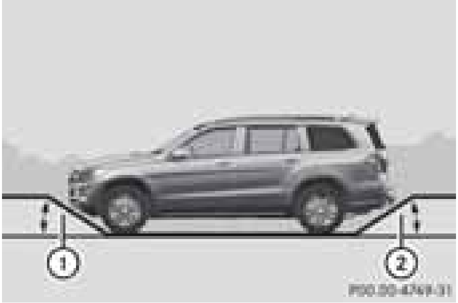
AIR マティックパッケージまたはオン & オフロードパッケージ装備車では、最大許容荷重までの荷重は河川などを渡る能力 ① には影響ありません。

	冠水路の走行
オン & オフロードパッケージ非装備車	
上昇レベル	50 cm

	冠水路の走行
オン&オフロードパッケージ装備車	
オフロードレベル 1	50 cm
オフロードレベル 2	50 cm
オフロードレベル 3	60 cm
AMG 車	50 cm

オフロードでの河川を渡るときのさらなる情報は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

アプローチ/デパーチャーアングル



車両に積載されていて走行する準備ができているときのアプローチおよびデパーチャーアングル ① と ② を表に示しています。

スチールスプリング装備車両では、積載されていて走行する準備ができているというのは、タンクが満たされ、すべての液類が補給されていて、運転者が車両にいることを意味しています。

AIR マティックパッケージまたはオン & オフロードパッケージ装備車では、最大許容荷重までの荷重はアプローチおよびデパーチャーアングルに影響を与えません。

すべての車両（AMG ボディスタイリング装備車を除く）

	①	②
オン & オフロードパッケージ非装備車		
ハイウェイレベル	25°	20°
上昇レベル	30°	25°
オン&オフロードパッケージ装備車		
ハイウェイレベル	25°	20°
オフロードレベル 1	28°	23°
オフロードレベル 2	30°	25°
オフロードレベル 3	33°	27°
AMG 車		
ハイウェイレベル（AMG RIDE CONTROL のスポーツモード）	19°	19°
上昇レベル	23°	22°

AMG ボディスタイリング装備車

	①	②
オン & オフロードパッケージ非装備車		
ハイウェイレベル	20°	20°
上昇レベル	24°	24°
オン&オフロードパッケージ装備車		
ハイウェイレベル	20°	20°
オフロードレベル 1	22°	22°
オフロードレベル 2	24°	24°
オフロードレベル 3	26°	26°

アプローチ/デパーチャーアングルに関するさらなる情報は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

最大登坂能力

車両の最大登坂能力はオフロードの状態および路面状況によって異なることに注意してください。

オン & オフロードパッケージ装備車：
LOW RANGE オフロードギアを選択している場合、最大登坂能力は 100% です。

オン & オフロードパッケージ非装備車：
最大登坂能力は 80%です。

急傾斜を走行するときは、注意してアクセルペダルを踏み、車輪が空転していないことを確認してください。

ℹ 急な上り坂で発進するときに前軸にかかる荷重が減少する場合は、前輪は空転する傾向があります。4 ETS はこれを認識し、それに応じて車輪にブレーキを効かせます。後輪トルクが増加し、発進しやすくなります。

最大登坂能力に関するさらなる情報は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

発行物の詳細

インターネット

メルセデス・ベンツ車や Daimler AG についての詳細情報については、以下のウェブサイトに記載されています。

http://www.mercedes-benz.co.jp

編集オフィス

©Daimler AG: Daimler AG の書面による許可なく、本書のすべてまたは一部を複写、翻訳または複製することはできません。

車両メーカー

Daimler AG
Mercedesstrasse 137
70327 Stuttgart
Germany

編集終了 09.09.2013

1665846001

Order no. 6515 0543 20 Part no. 1665846001 Edition ÄJ 2014-1a